

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第224集

# 松屋敷遺跡発掘調査報告書

県立松園養護学校校舎整備事業関連遺跡発掘調査

(財)岩手県文化振興事業団  
埋蔵文化財センター

まつ や し き  
松屋敷遺跡発掘調査報告書

県立松園養護学校校舎整備事業関連遺跡発掘調査



# 序

岩手県には旧石器時代の遺跡をはじめとする数多くの埋蔵文化財包蔵地が各地にあり、平成5年度の岩手県教育委員会のまとめでは8,700箇所を超えております。先人の残したこれらの埋蔵文化財を保護し、保存していくことは私たち県民に課せられた重大な責務であります。

一方、本調査の原因となりました松園養護学校の校舎整備事業を例にあげるまでもなく、現代社会を豊かにし、快適な生活をおくるための地域開発もまた県民の切実な願いであります。埋蔵文化財の保護・保存と地域開発という相容れない要素をもつ事業の調和のとれた施策が今日的課題となっております。

財団法人岩手県文化振興事業団は、埋蔵文化財センターの創立以来、埋蔵文化財保護の立場にたつて、県教育委員会の指導と調整のもとに、開発事業によってやむを得ず消滅する遺跡について発掘調査を行い、その記録を残す措置をとってまいりました。

本書は、松園養護学校の校舎整備事業に関連して、平成5年度に発掘調査を行った松屋敷遺跡の調査結果をまとめたものであります。松屋敷遺跡は、盛岡市の北辺の北上川左岸に位置し、調査の結果、縄文時代の早期と中期の遺構と遺物が発見され、貴重な資料を提供することができました。本書が広く活用され、考古学の研究に寄与するとともに埋蔵文化財に対する関心と理解をいっそう深めることに役立つことを切に希望いたします。

最後になりましたが、発掘調査及び報告書作成にご協力とご援助を賜りました岩手県教育委員会財務課・盛岡市教育委員会をはじめとする多くの関係機関・関係各位に深く感謝申し上げます。

平成7年3月

財団法人 岩手県文化振興事業団  
理事長 高橋 令則

# 例 言

1. 本報告書は岩手県盛岡市上田字松屋敷11-18ほか、に所在する松屋敷遺跡の第1次発掘調査の結果を収録したものである。
2. 本遺跡の調査は、松園養護学校の校舎整備事業にともなう事前の緊急発掘調査である。調査は岩手県教育委員会文化課と岩手県教育委員会財務課との協議を経て、(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが実施した。
3. 本遺跡の成果は、先に現地説明会資料(平成5年7月2日)と『岩手県埋蔵文化財調査略報(平成5年度分)』(1994)に発表しているが、本書の内容が優先するものである。
4. 岩手県遺跡台帳に登録される遺跡番号はKE86-2378、遺跡略号はUMY-01である。
5. 発掘調査面積は1,800㎡である。発掘調査期間は平成5年4月8日~7月14日、整理期間は平成5年11月1日~3月31日である。
6. 野外調査は阿部勝則・佐々木清文が行い、室内整理は阿部勝則が行った。
7. 本報告書の執筆は「I. 調査に至る経過」を鈴木恵治、その他を阿部勝則が執筆した。
8. 土層の観察にあたっては「新版標準土色帖」9版(1989小山正忠・竹原秀雄)を参考にした。
9. 松屋敷遺跡の遺構記号は、盛岡市との調査の関連で、次の記号を用いて通し番号で行った。 竪穴住居跡…RA、竪穴状遺構…RE、土坑類…RD、焼土遺構…RF。
10. 遺物の鑑定に当たっては次の方々に依頼した。  
石質鑑定：佐藤二郎(榊長内水源工業) 炭化材樹種鑑定：早坂松次郎(岩手県木炭協会)  
炭化種子鑑定：(株)パリノ・サーヴェイ
11. 基準点測量は東日本測量設計株式会社に委託した。
12. 空中写真撮影は菊地技研企画株式会社に委託した。
13. 発掘・整理・執筆にあたっては次の方々に御協力、御指導をいただいた(順不同・敬称略)。  
小田野哲憲 熊谷常正 佐藤嘉広(岩手県教育委員会 文化課) 高橋信雄 佐々木勝  
濱田宏(岩手県立博物館) 八木光則 似内啓邦 千田和文 室野秀文 藤岡光男 神  
原雄一郎(盛岡市教育委員会) 西川博孝(千葉県文化財センター)
14. 本遺跡の調査で得られた一切の資料は(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターに保管している。
15. 本書で使用した地形図は以下のとおりである。
  - a. 建設省国土地理院発行の5万分の1地形図「盛岡」
  - b. 建設省国土地理院発行の2万5千分の1地形図「盛岡」「鷹高」「小岩井農場」「姥屋敷」
  - c. 岩手県発行の盛岡広域都市計画図2千5百分の1「四十四田」「鍋屋敷」「松園」「小鳥沢」
  - d. 大日本帝国陸地測量部発行の2万5千分の1地形図「川又」「盛岡」

# 本文目次

序	表
例言	表 1 周辺の遺跡…………… 14
I. 調査に至る経過…………… 2	表 2 土偶・土製品観察表…………… 96
II. 遺跡の位置と立地…………… 3	表 3 特殊磨石の機能面サイズ一覧表……………101
1. 位置…………… 3	表 4 石器産地略号一覧表……………101
2. 遺跡および周辺の地形・地質…………… 3	表 5 土器観察表 (1) ……………120
3. 基本土層…………… 9	表 6 土器観察表 (2) ……………122
4. 周辺の遺跡……………11	表 7 石器観察表 (1) ……………128
III. 調査・整理の方法……………16	表 8 竪穴住居跡一覧表……………137
1. 野外調査……………16	表 9 土坑・陥し穴一覧表……………137
2. 室内整理……………17	
3. 掲載図版等について……………18	
IV. 遺構と遺物……………21	
1. 竪穴住居跡……………21	
2. 竪穴状遺構……………54	
3. 土坑……………55	
4. 陥し穴……………60	
5. 焼土遺構……………64	
6. 柱穴群……………65	
7. 遺物包含層……………67	
V. 遺構外の出土遺物……………72	
1. 土器……………72	
2. 土製品……………96	
3. 石器……………98	
VI. 考察とまとめ…………… 132	
1. 遺構…………… 132	
2. 遺物…………… 138	
VII. 分析・鑑定…………… 144	
報告書抄録…………… 217	

## 図版目次

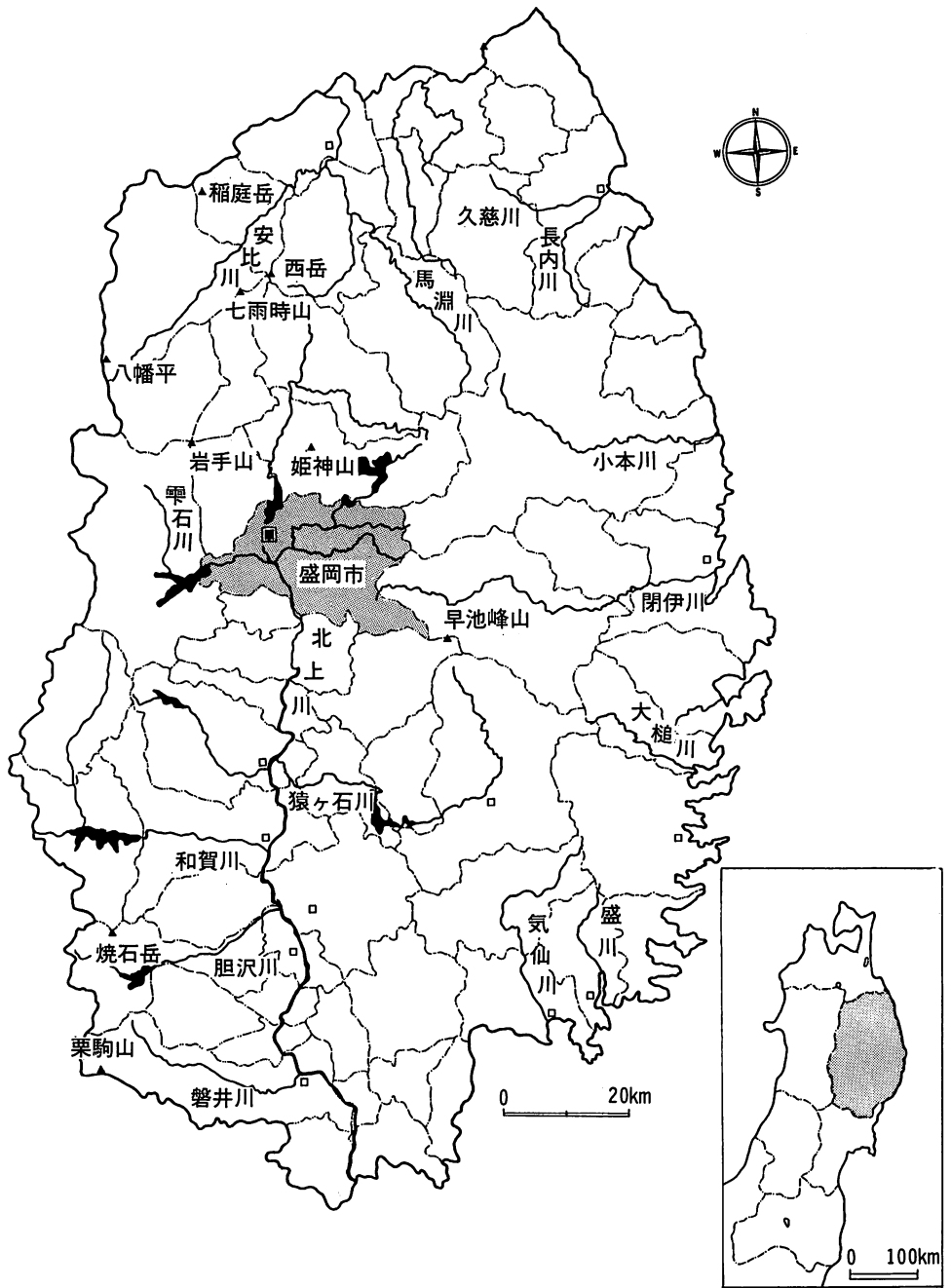
第1図	岩手県全図	1	第32図	RA13住居跡出土遺物(2)	52
第2図	遺跡位置図	4	第33図	RA14住居跡・出土遺物	53
第3図	地形区分図	5	第34図	RE01竪穴状遺構・出土遺物	54
第4図	遺跡周辺の地形図	6	第35図	RD01・RD07・RD08・RD09土坑	56
第5図	遺跡周辺の旧地形図	6	第36図	RD10・RD11・RD12土坑	58
第6図	調査区位置図	7	第37図	RD02陥し穴	59
第7図	土層断面柱状図	10	第38図	RD03・RD04陥し穴	61
第8図	周辺の遺跡分布図	13	第39図	RD05・RD06陥し穴	62
第9図	松屋敷遺跡調査区遺構配置図	19	第40図	RD03・RD05陥し穴、 RD07・RD08土坑出土遺物	63
第10図	RA01住居跡	22	第41図	RF01焼土	64
第11図	RA01住居跡出土遺物(1)	23	第42図	柱穴群	66
第12図	RA01住居跡出土遺物(2)	24	第43図	遺物包含層(1)	69
第13図	RA02住居跡・出土遺物	26	第44図	遺物包含層(2)	70
第14図	RA03住居跡	28	第45図	遺物包含層(3)	71
第15図	RA03住居跡出土遺物(1)	29	第46図	遺構外出土遺物：土器(1)	76
第16図	RA03住居跡出土遺物(2)	30	第47図	遺構外出土遺物：土器(2)	77
第17図	RA03住居跡出土遺物(3)	31	第48図	遺構外出土遺物：土器(3)	78
第18図	RA04・RA08・RA09住居跡(1)	34	第49図	遺構外出土遺物：土器(4)	79
第19図	RA04・RA08・RA09住居跡(2)	35	第50図	遺構外出土遺物：土器(5)	80
第20図	RA04住居跡出土遺物(1)	36	第51図	遺構外出土遺物：土器(6)	81
第21図	RA04住居跡出土遺物(2)	37	第52図	遺構外出土遺物：土器(7)	82
第22図	RA04住居跡出土遺物(3)	38	第53図	遺構外出土遺物：土器(8)	83
第23図	RA05・RA07住居跡(1)	40	第54図	遺構外出土遺物：土器(9)	84
第24図	RA05・RA07住居跡(2)	41	第55図	遺構外出土遺物：土器(10)	85
第25図	RA05住居跡出土遺物(1)	42	第56図	遺構外出土遺物：土器(11)	86
第26図	RA05住居跡出土遺物(2)	43	第57図	遺構外出土遺物：土器(12)	87
第27図	RA05住居跡出土遺物(3)	44	第58図	遺構外出土遺物：土器(13)	88
第28図	RA07住居跡出土遺物	45	第59図	遺構外出土遺物：土器(14)	89
第29図	RA06住居跡	47	第60図	遺構外出土遺物：土器(15)	90
第30図	RA10・11・12住居跡・出土遺物	49	第61図	遺構外出土遺物：土器(16)	91
第31図	RA13住居跡・出土遺物(1)	51			

第62図	遺構外出土遺物：土器(17)……………92	第76図	遺構外出土遺物：石器(10) ……111
第63図	遺構外出土遺物：土器(18)……………93	第77図	遺構外出土遺物：石器(11) ……112
第64図	遺構外出土遺物：土器(19)……………94	第78図	遺構外出土遺物：石器(12) ……113
第65図	遺構外出土遺物：土器(20)……………95	第79図	遺構外出土遺物：石器(13) ……114
第66図	遺構外出土遺物：土製品……………97	第80図	遺構外出土遺物：石器(14) ……115
第67図	遺構外出土遺物：石器(1) ……102	第81図	遺構外出土遺物：石器(15) ……116
第68図	遺構外出土遺物：石器(2) ……103	第82図	遺構外出土遺物：石器(16) ……117
第69図	遺構外出土遺物：石器(3) ……104	第83図	遺構外出土遺物：石器(17) ……118
第70図	遺構外出土遺物：石器(4) ……105	第84図	遺構外出土遺物：石器(18) ……119
第71図	遺構外出土遺物：石器(5) ……106	第85図	竪穴住居跡集成図 ……133
第72図	遺構外出土遺物：石器(6) ……107	第86図	A区南側住居跡重複図 ……135
第73図	遺構外出土遺物：石器(7) ……108	第87図	住居跡出土土器集成図 ……140
第74図	遺構外出土遺物：石器(8) ……109	第88図	遺物包含層出土土器集成図 ……141
第75図	遺構外出土遺物：石器(9) ……110		

## 写真図版

写真図版1	遺跡全景(1) ……147	写真図版18	陥し穴(2) ……164
写真図版2	遺跡全景(2)・基本土層……………148	写真図版19	遺物包含層(1) ……165
写真図版3	RA01住居跡 ……149	写真図版20	遺物包含層(2) ……166
写真図版4	RA02住居跡 ……150	写真図版21	RA01・RA02住居跡出土遺物…167
写真図版5	RA03住居跡 ……151	写真図版22	RA03住居跡出土遺物(1)…168
写真図版6	RA04・RA08・RA09住居跡(1)…152	写真図版23	RA03住居跡出土遺物(2)…169
写真図版7	RA04・RA08・RA09住居跡(2)…153	写真図版24	RA03住居跡出土遺物(3)…170
写真図版8	RA05・RA07住居跡(1)……………154	写真図版25	RA04住居跡出土遺物(1)…171
写真図版9	RA05・RA07住居跡(2)……………155	写真図版26	RA04住居跡出土遺物(2)…172
写真図版10	RA06・RA09・RA10住居跡…156	写真図版27	RA05住居跡出土遺物(1)…173
写真図版11	RA11・RA12住居跡 ……157	写真図版28	RA05住居跡出土遺物(2)…174
写真図版12	RA13住居跡 ……158	写真図版29	RA05住居跡出土遺物(3)…175
写真図版13	RA14住居跡 ……159	写真図版30	RA07住居跡出土遺物 ……176
写真図版14	RE01竪穴状遺構、柱穴群…160	写真図版31	RA10・11・12・14住居跡、RE01 竪穴状遺構、RD03・05陥し穴、 RD07・08土坑出土遺物 ……177
写真図版15	土坑(1) ……161	写真図版32	RA13住居跡出土遺物 ……178
写真図版16	土坑(2)、焼土 ……162		
写真図版17	陥し穴(1) ……163		

写真図版33	遺構外出土遺物：土器(1)……179	写真図版65	遺構外出土遺物：石器(13)……211
写真図版34	遺構外出土遺物：土器(2)……180	写真図版66	遺構外出土遺物：石器(14)……212
写真図版35	遺構外出土遺物：土器(3)……181	写真図版67	遺構外出土遺物：石器(15)……213
写真図版36	遺構外出土遺物：土器(4)……182	写真図版68	遺構外出土遺物：石器(16)……214
写真図版37	遺構外出土遺物：土器(5)……183	写真図版69	遺構外出土遺物：石器(17)……215
写真図版38	遺構外出土遺物：土器(6)……184		
写真図版39	遺構外出土遺物：土器(7)……185		
写真図版40	遺構外出土遺物：土器(8)……186		
写真図版41	遺構外出土遺物：土器(9)……187		
写真図版42	遺構外出土遺物：土器(10)……188		
写真図版43	遺構外出土遺物：土器(11)……189		
写真図版44	遺構外出土遺物：土器(12)……190		
写真図版45	遺構外出土遺物：土器(13)……191		
写真図版46	遺構外出土遺物：土器(14)……192		
写真図版47	遺構外出土遺物：土器(15)……193		
写真図版48	遺構外出土遺物：土器(16)……194		
写真図版49	遺構外出土遺物：土器(17)……195		
写真図版50	遺構外出土遺物：土器(18)……196		
写真図版51	遺構外出土遺物：土器(19)……197		
写真図版52	遺構外出土遺物：土製品……198		
写真図版53	遺構外出土遺物：石器(1)……199		
写真図版54	遺構外出土遺物：石器(2)……200		
写真図版55	遺構外出土遺物：石器(3)……201		
写真図版56	遺構外出土遺物：石器(4)……202		
写真図版57	遺構外出土遺物：石器(5)……203		
写真図版58	遺構外出土遺物：石器(6)……204		
写真図版59	遺構外出土遺物：石器(7)……205		
写真図版60	遺構外出土遺物：石器(8)……206		
写真図版61	遺構外出土遺物：石器(9)……207		
写真図版62	遺構外出土遺物：石器(10)……208		
写真図版63	遺構外出土遺物：石器(11)……209		
写真図版64	遺構外出土遺物：石器(12)……210		



第1図 岩手県全図

## I. 調査に至る経過

松屋敷遺跡は松園養護学校校舎整備事業に関連して調査された。この事業は、同校の校舎が狭隘であることから、隣接地を取得のうえ校舎を増築し、職員および来校者用駐車場、実習地およびグランドなど教育環境の改善・整備を図ろうとするものである。事業主体は岩手県教育委員会財務課である。

この事業に関連する松屋敷遺跡の取り扱いについては県教育委員会の財務課と文化課で協議がなされたが、この経過についての概略は次のとおりである。平成3年8月26日付「教文第477号」により、文化課から平成4年度における埋蔵文化財関連土木工事等の調査について財務課に照会があった。これによって平成4年9月7日付「教財号外」で財務課から文化課長あてに試掘について依頼があり、10月8日に文化課によってなされた。この結果、駐車場用地と進入路部分の1,800㎡について発掘調査をすることとし、平成5年3月1日付「教文第1169号」で岩手県教育委員会教育長から財団法人岩手県文化振興事業団理事長あてに埋蔵文化財センターの平成5年度における発掘調査事業として調整したことが通知された。これを受けて文化振興事業団では4月1日付けで委託契約を結び、4月8日から調査を開始したものである。



## II. 遺跡の位置と立地

### 1. 位置 (第1・2図)

松屋敷遺跡の所在する盛岡市は、岩手県のほぼ中央部に位置し、北に滝沢村、玉山村、東は岩泉町、川井村、南は大迫町と矢巾町、紫波町、西は雫石町に接する。

現在の盛岡市は、県庁所在地であり、地理的に県の中心というだけでなく、文化・行政・経済の中心でもある。面積約490km<sup>2</sup>、人口約28万人である。

松屋敷遺跡は、岩手県盛岡市上田字松屋敷11-18ほかに所在し、盛岡市の中心街にある市役所から直線距離で北へ約6.5km付近に位置する。同所は盛岡市の郊外で、市の北端にあたる。西側には北上川が南流し、四十四田ダムと接する。同地点は、国土地理院発行の5万分の1地形図「盛岡」(N J-54-13-14) および2万5千分の1地形図「鷹高」(N J-54-13-14-1)の図幅に含まれ、北緯39度45分27秒、東経141度9分33秒付近に位置する。

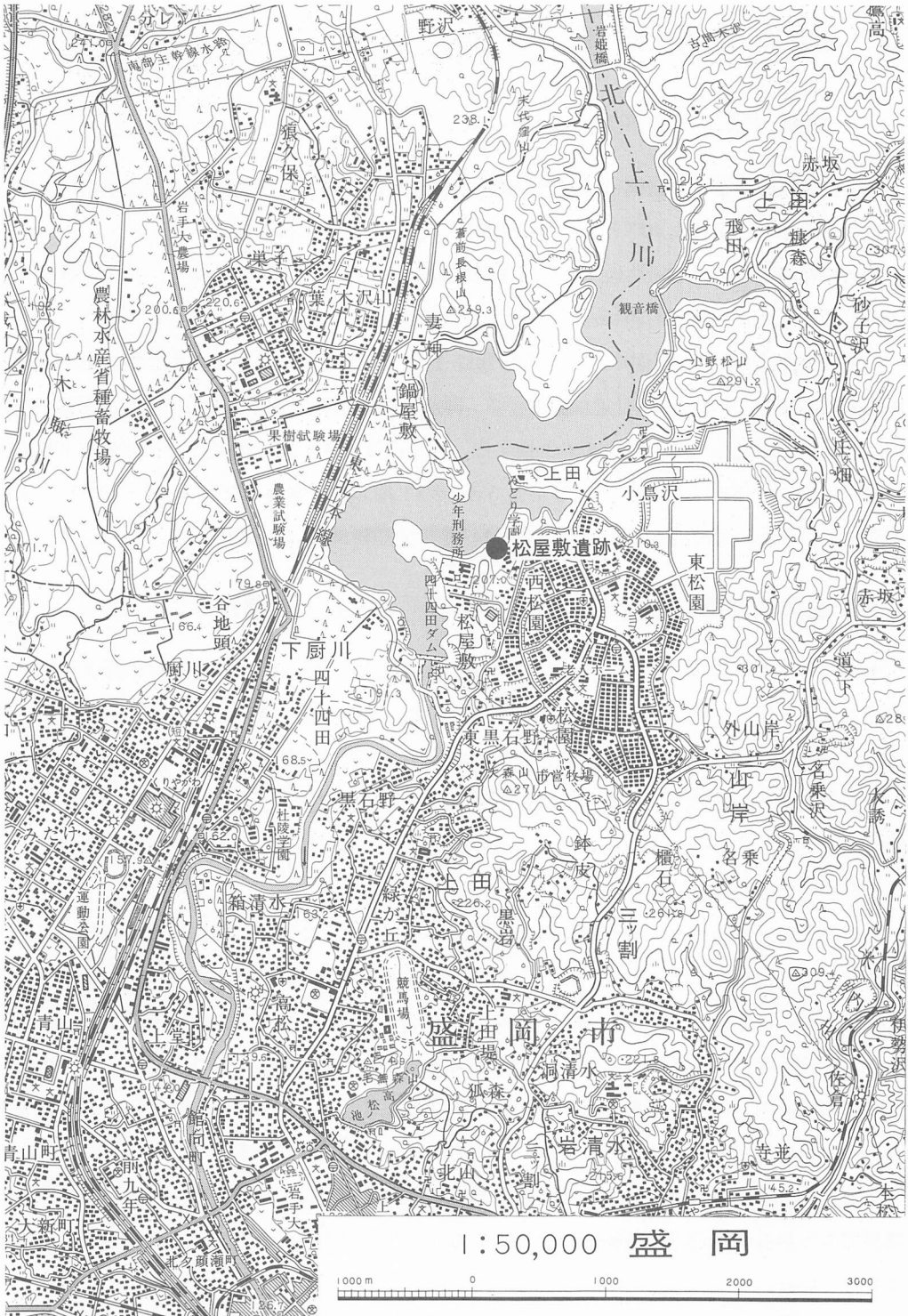
### 2. 遺跡及び周辺の地形・地質 (第3・4・5・6図)

本遺跡の所在する盛岡市は、北上盆地の北端に位置している。北上盆地は、県南最大の河川で南流する北上川(全長249km、流域面積10,150m<sup>2</sup>)と、それに注ぐ支流によって、北上川中流域に形成された狭長な盆地である。北上川に注ぐ大きな支流(和賀川・胆沢川・磐井川など)は、奥羽山脈に源をもっており、奥羽山脈から運び込まれる砂礫量は、北上山地支流の運び込む砂礫量よりも著しく多い。そのため、北上川の西側では、東側に比べて大小の段丘や扇状地・河岸平野などがよく発達している。

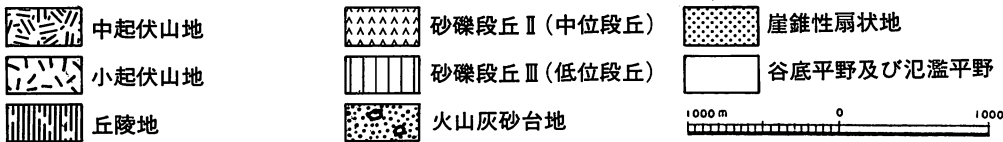
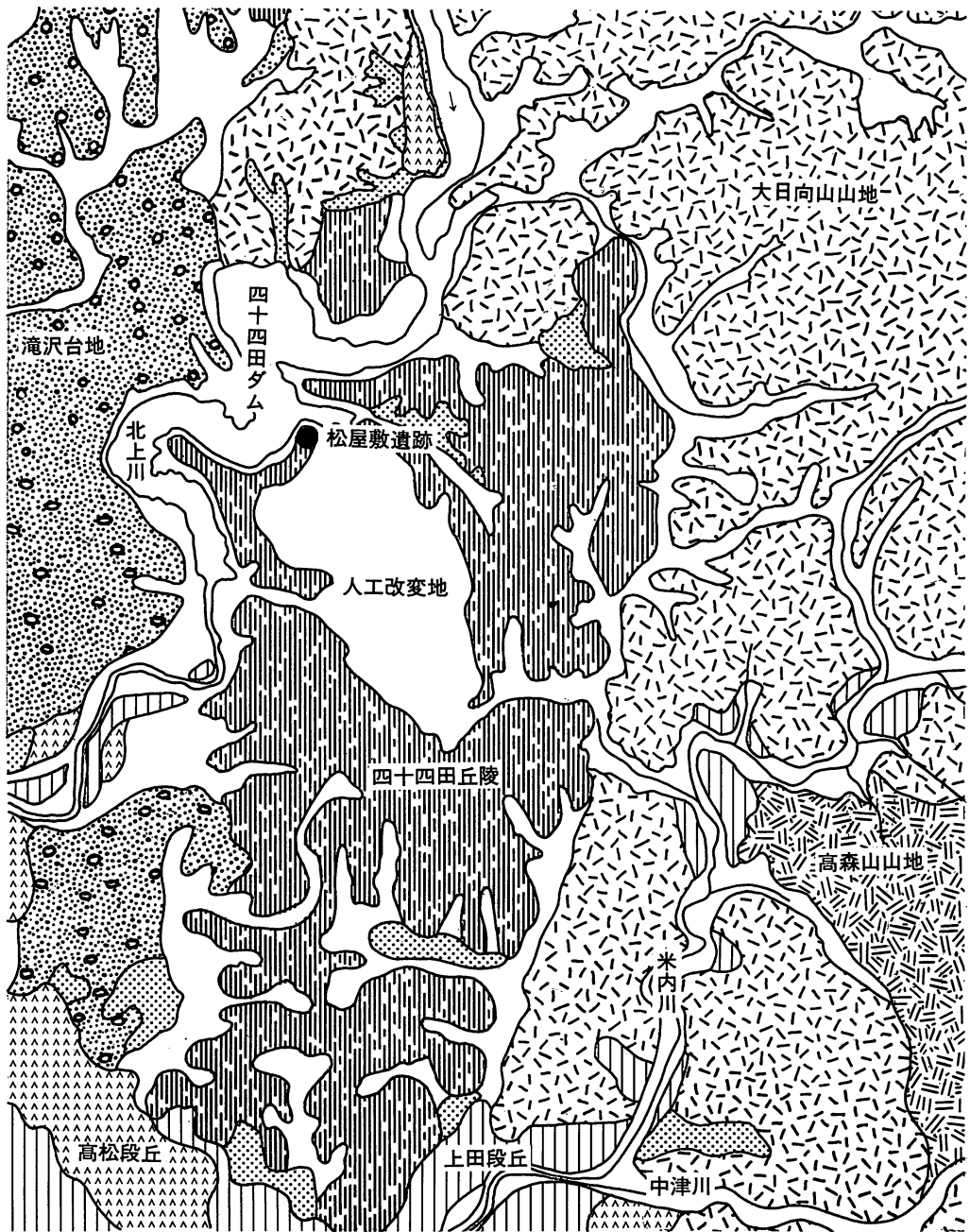
この北上盆地の特徴は、盛岡市周辺でも同様にみることができる。盛岡市は、西側は奥羽山脈の麓に達し、東側は北上山地に連なる。標高300～400mの山地が周辺に迫るなか、中央を南流する北上川と、雫石川・中津川・梁川などの支流によって開析された盆地で、標高120～140mである(盛岡低地とも呼ばれている)。この平地部分の形成過程を詳細にみると、北上山地支流である中津川・梁川は開析平野をその流域にほとんど作りだしていないが、奥羽山脈支流である雫石川は、その右岸において広い扇状地状の平坦地をつくりだしている(註1)。

ここで、盛岡周辺の地質構造をみておきたい。盛岡市周辺は、地質構造上、北上帯の主要な境界である早池峰構造帯の西縁部に位置しており、北部北上帯と南部北上帯の双方を含む地域となっている。

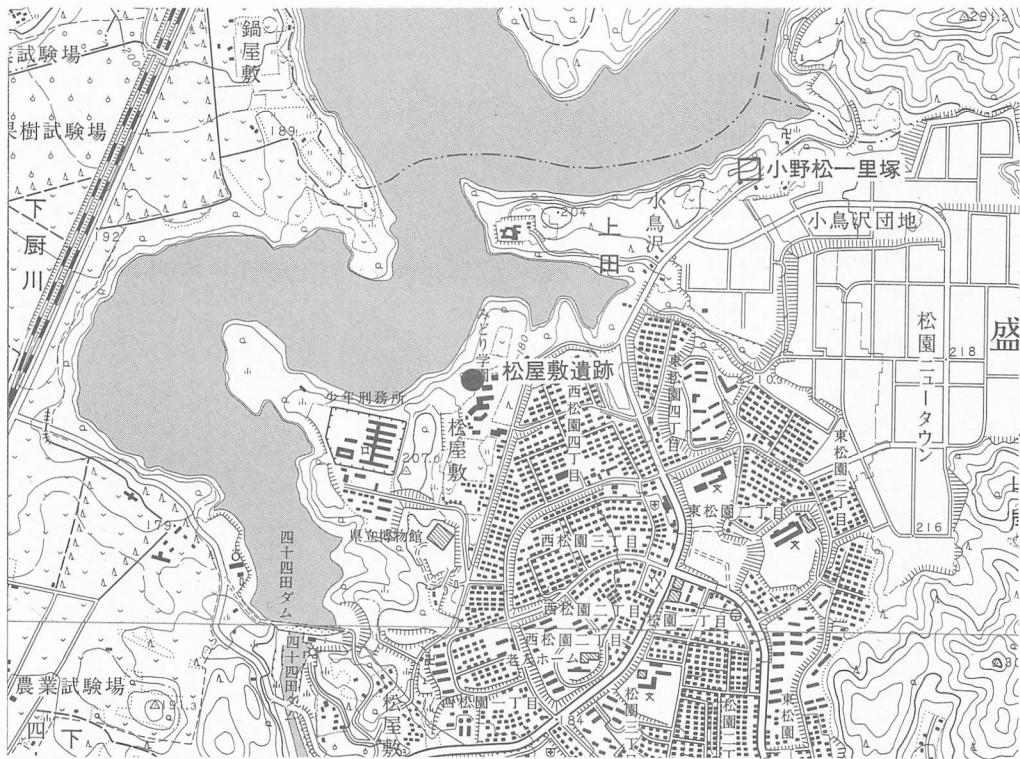
北部北上帯に属する山地には、中起伏山地の外山山地、小起伏山地の玉山山地がある。南部北上帯に属する山地には、中起伏山地と小起伏山地の双方で構成される手代森山地がある。こ



第2図 遺跡位置図

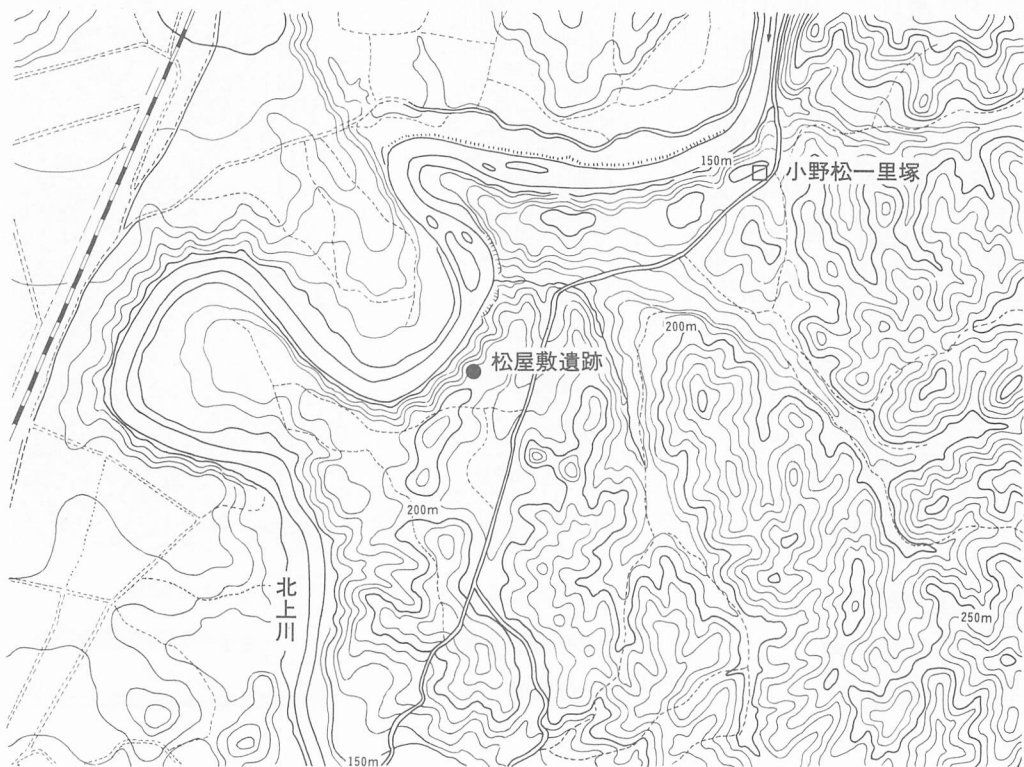


第3図 地形区分図



第4図 遺跡周辺の地形図

1 : 25,000



第5図 遺跡周辺の旧地形図

1 : 25,000



第6図 調査区位置図

の両者にはさまれた早池峰構造帯に属する山地は、先第三系からなる北上山地の西縁部に当たり、北上川の近くまで迫っている。それらの山地は、高森山（626m）を中心とする高森山山地と朝島山（607m）を中心とする朝日山山地などの中起伏山地、さらにその西側に続く大日向山山地、岩山（341m）や大森山（381m）を含む建石山地などの小起伏山地及び四十四田丘陵などから構成されている。

以上のような特徴をもつ盛岡市市街地及び周辺の平坦部の地形は、大きく次の三つに分けることができる。

- a. 北上川以西・雫石川以北で、岩手山火砕流堆積物からなる火山灰砂台地（滝沢台地）が形成され、沖積平野がほとんど発達していない地域。
- b. 北上川以西・雫石川以南で、雫石川の影響による沖積段丘（砂礫段丘Ⅲ）が広く発達している地域。
- c. 北上川以東で、北上山地の西縁が北上川近くまで迫り、広い沖積平野の発達がみられない地域。

本遺跡の位置は、北上川以東の地域（C）に属する。同地域は、北上川の支流である中津川・梁川流域にわずかに発達した沖積段丘（砂礫段丘Ⅲ）が形成されている。しかし、先述したように先第三系からなる北上山地の西縁が北上川近くまで迫っており、上位～中位の段丘（砂礫段丘Ⅰ・Ⅱ）があまり発達せず、小起伏山地・丘陵地Ⅰが低位段丘・氾濫平野と接している。そのため全体として広い沖積平野の発達がみられない地域である（註2）。

同地域は「地形分類図」をはじめ、多くの研究では、河岸低地と段丘・丘陵地の三つに区分され、段丘は、高位より黒石野段丘（砂礫段丘Ⅰ）・高松段丘（砂礫段丘Ⅱ）・上田段丘（砂礫段丘Ⅲ）に細分される（註3）。またそれらの段丘面より一段高い面には比較的起伏のある北上山地西縁にあたる四十四田丘陵がある。

松屋敷遺跡および遺跡周辺は、四十四田丘陵上に立地し、調査地区は丘陵の北端の先端部で舌状に張り出す部分にあたる。遺跡の西側には北上川が南流し、四十四田ダムに接している。東側には松園ニュータウンがあり、人工改変地となっている。そのため、遺跡周辺の地形は、県指定史跡である小野松一里塚を通る旧道と、その周囲の谷地形が残るのみで、かつての地形は、著しく改変されており、丘陵地上に立地していた小鳥沢遺跡をはじめとする多くの遺跡が消滅したようである（註4）。

上述の状況は、松屋敷遺跡も例外ではなく、調査区の東側には松園養護学校、南側には、みちのくみどり学園があり、旧地形は著しく削平されている（註5）。したがって、遺跡をとりまく旧地形は、調査区の西側と南北に僅かに残されているにすぎない。

遺跡付近の現状は山林・原野で、調査区の標高は180～188mである。北上川との比高差は16～24mである。先述のように、遺跡および周辺の地形は本来の地形とかけ離れたものとなってお



り、旧地形の復元が調査の課題の一つとなった。詳しくは後述するが、調査区の西側と南北に僅かに残されている旧地形や検出された遺構の分布からみて、松屋敷遺跡は、調査区の南北方向と東側に延びており、より高い面の北側と南側に縄文時代の集落の広がりが予想される。

註1 この平坦地は、扇状地や旧河床が段丘化したもので、高位より、石鳥谷段丘・二枚橋段丘・花巻段丘と都南段丘に区分されている（中川久夫他，1963a）。

註2 砂礫段丘Ⅰは浜民火山灰層上部以上をのせる。砂礫段丘Ⅱは分火山灰層をのせる。

註3（大上和良他，1977）は、盛岡付近に発達する段丘を高位より黒石野・高松・上田・河岸低地に区分しているが、（中川久夫他，1963a）による浜民段丘が黒石野段丘に、盛岡段丘が高松・上田段丘にそれぞれ相当する。

註4 四十四田ダムは1962年に工事着工、1968年完成。松園ニュータウンは1970年に工事着工、1980年完成である。ここでは周辺地域の旧地形を知る手掛かりとして、地形図d（明治45年3月30日発行）を参考にした。

註5（高橋他，1976）では、松屋敷遺跡の項に「※キャンプ用地による破壊」と記されている。これは、現在、松園養護学校の北側にあるキャンプ場を指すものと思われる。

### 3. 基本土層（第7図）

調査区のA区・B区の2箇所に深掘りを行い、基本層序を確認した。各土層の堆積状況は以下のとおりである。

#### 〔A区〕

I層 黒色土 層厚40cm～1m以上。現表土。北側には、この上に褐色土の盛り土が見られる。

II層 黒褐色土～暗褐色土 層厚5～40cm。縄文時代中期の遺物包含層であるが、遺物量は少ない。北側の斜面ほど厚くなる。さらに2層に細分が可能である。

II a層 黒褐色土～暗褐色土 層厚5～10cm。明褐色土を含む。縄文時代中期の遺物包含層である。

II b層 暗褐色土 層厚10～30cm。炭化物を含む。縄文時代中期の遺構検出面である。

III層 黄褐色土 層厚5～40cm。基盤となる層で、縄文時代早期の遺構検出面である。さらに2層に細分が可能である。

III a層 にぶい黄褐色土 層厚5～30cm。締まりは弱い。

III b層 黄褐色土 層厚20～30cm。締まりがある。

IV層 橙色浮石層 層厚0～10cm。赤褐色が卓越する角ばった粗粒浮石の堆積層である（註1）。調査区の全域で確認されているが、層厚は一定していない。

V層 黄褐色土～明黄褐色土 層厚50cm以上。III層類似の層であるが、小岩井浮石層より下

層の部分の基盤となる層である。

[B区]

B区も基本的にはA区と同様であるが、斜面に遺物包含層が形成されている点で、若干II層の様相が異なる。

I層 黒色土 層厚40cm～1m以上。現表土。全域でこの土に褐色土の盛り土が見られる。

II層 暗褐色土～黒褐色土 層厚20～150cmである。遺物包含層で、5層に細分される。B区全域で確認されるが、層厚は一定していない。

II a層 褐色土 層厚0～30cm。縄文時代中期の遺物包含層である。

II b層 暗褐色土 層厚0～40cm。縄文時代中期の遺構検出面である。

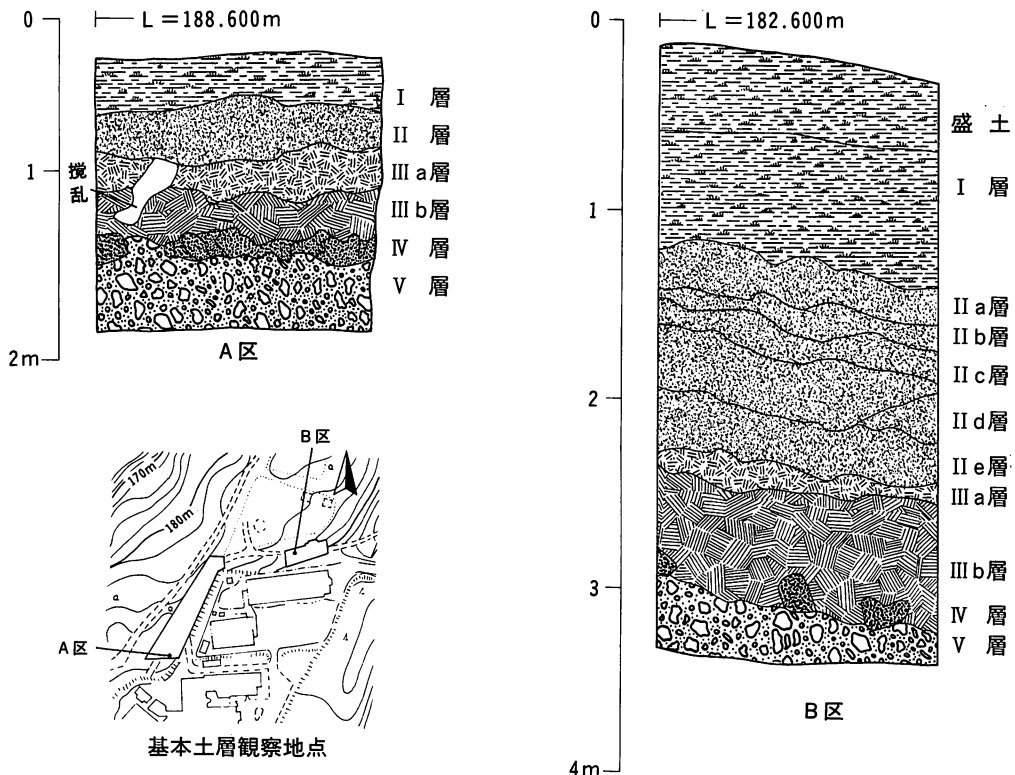
II c層 黒褐色土 層厚0～40cm。縄文時代中期の旧表土と考えられる。

II d層 極暗褐色土 層厚0～30cm。無遺物層である。

II e層 暗褐色土 層厚0～20cm。縄文時代早期の遺構検出面である。

III層以下は基盤となる層で、A区と同じ土層である。

註1 秋田駒ヶ岳起源で、約1万3000年前の降下といわれる小岩井浮石に比定される。小岩井浮石の噴出時期については、<sup>14</sup>C年代測定で、13470±300年、16300±550年という数値が出されており(井上, 1982)、約13500～16300年前と推定される。大新町遺跡では、草創期・早期の遺物が小岩井浮石層の上部の堆積層から出土している。



第7図 土層断面柱状図



#### 4. 周辺の遺跡（第8図）

盛岡市内では、現在までに400を越す遺跡が登録されているが、遺跡の立地と分布には、先に見た地形の特徴が反映されている。

沖積平野が発達していない北上川以西・雫石川以北は縄文～平安時代の集落の複合遺跡が多い。雫石川により形成された沖積段丘（砂礫段丘Ⅲ）が広がる北上川以西・雫石川以南は、奈良～平安の集落跡が多くみられ、9世紀初頭に造営された紫波城跡も位置する。縄文時代の遺跡は、その周縁の山地の緩斜面に偏在するようである。

北上川以東では、沖積段丘の発達があまりみられない。その影響か北上川以西と比較して奈良・平安時代の遺跡が少ない。また、小起伏山地の縁辺部にそって、縄文時代の中期の遺跡が分布している。

盛岡市では、先述の大きな地形的特徴をもとに、市内の遺跡を次のような7つの地区割で把握している。①厨川地区（北上川以西・雫石川以北）、②太田地区（北上川以東・中津川以南の地域）、③繫地区（北上川以西・雫石川上流域）、④上田地区（北上川以東・北上川上流域）、⑤中津川地区（北上川以東・中津川流域）、⑥梁川地区（北上川以東・梁川流域）、⑦旧市街地区（旧市街地域）である。

以下、松屋敷遺跡の位置する上田地区を中心に周辺の遺跡の分布をみてみたい。上田地区は、北上山地西縁の四十四田丘陵と呼ばれる比較的起伏のある丘陵部分が多くを占めている。丘陵の北側は北上川に接し、平坦な地形は小規模な崖錐性扇状地だけであるが、旧くから多量に遺物の地表散布しているところとして知られている松屋敷・小鳥沢遺跡、西側には四十四田遺跡など、縄文時代の早・前・中期の遺跡が丘陵の縁辺沿い分布している。丘陵の西端部には早期の上堤頭遺跡、縄文～奈良・平安の黒石・黒石平遺跡などが立地している。丘陵の南半分は、北上川との間に火山灰砂台地（高松段丘）・砂礫段丘（上田段丘）があり、丘陵の北側よりも平坦地が多くみられ、早期の歳之神遺跡・晩期の銭神沢遺跡など、縄文時代から奈良・平安の多くの遺跡が立地している。

上田地区の東側に接する中津川地区では、丘陵地東側の山地を開析する中津川・米内川流域に多くの遺跡が分布している。中津川と米内川の合流点には、縄文時代中期の集落遺跡である柿ノ木平遺跡がある。この合流点周辺の遺跡は、縄文時代と奈良・平安時代の複合遺跡が多い。米内川流域でもっとも開けている上米内地区には、当センターで平成4～6年度にかけて調査が行われた中期～晩期の複合遺跡である上米内遺跡や向館遺跡などがある。また米内川流域には、野頭館・大沢館などの中世の館跡も多く分布している。

次に、時期ごとの遺跡の分布をみるが、ここでは、本遺跡と関わる縄文時代早期と中期の遺跡についてのみ簡単に触れる。早期の遺跡では、押型文・沈線文・貝殻文を出した大新町遺跡

が知られるが、その他にも北上右岸の台地東端に多くの遺跡が分布している。北上川左岸では、貝殻文土器が出土している歳の神遺跡・日向遺跡や一本松熊の沢遺跡があり、最近では、上八木田遺跡で物見台式の貝殻文土器が出土している。

中期は遺跡数がもっとも多い。集落跡は、河川沿いで、標高120～200mの高台や台地の先端部に集中する傾向がある。集落遺跡としては、繫遺跡や大館遺跡群がよく知られているが、北上川東側でも小起伏山地の縁辺沿いに多くの遺跡が分布しており、河川沿いの開けたところには比較的大きな集落遺跡がある。上米内遺跡や柿ノ木平遺跡がその例で、同時期の繫遺跡や大館町遺跡とともに該期における拠点的な集落のひとつであったと思われる。いずれの遺跡からも底部穿孔埋甕が検出されており、該期の集落遺跡を検討するうえで、貴重な資料が得られている。

#### 引用・参考文献

- 中川久夫他，1963a：北上川上流沿岸の第四系および地形－北上川流域の第四紀地史（1）－  
地質学雑誌第69巻第811号。
- 中川久夫他，1963b：北上川中流沿岸の第四系および地形－北上川流域の第四紀地史（2）－  
地質学雑誌第69巻第811号。
- 大上和良他，1977：ボーリング資料にもとづく北上低地帯の地下地質（その1）－盛岡市付近－  
岩手大学工学部研究報告第30巻。
- 大上和良・土井宣夫，1978：北部北上低地帯の鮮新－更新両統の層序について  
岩手大学工学部研究報告第31巻。
- 大上・畑村・土井，1980：北部北上低地帯の鮮新－更新両統の層序について（その2）  
岩手大学工学部研究報告第33巻。
- 井上克弘，1982：東北地方の火山灰，考古風土記，第7号。
- 高橋憲太郎他，1976：柿ノ木平遺跡－昭和50・51年度発掘調査報告－，盛岡市教育委員会。
- 八木光則他，1987：大館遺跡群 大新町遺跡－昭和61年度発掘調査概報－，盛岡市教育委員会。
- 盛岡市教育委員会，1989：盛岡市遺跡地図（1989年版）。
- 岩手県教育委員会，1986：岩手県埋蔵文化財包蔵地一覽。
- 平井進他，1992：上八木田Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ遺跡発掘調査報告書，岩手県埋蔵文化財センター。
- 佐々木清文他，1995：上米内遺跡発掘調査報告書，岩手県埋蔵文化財センター。
- 岩手県農政部北上山系開発室，1978：北上山系開発地域土地分類基本調査「盛岡」。
- ※第3図 地形区分図は（岩手県農政部北上山系開発室，1978）所収の地形分類図（5万分の1）を参考にした。



第8図 周辺の遺跡分布図

表1 周辺の遺跡

No.	遺跡名	種別	時代	所在地	備考
1	松屋敷	集落跡	縄文(前・中期)	盛岡市上田松屋敷	一部破壊
2	小鳥沢(ABCD)	散布地	縄文・近世	盛岡市上田小鳥沢	消滅遺跡
3	小野松一里塚	一里塚	近世	盛岡市上田小鳥沢・松屋敷	県指定史跡
4	四十四田	散布地	旧石器・縄文	盛岡市上田松屋敷	
5	穴口	集落跡	縄文・古代	盛岡市下厨川向口	
6	鍋屋敷	散布地	縄文・古代	盛岡市下厨川穴口	
7	谷地頭	散布地	縄文・古代	盛岡市厨川五丁目	
8	萩島	散布地	縄文(早・晩期)	盛岡市厨川五丁目	
9	道の下A	散布地	縄文	盛岡市上米内道の下	
10	道の下B	散布地	縄文	盛岡市上米内道の下	
11	米内沢A	集落跡	縄文(早～晩期)	盛岡市上米内米内沢	
12	米内沢B	散布地	縄文(早・前期)	盛岡市上米内米内沢	
13	上三沢	散布地	縄文(中・後・晩期)	盛岡市上米内道の下	
14	下三沢	散布地	縄文(中～晩期)	盛岡市上米内道の下	
15	竹林館	館跡	中世	盛岡市上米内米内沢	
16	向館	館跡	中世	盛岡市上米内米内沢	
17	向館	散布地	縄文	盛岡市上米内米内沢	
18	上米内	集落跡	縄文・古代	盛岡市上米内中居	
19	米内館	館跡	中世	盛岡市上米内中居	
20	松木平	包含地	縄文・弥生	盛岡市上米内松木平	
21	野頭館	館跡	中世	盛岡市上米内野頭	
22	大誘館	館跡	中世	盛岡市上米内大誘	
23	伊勢沢	館跡	中世	盛岡市下米内伊勢沢	
24	稻荷社前	散布地	縄文(中・晩期)	盛岡市下米内大豆門	
25	下米内	散布地	縄文(中期)	盛岡市下米内伊勢沢	
26	馬場野	散布地	縄文(中・後・晩期)	盛岡市下米内馬場野	
27	一本松	散布地	縄文(早・晩期)	盛岡市下米内一本松	
28	熊ノ沢	包含地	縄文(前・中期)	盛岡市下米内一本松	
29	大豆門	散布地	縄文(中期)	盛岡市下米内大豆門	
30	落合	散布地	縄文～中世	盛岡市下米内落合	
31	薬師社脇	散布地	縄文・古代	盛岡市浅岸橋場	
32	アカトリ	散布地	縄文・古代	盛岡市浅岸二ツ森	
33	栗木平	散布地	縄文・古代	盛岡市浅岸堰根	
34	柿ノ木平	散布地	縄文・古代	盛岡市浅岸柿ノ木平上村	
35	向田	散布地	縄文・古代	盛岡市浅岸向田	
36	寺沢	散布地	縄文・古代	盛岡市浅岸寺沢	
37	稲久保	散布地	縄文(中期)	盛岡市つつじが丘	消滅遺跡
38	桜山	散布地	縄文(中・後期)	盛岡市東桜山	
39	大塚	散布地	縄文(後期)	盛岡市浅岸大塚	
40	名乗一里塚	一里塚	近世	盛岡市下米内寺並	
41	歳の神	散布地	縄文	盛岡市山岸六丁目	
42	新茶屋	散布地	縄文	盛岡市山岸六丁目・下米内	
43	新茶屋口	散布地	縄文	盛岡市山岸六丁目	
44	佐々木館	館跡	中世	盛岡市下米内寺並	
45	甘石	散布地	縄文(晩期)	盛岡市山岸銭神沢下	
46	永福寺山	散布地	縄文・古墳	盛岡市下米内寺並	
47	檜山田	散布地	縄文	盛岡市山岸二丁目	
48	イタコ塚	散布地	縄文・弥生	盛岡市三ツ割岩清水町	

No.	遺跡名	種別	時代	所在地	備考
49	蒼前	散布地	縄文(早期)	盛岡市山岸合間	
50	道上	散布地	縄文・古代	盛岡市山岸合間	
51	道下	散布地	縄文・古代	盛岡市山岸合間	
52	合間	散布地	縄文・古代	盛岡市山岸合間	
53	日向	散布地	縄文(早期)	盛岡市山岸銭神沢下	
54	愛宕山	散布地	近世	盛岡市山岸愛宕	
55	銭神沢	散布地	縄文(後・晩期)	盛岡市山岸銭神沢	
56	大平	散布地	縄文	盛岡市山岸大平	
57	櫃石	散布地	縄文	盛岡市三ツ割櫃石	
58	洞清水	散布地	縄文(後期)	盛岡市山岸六丁目	
59	岩清水	散布地	縄文	盛岡市三ツ割洞清水	
60	久保屋敷A	散布地	縄文(中期)	盛岡市三ツ割久保屋敷	
61	久保屋敷B	包含地	縄文	盛岡市三ツ割上岩清水	
62	金比羅前	包含地	縄文	盛岡市三ツ割金比羅前	
63	黒石野	散布地	縄文・古代	盛岡市黒石野一丁目	
64	東黒石野	散布地	縄文	盛岡市黒石野一丁目	
65	黒岩	散布地	縄文	盛岡市黒石野一丁目	
66	黒石野平	散布地	古代	盛岡市緑が丘三丁目	
67	上田一里塚	一里塚	近世	盛岡市緑が丘四丁目	県指定史跡
68	長根	包含地	縄文	盛岡市上田字登坂長根	
69	宇登坂	散布地	縄文(中期)	盛岡市上田字登坂一丁目	
70	東緑が丘	散布地	縄文	盛岡市東緑が丘	
71	上堤頭	散布地	縄文(早期)	盛岡市上田堤一・二丁目	
72	稻荷窪	包含地	縄文	盛岡市上田稻荷窪・狐崎	
73	上田山	散布地	縄文・古代	盛岡市上田狐森	
74	高松	散布地	縄文・古代	盛岡市高松三丁目	
75	高松神社裏	包含地	縄文	盛岡市高松三丁目	
76	八幡森	散布地	縄文	盛岡市高松四丁目	
77	箱清水	散布地	縄文・古代	盛岡市箱清水二丁目	
78	四ッ屋	散布地	古代	盛岡市本町通三丁目	
79	宿田南	館跡	中世	盛岡市北夕顔瀬橋	
80	盛岡城	館跡	中・近世	盛岡市内丸	国指定史跡
81	板橋I	散布地	縄文	滝沢村巢子	
82	板橋II	散布地	縄文(後期)	滝沢村巢子	
83	板橋III	散布地	縄文・古代	滝沢村巢子	
84	板橋IV	散布地	縄文	滝沢村巢子	
85	葉の木沢I	集落跡	縄文	滝沢村葉の木沢山	
86	葉の木沢II	散布地	縄文	滝沢村葉の木沢山	
87	葉の木沢III	散布地	縄文	滝沢村葉の木沢山	
88	松屋敷	散布地	縄文(晩期)	滝沢村妻の神	
89	櫛の木沢A	散布地	縄文	滝沢村櫛の木沢他	
90	櫛の木沢B	散布地	縄文	滝沢村櫛の木沢	
91	櫛の木沢C	散布地	縄文	滝沢村櫛の木沢	
92	櫛の木沢D	散布地	縄文(晩期)	滝沢村櫛の木沢	
93	川口平館	館跡	中世	玉山村川又赤坂	
94	町川又館	館跡	中世	玉山村川又赤坂	

\* 周辺の遺跡分布図 凡例 ● 松屋敷遺跡  
○ 縄文～古代  
□ 館跡

### III. 調査・整理の方法

#### 1. 野外調査

##### (1) 調査区の設定と遺構の命名

北上川流域は多くの遺跡が所在することで知られているが、盛岡市教育委員会が小面積の発掘調査を行ったほかは、ほとんど調査は行われていなかった。今回発掘調査をするにあたり、盛岡市教育委員会文化課と協議し、将来予想される発掘調査をカバーできる調査区の座標設定とグリッドの設定を行うことにした。

設定した座標の原点は、第X系の $X = -26,000.000\text{m}$ 、 $Y = +26,700.000\text{m}$ である。

調査区の座標は原点を中心に、 $RX = -850 \cdot -900$ 、 $RY = +1150 \cdot +1200$ とした。ただし、原点から調査区までの距離がある為、調査区付近において、2点の基準点を設定した。

基準点1： $X = -26,930.258\text{m}$ 、 $Y = +27,869.113\text{m}$ 、 $H = 189.211\text{m}$ 。

基準点2： $X = -26,803.073\text{m}$ 、 $Y = +27,941.963\text{m}$ 、 $H = 187.394\text{m}$ 。

上記の2点を基準として、実際のグリッド設定を行った。遺跡をカバーするグリッドは、原点を中心にして50m間隔で西から東へむかって、 $A \cdot B \cdot C \dots$ 、北から南にむかって $1 \cdot 2 \cdot 3 \dots$ という区画名を与え、 $A1 \cdot A2$ 区などの50mの大グリッド名を付した。また各グリッドはさらに2m間隔で25等分し、それぞれ西から東にむかって $A \sim Y$ 、北から南にむかって $1 \sim 25$ という区画名を与え、それぞれの組み合わせで、 $A01 \cdot A02$ などの小グリッド名を付し、大小グリッドの組み合わせで、 $X19A01$ などと表わすことにした。

検出された遺構名も盛岡市の調査との関連で通し番号で行うことにし、検出順に名称を付した。使用した遺構の記号と名称は以下のとおりである。

竪穴住居跡… $RA01 \sim RA14$ 。竪穴状遺構… $RE01$ 。

土坑類… $RD01 \sim RD12$ 。焼土遺構… $RF01$ 。

遺構の平面位置は、平面直角座標第X系を座標変換した調査座標で表示した。調査座標は第X系に準じる。

遺跡の略号は、上田地区松屋敷遺跡第1次発掘調査の略号で「 $UMY-01$ 」となる。

遺跡の発掘調査面積は、 $1,800\text{m}^2$ である。調査区は北側と南側の2箇所に分かれているため、南側をA区、北側をB区として調査を行った。調査は、平成5年4月8日～7月14日の期間行い、7月2日(金)には現地説明会を行い、遺構と遺物の公開・展示を行っている。

##### (2) 粗掘と検出・遺構の精査と遺物の取り上げ

当初、2m幅のトレンチを任意に地形に応じて入れ、遺跡の状況把握につとめた。その結果、

遺跡の北側(B区)で遺物包含層が確認された。ただし盛土の堆積が厚かったため、重機によって表土を除去し遺物包含層を検出した。南側(A区)では遺物の少ない部分は重機によって表土を除去し、遺物の多い部分は人力で粗掘を行い、遺構検出を行った。

検出された遺構は、原則として住居跡の場合は4分法、土坑類は2分法を行ったが、必要に応じてその他の方法も併用した。精査の各段階において必要図面の作成や写真撮影を適時行った。

遺構内出土の遺物は、埋土では上位・下位に分けて取り上げ、床面出土の遺物は写真撮影・図面作成後に取り上げた。その他にも適時写真撮影・図面作成をして取り上げた。遺構外出土の遺物については、原則としてグリッドごとに出土した層位を記して取り上げ、適時写真撮影・図面作成をしている。

### (3) 実測・写真撮影

平面実測は、グリッドに合わせた1mメッシュを基本とする簡易遣り方測量で行なった。住居跡・土坑類は平面図・断面図とも1/20の縮尺を基本とし、炉跡・焼土遺構については1/10の縮尺を基本とした。遺構の埋土が単層である場合は、その状態をField Cardに記し、土層断面図の作成は省略した。レベルは、基準点をもとに絶対高で測った。

写真撮影は35mmモノクロームとカラースライド各1台、モノクローム6×9判1台を使用した。撮影にあたっては、整理時の混乱を避けるために撮影カードを利用した。実際の撮影は、各種の埋土堆積状況や、遺物の出土状況、完掘状況、全景などについて行い、調査の終了段階でアドバルーンによる空中撮影を行った。

またField Cardを使用した文章による記録を重視し、調査時に観察した事実や仮説を記載し、図面や写真では得ることのできない情報を記録することに努めた。

## 2. 室内整理

野外調査で得られた遺物、実測図、写真などの各種資料は、室内整理の段階で次のように処理し、整理し、報告書作成とともに資料化を計った。

各実測図面ごとに分類し、図面点検のうえ、必要なものについては第二原図を作成し、トレースを行った。撮影されたフィルムは、ネガアルバムに密着写真と一組にして収納した。カラースライドフィルムはスライドファイルに撮影順に収納した。遺物は当センター整理室で水洗した後、出土地点・層位等を注記した。その後、地点・層位ごとに仕分けを行い、接合復元作業を実施した。遺物の実測図は実大とし、トレースは遺物の状況に応じて実大あるいは縮尺して図化した。炭化物・植物遺存体・石材の分析は、外部の専門家に委託した。

### 3. 掲載図版等について

報告書は以上の作業を経て編集した。掲載遺物にはすべて観察表を付した。観察表の( )内の数値は残存値・推定値である。遺物の図版番号は、各遺構ごとに付し、写真番号も同一のものとした。遺構・遺物の図版の縮尺は次のとおりである。

#### (1) 遺構図版

各遺構の図面は以下の縮尺を原則としたが、一部変更したのものもあり、各図にスケール・縮尺を付した。住居跡の平・断面図1/60、炉の断面図1/30、土坑の平・断面図1/40、柱穴群の平面図1/40。

#### (2) 遺物図版

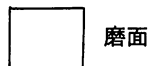
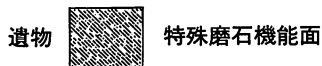
各遺物の図面は以下の縮尺を原則としたが、一部変更したのものもあり、各図にスケール・縮尺を付した。土器1/3、大型の土器1/4、拓本1/3、剥片石器1/2、小型の剥片石器2/3、礫石器1/3、大型の礫石器1/6。

#### (3) 写真図版

遺構の写真図版は縮尺不定である。遺物の写真図版については、各図に縮尺を付した。図中に使用した記号・スクリーン・略号の凡例は次のとおりである。

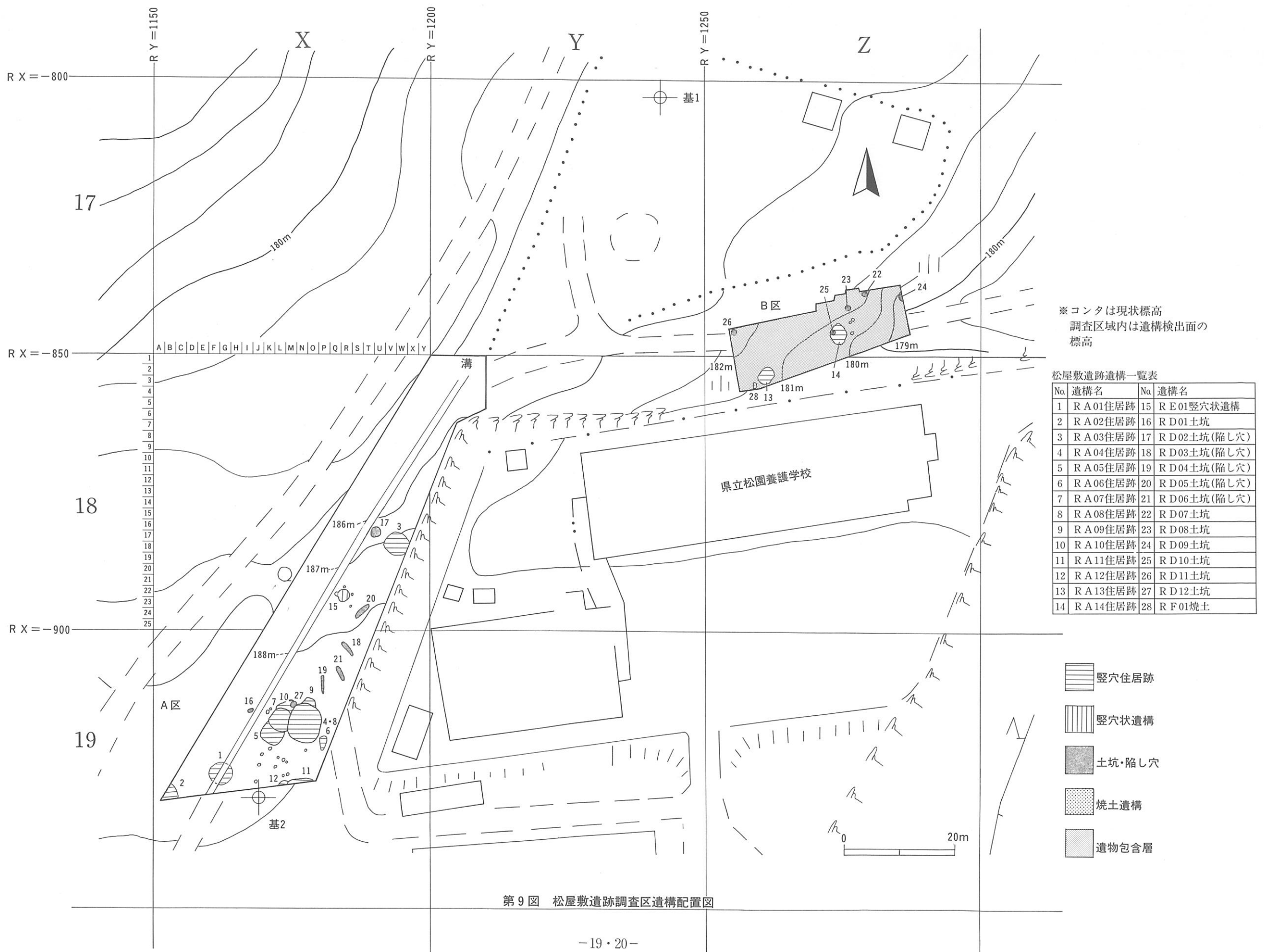


P P…柱穴、P・Pot…土器、S…石



スクリーン・略号の凡例





※コンタは現状標高  
 調査区域内は遺構検出面の  
 標高

松屋敷遺跡遺構一覧表

No.	遺構名	No.	遺構名
1	R A 01住居跡	15	R E 01竪穴状遺構
2	R A 02住居跡	16	R D 01土坑
3	R A 03住居跡	17	R D 02土坑(陥し穴)
4	R A 04住居跡	18	R D 03土坑(陥し穴)
5	R A 05住居跡	19	R D 04土坑(陥し穴)
6	R A 06住居跡	20	R D 05土坑(陥し穴)
7	R A 07住居跡	21	R D 06土坑(陥し穴)
8	R A 08住居跡	22	R D 07土坑
9	R A 09住居跡	23	R D 08土坑
10	R A 10住居跡	24	R D 09土坑
11	R A 11住居跡	25	R D 10土坑
12	R A 12住居跡	26	R D 11土坑
13	R A 13住居跡	27	R D 12土坑
14	R A 14住居跡	28	R F 01焼土

- 竪穴住居跡
- 竪穴状遺構
- 土坑・陥し穴
- 焼土遺構
- 遺物包含層

第9図 松屋敷遺跡調査区遺構配置図

## IV. 遺構と遺物

### 1. 竪穴住居跡（第10～33図、写真図版3～13・21～32）

#### RA01住居跡

##### 遺構（第10図、写真図版3）

〈検出状況・重複関係〉A区南端、X19F13グリッドに位置する。II b層で黒褐色土の広がりとして検出された。電気ケーブル埋設溝により、中央部分が攪乱を受けている。

〈規模・平面形〉径4.4mの円形を呈する。

〈埋土〉黒褐色土・暗褐色土で構成される。黒褐色土層には炭化物が混入し、硬く締まる。床面に近い層には多量の炭化材が含まれている。

〈壁・床面〉壁はII b層から掘り込まれ、壁高は30cmほどで、緩やかに外傾する。東壁の上部は削平されている。床面はIII a層を掘り込んで構築され、平坦で硬く締まっている。西側には幅10～15cm、深さ5cmほどの周溝が廻わる。

〈柱穴〉16本検出された。主柱穴はPP1・2・3・5の4本で構成され、それらの規模は径33～55cm、深さ61～72cmで、斜位からの掘り込みがあり、柱痕跡を有するものもある。柱間は160～190cmである。やや規模が小さくなるPP4・11を加えての6本配置も考えられる。その場合、住居跡の主軸は、北東—南西方向になる。

〈炉〉中央部が攪乱されているため不明だが、住居跡の中央よりやや北側で径25cmほどの不整な焼土の広がりが検出された。焼土の厚さは最大4cmである。地床炉の可能性はある。

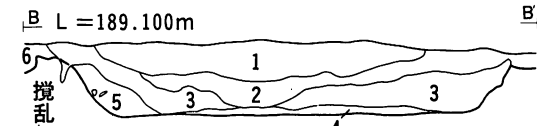
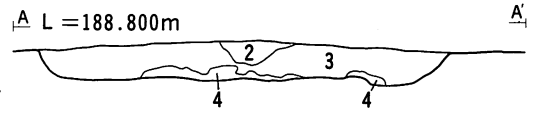
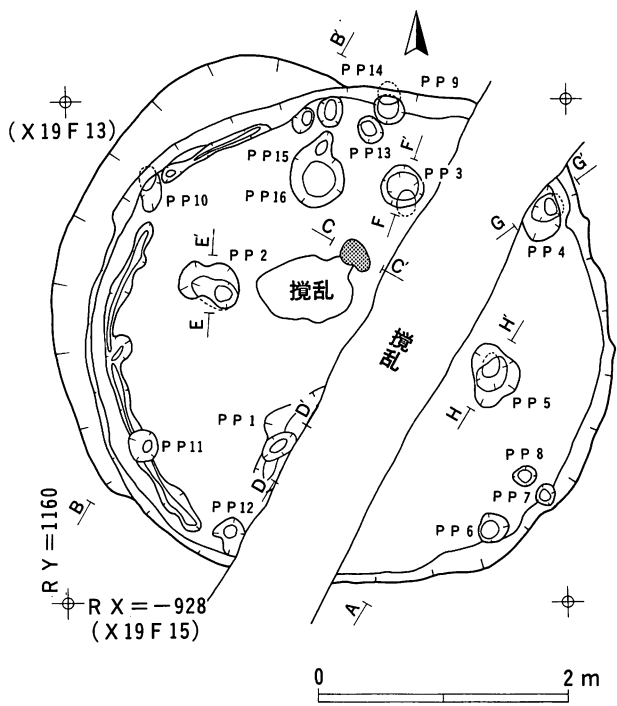
##### 遺物（第11・12図、写真図版21）

〈出土状況〉住居跡一面に炭化材の広がりが確認された。材は中央に向かって放射状になっており、中央部と北西側に多く分布している。炭化樹種はクリである。また炭化したクルミが出土しているが、オニグルミであるとの鑑定結果を得ている。以上の状況から、当住居跡は、焼失住居であると思われる。埋土から縄文時代中期中葉の土器と石器が出土しており、南西の壁際からは、2個体の土器(Pot 1・Pot 2)が、横転した状態で出土している。

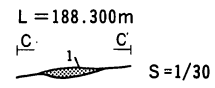
〈土器〉縄文時代中期中葉の土器3点、土器片数点が得られている。1(Pot 1)は沈線による懸垂文・渦文が描かれ、口縁部が外反する器形である。2・3(Pot 2)は粗製の深鉢である。

〈石器〉尖頭器1点・打製石斧1点・礫1点・台石1点・剥片6点が得られている。9は、両面加工の打製石斧、11の台石には煤状の付着物がある。

時期 出土遺物から縄文時代中期中葉と思われる。



- RA01 埋土 (A-A' B-B')
- | 層位 | 色調           | 土性                   |
|----|--------------|----------------------|
| 1. | 7.5YR2/2 黒褐色 | I層。                  |
| 2. | 10YR2/3 黒褐色  | II層。                 |
| 3. | 10YR3/3 暗褐色  | 粘性なし、縮まりあり、含炭化物5%。   |
| 4. | 10YR3/4 黒褐色  | 粘性ややあり、縮まりあり、含炭化物。   |
| 5. | 10YR3/4 暗褐色  | 粘性あり、縮まりあり、含炭化物1%。   |
| 6. | 7.5YR3/2 黒褐色 | 粘性あり、縮まりあり、黒褐色土ブロック。 |



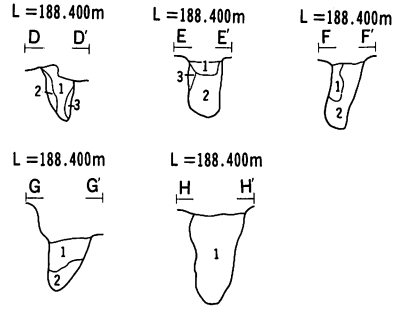
- RA01 炉 (C-C')
- | 層位 | 色調         | 土性  |
|----|------------|-----|
| 1. | 5YR4/8 赤褐色 | 焼土。 |

RA01

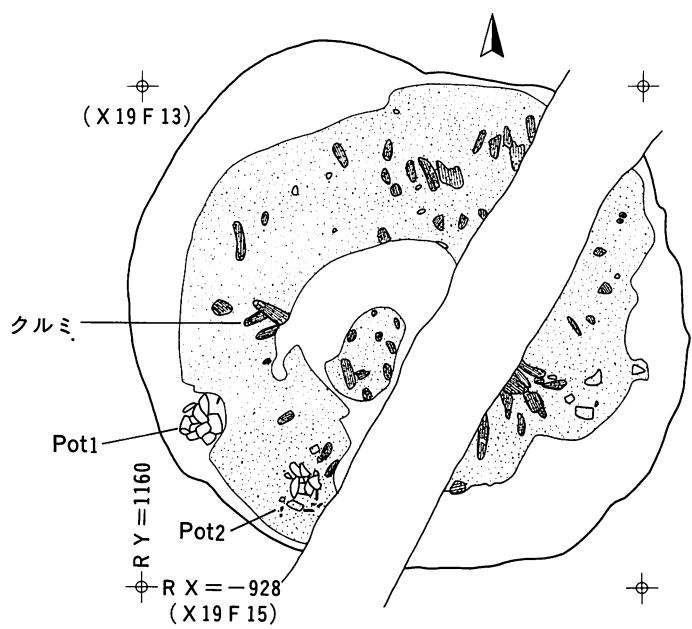
No.	PP1	PP2	PP3	PP4	PP5	PP6	PP7	PP8
径 (cm)	55×25	50×38	34×33	46×30	45×40	25×22	17×16	20×18
深さ (cm)	68	71.9	61.2	33	70	22	14	18

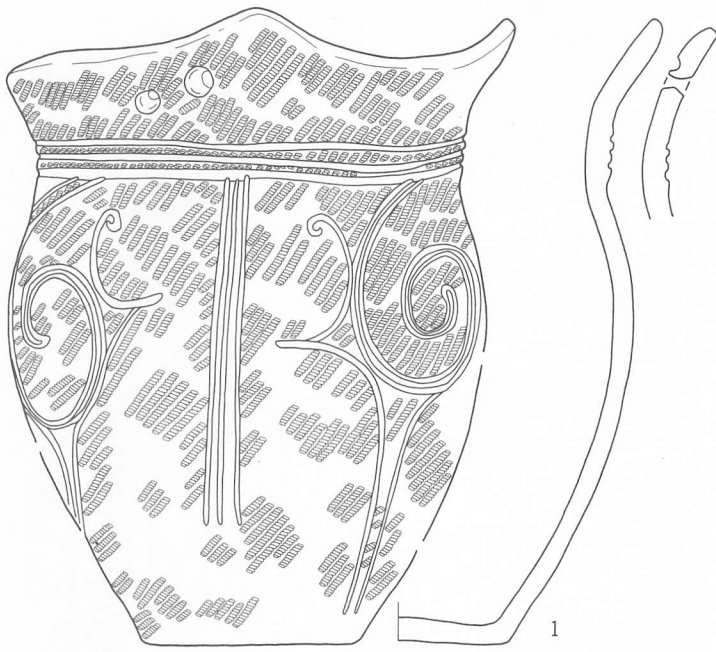
No.	PP9	PP10	PP11	PP12	PP13	PP14	PP15	PP16
径 (cm)	25×22	27×15	25×22	30×25	23×18	24×20	21×15	48×45
深さ (cm)	38	36	28	10	6	5	11	7



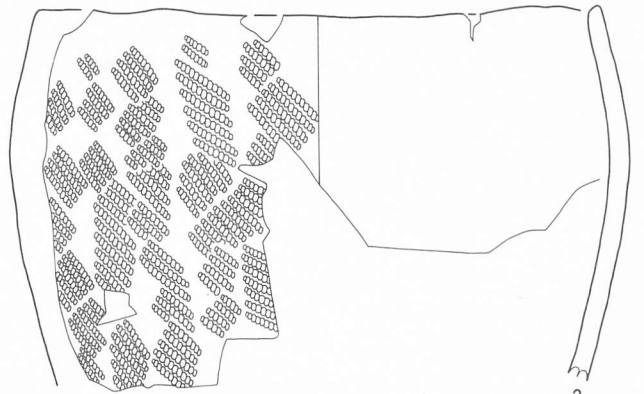
- RA01 PP1 (D-D')
- | 層位 | 色調          | 土性                   |
|----|-------------|----------------------|
| 1. | 10YR4/6 黒褐色 | 粘性ややあり、縮まりあり、含炭化物2%。 |
| 2. | 10YR5/8 黄褐色 | 粘性なし、縮まりややあり。        |
| 3. | 10YR5/6 黄褐色 | 粘性なし、縮まりなし。          |
- RA01 PP2 (E-E')
- | 層位 | 色調          | 土性                  |
|----|-------------|---------------------|
| 1. | 10YR3/2 黒褐色 | 粘性なし、縮まりあり、含炭化物1%。  |
| 2. | 10YR3/4 暗褐色 | 粘性あり、縮まりあり、含炭化物10%。 |
| 3. | 10YR5/8 黄褐色 | 粘性ややあり、縮まりややあり。     |
- RA01 PP3 (F-F')
- | 層位 | 色調          | 土性                      |
|----|-------------|-------------------------|
| 1. | 10YR5/6 黄褐色 | 粘性なし、縮まりなし。             |
| 2. | 10YR3/2 黒褐色 | 粘性ややあり、縮まりややあり、含炭化物10%。 |
- RA01 PP4 (G-G')
- | 層位 | 色調          | 土性            |
|----|-------------|---------------|
| 1. | 10YR5/6 黄褐色 | 粘性なし、縮まりややあり。 |
| 2. | 10YR5/8 黄褐色 | 粘性なし、縮まりなし。   |
- RA01 PP5 (H-H')
- | 層位 | 色調         | 土性               |
|----|------------|------------------|
| 1. | 10YR4/4 褐色 | 粘性なし、縮まりあり、含炭化物。 |



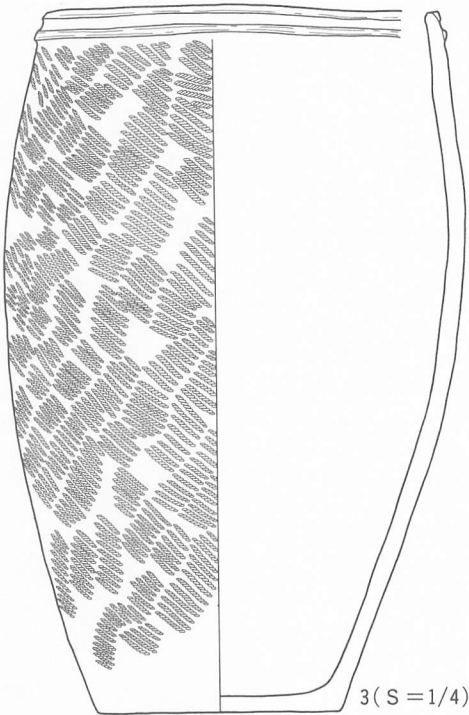
第10図 RA01住居跡



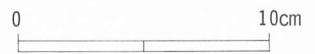
1



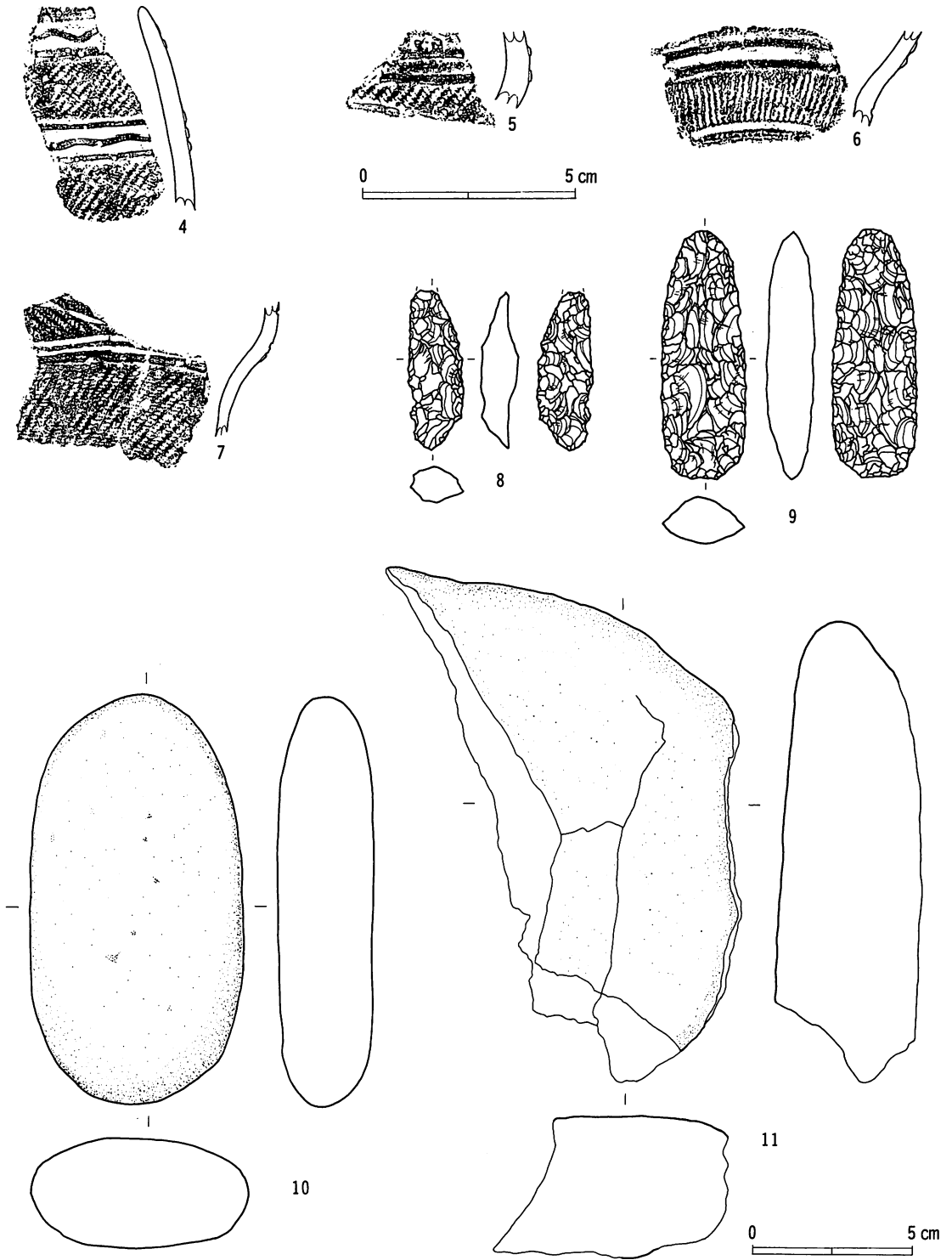
2



3(S=1/4)



第11図 RA01住居跡出土遺物(1)



第12図 RA01住居跡出土遺物(2)

## RA02住居跡

### 遺構（第13図、写真図版4）

〈検出状況・重複関係〉A区南端、X19B15グリッドに位置する。試掘で径2mほどの暗褐色土の広がりとして検出された。検出面はII b層である。大半が調査区域外に続き、全体の6分の1ほどの検出である。

〈規模・平面形〉部分的な検出であるため、詳細は不明だが、検出できた東壁の状態と焼土の位置から、規模は径4～5m、平面形は方形基調と推定される。

〈埋土〉自然堆積で、黒色土・暗褐色土・褐色土の3層に大別される。床面に近い層には炭化材が多く含まれている。

〈壁・床面〉壁はII b層から掘り込まれ、壁高は60cmほどで直立ぎみに外傾する。東壁の一部は試掘で削平している。床面はIV層まで掘り込んで構築されており、平坦で硬く締まっている。東壁際に幅6cm、深さ4cmほどの周溝が廻わる。

〈柱穴〉3本検出された。規模から、PP1が支柱穴の一部を構成していた可能性があらう。柱配置は不明である。東壁際には壁柱穴が廻わる。

〈炉〉調査区域外にかかって焼土の広がりが検出された。地床炉の可能性がある。

### 遺物（第13図・写真図版21）

〈出土状況〉PP1の上面付近から炭化材がまとまって検出されている。炭化樹種はクリである。焼失住居の可能性がある。埋土から土器片が数点得られているが、出土量は少ない。

〈土器〉縄文時代中期中葉の土器片数点が得られている。

〈石器〉出土していない。

時期 出土遺物から縄文時代中期中葉と思われる。

## RA03住居跡

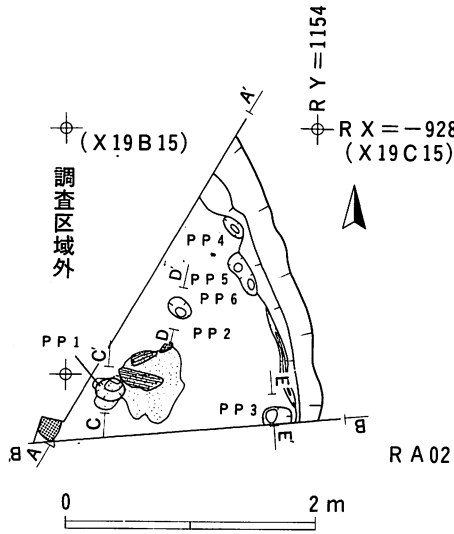
### 遺構（第14図、写真図版5）

〈検出状況・重複関係〉A区の北側、X18V17グリッドに位置する。II b層で黒色土の広がりとして検出された。東側は一部削平されている。西側1.5mにはRD02陥し穴が位置する。

〈規模・平面形〉径4.35×3.5mの隅丸長方形を呈する。長軸方向は北西－南東方向である。

〈埋土〉自然堆積で、黒色土、暗褐色土・褐色土に大別される。床面に近い層には炭化材が多く含まれている。

〈壁・床面〉壁はII b層から掘り込まれ、壁高は、南側で60cmほどあり、緩やかに外反する。東壁は削平されている。床面はIII a層を掘り込んで構築され、平坦で硬く締まっている。住居跡の西壁際には、径50×40cmほどの高まりが見られた。



RA02

No	PP1	PP2	PP3	PP4	PP5	PP6
径(cm)	20×20	20×14	23×13	20×11	20×14	20×12
深さ(cm)	47	23	27	17	5	6

L=188.300m



L=188.300m



L=188.300m



RA02 PP1 (C-C')

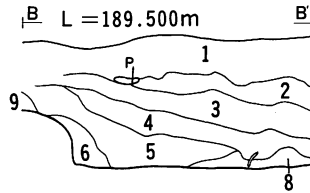
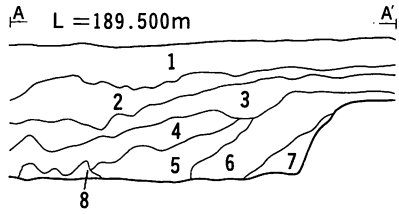
- 層位 色調 土性
- 10YR4/4 褐色 粘性ややあり、縮まりあり、含炭化物10%。
  - 10YR5/8 黄褐色 粘性あり、縮まりなし。
  - 10YR5/6 黄褐色 粘性あり、縮まりあり。

RA02 PP2 (D-D')

- 層位 色調 土性
- 10YR5/6 黄褐色 粘性あり、縮まりあり、含炭化物1%。

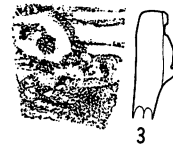
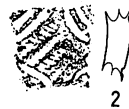
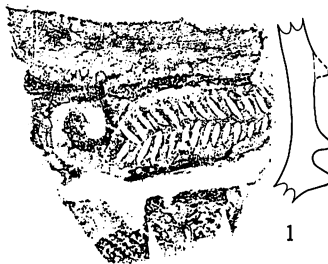
RA02 PP3 (E-E')

- 層位 色調 土性
- 10YR5/4 におい黄褐色 粘性ややあり、縮まりややあり。



RA02 埋土 (A-A' B-B')

- 層位 色調 土性
- 10YR2/2 黒褐色 I層。
  - 10YR3/2 黒褐色 II a層。
  - 10YR2/3 黒褐色 II b層。
  - 10YR3/4 暗褐色 粘性あり、縮まりあり、含炭化物1%。
  - 10YR5/6 黄褐色 粘性なし、縮まりあり、含黒色土ブロック。
  - 10YR4/6 褐色 粘性ややあり、縮まりややあり、含炭化物1%。
  - 10YR5/8 黄褐色 粘性ややあり、縮まりなし。
  - 10YR2/1 黒色 粘性なし、縮まりなし、含炭化物50%。
  - 10YR4/4 褐色 粘性あり、縮まりなし、含炭化物微量。



0 10cm

第13図 RA02住居跡・出土遺物

〈柱穴〉14本検出された。主柱穴はPP2・3・6・8の4本と考えられ、規模は径22～30cm、深さ40～51cmである。PP1・8・10を加えての5本柱あるいは7本柱の可能性もある。

〈炉〉住居跡の長軸線上で、中心から50cmほど東側に寄った位置に方形の石囲炉が検出された。9個の扁平な石を横位に埋め込んでつくられている。石質は安山岩である。炉内に焼土の形成は見られなかった。

#### 遺物（第15～17図、写真図版22～24）

〈出土状況〉炭化材がまとまって検出されたが、材が残るのは北西側のみであった。炭化樹種はクリである。焼失住居の可能性もある。他の住居跡に比して、埋土中の遺物の量が多い。住居東側の埋土上・中位から多くの遺物が出土しているが、床直上の遺物は少ない。ほぼ完形の浅鉢(Pot 1)が埋土下位から出土している。また風化礫の細片が浅鉢の東側から出土している。

〈土器〉縄文時代中期中葉の土器10点・土器片数十点が得られている。内訳は、浅鉢1点・鉢2点・深鉢6点で、深鉢1点は粗製で、底部に網代痕をもつ。1は埋土下位から出土した浅鉢である。出土した土器の器形には、キャリパー形や口縁部が内湾する器形・外反する器形などがあり、片寄りは見られない。5の頸部無文帯をもち、口縁部が外反する器形や27・36のように隆沈線で文様が描かれるものなど新しい要素をもつものもみられる。

〈石器〉石鏃1点・両極石器1点・磨石1点・台石1点・剥片6点が得られている。39は先端を欠く凸基有茎鏃である。40は、2個1対の両極剥離による刃部をもつ。

時期 出土遺物から縄文時代中期中葉と思われる。

### RA04住居跡

#### 遺構（第18・19図、写真図版6・7）

〈検出状況・重複関係〉A区南側、X19N08グリッドに位置する。II b層で黒色土の広がりとして検出された。当初1棟の住居跡として精査を行ったが、周溝・柱配置等から2棟の住居跡の重複か建て替え（拡張）の可能性が考えられた。新規をRA04住居跡、古期をRA08住居跡として記述する。RA04住居跡は北側でRA09住居跡、西側でRA07住居跡と重複し、いずれも当住居跡が新しい。

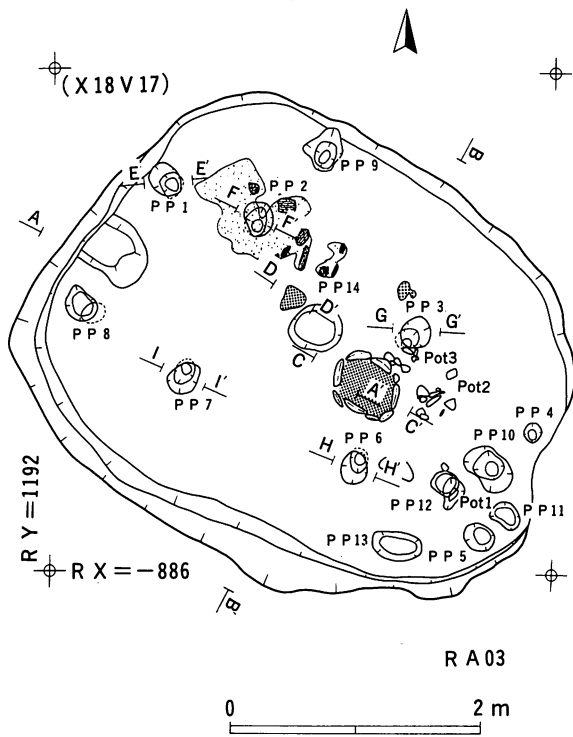
〈規模・平面形〉規模6.5×5.9mで、やや不整な隅丸長方形を呈する。

〈埋土〉黒色土・暗褐色土の2層に大別される。

〈壁・床面〉壁はII b層から掘り込まれ、壁高は40cmほどで緩やかに外傾する。床面はIII a層を掘り込んで構築されており、ほぼ平坦で硬く締まる。

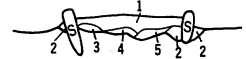
〈柱穴〉24本が検出された。壁柱穴に比べて、中央寄りに位置する柱穴が貧弱であることから、主柱として壁柱穴が配置される住居跡であると思われる。それらの規模は、径25～35cm、深さ





RA03

C L = 186.900m C'



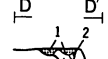
S = 1/30

RA03 埋 (C-C')

層位 色調 土性

1. 10YR3/4 暗褐色 粘性あり、縮まりややあり、含明褐色土5%・炭化物1%
2. 10YR3/2 黒褐色 粘性あり、縮まりなし、含炭化物70%。
3. 10YR5/6 黄褐色 粘性あり、縮まりなし。
4. 10YR4/6 褐色 粘性あり、縮まりあり、含炭化物20%。
5. 10YR5/6 黄褐色 粘性あり、縮まりあり、含炭化物5%。

L = 186.900m



S = 1/30

RA03 焼土 (D-D')

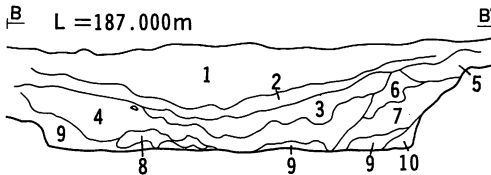
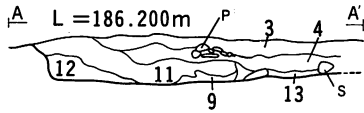
層位 色調 土性

1. 5YR4/8 赤褐色 焼土。
2. 10YR4/8 褐色 粘性なし、縮まりややあり。
3. 10YR6/8 明黄褐色 粘性なし、縮まりなし。

RA03

Na	PP1	PP2	PP3	PP4	PP5	PP6	PP7	PP8
径(cm)	30×22	30×22	25×23	15×14	25×20	25×22	26×25	25×22
深さ(cm)	41	51	45	45	11	35	40	40

Na	PP9	PP10	PP11	PP12	PP13	PP14
径(cm)	35×30	42×37	25×17	25×16	40×23	40×38
深さ(cm)	36	44	8	6	8	13



RA03 埋土 (A-A' B-B')

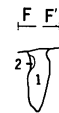
層位 色調 土性

1. 10YR2/1 黒色 I層
2. 10YR2/3 暗褐色 II層
3. 10YR3/3 暗褐色 粘性あり、縮まりややあり、含炭化物1%。
4. 10YR3/4 暗褐色 粘性なし、縮まりなし、含炭化物5%。
5. 10YR3/4 暗褐色 粘性ややあり、縮まりややあり、含明褐色土。
6. 10YR5/6 黄褐色 粘性あり、縮まりあり、含炭化物2%。
7. 10YR5/8 黄褐色 粘性あり、縮まりあり、含明褐色土5%・炭化物2%。
8. 10YR4/6 褐色 粘性あり、縮まりあり、含炭化物3%。
9. 10YR5/8 黄褐色 粘性あり、縮まりあり。
10. 10YR6/8 明黄褐色 粘性あり、縮まりややあり。
11. 10YR4/3 にぶい黄褐色 粘性あり、縮まりあり。
12. 10YR2/3 黒褐色 粘性あり、縮まりあり、含明褐色土3%。
13. 10YR5/6 黄褐色 粘性あり、縮まりなし、含炭化物1%。

L = 186.900m



L = 186.900m



L = 186.900m



L = 186.900m



L = 186.900m



RA03 PP1 (E-E')

層位 色調 土性

1. 10YR3/2 黒褐色 粘性あり、縮まりあり、含炭化物80%。

RA03 PP2 (F-F')

層位 色調 土性

1. 10YR3/3 暗褐色 粘性あり、縮まりあり、含炭化物20%。

RA03 PP3 (G-G')

層位 色調 土性

1. 10YR5/8 黄褐色 粘性あり、縮まりなし、含炭化物3%。

RA03 PP6 (H-H')

層位 色調 土性

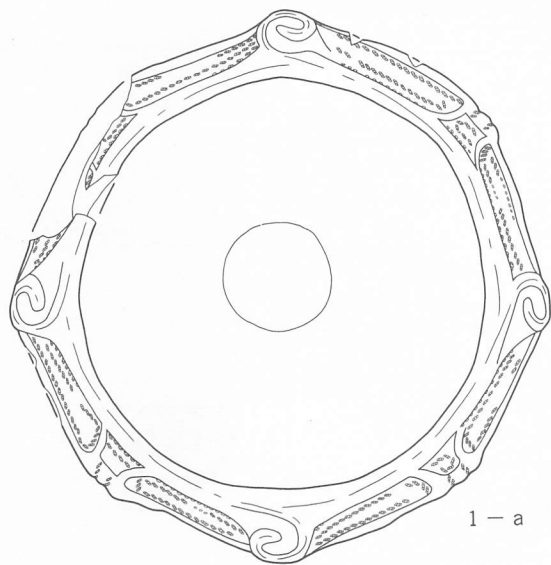
1. 10YR4/6 褐色 粘性あり、縮まりあり、含炭化物10%。

RA03 PP7 (I-I')

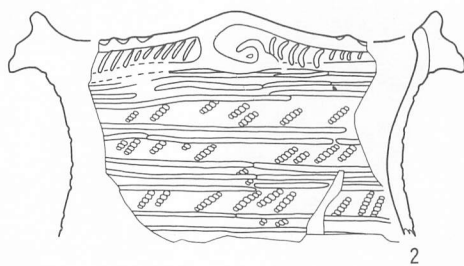
層位 色調 土性

1. 10YR4/6 褐色 粘性ややあり、縮まりややあり、含炭化物5%。

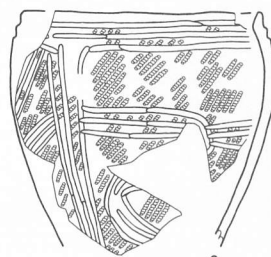
第14図 RA03住居跡



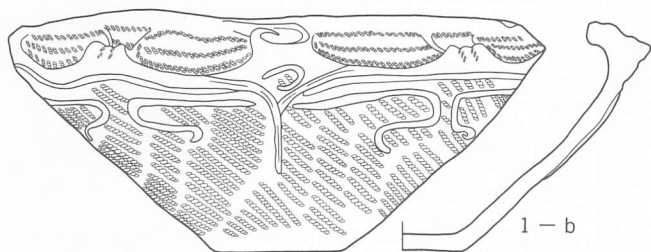
1 - a



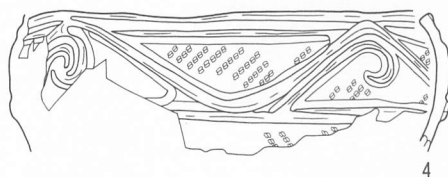
2



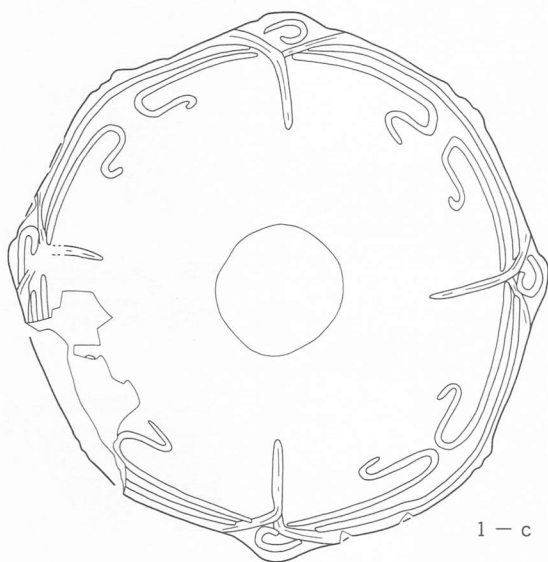
3



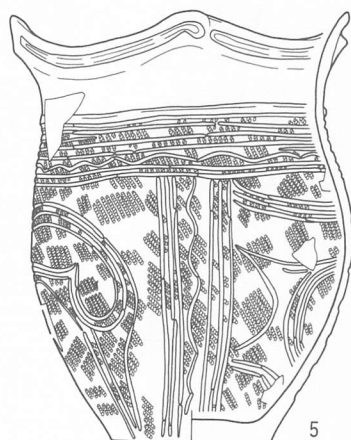
1 - b



4



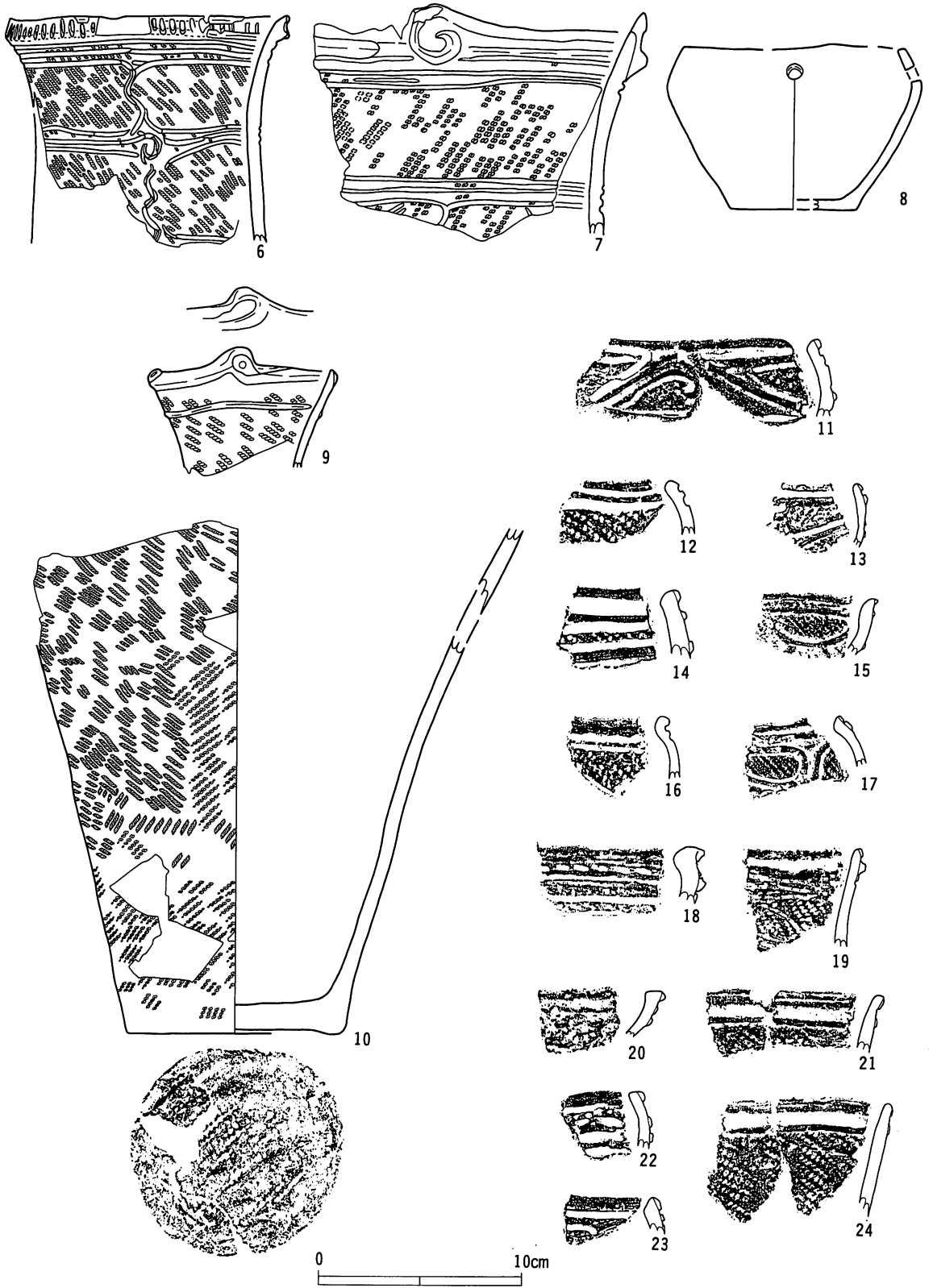
1 - c



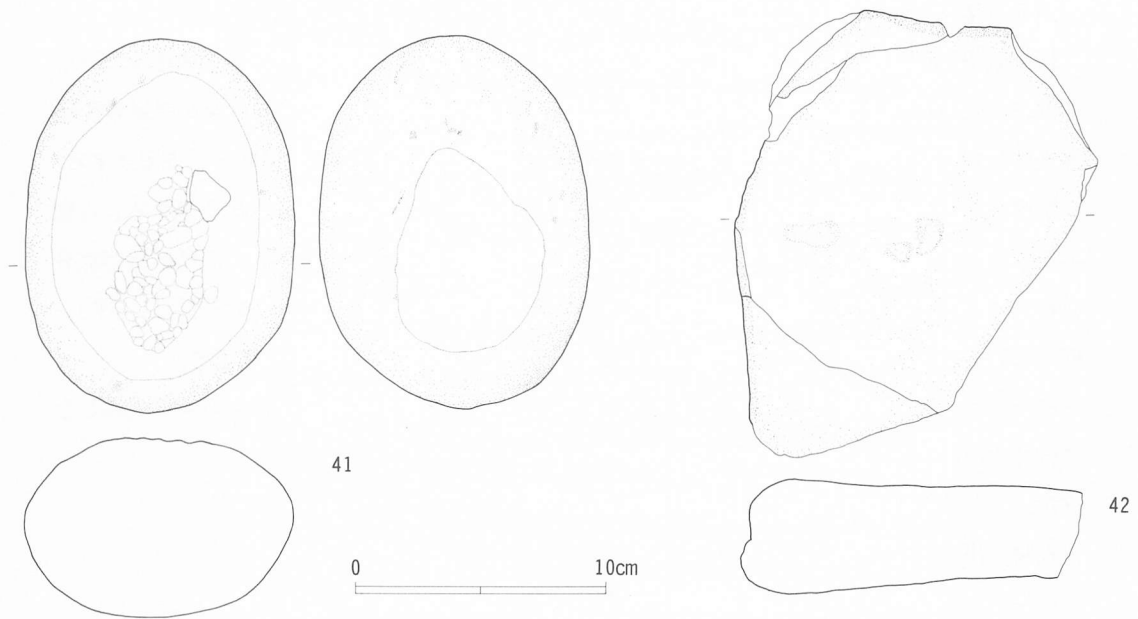
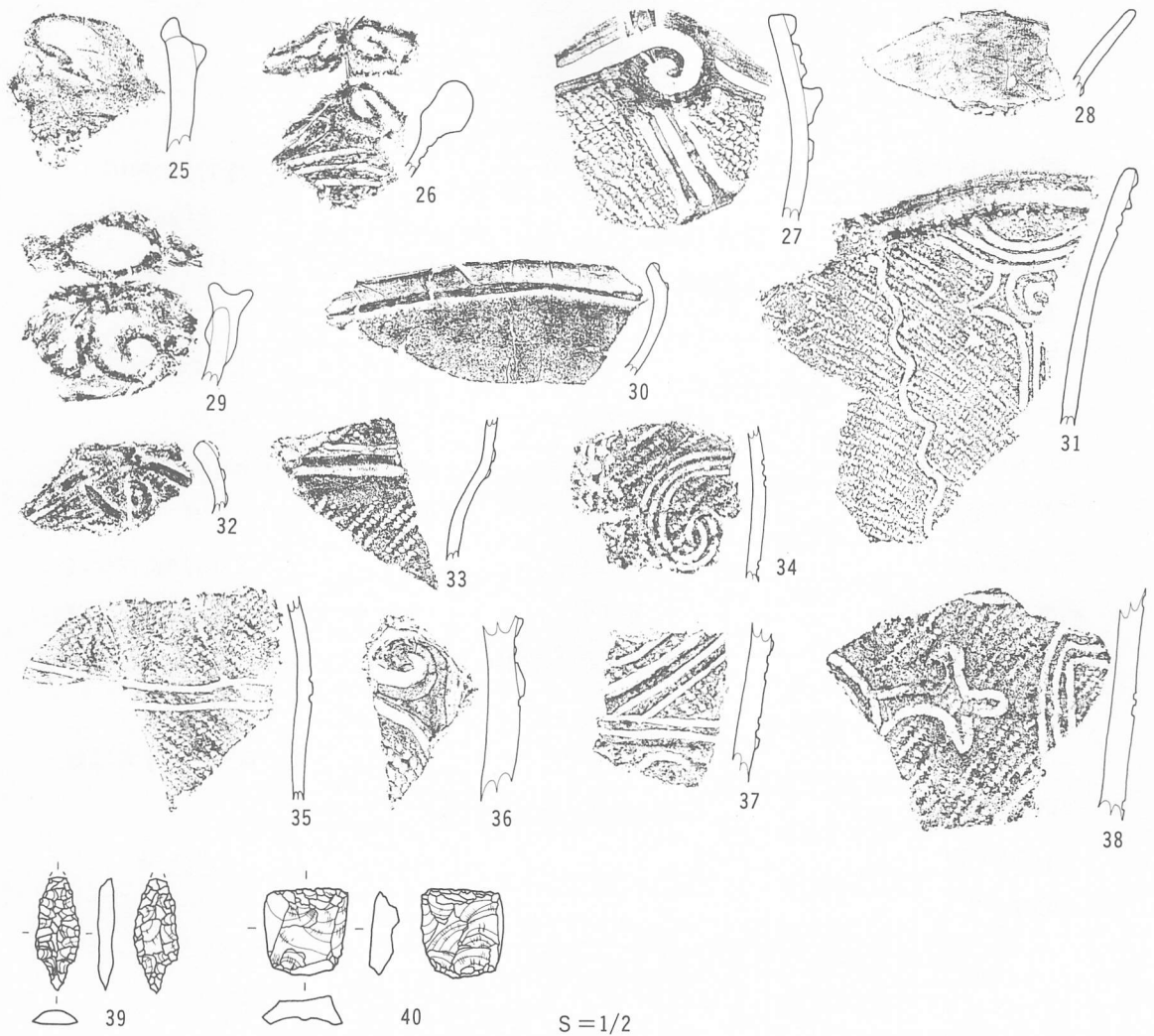
5



第15图 R A03住居跡出土遺物(1)



第16图 RA03住居跡出土遺物(2)



第17图 RA03住居跡出土遺物(3)

45～60cmである。

〈炉〉 4基の焼土が検出された。規模から焼土1・2が地床炉と思われる。焼土1の規模は、径44×36cm、焼土の厚さは5cmほどである。焼土2の規模は、径64×54cm、焼土の厚さは8cmほどである。平面形は不整な円形を呈し、いずれも赤褐色を呈し、よく焼けている。

**遺物** (第20～22図、写真図版25・26)

〈出土状況〉 埋土から縄文時代中期中葉の土器・土器片・石器が出土しているが、床直上からの出土は少ない。大型深鉢(Pot 1)が住居跡の北東側の埋土下位から出土している。

〈土器〉 縄文時代中期中葉の土器5点、土器片十数点が得られている。1(Pot 1)は大型の深鉢で横S字状の貼付文が付く橋状突起を4つもち、口縁部と胴部は横位の隆帯と沈線で区画される。胴部は、地文(RL縦)を施した後、3本1組沈線により文様が描かれる。文様は橋状突起を起点に懸垂文・曲折文が描かれ、端部と屈曲部には渦文が配されている。2・4は地文のみのキャリパー形の深鉢で、口縁部には横回転、胴部には縦回転のLR縄文が施されている。3は3本1組沈線で文様が描かれている深鉢である。

出土した土器の器形は、キャリパー形が多いが、他に口縁部が内湾する器形や外反する深鉢、口縁部が強く屈曲する浅鉢片がある。

〈石器〉 石鏃1点・打製石斧1点・磨製石斧1点・磨石1点・剥片9点が出土している。

**時期** 出土遺物から縄文時代中期中葉と思われる。

## RA08住居跡

**遺構** (第18・19図、写真図版6・7)

〈検出状況・重複関係〉 A区南側、X19N08グリッドに位置する。II b層で黒色土の広がりとして検出された。当初1棟の住居跡として精査を行ったが、周溝・柱配置等から2棟の住居跡の重複か建て替えの可能性が考えられた。新規をRA04住居跡、古期をRA08住居跡として記述する。

〈規模・平面形〉 新規のRA04住居跡は、規模6.5×5.9mで、方形がかかる楕円形を呈する。古期のRA08住居跡は幅10cm、深さ4～10cmほどの周溝が廻る範囲と推定される。周溝の西側部分は検出できなかったが、規模は径6.5×5.1m、不整な楕円形を呈するものと推定される。埋土・壁・床の詳細は不明であるが、確認されたことについてはRA04住居跡の項に譲る。

〈柱穴〉 20本検出された。壁柱穴に比して、中央寄りの柱穴が貧弱であることから、主柱として壁柱穴が配置される住居跡であると思われる。

〈炉〉 4基の焼土が検出されたが、詳細は不明である。

〈遺物〉 出土していない。

**時期** 出土遺物はないが、重複関係から縄文時代中期中葉と推定される。

### RA09住居跡

遺構（第18・19図、写真図版6・7）

〈検出状況・重複関係〉A区南側、X19N07グリッドに位置する。検出面はIII a層で、暗褐色土の広がりとして検出された。南側でRA04住居跡と重複し、切られている。

〈規模・平面形〉大半がRA04住居跡と重複しているため、全体の規模・形状は不明であるが、平面形は方形基調と推定される。

〈埋土〉褐色土で硬く締まっている。

〈壁・床面〉壁高は16cmほどである。床面はIII a層を掘り込んで構築されており、ほぼ平坦で、硬く締っている。RA04住居跡の床面より10cmほど高い。

〈柱穴〉4本検出された。規模は、径40×13cm、深さ10～18cmで浅い。柱配置は不明である。

〈炉〉不明である。

〈遺物〉出土していない。

時期 時期決定できる出土遺物はないが、重複関係から、縄文時代中期中葉と推定される。

### RA05住居跡

遺構（第23・24図、写真図版8・9）

〈検出状況・重複関係〉A区南側、X19K09グリッドに位置する。II b層で黒色土の広がりとして検出された。北側でRA07住居跡と重複し、切られている。

〈規模・平面形〉北側でRA07住居跡と重複しているため、全体の形状は不明であるが、径4m前後の隅丸方形を呈するものと推定される。

〈埋土〉自然堆積、黒色土・暗褐色土・褐色土の3層に大別される。暗褐色土層と床面に近い層には炭化材が多く含まれている。北側をRA07住居跡に切られている。

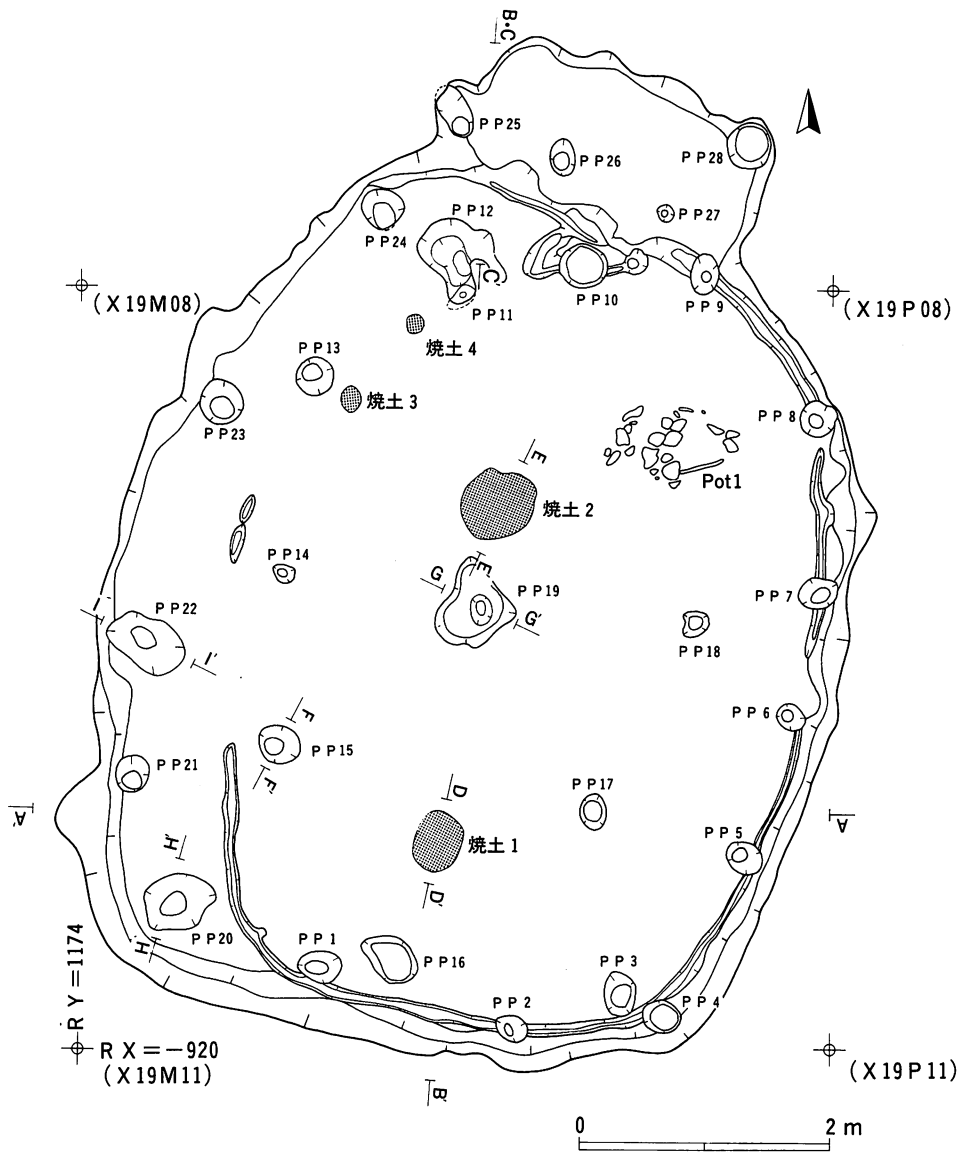
〈壁・床面〉壁はII b層から掘り込まれ、壁高は60cmほどである。南西壁は直立ぎみに立ち上がり、東壁は緩く外反する。床面はIV層を掘り込んで構築されており、平坦で硬く締まっている。床面の高さは、RA04住居跡の床面より10cmほど低い。またRA07住居跡の床面より3cmほど低い、明瞭な段差は見られず、緩やかに傾斜している。

〈柱穴〉支柱穴はPP4・6・7・8の4本と考えられる。これらの規模は、径18～37cm、深さ45～63cmである。柱間は200～250cmである。

〈炉〉住居跡の中央から南寄りに径20cmほどの不整な円形を呈する焼土の広がりを検出した。焼土の厚さは最大4cmである。地床炉と思われる。

遺物（第25～27図、写真図版27～29）

〈出土状況〉床上から炭化材がまとまって検出されているが、材が残るのは南側のみである。



RA04・08・09

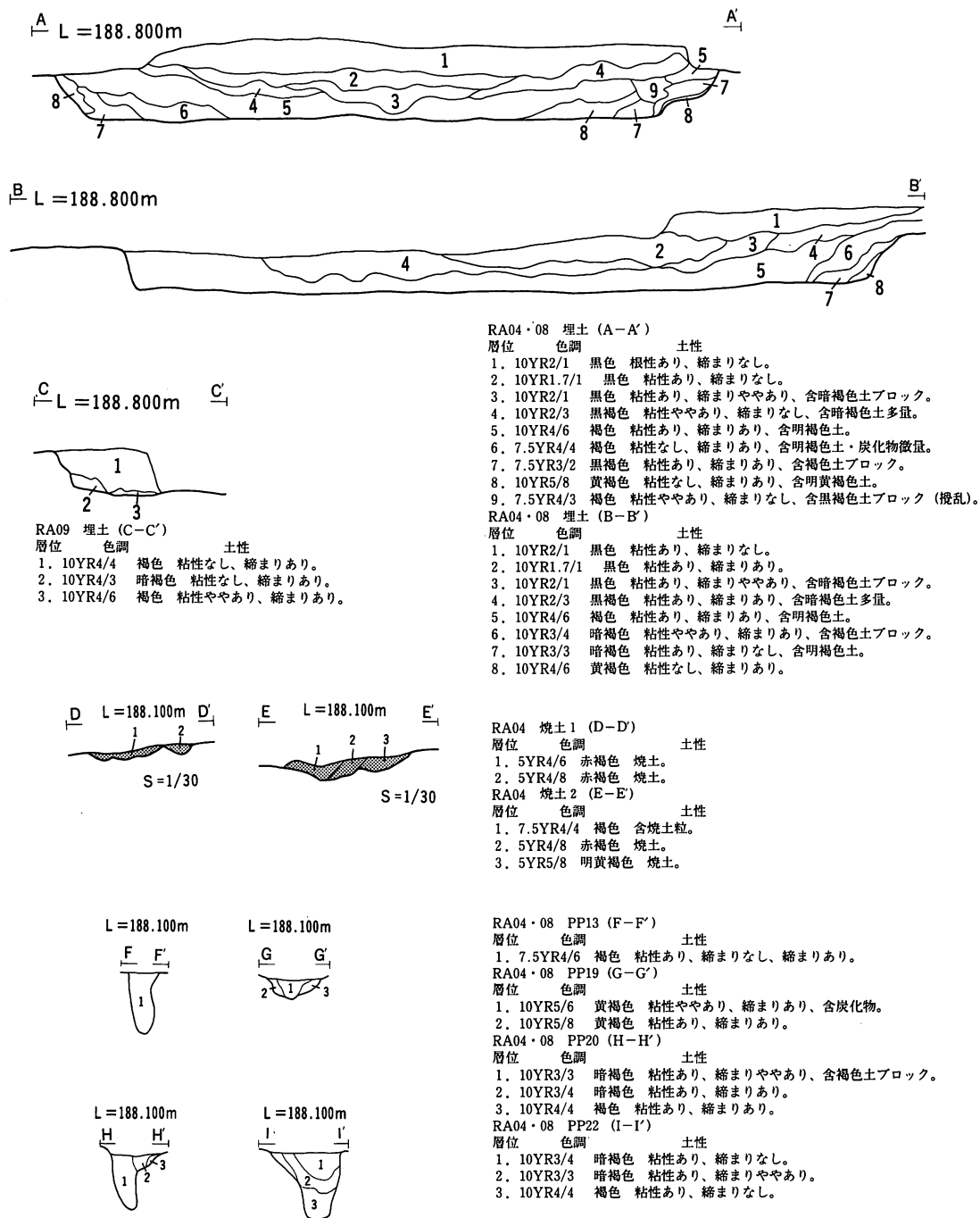
No.	PP1	PP2	PP3	PP4	PP5	PP6	PP7	PP8
径 (cm)	35×24	25×21	37×26	30×25	30×25	23×20	32×30	31×30
深さ (cm)	62	51	45	23	48	49	47	54

No.	PP9	PP10	PP11	PP12	PP13	PP14	PP15	PP16
径 (cm)	32×24	39×35	37×40	23×15	30×29	19×15	35×30	44×34
深さ (cm)	54	16	50	36	51	36	54	8

No.	PP17	PP18	PP19	PP20	PP21	PP22	PP23	PP24
径 (cm)	27×22	21×10	65×60	56×45	30×26	60×40	35×33	30×30
深さ (cm)	7	18	23	50	66	60	60	58

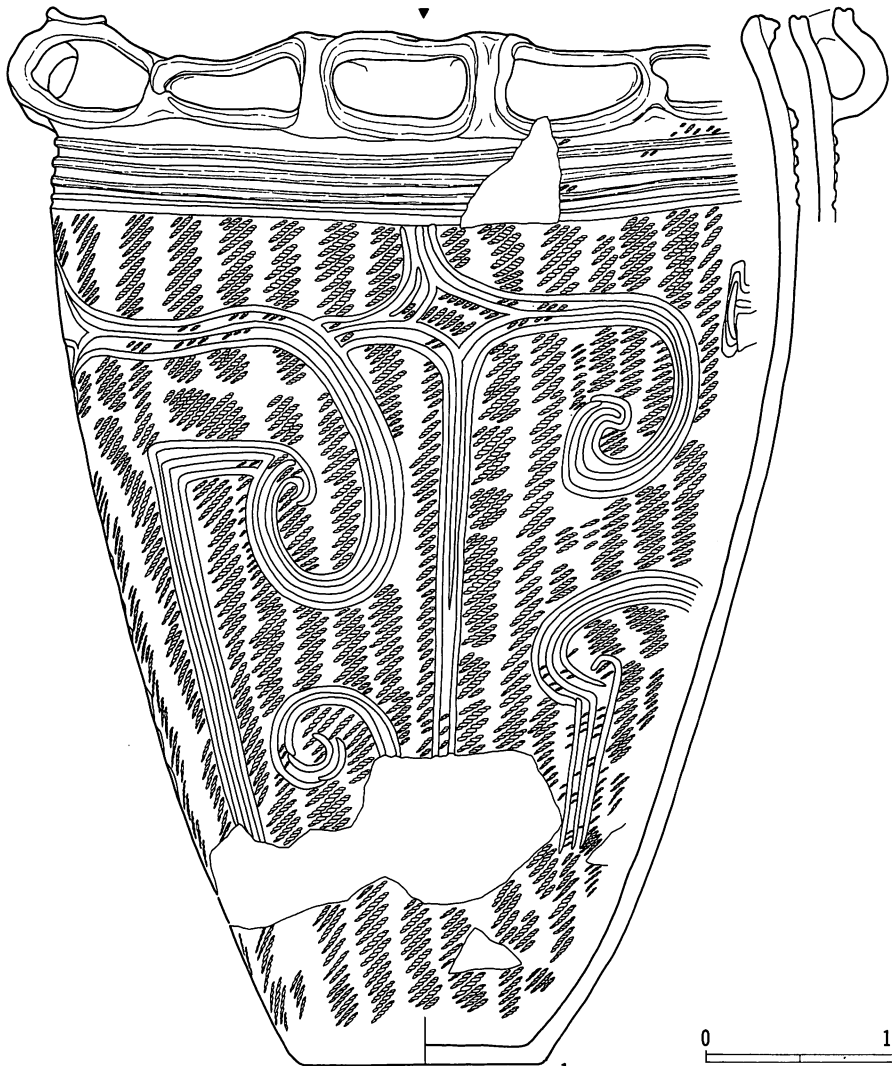
No.	PP25	PP26	PP27	PP28
径 (cm)	40×22	27×20	14×13	37×35
深さ (cm)	18	10	10	14

第18図 RA04・RA08・RA09住居跡(1)



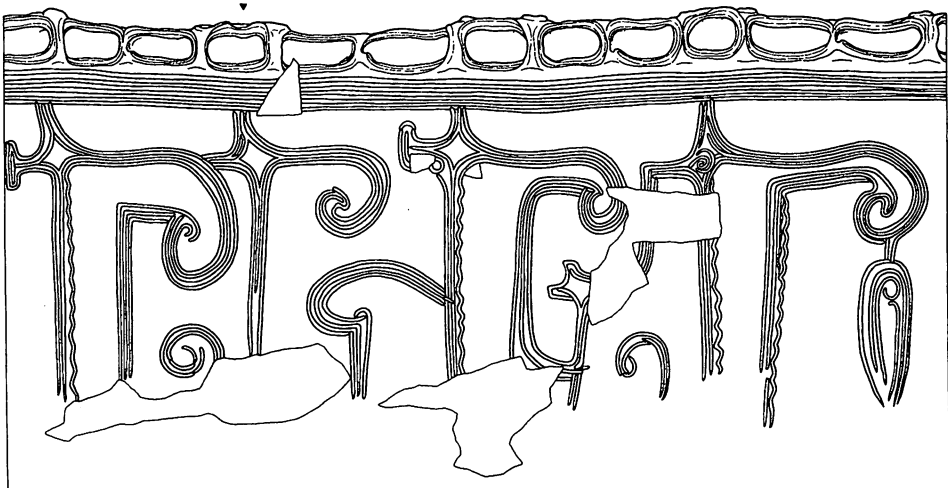
第19図 RA04・RA08・RA09住居跡(2)





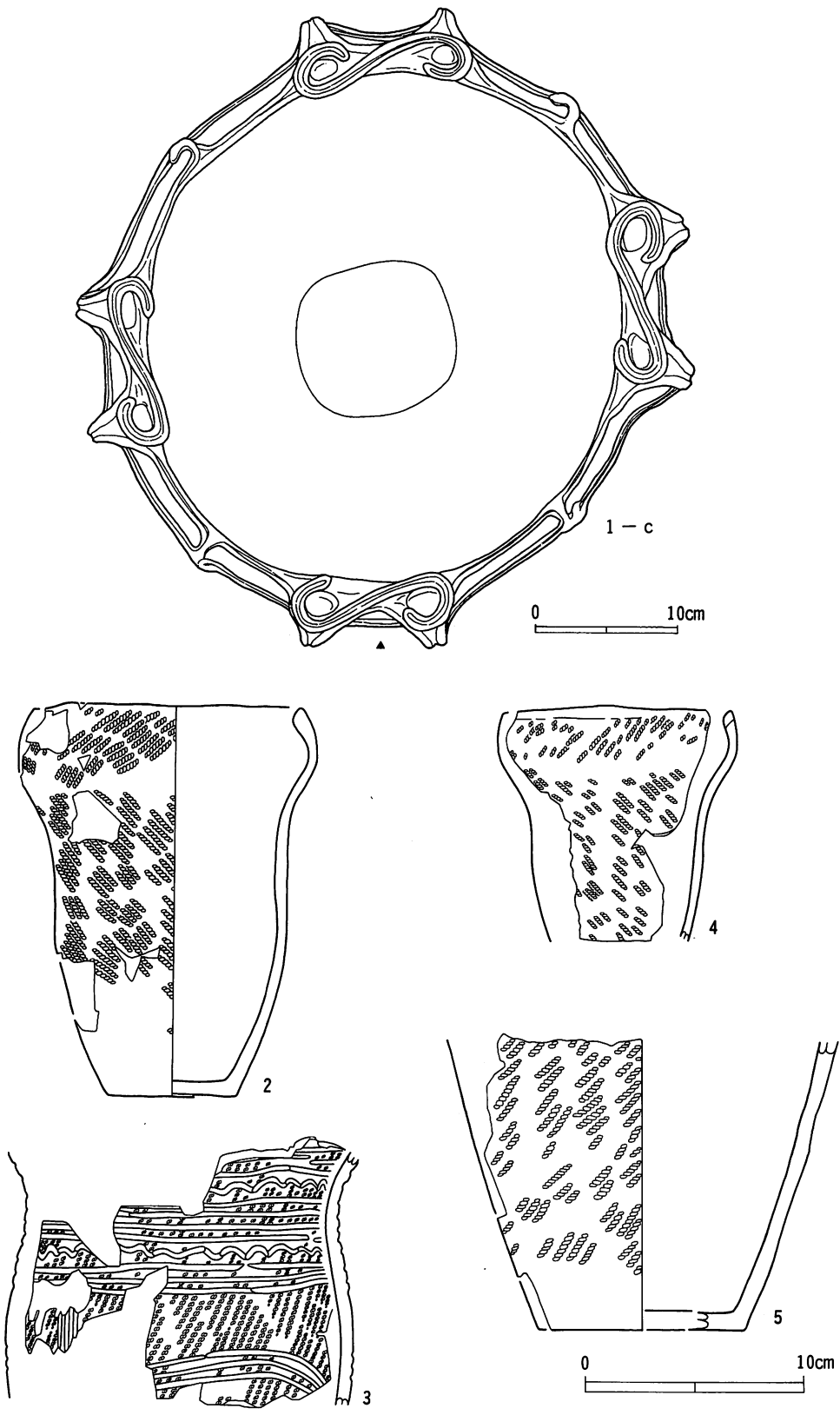
1 - a

0 10cm

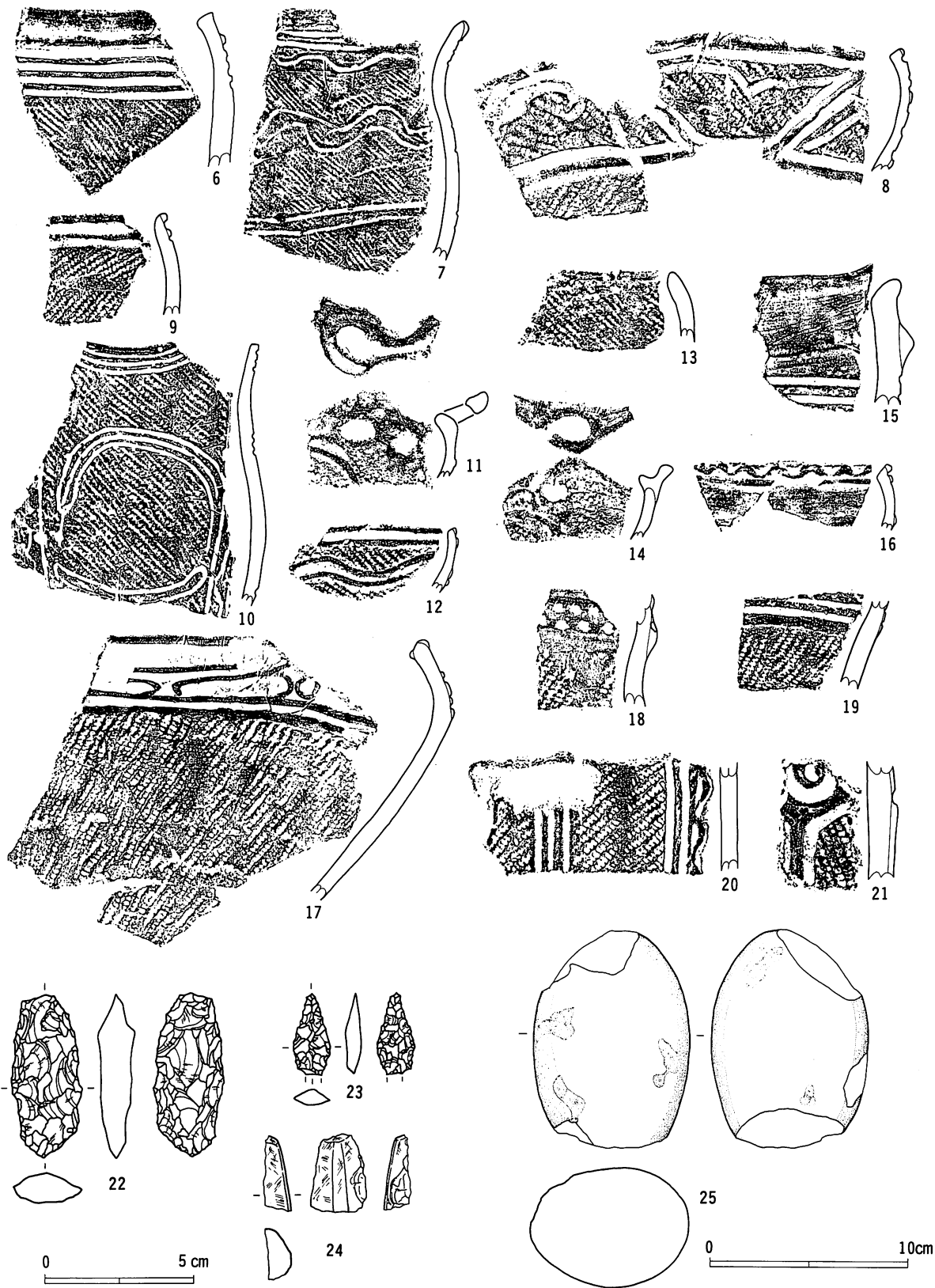


1 - b

第20图 RA04住居跡出土遺物(1)



第21图 RA04住居跡出土遺物(2)



第22图 RA04住居跡出土遺物(3)

炭化樹種はクリである。焼失住居の可能性はある。また埋土の上位から中位で比較的多くの遺物が出土している。床直上からの出土遺物は少ない。1は埋土中位から横転した状態で出土した。Pot 1(4)は埋土中位で倒立の状態で出土したが、埋設したような掘り込みは確認できなかった。

〈土器〉 縄文時代中期中葉の土器11点、土器片十数点が出土している。出土した土器の器形はキャリパー形が多い。1はほぼ完形品、2は胴部下半を欠いている。文様が施されるのは口縁部のみで、胴部は地文のみが施される。地文は口縁部は横回転・胴部は縦回転である。他に口縁部が外反する深鉢・大型の浅鉢・粗製の深鉢などが得られている。

〈石器〉 石鏃1点・削搔器1点・磨製石斧1点・台石1点が出土している。25は凸基有茎鏃で、基部を欠く破損品である。27の磨製石斧は、刃部のみの破損品である。28はPP6南側の床上からの出土で、煤状の付着物がある。

時期 出土遺物から縄文時代中期中葉と思われる。

## RA07住居跡

遺構 (第23・24図、写真図版8・9)

〈検出状況・重複関係〉 A区南側、X19L08グリッドに位置する。II b層下位で暗褐色土の広がりとして検出された。東側でRA04住居跡、南側でRA05住居跡と重複し、RA05住居跡を切り、RA04住居跡に切られている。

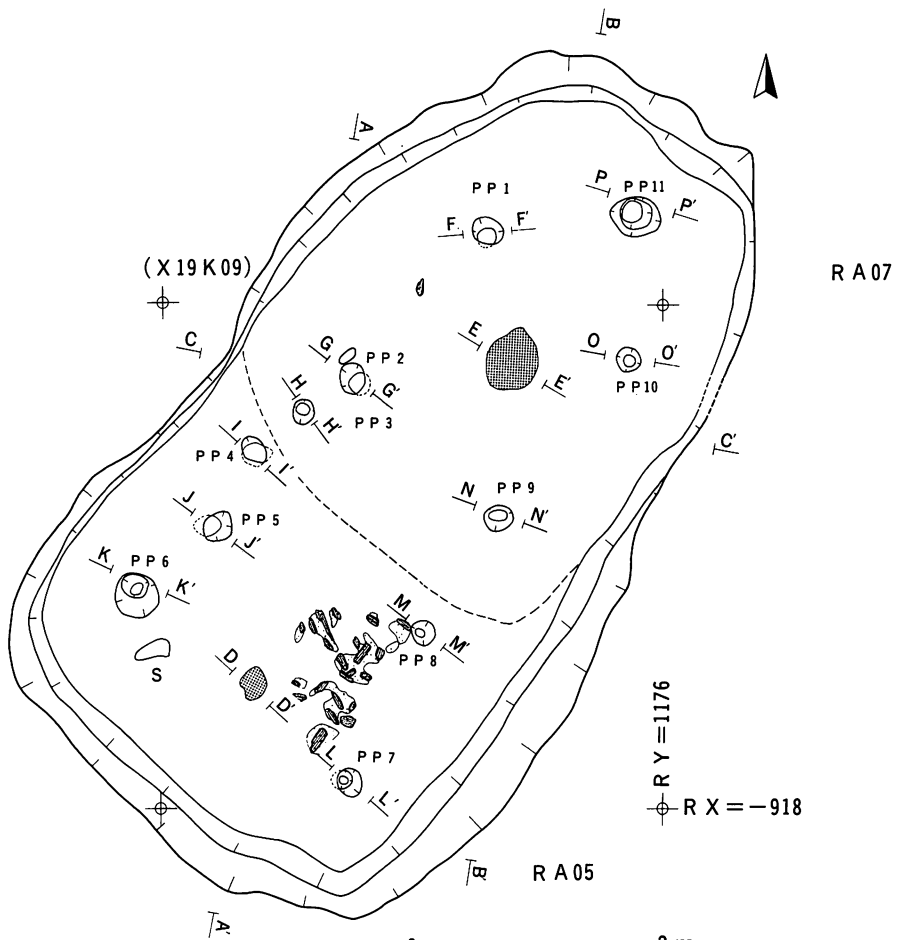
〈規模・平面形〉 南壁を明瞭に検出できなかったため、全形は不明であるが、規模は、4.25×3.5m、やや楕円がかかる隅丸長方形を呈するものと推定される。

〈埋土〉 暗褐色土・褐色土に大別される。RA07住居跡の埋土がRA05住居跡を切っている。また東側の埋土中位に褐色土の投げ込みが見られるが、新旧関係からRA04住居跡の構築時の排土の可能性が考えられる。

〈壁・床面〉 南壁は精査時の不手際で確認できなかったが、北壁は緩く外傾し、東壁は直立ぎみに立ち上がる。壁高は50cmほどである。床面はIV層を掘り込んで構築されており、ほぼ平坦で硬く締まっている。RA04住居跡の床面より10cmほど低く、明瞭な段差をもつ。RA05住居跡の床面より3cmほど高いが明瞭な段差はもたず、緩く傾斜する。

〈柱穴〉 炉を中心として、支柱穴はPP1・2・9・10の4本の配置が考えられる。規模は、径18~25cm、深さ35~55cm、柱間は180cmである。PP11を加えての5本の配置も考えられるが、PP11は他の柱穴に比して規模が大きい。

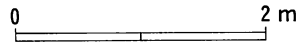
〈炉〉 ほぼ中央に焼土の広がりを検出した。規模は径44cmの不整な円形を呈し、焼土の厚さは最大8cmである。地床炉と思われる。



RA05-07

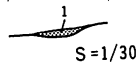
No.	PP1	PP2	PP3	PP4	PP5	PP6	PP7	PP8
径 (cm)	25×20	25×20	19×18	24×17	25×23	37×35	23×20	20×18
深さ (cm)	51	39	27	63	25	45	50	45

No.	PP9	PP10	PP11
径 (cm)	24×20	20×18	42×34
深さ (cm)	35	55	54



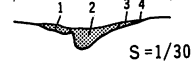
L=188.000m

D D'



L=188.000m

E E'



RA05 炉 (D-D')

層位 色調 土性

1. 5YR5/8 明赤褐色 焼土。

RA07 炉 (E-E')

層位 色調 土性

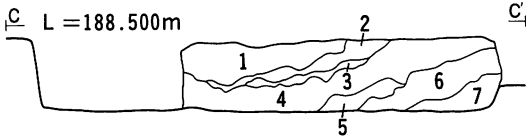
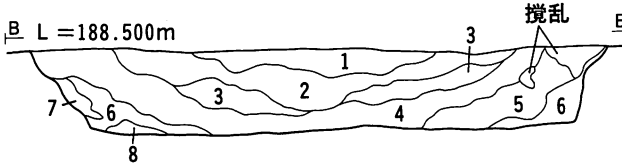
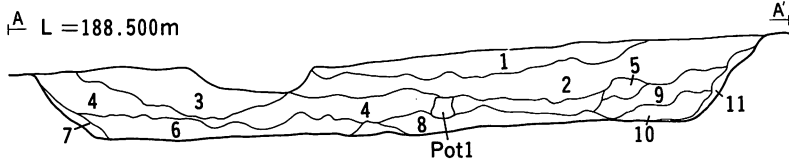
1. 5YR3/4 暗赤褐色 焼土、含炭化物30%。

2. 5YR5/8 明褐色 粘性あり、縮まりあり。

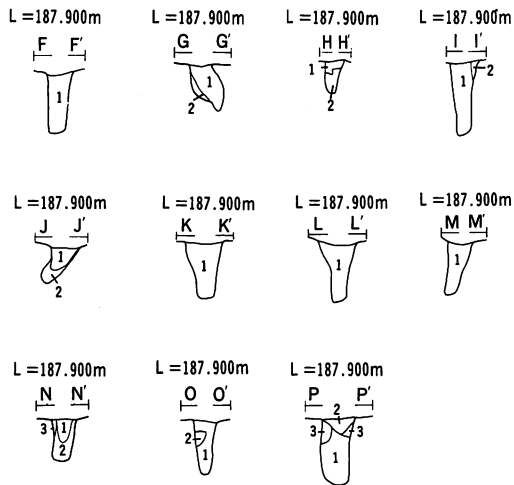
3. 2.5YR4/6 赤褐色 粘性あり、縮まりあり。

4. 10YR6/8 明黄褐色 粘性あり、縮まりあり。

第23図 RA05・RA07住居跡(1)



- RA05・07 埋土 (A-A')
- | 層位           | 色調    | 土性                   |
|--------------|-------|----------------------|
| 1. 10YR2/1   | 黒色    | 粘性あり、縮まりなし。          |
| 2. 10YR2/3   | 黒褐色   | 粘性あり、縮まりややあり、含炭化物1%。 |
| 3. 10YR3/4   | 暗褐色   | ややあり、縮まりあり、含炭化物5%。   |
| 4. 10YR4/4   | 褐色    | 粘性あり、縮まりあり、含炭化物1%。   |
| 5. 10YR5/8   | 黄褐色   | 粘性ややあり、縮まりあり。        |
| 6. 10YR3/3   | 暗褐色   | 粘性あり、縮まりあり、含炭化物微量。   |
| 7. 10YR2/3   | 黒褐色   | 粘性あり、縮まりあり、含炭化物2%。   |
| 8. 7.5YR3/4  | 暗褐色   | 粘性ややあり、縮まりあり、含炭化物1%。 |
| 9. 7.5YR4/4  | 褐色    | 粘性ややあり、縮まりあり、含炭化物微量。 |
| 10. 7.5YR4/6 | 褐色    | 粘性あり、縮まりあり。          |
| 11. 7.5YR5/4 | にぶい褐色 | 粘性あり、縮まりあり。          |
- RA05 埋土 (B-B')
- | 層位          | 色調  | 土性                          |
|-------------|-----|-----------------------------|
| 1. 10YR2/2  | 黒褐色 | 粘性ややあり、縮まりなし、含炭化物微量。        |
| 2. 10YR3/4  | 暗褐色 | 粘性あり、縮まりややあり、含炭化物微量。        |
| 3. 10YR3/3  | 暗褐色 | 粘性ややあり、縮まりあり、含炭化物微量。        |
| 4. 10YR4/4  | 褐色  | 粘性あり、縮まりややあり、含炭化物微量。        |
| 5. 7.5YR4/4 | 褐色  | 粘性ややあり、縮まりややあり、含明褐色土・炭化物5%。 |
| 6. 7.5YR3/4 | 暗褐色 | 粘性あり、縮まりあり、含炭化物微量。          |
| 7. 10YR5/8  | 黄褐色 | 粘性あり、縮まりあり、含炭化物微量。          |
| 8. 7.5YR4/3 | 褐色  | 粘性あり、縮まりあり、含炭化物微量。          |
- RA07 埋土 (C-C')
- | 層位         | 色調     | 土性                   |
|------------|--------|----------------------|
| 1. 10YR3/4 | 暗褐色    | 粘性なし、縮まりあり。          |
| 2. 10YR4/6 | 褐色     | 粘性ややあり、縮まりあり。        |
| 3. 10YR3/3 | 暗褐色    | 粘性なし、縮まりややあり、含炭化物1%。 |
| 4. 10YR4/4 | にぶい黄褐色 | 粘性なし、縮まりややあり、含炭化物微量。 |
| 5. 10YR3/4 | 暗褐色    | 粘性なし、縮まりあり、含炭化物微量。   |
| 6. 10YR4/4 | 褐色     | 粘性ややあり、縮まりあり、含炭化物微量。 |
| 7. 10YR2/3 | 黒褐色    | 粘性あり、縮まりあり。          |

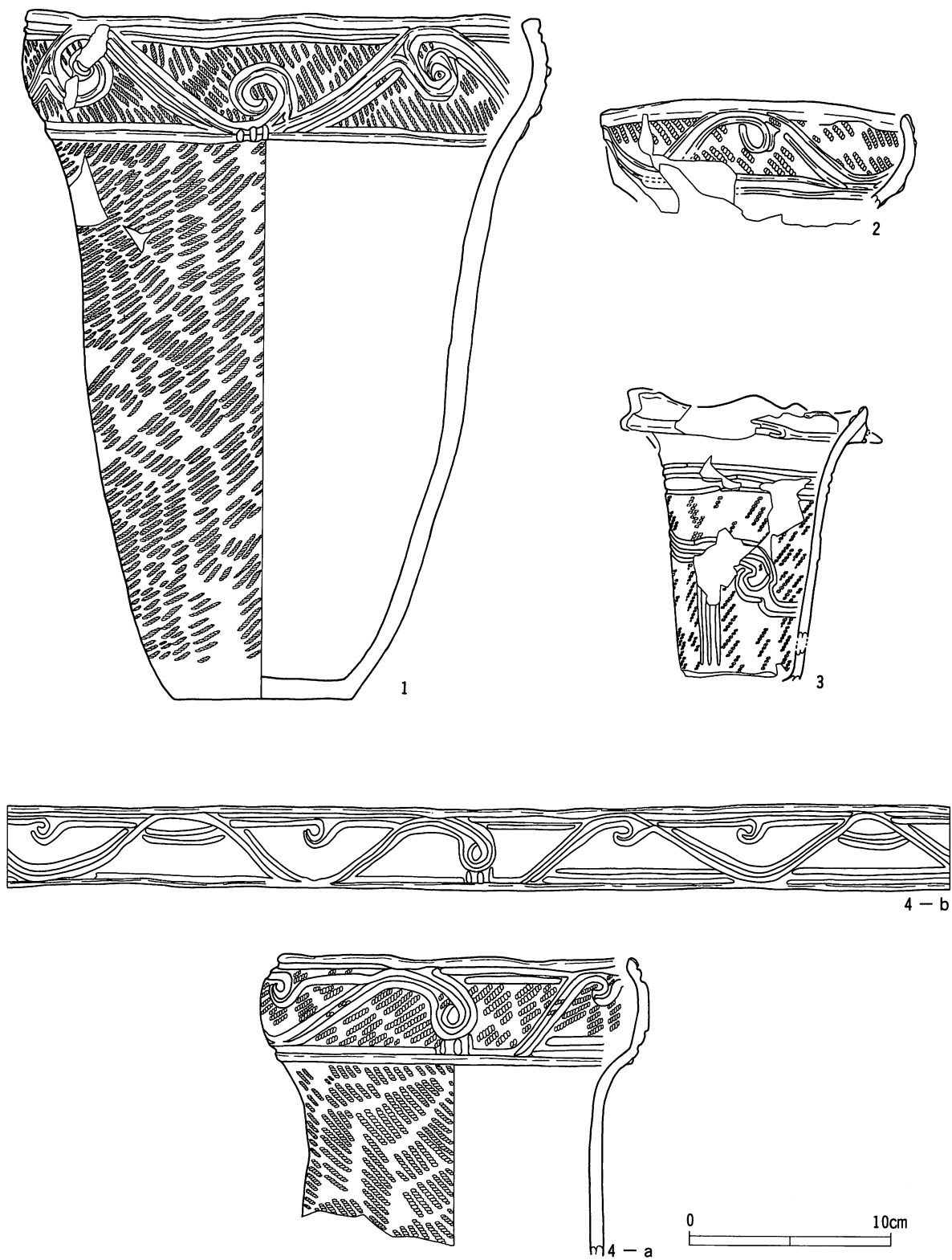


- RA05・07 PP1 (F-F')
- | 層位         | 色調  | 土性                 |
|------------|-----|--------------------|
| 1. 10YR3/4 | 暗褐色 | 粘性あり、縮まりなし、含炭化物微量。 |
- RA05・07 PP2 (G-G')
- | 層位         | 色調  | 土性          |
|------------|-----|-------------|
| 1. 10YR4/4 | 褐色  | 粘性あり、縮まりなし。 |
| 2. 10YR5/8 | 黄褐色 | 粘性あり、縮まりあり。 |
- RA05・07 PP3 (H-H')
- | 層位         | 色調  | 土性            |
|------------|-----|---------------|
| 1. 10YR4/6 | 褐色  | 粘性あり、縮まりあり。   |
| 2. 10YR3/4 | 暗褐色 | 粘性あり、縮まりややあり。 |
- RA05・07 PP4 (I-I')
- | 層位         | 色調  | 土性                   |
|------------|-----|----------------------|
| 1. 10YR3/4 | 暗褐色 | 粘性あり、縮まりややあり、含炭化物1%。 |
| 2. 10YR5/8 | 黄褐色 | 粘性あり、縮まりあり。          |

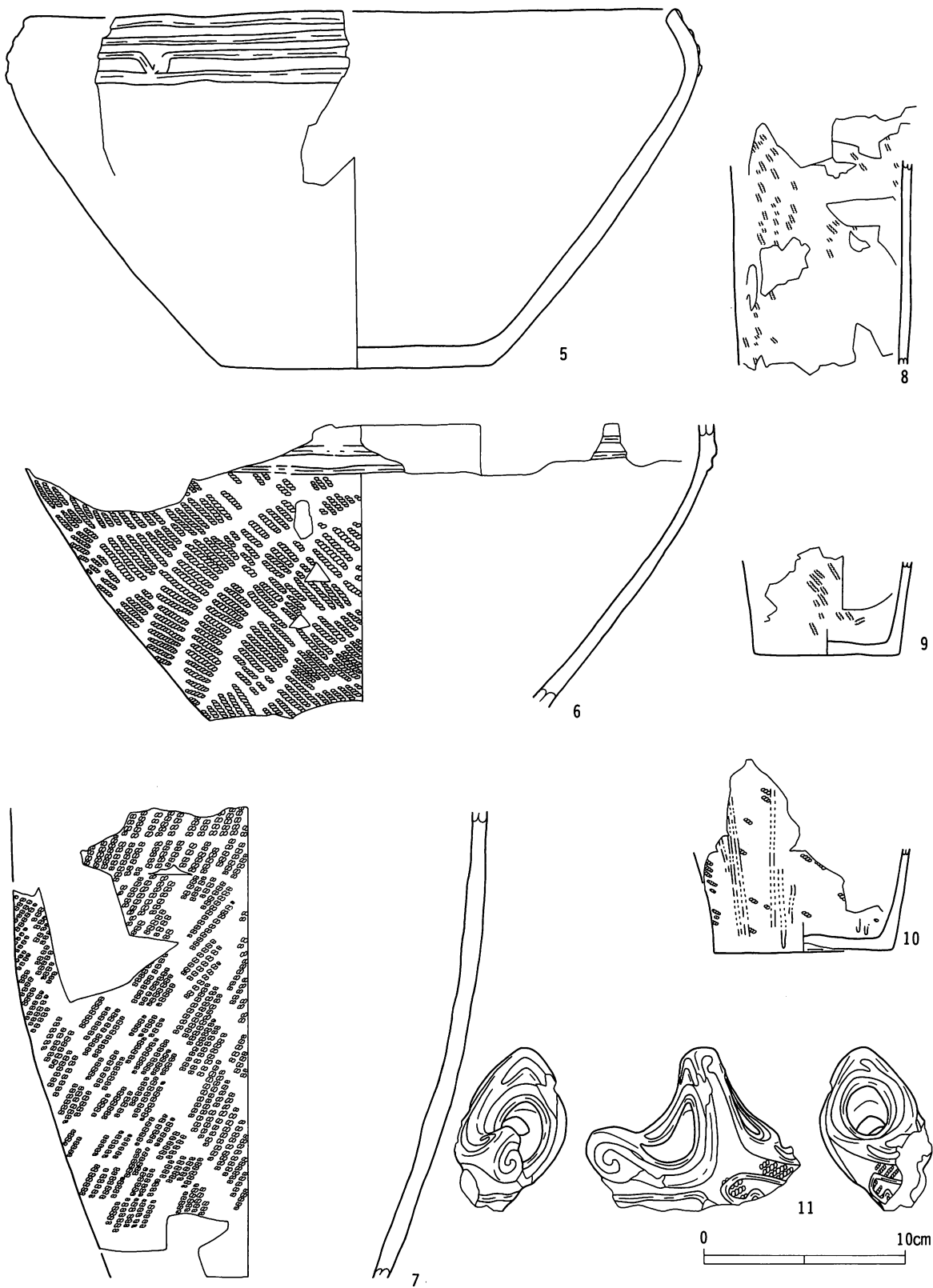
- RA05・07 PP5 (J-J')
- | 層位         | 色調  | 土性                  |
|------------|-----|---------------------|
| 1. 10YR2/3 | 黒褐色 | 粘性あり、縮まりなし、含炭化物10%。 |
| 2. 10YR4/6 | 褐色  | 粘性あり、縮まりややあり。       |
- RA05・07 PP6 (K-K')
- | 層位         | 色調  | 土性                  |
|------------|-----|---------------------|
| 1. 10YR3/4 | 暗褐色 | 粘性あり、縮まりあり、含炭化物10%。 |
- RA05・07 PP7 (L-L')
- | 層位         | 色調  | 土性                 |
|------------|-----|--------------------|
| 1. 10YR3/3 | 暗褐色 | 粘性あり、縮まりあり、含炭化物微量。 |
- RA05・07 PP8 (M-M')
- | 層位         | 色調 | 土性                 |
|------------|----|--------------------|
| 1. 10YR4/6 | 褐色 | 粘性あり、縮まりなし、含炭化物1%。 |
- RA05・07 PP9 (N-N')
- | 層位         | 色調  | 土性                   |
|------------|-----|----------------------|
| 1. 10YR3/4 | 暗褐色 | 粘性あり、縮まりややあり、含炭化物微量。 |
| 2. 10YR4/6 | 褐色  | 粘性あり、縮まりなし。          |
| 3. 10YR5/8 | 黄褐色 | 粘性あり、縮まりややあり、含炭化物微量。 |
- RA05・07 PP10 (O-O')
- | 層位         | 色調  | 土性                 |
|------------|-----|--------------------|
| 1. 10YR3/4 | 暗褐色 | 粘性あり、縮まりあり、含炭化物1%。 |
| 2. 10YR4/6 | 褐色  | 粘性ややあり、縮まりなし。      |
- RA05・07 PP11 (P-P')
- | 層位         | 色調  | 土性                 |
|------------|-----|--------------------|
| 1. 10YR3/4 | 暗褐色 | 粘性あり、縮まりなし、含炭化物1%。 |
| 2. 10YR4/6 | 褐色  | 粘性あり、縮まりあり。        |
| 3. 10YR4/4 | 褐色  | 粘性あり、縮まりなし、含炭化物1%。 |



第24図 RA05・RA07住居跡(2)

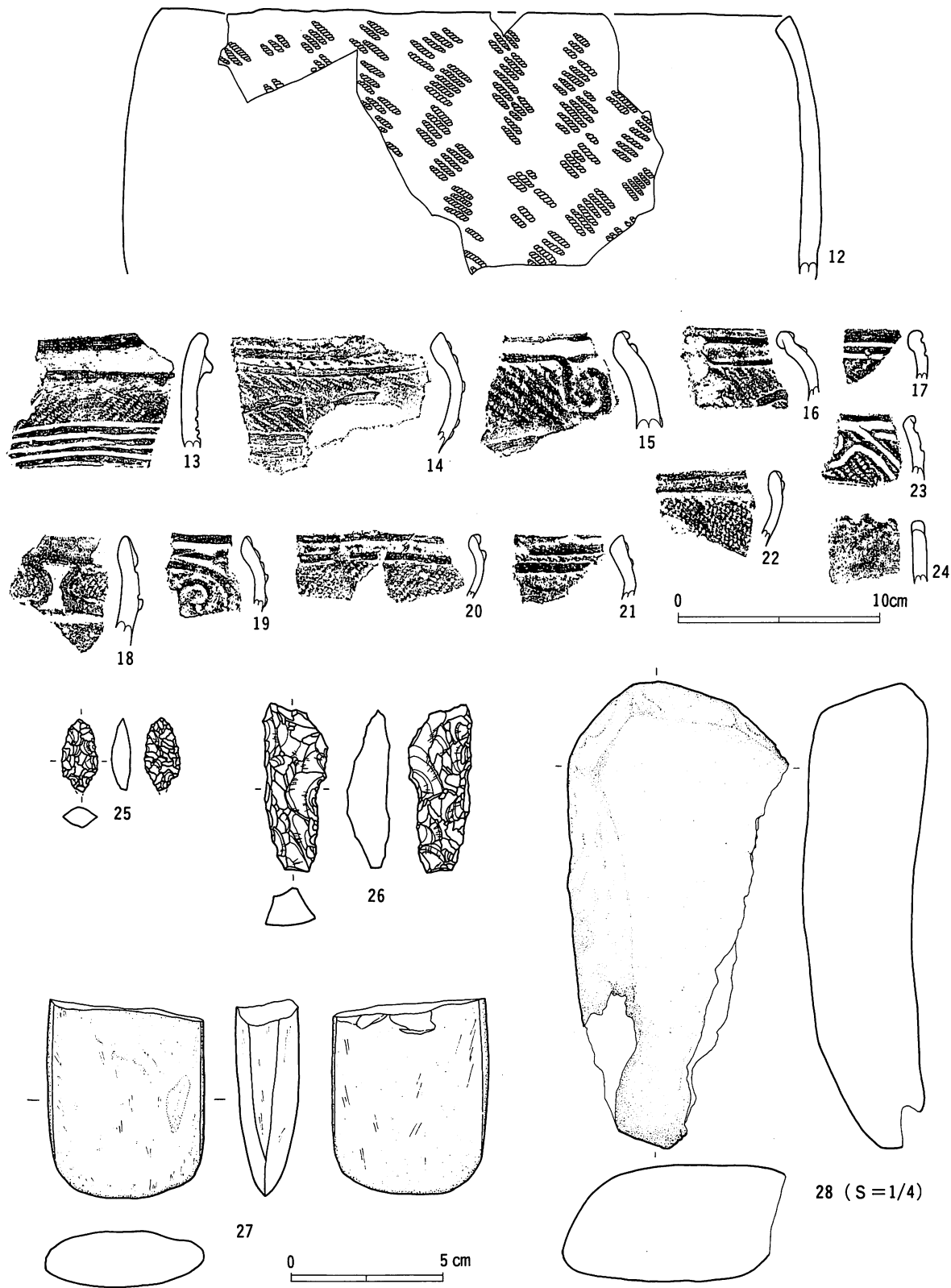


第25图 RA05住居跡出土遺物(1)

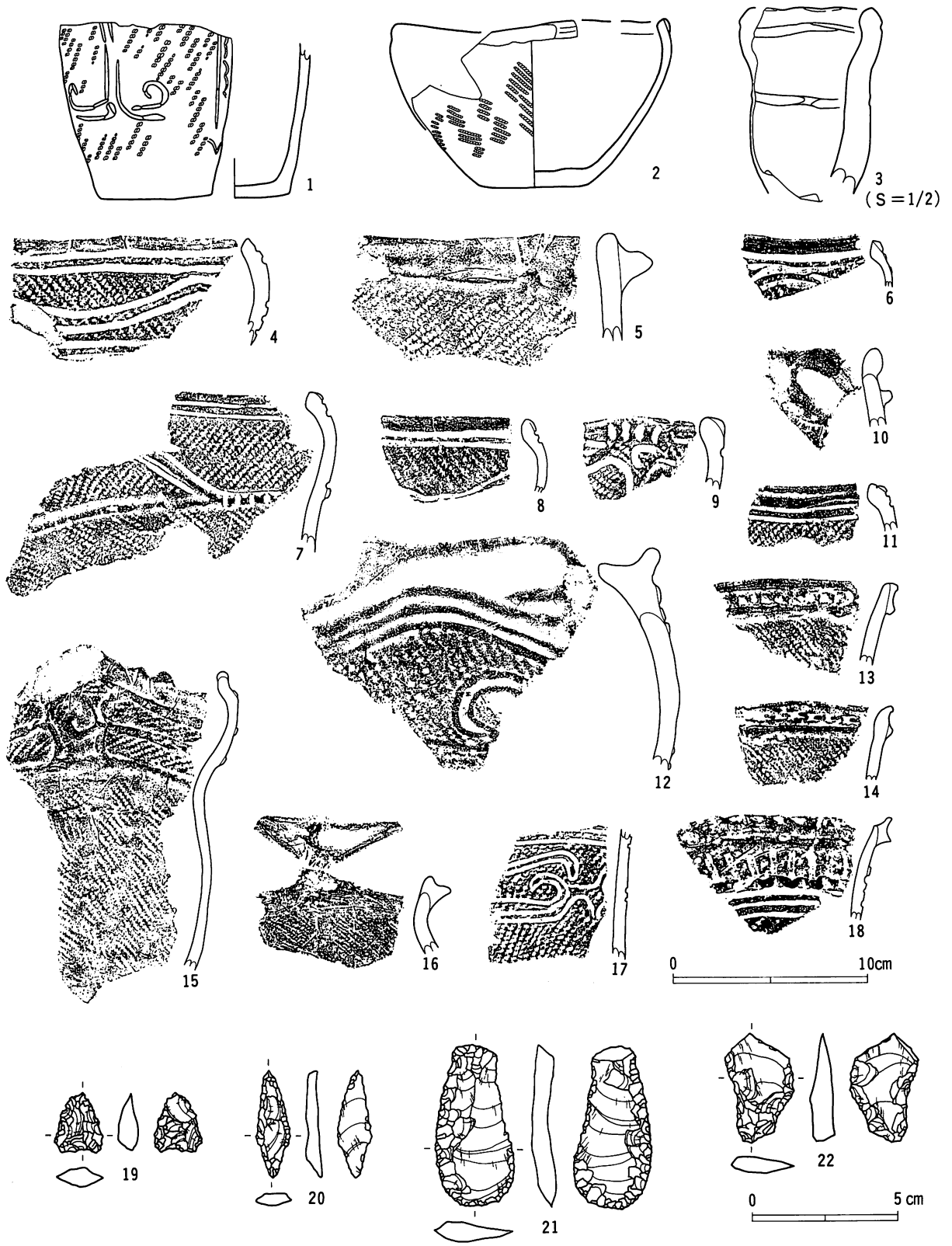


第26図 RA05住居跡出土遺物(2)





第27図 RA05住居跡出土遺物(3)



第28图 RA07住居跡出土遺物

### 遺物（第28図、写真図版30）

〈出土状況〉埋土から縄文時代中期の土器・石器が出土しているが、南側で重複するRA05住居跡と比較して遺物量は少ない。

〈土器〉縄文時代中期中葉の土器3点、土器片十数点が得られている。土器は小型のものである。土器片は、キャリパー形を呈するものが多く、大型のものもみられる。他に筒状で口縁部が直立もしくは外反する器形のものもある。

〈石器〉石鏃2点・削搔器2点が得られている。

時期 出土遺物から縄文時代中期中葉と思われる。

### RA06住居跡

#### 遺構（第29図、写真図版10）

〈検出状況・重複関係〉A区東端、X19P12グリッドに位置する。西側にはRA04住居跡が隣接する。IIb層下位で炭化材を多量に含む黒褐色土の広がりとして検出されたが、著しく削平されている。東側は調査区域外に続いていたものと推定される。

〈規模・平面形〉大半が削平されているため詳細は不明である。

〈埋土〉おもに黒褐色土で構成され、床面に近い層は炭化物を多く含むが、削平が著しく、全体を把握することができなかった。

〈壁・床面〉床面は硬く締まり、ほぼ平坦である。

〈柱穴〉8本検出された。規模から、PP1が主柱穴の一部を構成していた可能性がある。柱配置は不明である。

〈炉〉不明である。

〈遺物〉床上で炭化材の広がりを確認した。形状を把握できたものも多い。炭化樹種はクリである。焼失住居の可能性がある。土器・石器は出土していない。

時期 時期決定できる出土遺物はないが、周囲の住居跡と同時期と推定される。

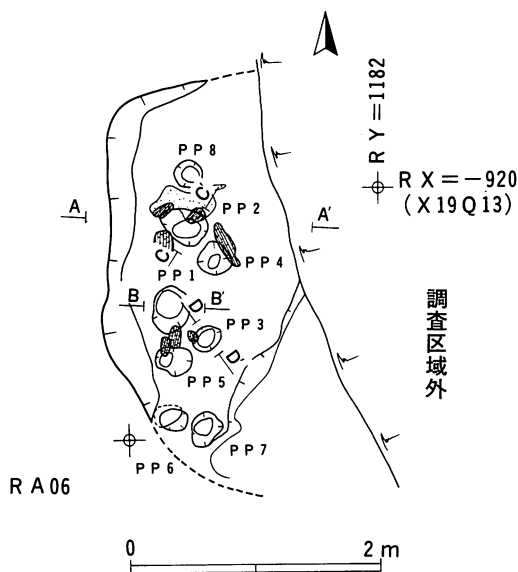
### RA10住居跡

#### 遺構（第30図、写真図版10）

〈検出状況・重複関係〉A区南側、X19L17グリッドに位置する。IIIa層上面で検出された。南側でRA07住居跡、東側でRD12土坑と重複し、切られている。

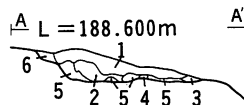
〈規模・平面形〉南側がRA07住居跡と重複しているため、詳細は不明である。残存する北壁の長さは、2.3mを測る。平面形は方形基調と推定される。

〈埋土〉おもに暗褐色土と褐色土で構成されるが、層位全体の把握ができず、脈絡のない分層



RA06

No	PP1	PP2	PP3	PP4	PP5	PP6	PP7	PP8
径 (cm)	40×29	40×28	25×19	26×25	30×25	23×17	30×25	23×22
深さ (cm)	45	15	23	19	12	42	20	11



RA06 埋土 (A-A')

- |    |              |                       |
|----|--------------|-----------------------|
| 層位 | 色調           | 土性                    |
| 1. | 10YR3/2 黒褐色  | 粘性あり、締まりややあり、含炭化物40%。 |
| 2. | 10YR2/2 黒褐色  | 粘性あり、締まりなし、含炭化物40%。   |
| 3. | 10YR2/1 黒色   | 粘性あり、締まりなし、含炭化物70%。   |
| 4. | 7.5YR3/1 黒褐色 | 粘性なし、締まりなし、含炭化物10%。   |
| 5. | 10YR5/6 黄褐色  | 粘性あり、締まりややあり、含明褐色土。   |
| 6. | 10YR5/6 黄褐色  | 粘性あり、締まりややあり。         |

L=188.300m



L=188.300m



L=188.300m



RA06 PP1 (B-B')

- |    |             |                       |
|----|-------------|-----------------------|
| 層位 | 色調          | 土性                    |
| 1. | 10YR3/2 黒褐色 | 粘性あり、締まりややあり、含炭化物30%。 |
| 2. | 10YR2/3 暗褐色 | 粘性あり、締まりなし、含炭化物1%。    |

RA06 PP2 (C-C')

- |    |             |                 |
|----|-------------|-----------------|
| 層位 | 色調          | 土性              |
| 1. | 10YR3/3 暗褐色 | 粘性ややあり、締まりややあり。 |
| 2. | 10YR5/6 黄褐色 | 粘性あり、締まりなし。     |

RA06 PP3 (D-D')

- |    |             |                    |
|----|-------------|--------------------|
| 層位 | 色調          | 土性                 |
| 1. | 10YR2/2 黒褐色 | 粘性あり、締まりあり、含炭化物微量。 |
| 2. | 10YR4/4 褐色  | 粘性あり、締まりあり、含炭化物1%。 |

## 第29図 RA06住居跡

にせざるを得なかった。

〈壁・床面〉 残存する壁高は10cmほどである。床面はIII a層を掘り込んで構築され、やや凹凸がある。RA07住居跡の床面より30cmほど高い。

〈柱穴〉 3本検出された。柱配置は不明である。またRA07住居跡内に当住居に伴うと考えられる柱穴は確認できない。

〈炉〉 不明である。

遺物 (第30図、写真図版31)

〈出土状況〉 埋土から縄文土器片が得られている。

〈遺物〉 縄文土器片1点が得られている。

時期 出土遺物と新旧関係から縄文時代中期と思われる。

## RA11住居跡

遺構 (第30図、写真図版11)

〈検出状況・重複関係〉 A区南端、X19M14グリッドに位置する。II b層下位で黒褐色土の広がりとして検出された。検出できたのは北端のみで大半が調査区域外に続く。東側でRA12住居跡と重複し、切られている。

〈規模・平面形〉 規模は不明であるが、検出された北壁の長さは2mほどで、直線的であること

から、平面形は方形ないし隅丸方形を呈するものと推定される。

〈埋土〉 灰黄褐色土・黒褐色土で構成される。埋土下位に炭化物を多く含み、他の住居跡の埋土と類似する。

〈壁・床面〉 壁はII b層から掘り込まれ、直立ぎみに外反する。床面はIII a層まで掘り込まれて構築されており、RA12住居跡の床面より20cmほど高い。

〈柱穴〉 不明である。

〈炉〉 不明である。

**遺物** (第30図、写真図版31)

〈出土状況〉 埋土から縄文土器片が得られている。

〈土器〉 縄文土器片1点が得られている。

〈石器〉 出土していない。

**時期** 出土遺物と新旧関係から、縄文時代中期と推定される。

#### RA12住居跡

**遺構** (第30図、写真図版11)

〈検出状況・重複関係〉 A区南端、X19M14グリッドに位置する。II b層で暗褐色土の広がりとして検出された。検出したのは北端のみで大半は調査区域外に続く。西側でRA11住居跡と重複し、当住居がRA11住居跡を切る。

〈規模・平面形〉 検出された北壁は、長さ3.8mで、直線的である。規模・形状は不明だが、径4m前後の方形基調と推定される。

〈埋土〉 自然堆積で、黒色土・暗褐色土・褐色土の3層に大別される。東側は木根による攪乱で判然としない。

〈壁・床面〉 壁はII b層から掘り込まれ、壁高は20cmほどで、直立ぎみに立ち上がる。床面はIV層まで掘り込んで構築されている。ほぼ平坦で硬く締まり、RA11住居跡の床面より20cmほど低い。

〈柱穴〉 1本検出された。規模は、径17cm、深さ13cmである。柱配置は不明である。

〈炉〉 不明である。

**遺物** (第30図、写真図版31)

〈出土状況〉 埋土から石器が出土している。

〈土器〉 出土していない。

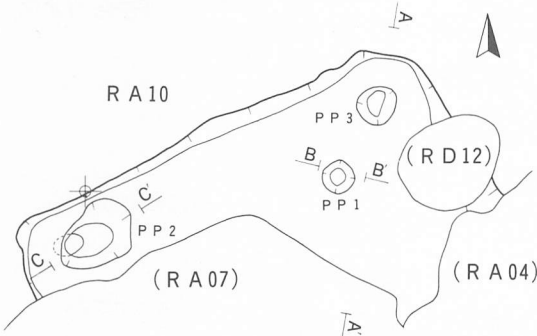
〈石器〉 石筥1点・磨石1点・礫1点が出土している。

**時期** 時期決定できる出土遺物はないが、重複関係から、縄文時代中期と推定される。

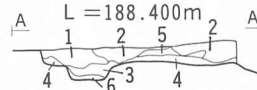
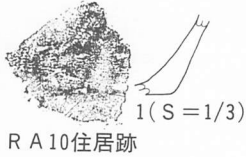
R Y = 1172

R X = -910

(X 19M07)



RA10	Na	PP1	PP2	PP3
径(cm)	65×50	25×25	34×30	
深さ(cm)	60	20	13	



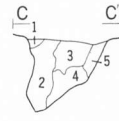
RA10 埋土 (A-A')

- |    |              |                          |
|----|--------------|--------------------------|
| 層位 | 色調           | 土性                       |
| 1. | 10YR3/3 暗褐色  | 粘性あり、縮まりあり。含明褐色土ブロック。    |
| 2. | 10YR4/6 褐色   | 粘性あり、縮まりあり、含黄褐色土ブロック30%。 |
| 3. | 10YR5/8 黄褐色  | 粘性なし、縮まりややあり。            |
| 4. | 10YR6/8 明黄褐色 | 粘性なし、縮まりあり。              |
| 5. | 10YR5/6 黄褐色  | 粘性あり、縮まりあり。              |
| 6. | 10YR6/8 明黄褐色 | 粘性なし、縮まりあり。              |

L=188.300m



L=188.300m



RA10 PP1 (B-B')

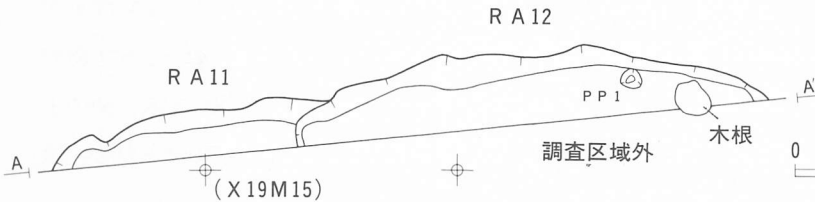
- |    |             |                            |
|----|-------------|----------------------------|
| 層位 | 色調          | 土性                         |
| 1. | 10YR3/3 暗褐色 | 粘性ややあり、縮まりあり、含黒褐色土ブロック30%。 |

RA10 PP2 (C-C')

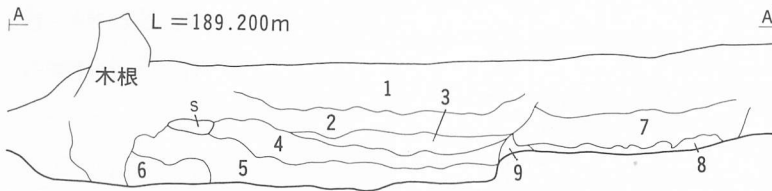
- |    |             |                          |
|----|-------------|--------------------------|
| 層位 | 色調          | 土性                       |
| 1. | 10YR5/8 黄褐色 | 粘性あり、縮まりあり。              |
| 2. | 10YR4/4 褐色  | 粘性あり、縮まりあり。              |
| 3. | 10YR3/3 暗褐色 | 粘性なし、縮まりあり。              |
| 4. | 10YR3/4 暗褐色 | 粘性あり、縮まりあり。              |
| 5. | 10YR3/3 暗褐色 | 粘性あり、縮まりあり、含黒褐色土ブロック50%。 |

R Y = 1176

R X = -928  
(X 19N14)

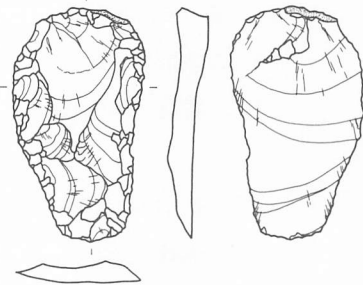
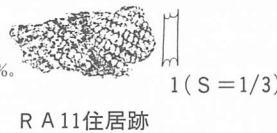


RA12	Na	PP1
径(cm)	17×16	
深さ(cm)	13	



RA11・12 埋土 (A-A')

- |    |              |                               |
|----|--------------|-------------------------------|
| 層位 | 色調           | 土性                            |
| 1. | 10YR3/3 暗褐色  | I層                            |
| 2. | 10YR3/4 暗褐色  | 粘性なし、縮まりややあり、含黄褐色土ブロック10%。    |
| 3. | 10YR4/6 褐色   | 粘性なし、縮まりなし、含炭化物2%。            |
| 4. | 10YR4/3 褐色   | 粘性あり、縮まりややあり、含炭化物2%。          |
| 5. | 10YR4/4 褐色   | 粘性あり、縮まりややあり、含炭化物2%。          |
| 6. | 10YR3/4 暗褐色  | 粘性あり、縮まりややあり、含黄褐色土ブロック20%。    |
| 7. | 10YR4/2 灰黄褐色 | 粘性なし、縮まりややあり、含明褐色土30%・炭化物10%。 |
| 8. | 10YR2/3 黒褐色  | 粘性あり、縮まりややあり、含炭化物20%。         |
| 9. | 10YR5/6 黄褐色  | 粘性あり、縮まりややあり、含炭化物2%。          |



第30図 RA10・RA11・RA12住居跡・出土遺物

## RA13住居跡

### 遺構 (第31図、写真図版12)

〈検出状況・重複関係〉 B区西側、Z18F02グリッドに位置する。南西側1.3mにはRF01焼土が隣接する。試掘で黒色土の広がりとして検出された。検出面はII層下位である。当住居の北側と南側はゴミ穴による攪乱を受けており、壁・床の一部が壊されている。

〈規模・平面形〉 3.4×3.2mの不整な隅丸方形を呈する。

〈埋土〉 自然堆積、黒色土・黒褐色土で構成される。

〈壁・床面〉 壁はII層下位から掘り込まれており、北壁は傾斜がきつく、南壁は傾斜が緩い。床面はIII a層まで掘り込まれており、ほぼ平坦で硬く締まっている。

〈柱穴〉 東側と中央に2本検出された。規模は、径30～48cm、深さ11～12cmである。規模に比して浅い柱穴である。

〈炉〉 住居跡内に炉跡は検出されていない。南西側1.3mに位置するRF01焼土が当住居の屋外炉であった可能性がある。

### 遺物 (第31・32図、写真図版32)

〈出土状況〉 埋土から縄文時代早期の土器・石器が出土している。床面から15cmほど上位で、台石が出土している。

〈土器〉 縄文時代早期の貝殻文土器・条痕文土器・無文土器片数点が得られている。1・2は条痕文、3・4・5は貝殻文、6は無文の土器片である。7は大型深鉢の口縁部破片で、沈線と貝殻文により施文されている。口唇部には刻み目を施し、その下位と胴部中央に横位に平行沈線が施される。上下に横位に施された平行沈線で区画された幅12cmほどの文様帯には、3本1組の平行沈線と短沈線（格子目状沈線）による縦横の区画がなされ、区画内に沈線による2条の平行沈線や同心円文・貝殻腹縁文が施されている。色調は淡黄色を呈し、胎土は細礫を含む。焼成は良く、器壁の内面はミガキが施されている。

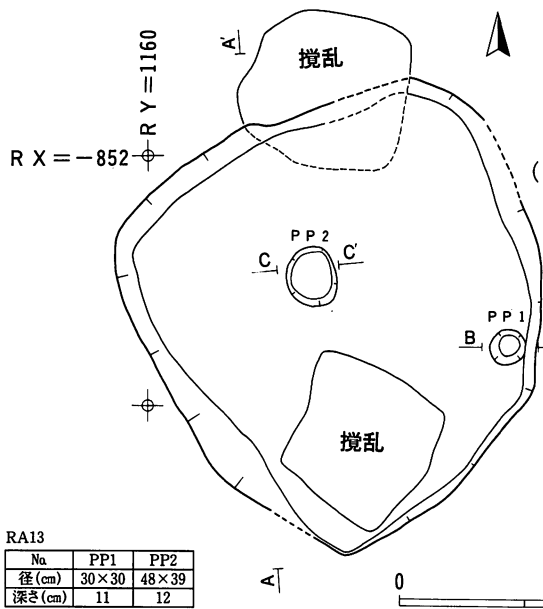
〈石器〉 石鏃1点・削搔器1点・磨製石斧1点・特殊磨石1点・台石1点・剥片10点が得られている。石鏃は尖頭部、石斧は刃部のみの破損品である。11は2側縁に機能面をもつ特殊磨石の破損品である。

時期 出土した遺物から縄文時代早期中葉と思われる。

## RA14住居跡

### 遺構 (第33図、写真図版13)

〈検出状況・重複関係〉 B区のほぼ中央、Z17L23グリッドに位置する。II d層で黒褐色土の広がりとして検出された。西側でRD10土坑と重複し、切られている。



RA13

No	PP1	PP2
径 (cm)	30×30	48×39
深さ (cm)	11	12

L = 181.200m      L = 181.100m

(Z 17 H 02)

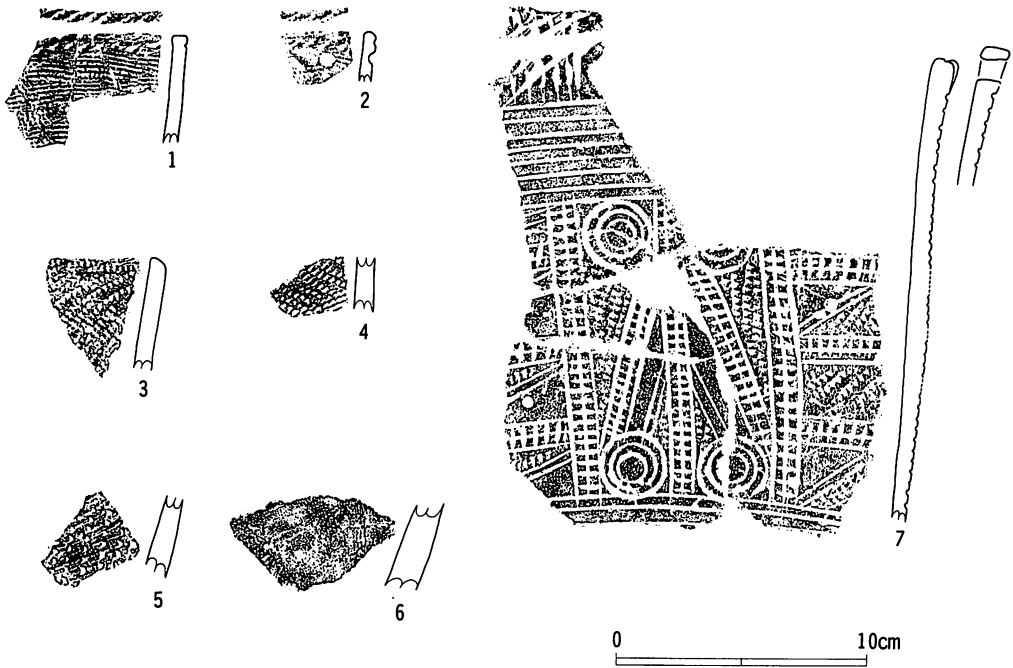
RA13 PP1 (B-B')  
 1. 10YR3/2 黒褐色 粘性あり、締まりなし、含炭化物1%。

RA13 PP2 (C-C')  
 1. 10YR3/3 暗褐色 粘性あり、締まりなし、含黄褐色土5%。



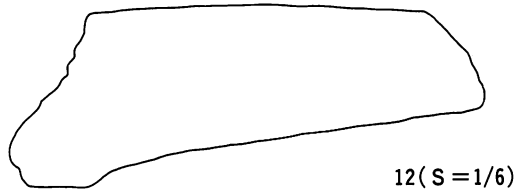
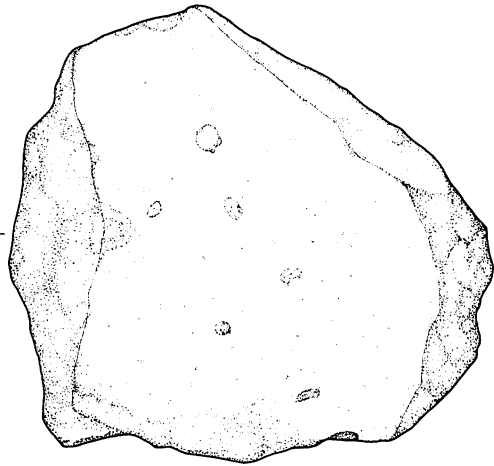
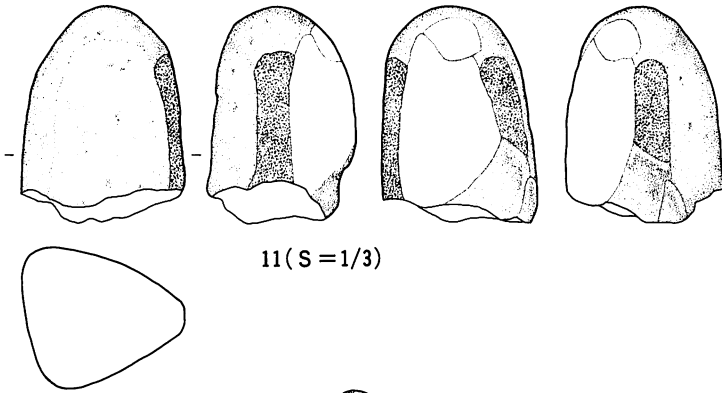
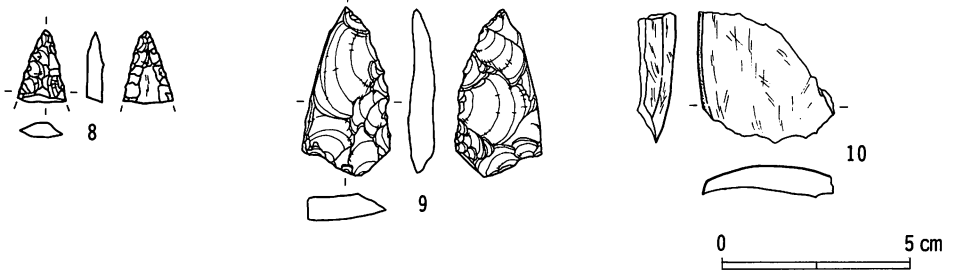
RA13 埋土 (A-A')

層位	色調	土性
1.	10YR1.7/1 黒色	粘性あり、締まりあり、含黄褐色土。
2.	10YR3/2 黒褐色	粘性あり、締まりあり、含褐色土。
3.	7.5YR3/3 黄褐色	粘性あり、締まりあり、含炭化物1%。
4.	10YR5/8 黄褐色	粘性あり、締まりあり、含明褐色土。
5.	10YR2/3 黒褐色	粘性あり、締まりあり、含明褐色土。
6.	10YR6/8 明黄褐色	粘性あり、締まりあり。
7.	10YR2/2 黒褐色	粘性あり、締まりあり、含明黄褐色土。
8.	10YR3/3 暗褐色	攪乱。



第31図 RA13住居跡・出土遺物(1)





第32図 R A 13住居跡出土遺物(2)

〈規模・平面形〉 3.45×2.4m、不整な楕円形を呈する。

〈埋土〉 自然堆積、黒褐色土・暗褐色土・黄褐色土の3層に大別される。

〈壁・床面〉 壁はII d層から掘り込まれている。壁高は北壁で50cmほどで、緩く外傾する。床面はIII a層を掘り込んでおり、ほぼ平坦である。

〈柱穴〉 住居跡の中央付近に1本検出された。規模は径25cm、深さ7cmである。

〈炉〉 検出されなかった。

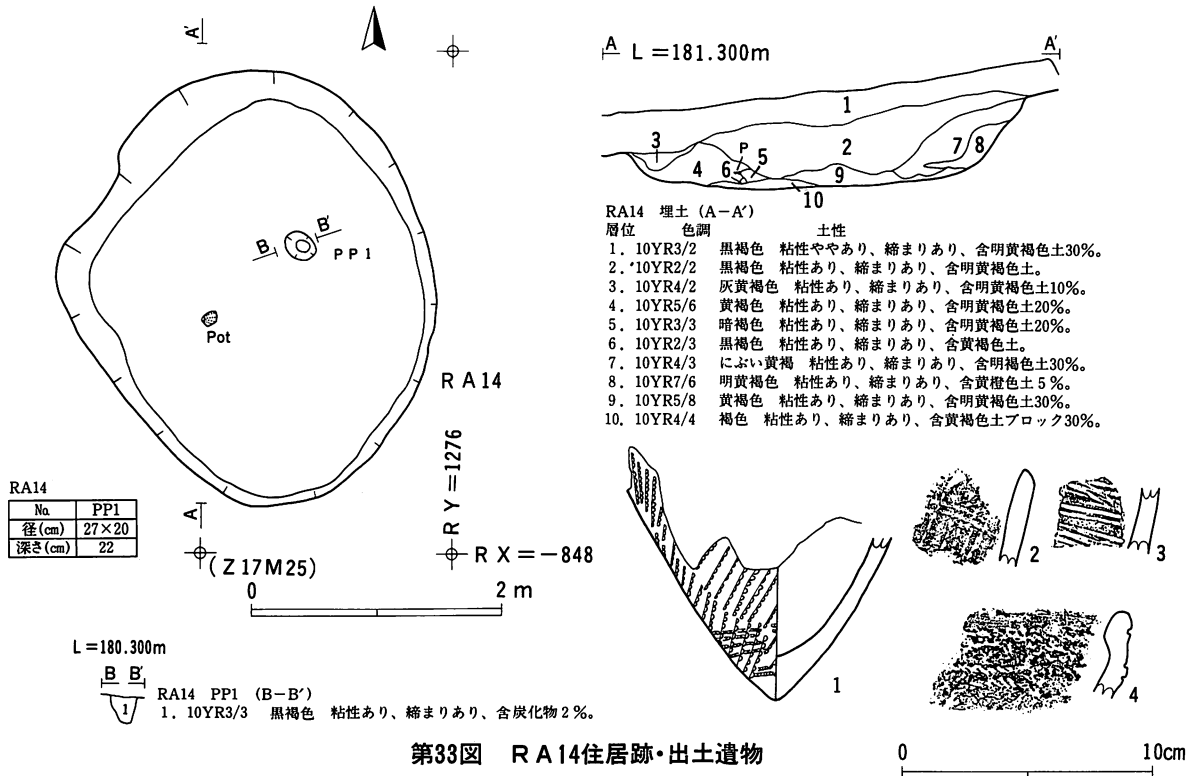
**遺物 (第33図、写真図版31)**

〈出土状況〉 床上から早期の尖底土器の底部(Pot 1)、埋土下位から早期の土器片・石器、埋土上位からは中期の土器片が出土している。

〈土器〉 縄文時代早期の土器・土器片、中期の土器片1点が得られている。1(Pot 1)は尖底土器の底部で地文として貝殻文が斜位に全体に施され、下位には横位に押引文が見られる。色調は暗褐色を呈する。胎土は細礫を含み、焼成は良好で、器壁に光沢をもつ。また貝殻文と直交して、施文前後の器面調整とみられる擦痕が残る。2は貝殻文が斜位に施される口縁部破片で、口縁部は、内面上端から外側へ緩やかな曲線で作られている。色調は、暗褐色で細礫を含む。3は条痕文が横位に施されている。4は中期の土器片で、原体圧痕文が施されている。

〈石器〉 剥片4点が得られている。

**時期** 出土した遺物から縄文時代早期中葉と思われる。



## 2. 竪穴状遺構

### RE01竪穴状遺構

遺構（第34図、写真図版14）

〈検出状況・重複関係〉 A区中央、X18Q22グリッドに位置する。II b層下位で暗褐色土の広がりとして検出された。南東側にはRD05陥し穴が隣接する。

〈規模・平面形〉 径2.3mの円形のプランに加えて、1×0.8mの規模の張り出しを北西側に持ち、全体の形状として柄鏡状を呈する。

〈埋土〉 炭化物の混じる暗褐色土である。

〈壁・床面〉 壁高は30cmほどで、緩く外傾する。張り出し部分の壁の立ち上がりはルーズである。南西側に幅10cm、深さ3cmほどの周溝が廻わる。

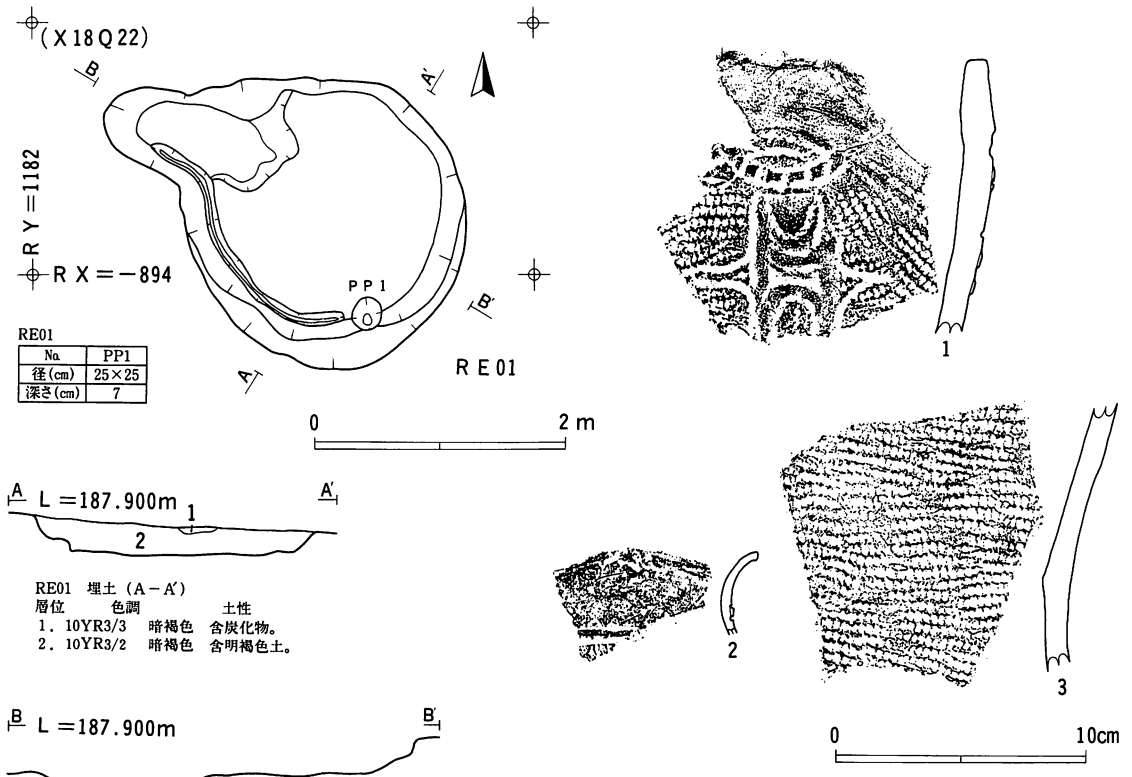
〈柱穴〉 南壁際に1本検出された。規模は径25cm、深さ7cmである。

〈炉〉 検出されていない。

遺物（第34図、写真図版31）

〈遺物〉 縄文時代中期前葉から中葉の土器片数点が得られている。石器は出土していない。

時期 出土遺物から縄文時代中期前葉以降と思われる。



第34図 RE01竪穴状遺構・出土遺物

### 3. 土坑（第35・36・40図・写真図版15～16・31）

#### RD01土坑（第35図・写真図版15）

〈検出状況・重複関係〉 A区南側、X19I08グリッドに位置する。II b層下位で黒褐色土の広がりとして検出された。東側は攪乱をうけ、削平されている。

〈規模・形態〉 開口部径70×75cm、底部径60cm、深さ45cm。平面形は不整な円形、断面形は碗形を呈する。底面はIII a層を掘り込んでつくられ、ほぼ平坦である。

〈埋土〉 黒褐色土・暗褐色土で構成され、黒褐色土層には炭化物が含まれる。

〈遺物〉 出土していない。

時期 出土遺物はなく、時期の詳細は不明である。

#### RD07土坑（第35・40図、写真図版15・31）

〈検出状況・重複関係〉 B区北側、Z17O20グリッドに位置する。II層で黒褐色土の広がりとして検出された。南西側3mにはRD08土坑が位置する。

〈規模・形態〉 開口部径80×87cm、底部は径96cm、深さ65cm。平面形は円形、断面形は碗形を呈する。底面はIII a層を掘り込んでつくられ、ほぼ平坦だが、西側がやや落ち込む。

〈埋土〉 黒褐色土・褐色土で構成される。黒褐色土層には炭化物を含み、褐色土層には明黄褐色土が含まれる。

〈遺物〉 縄文時代中期の土器片1点が出土している。

時期 出土遺跡から、縄文時代中期と思われる。

#### RD08土坑（第35・40図、写真図版15・31）

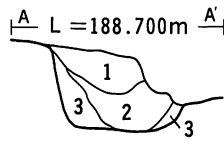
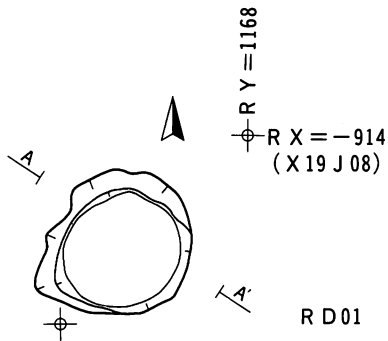
〈検出状況・重複関係〉 B区北側、Z17N21グリッドに位置する。II層で黒褐色土の広がりとして検出された。北東側3mにはRD07土坑が位置する。

〈規模・形態〉 開口部径115～125cm、底部径70～80cm、深さ80cm。平面形は円形、断面形は碗形を呈する。底面はIII a層を掘り込んでつくられ、緩やかに湾曲する。

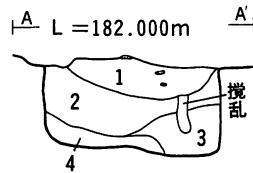
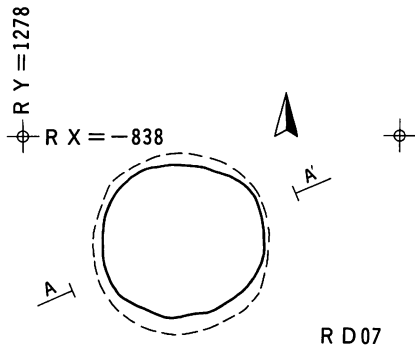
〈埋土〉 黒褐色土・暗褐色土・褐色土・黄褐色土で構成される。黒褐色土層には炭化物が多く含まれている。

〈遺物〉 縄文時代中期前葉の浅鉢1点・土器片数点・石鏃1点が得られている。1は地文のみの浅鉢である。4は凹基無茎鏃の破損品である。

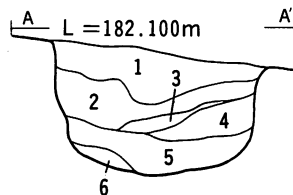
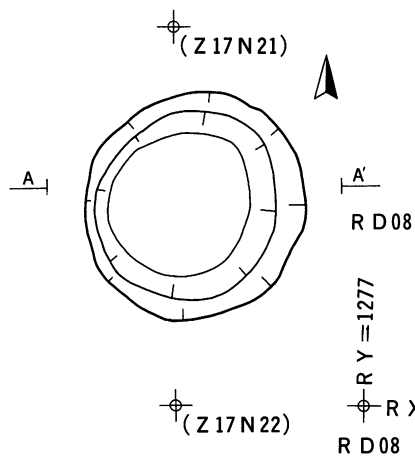
時期 出土遺物から縄文時代の中期前葉と思われる。



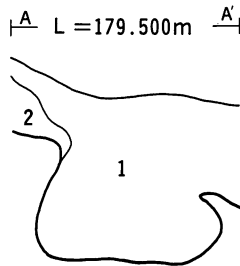
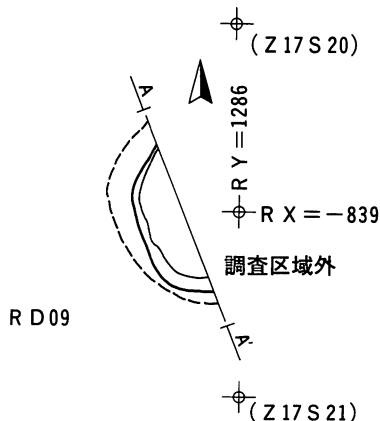
- RD01 (A-A')
- | 層位 | 色調          | 土性                       |
|----|-------------|--------------------------|
| 1. | 10YR2/3 黒褐色 | 粘性あり、締りあり、含炭化物3%・明褐色土5%。 |
| 2. | 10YR3/2 黒褐色 | 粘性あり、締りあり、含炭化物2%。        |
| 3. | 10YR3/4 暗褐色 | 粘性あり、締りややあり、含明褐色土。       |



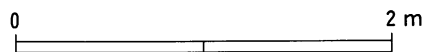
- RD07 (A-A')
- | 層位 | 色調          | 土性                   |
|----|-------------|----------------------|
| 1. | 10YR2/2 黒褐色 | 粘性あり、締りなし、含炭化物10%。   |
| 2. | 10YR3/2 黒褐色 | 粘性あり、締りややあり、含炭化物20%。 |
| 3. | 10YR4/6 褐色  | 粘性あり、締りあり、含明黄褐色土20%。 |
| 4. | 10YR4/4 褐色  | 粘性あり、締りあり、含炭化物20%。   |



- RD08 (A-A')
- | 層位 | 色調          | 土性                       |
|----|-------------|--------------------------|
| 1. | 10YR2/2 黒褐色 | 粘性あり、締りあり、含炭化物20%。       |
| 2. | 10YR3/2 黒褐色 | 粘性あり、締りあり、含炭化物5%。        |
| 3. | 10YR3/4 暗褐色 | 粘性あり、締りあり、含明黄褐色土ブロック20%。 |
| 4. | 10YR3/3 暗褐色 | 粘性あり、締りあり、含炭化物10%。       |
| 5. | 10YR4/6 褐色  | 粘性あり、締りあり、含炭化物5%。        |
| 6. | 10YR5/8 黄褐色 | 粘性あり、締りあり。               |



- RD09 (A-A')
- | 層位 | 色調          | 土性                        |
|----|-------------|---------------------------|
| 1. | 10YR2/1 黒褐色 | 粘性あり、締りなし、含黄褐色土ブロック10%。   |
| 2. | 10YR3/1 黒褐色 | 粘性あり、締りややあり、明黄褐色土ブロック10%。 |



第35図 RD01・RD07・RD08・RD09土坑

#### RD09土坑（第35図、写真図版15）

〈検出状況・重複関係〉 B区東端、Z17R20グリッドに位置する。東側は調査区域外に続き、西側半分の検出である。II層中で黒褐色土の広がりとして検出された。

〈規模・形態〉 開口部径78cm、底部径100cm、深さ65cm。平面形は円形を呈するものと推定され、断面形はフラスコ形を呈する。底面はIII a層を掘り込んでつくられ、ほぼ平坦である。

〈埋土〉 黄褐色土ブロックの混入する黒褐色土である。

〈遺物〉 出土していない。

時期 出土遺物はなく、時期の詳細は不明である。

#### RD10土坑（第36図、写真図版16）

〈検出状況・重複関係〉 B区中央付近、Z17L23グリッドに位置する。RA14住居跡の覆土を掘り込んでつくられており、RA14住居跡より新しい。検出面はII層中で、黒褐色土の広がりとして検出された。

〈規模・形態〉 開口部径80×70cm、底部径60×48cm、深さ60cm。平面形は楕円形を呈するものと推定され、断面形は椀形を呈する。底面はIII a層を掘り込んでつくられ、ほぼ平坦である。

〈埋土〉 黒褐色土・褐色土で構成される。黒褐色土層には明褐色土ブロックが含まれる。

〈遺物〉 出土していない。

時期 出土遺物はなく、時期の詳細は不明である。

#### RD11土坑（第36図、写真図版16）

〈検出状況・重複関係〉 B区北西端、Z17C23グリッドに位置する。II層中で黒色土の広がりとして検出された。

〈規模・形態〉 開口部径100cm、底部径80×60cm、深さ130cm。平面形は不整な円形を呈する。断面形は筒形を呈し、中場に膨らみをもつ。底面はIV層を掘り込んでつくられ、ほぼ平坦である。

〈埋土〉 黒色土・黒褐色土・褐色土で構成される。黒色土層には炭化材が多く含まれている。樹種はクリである。

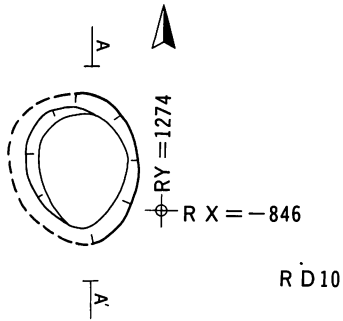
〈遺物〉 出土していない。

時期 出土遺物はなく、時期の詳細は不明である。

#### RD12土坑（第36図、写真図版16）

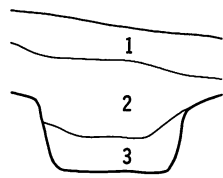
〈検出状況・重複関係〉 A区南側、X19M07グリッドに位置する。RA10住居跡の覆土を掘り込

(Z 17M23)



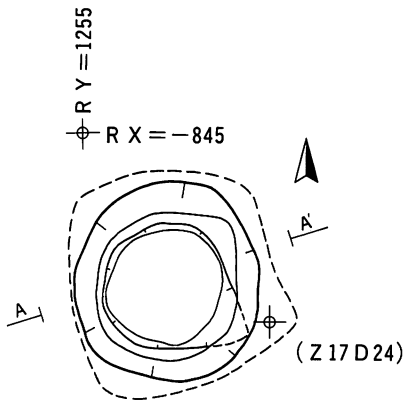
R D 10

L = 181.300m



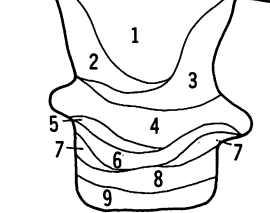
RD10 (A-A')  
層位 色調 土性

1. 10YR3/2 黒褐色 粘性なし、締りややあり、含炭化物5%。
2. 10YR2/2 黒褐色 粘性あり、締りあり、含明黄褐色土ブロック10%。
3. 10YR4/4 褐色 粘性あり、締りあり。



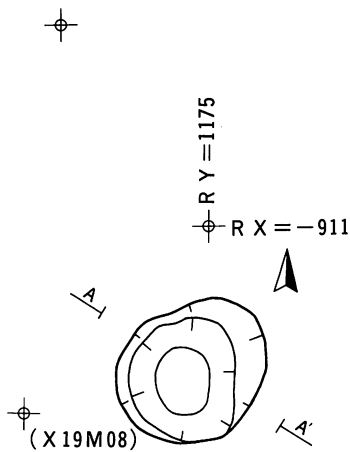
R D 11

L = 182.600m



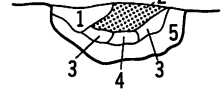
RD11 (A-A')  
層位 色調 土性

1. 10YR1.7/1 黒色 粘性あり、締りあり、含炭化物30%。
2. 10YR2/2 黒褐色 粘性あり、締りあり。
3. 10YR2/1 黒色 粘性あり、締りなし。
4. 10YR2/3 黒褐色 粘性あり、締りなし。
5. 10YR3/3 暗褐色 粘性なし、締りあり、含黄褐色土ブロック。
6. 10YR3/1 黒褐色 粘性あり、締りなし、含明褐色土ブロック。
7. 10YR4/6 褐色 粘性なし、締りややあり、含黒褐色土。
8. 10YR3/1 黒褐色 粘性あり、締りなし。
9. 10YR4/4 褐色 粘性あり、締りなし、含黒褐色土。



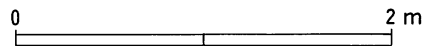
R D 12

L = 188.400m



RD12 (A-A')  
層位 色調 土性

1. 10YR3/4 暗褐色 粘性なし、締りなし。
2. 5YR4/6 赤褐色 焼土。
3. 10YR3/3 暗褐色 粘性なし、締りなし、含明黄褐色土ブロック10%。
4. 10YR5/6 黄褐色 粘性ややあり、締りややあり、含明黄褐色土ブロック20%。
5. 10YR5/8 黄褐色 粘性あり、締りややあり、含明黄褐色土ブロック20%。



第36図 RD10・RD11・RD12土坑

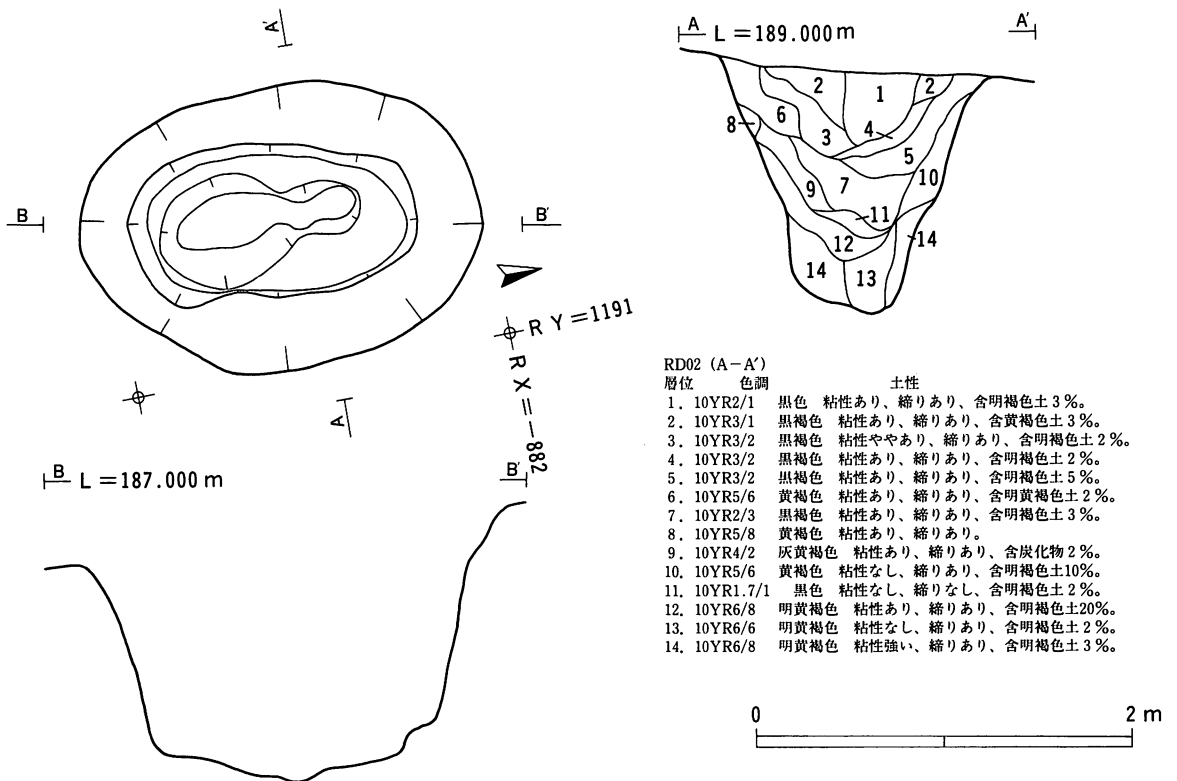
んでつくられており、RA10住居跡より新しい。検出面はIII a層で、暗褐色土と赤褐色土の広がりとして検出された。

〈規模・形態〉 開口部径85×70cm、底部径35×30cm、深さ32cm。平面形は楕円形、断面形は浅鉢形を呈する。底面はIII a層を掘り込んでつくられ、湾曲する。

〈埋土〉 暗褐色土・赤褐色土・褐色土で構成される。埋土中に焼土の堆積が確認されたが、現地性のものではない。

〈遺物〉 出土していない。

時期 出土遺物はなく、時期の詳細は不明だが、検出面と重複関係から縄文時代中期以降と推定される。



第37図 RD02 陥し穴



#### 4. 陥し穴（第37～40図、写真図版17・18・31）

##### RD02陥し穴（第37図、写真図版17）

〈検出状況・重複関係〉 A区の北側、X18U16グリッドに位置する。検出面はIII a層で、黒色土の広がりとして検出された。東側1.5mにはRA03住居跡が隣接する。

〈規模・形態〉 開口部径215×150cm、底部径180×70cm、深さ150cm。平面形は楕円形、断面形は緩いV字状を呈する。底面はIII a層を掘り込んでつくられ、やや凹凸をもちながら緩く湾曲する。

〈埋土〉 黒色土・黒褐色土・黄褐色土・明黄褐色土で構成される。

〈遺物〉 出土していない。

時期 出土遺物はなく、時期の詳細は不明である。

##### RD03陥し穴（第38・40図、写真図版17・31）

〈検出状況・重複関係〉 A区中央付近、X19R02グリッドに位置する。検出面はIII a層で黒色土の広がりとして検出された。南西側3.5mにはRD06陥し穴、北側5mにはRD05陥し穴が位置する。

〈規模・形態〉 開口部径359×60cm、底部径280×8cm、深さ120cm。平面形は溝状、断面形はV字状を呈する。底面はIV層を掘り込んでつくられ、やや凹凸をもって北から南へ緩く傾斜する。

〈埋土〉 黒色土・暗褐色土・褐色土で構成される。

〈遺物〉 縄文時代中期中葉の土器片1点が得られている。

時期 出土遺物から縄文時代中期中葉と思われる。

##### RD04陥し穴（第38図、写真図版18）

〈検出状況・重複関係〉 A区中央付近、X19P05グリッドに位置する。検出面はII層下位で黒褐色土の広がりとして検出され、南側は削平されている。北東側3.5mにはRD06陥し穴が位置する。

〈規模・形態〉 開口部径330×40cm、底部径305×10cm、深さ90cm。平面形は溝状、断面形はY字状を呈する。底面はIV層を掘り込んでつくられ、やや凹凸をもって南から北へ緩く傾斜する。

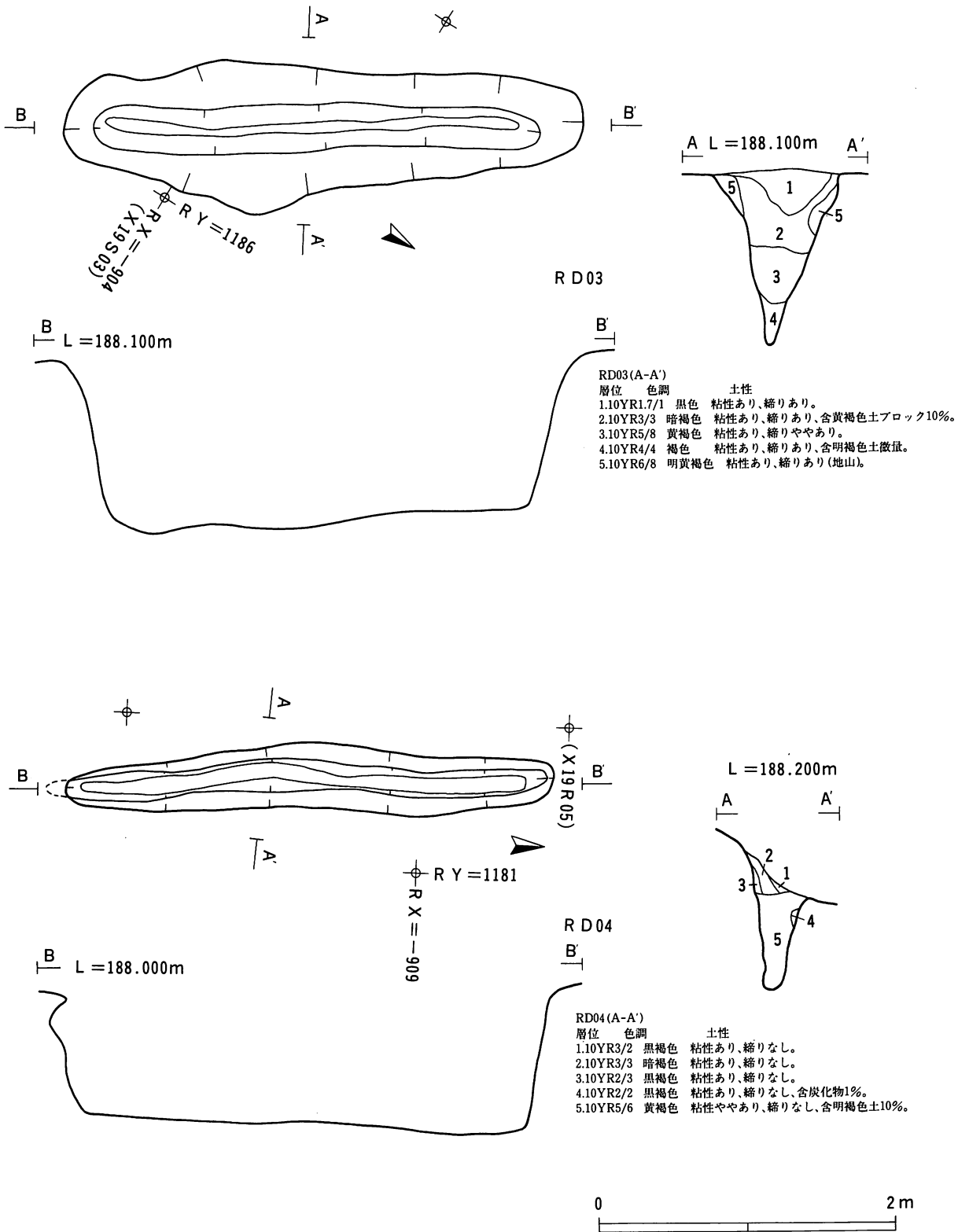
〈埋土〉 黒褐色土・暗褐色土・黄褐色土で構成される。

〈遺物〉 出土していない。

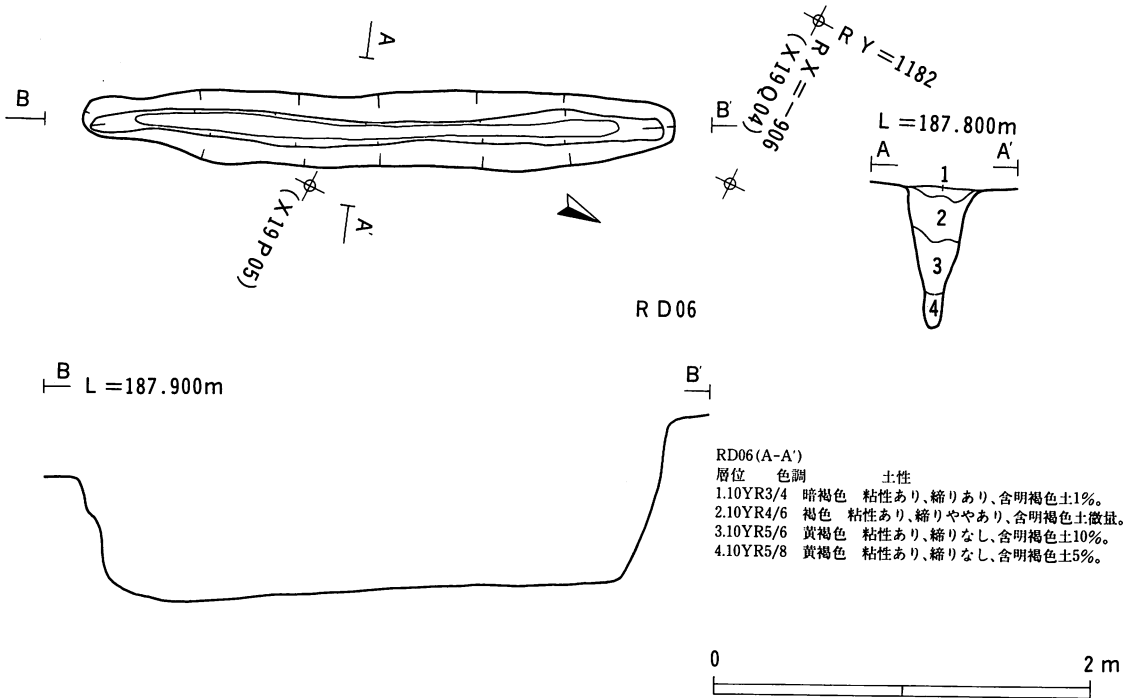
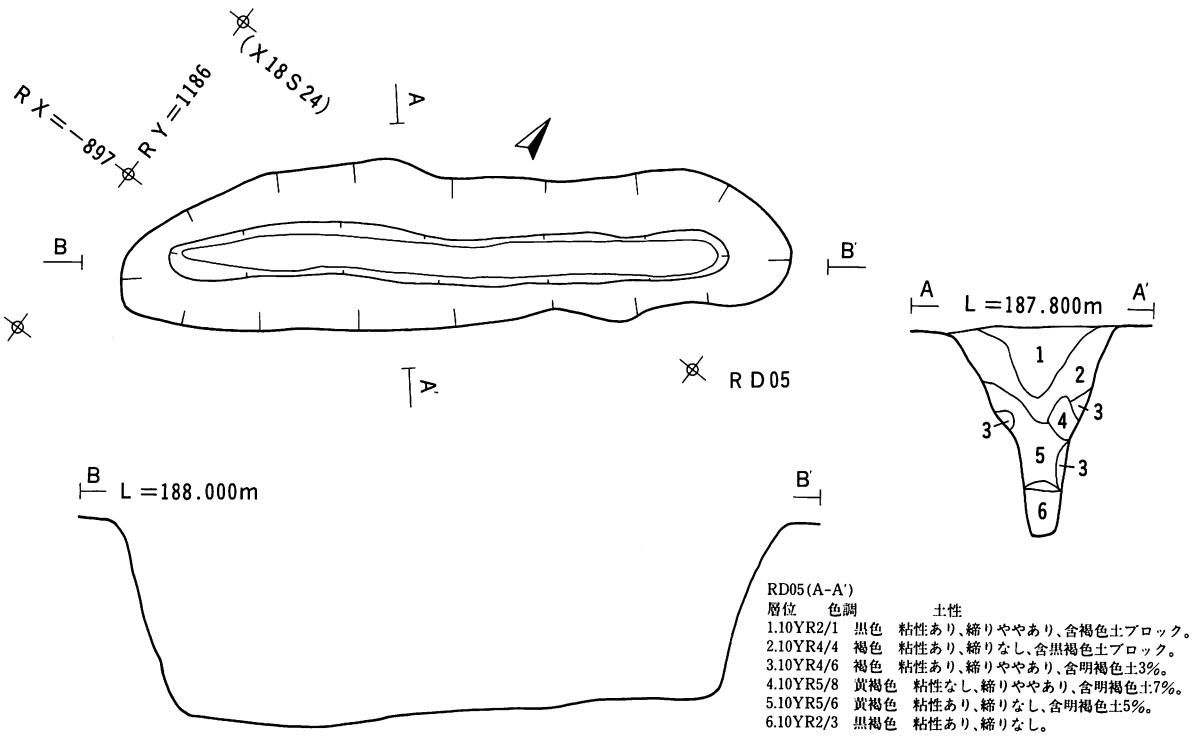
時期 出土遺物はなく、時期の詳細は不明である。

##### RD05陥し穴（第39・40図、写真図版18・31）

〈検出状況・重複関係〉 A区中央付近、X19S24グリッドに位置する。検出面はII層下位で黒色土の広がりとして検出された。北西側3mにRE02竪穴状遺構、南側5mにはRD03陥し穴が位置する。



第38図 RD03・RD04 陥し穴



第39図 RD05・RD06 陥し穴

〈規模・形態〉 開口部径350×75cm、底部径330×15cm、深さ110cm。平面形は溝状、断面形はY字状を呈する。底面はIV層を掘り込んでつくられ、やや凹凸をもって、北東から南西へ傾斜する。

〈埋土〉 黒褐色土・褐色土・黄褐色土・黒褐色土で構成される。

〈遺物〉 縄文時代中期中葉の土器片3点が出土している。

時期 出土遺物から、縄文時代中期中葉と推定される。

#### RD06陥し穴 (第39図、写真図版18)

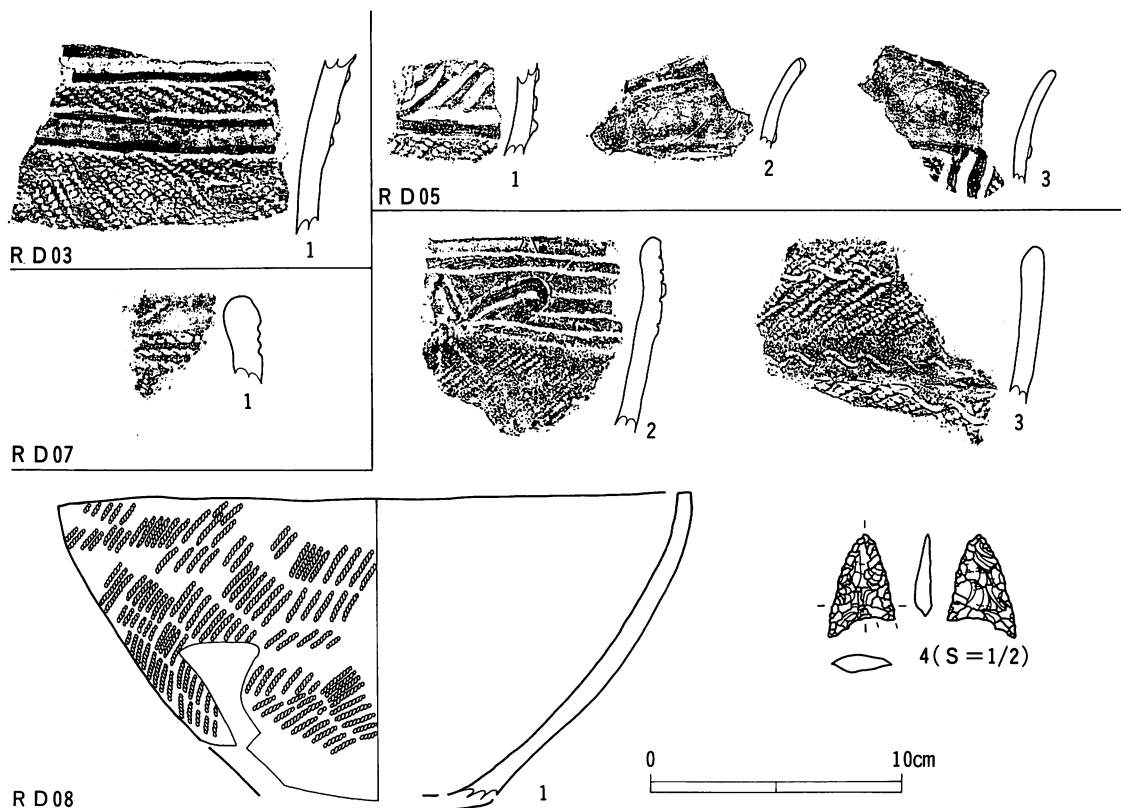
〈検出状況・重複関係〉 A区中央付近、X19Q04グリッドに位置する。検出面はII層下位で暗褐色土の広がりとして検出された。南東側ほど上面が削平されている。南西側3.5mにはRD04陥し穴、北東側3.5mにはRD03陥し穴が位置する。

〈規模・形態〉 開口部径315×40cm、底部径255×10cm、深さ95cm。平面形は溝状、断面形はV字状を呈する。底面はIV層を掘り込んでつくられ、北西から南東へ緩く傾斜する。

〈埋土〉 暗褐色土・褐色土・黄褐色土で構成される。

〈遺物〉 出土していない。

時期 出土遺物はなく、時期の詳細は不明である。



第40図 RD03・RD05陥し穴、RD07・RD08土坑出土遺物

## 5. 焼土遺構

### RF01焼土（第41図、写真図版16）

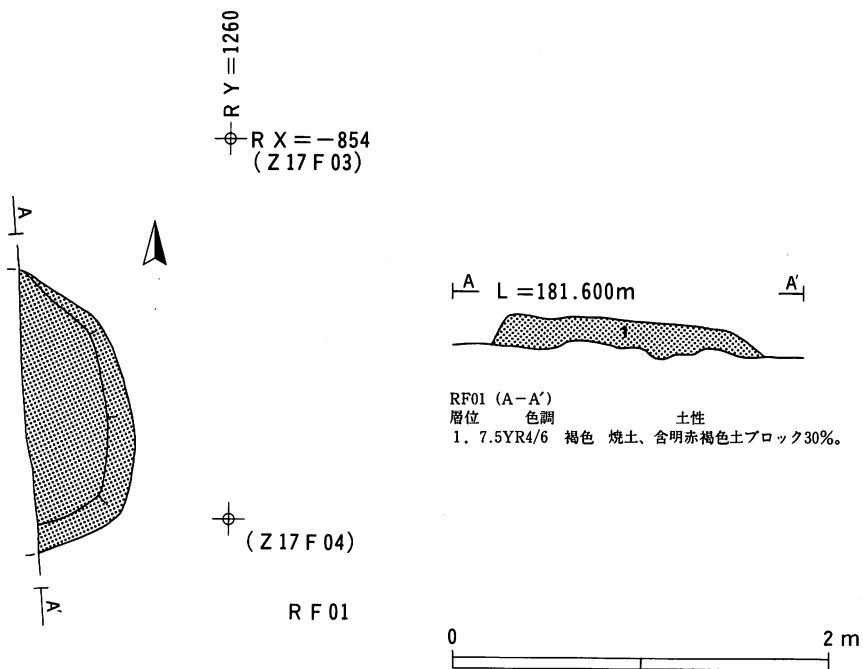
〈検出状況・重複関係〉 B区南西端、Z17E03グリッドに位置する。北東側1.3mにはRA13住居跡が隣接する。試掘で焼土の広がりを確認した。検出面はIII a層である。西側半分を試掘で掘っているため東側半分の検出となった。

〈規模・形態〉 径1.5mの円形を呈するものと推定される。

〈埋土〉 赤褐色ブロックの混入する焼土で、厚さは最大15cmである。

〈遺物〉 遺物は出土していない。

時期 出土遺物がなく、詳細は不明であるが、検出面から縄文時代早期以降と思われる。



第41図 RF01焼土

## 6. 柱穴群（第42図、写真図版14）

A区とB区で、あわせて19基の柱穴状の土坑が検出された。規模は、径20～65cm、深さ19～69cmと差があり、建物を構成するような柱配置は確認できていない。また遺物も出土していない。時期の詳細は不明である。

以下、各地区ごとに概観する。

### X19区南側柱穴群

A区南側、X19H11～N14グリッドに位置する。北側にはRA04・RA05住居跡、南側にはRA11・RA12住居跡が位置する。11基の柱穴が検出された。検出面はIII a層である。規模は、径22～46cm、深さ19～45cmで、ばらつきがある。埋土はおもに黒褐色土や暗褐色土で単層である。建物を構成するような柱穴配置は確認できなかった。出土遺物はない。

### X19区北側柱穴群

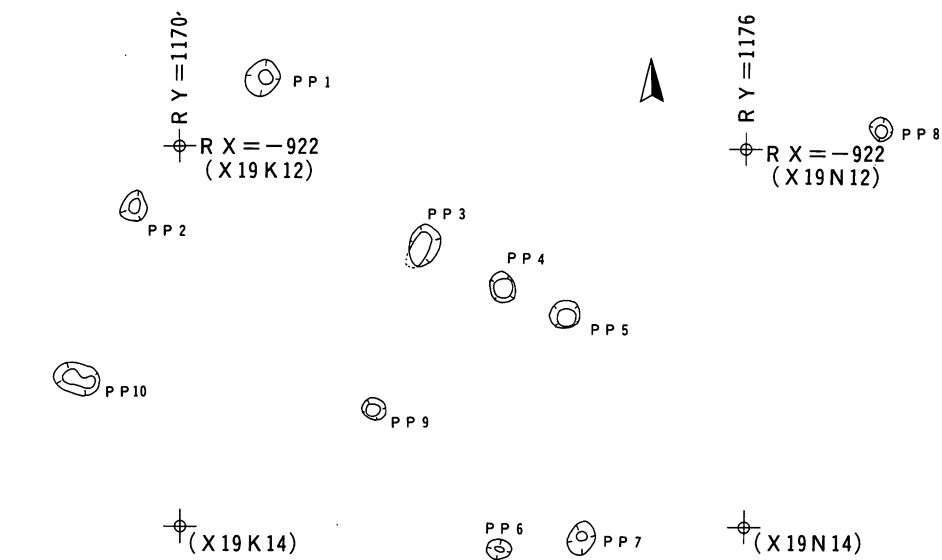
A区南側、X18K09グリッドに位置する。西側にはRA07住居跡が隣接する。2基の柱穴が検出された。検出面はIII a層上面である。規模は、径40～45cm、深さ21～30cmで、近似値を示す。埋土は暗褐色土で単層である。出土遺物はない。

### X18区柱穴群

A区中央、X18R21・R22グリッドに位置する。西側にはRE01堅穴状遺構が隣接する。3基の柱穴が検出された。検出面はIII a層上面である。規模は、径15～30cm、深さ21～29cmである。3基とも規模が近似値を示している。埋土は暗褐色土で単層である。RE01堅穴状遺構との関係は不明である。出土遺物はない。

### Z17区柱穴群

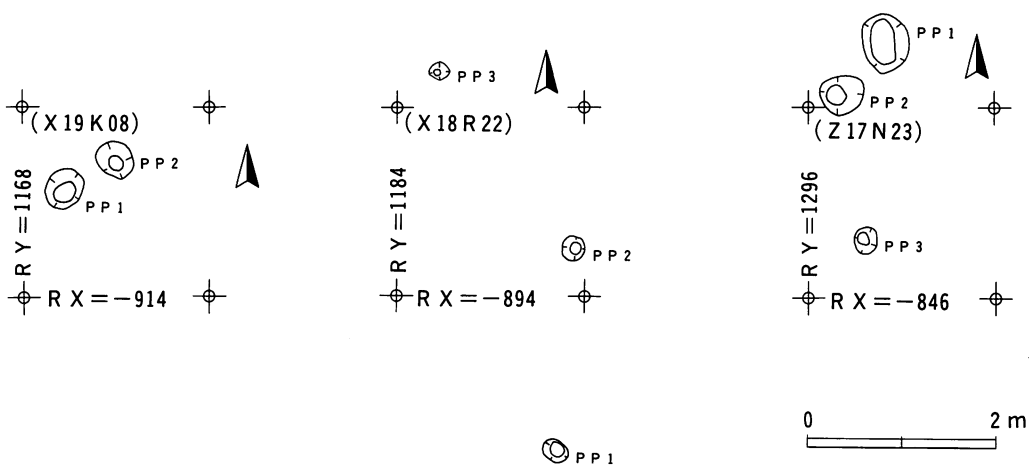
B区中央付近、Z17M22グリッドに位置する。東側にはRA14住居跡が位置する。3基の柱穴が検出された。検出面はIII a層上面である。規模は、径25～63cm、深さ40～64cmで、ばらつきがある。埋土は暗褐色土で単層である。出土遺物はない。



X19区 南側柱穴群

No	PP1	PP2	PP3	PP4	PP5	PP6	PP7	PP8
径 (cm)	38×33	32×26	45×30	30×27	32×30	25×20	25×28	25×23
深さ (cm)	45	26	24	22	23	20	34	25

No	PP9	PP10	PP11
径 (cm)	25×22	46×34	30×23
深さ (cm)	19	23	24



X19区 北側柱穴群

No	PP1	PP2
径 (cm)	45×40	42×40
深さ (cm)	30	21

X18区 柱穴群

No	PP1	PP2	PP3
径 (cm)	30×22	25×25	20×15
深さ (cm)	21	29	25

Z17区 柱穴群

No	PP1	PP2	PP3
径 (cm)	48×42	63×50	30×25
深さ (cm)	40	46	64

第42図 柱穴群

## 7. 遺物包含層（第43～45図、写真図版19・20）

B区全域に遺物包含層が形成されていた。B区は、北西から南東に向かっての斜面に対して直交する調査区である。調査された面積は約600㎡である。東西方向に旧道が通っていたこともあり、調査区全域で上部には盛り土が厚く堆積している。また、南側は後世の削平を受け、部分的に攪乱も受けている。出土遺物は縄文土器・土製品・石器で、土器は、コンテナ大（41×31×30）で80箱、石器は約160点が出土している。

### 遺構

B区は、標高179～182mで、北西から南東方向への緩やかな斜面となっており、南側は、ほぼ平坦に近い状態となっている。また、東端は落ち込んで、急斜面となっている。この地形は、旧地形ともほぼ一致する。北側には標高186～188mで周囲より一段高い、南北150m、東西100mほどの台地状の平坦地があり、周囲に斜面を形成している。B区は、その南東方向の斜面の端部に位置するようである。

### 遺物

#### 〈出土状況〉

遺物を包含するII層は、厚いところで150cm、薄いところで20cmほどであり、南側ほど薄く、全体としてもそれほど厚く形成されたものではない。また土器を多く含むところでも炭化物や焼土の混入は少ない。

包含層は、ほとんど遺物を含まない層厚20～30cmの暗褐色土層（無遺物層）を挟んで、上位と下位に2面確認されている。一つは比較的多くの遺物を包含する層厚20～30cmほどの黒褐色土から暗褐色土層（II b層）で、その上位にIII層起源の褐色土の広がり（II a層）もみられた。この土層はA区ではみられない層であり、包含層の主体となる層である。もう一つは下位の層で、層厚10cmほどの暗褐色土層（II d層下位～II e層）で、少量の遺物を含む。

出土した遺物を層的にみると、上位の包含層には縄文時代中期の土器、下位の包含層では早期の土器が出土している。

早期・中期とも数形式の土器が含まれている。相対的に上位の層から出土した土器が新しい傾向は擱めているが、層的に把握することはできなかった。ただ中期と早期の遺物は、南側の攪乱を受けている部分を除けば、上位の層と下位の層から、それぞれ混入することなく出土している。また同一個体は層的にも極めて近い範囲に分布している。

各遺物の出土状況については、次のような傾向がみとめられた。

- a. 遺物全体の出土状況は、B区の北側と西側に出土量が多く、南側と東側に出土量は少ない。
- b. 中期の土器は、B区の北側に多く分布し、さらに東側と西側に分かれる分布がみられる。
- c. 早期の土器は、B区の西側に多く分布する傾向がみられる。



- d. 石器の出土状況は、全体として北西側に多く分布している。器種別では、剥片石器は北西側に多く分布し、とくに石鏃がZ17L21・L22付近に集中して分布している。礫石器の分布に際だった片寄りは見られないが、特殊磨石が東側に多く分布する傾向がみられる。
- e. 石器の層位的な把握は困難であったが、概してII a～b層から出土している。特殊磨石については、II c～d層からの出土もみられる。

#### 〈遺物〉

得られた出土遺物の総量はコンテナ大で80箱である。完形品は出土していない。復元・図化した土器は100点ほどである。出土遺物の総量に対して復元個体数が少ないが、復元作業の時間的な制約に起因するものであり、接合可能な個体数のすべてではない。

また口縁部や底部破片数もかなり多いことから、本来、復元可能な個体数はさらに増加するものと推定される。このような状況において、包含層から出土した土器全般の傾向を知るために口縁部破片数の算出を行った。算出にあたっては同一個体と思われる口縁部破片でも、1破片を1個体とした。得られた破片の総数は1598点である。

時期別にみると、中期に属する破片は1581点(99%)、早期に属する破片は17点(1%)であり、ほとんどが中期に属する破片である。早期の遺物の総量は、コンテナ中(41×31×19)1箱であり、口縁部破片数から得られた早期と中期の土器の比率は、ほぼ妥当な数値であると思われる。

中期の土器片は、円筒系・大木系の両者が出土しているが、大木系の占める割合が非常に高く、そのなかでは大木8a式に属すると思われる土器片(708点:43%)の占める割合が非常に高い。

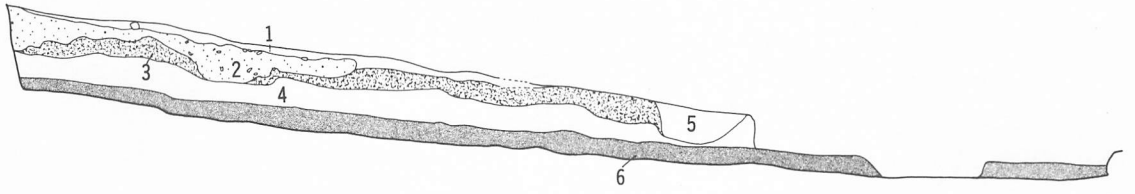
#### まとめ

相対的に遺物の分布はB区北側に多く、南側に少ない傾向がみられる。このことは、南側が削平されていること、また南側が斜面の裾にあたり、本来的に包含層の形成が浅かった可能性があることとの二つの理由が考えられる。

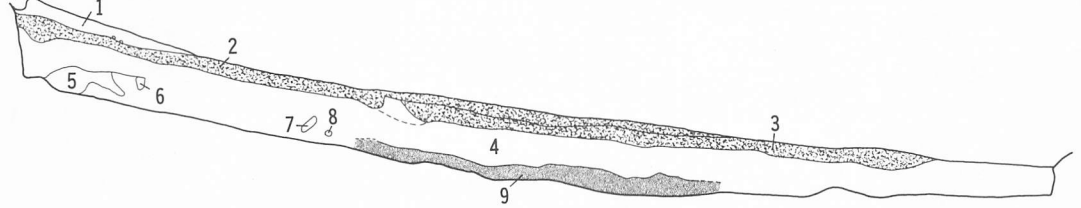
土器片を観察すると、比較的摩滅が少ない状態である。包含層にIII層起源の褐色土の堆積土がみられることと併せて考えると、これらの土や土器の供給の源は竪穴住居跡が考えられ、包含層の供給地は、極めて近くにあったことを示すものである。

早期の土器と中期の土器は、無遺物層を挟んで上位と下位の層から出土している。これは、早期と中期の遺物が混然となって斜面上位から流入・堆積したものではなく、包含層が当地で形成された様子を示すものと思われる。

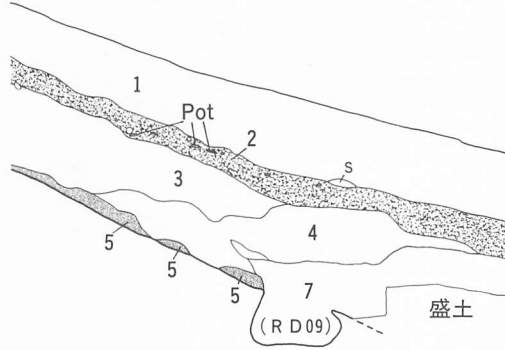
A L = 183.300m






B L = 183.200m



C L = 181.900m



-  遺物包含層(中期)
-  遺物包含層(中期)
-  遺物包含層(早期)

0 2 m

遺物包含層 (A-A')

- | 層位 | 色調            | 土性                                 |
|----|---------------|------------------------------------|
| 1. | 10YR1/2 黒色    | 粘性あり、縮りあり、含明赤褐色土。(I層)              |
| 2. | 10YR6/4 褐色    | 粘性あり、縮りあり、含黒褐色土ブロック30%・土器片。(II a層) |
| 3. | 10YR3/2 黒褐色   | 粘性あり、縮りあり、含黒褐色土。(II b層)            |
| 4. | 10YR1/3 黒褐色   | 粘性あり、縮りあり、含黄褐色土。(II c~d層)          |
| 5. | 10YR1/7/1 黒色  | 粘性なし、縮りあり、含黒褐色土。                   |
| 6. | 7.5YR2/3 極暗褐色 | 粘性あり、縮りあり、含褐色土ブロック。(II e層)         |

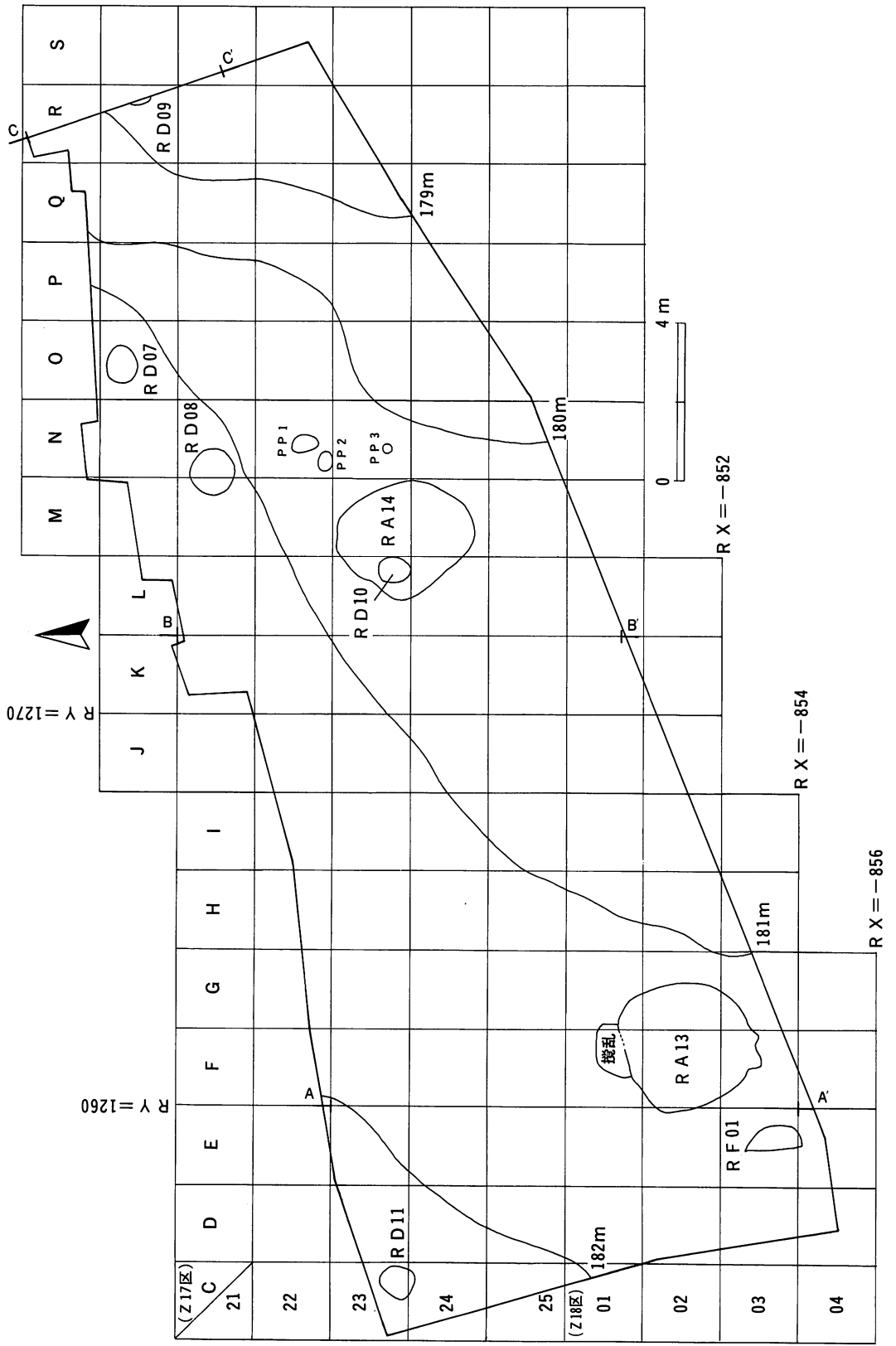
遺物包含層 (B-B')

- | 層位 | 色調            | 土性                              |
|----|---------------|---------------------------------|
| 1. | 10YR2/3 黒褐色   | 粘性あり、縮りなし、含褐色土ブロック。(I層)         |
| 2. | 10YR3/2 黒褐色   | 粘性あり、縮りあり、含黄褐色土ブロック・土器片。(II b層) |
| 3. | 10YR3/4 暗褐色   | 粘性あり、縮りあり、含土器片。(II c層)          |
| 4. | 10YR3/3 暗褐色   | 粘性ややあり、縮りあり、含黒褐色土。(II d層)       |
| 5. | 7.5YR4/3 褐色   | 粘性あり、縮りあり、含明黄褐色土ブロック。           |
| 6. | 10YR3/3 暗褐色   | 粘性あり、縮りあり、含褐色土ブロック。             |
| 7. | 10YR3/4 暗褐色   | 粘性あり、縮りあり。                      |
| 8. | 10YR4/6 褐色    | 粘性あり、縮りあり。(II e層)               |
| 9. | 7.5YR2/3 極暗褐色 | 粘性あり、縮りあり、含褐色土ブロック。(II e層)      |

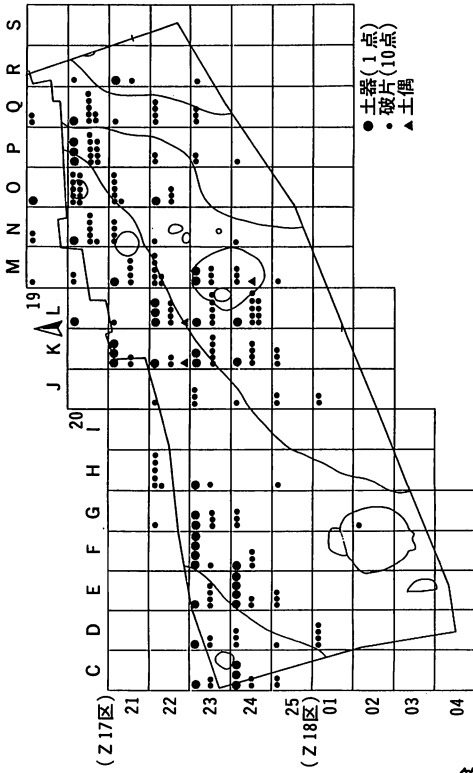
遺物包含層 (C-C')

- | 層位 | 色調          | 土性                               |
|----|-------------|----------------------------------|
| 1. | 10YR2/1 黒色  | 粘性あり、縮りなし、含土器片。(I層)              |
| 2. | 10YR3/4 暗褐色 | 粘性あり、縮りややあり、含炭化物1%・土器片。(II b層)   |
| 3. | 10YR4/4 褐色  | 粘性ややあり、縮りややあり、含炭化物0.5%。(II c~d層) |
| 4. | 10YR3/1 黒褐色 | 粘性あり、縮りややあり、含橙色土・明黄褐色土ブロック10%。   |
| 5. | 10YR2/3 黒褐色 | 粘性あり、縮りなし、含明黄褐色土・橙色土20%。(II e層)  |
| 6. | 10YR2/2 黒褐色 | 粘性あり、縮りなし、含橙色土・明黄褐色土ブロック10%。     |
| 7. | 7.5YR2/1 黒色 | 粘性あり、縮りなし、含明黄褐色土・橙色土ブロック10%。     |

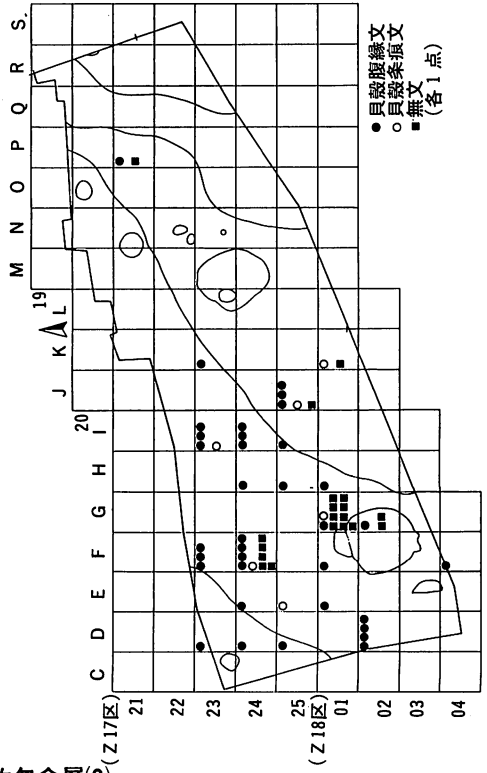
第43図 遺物包含層(1)



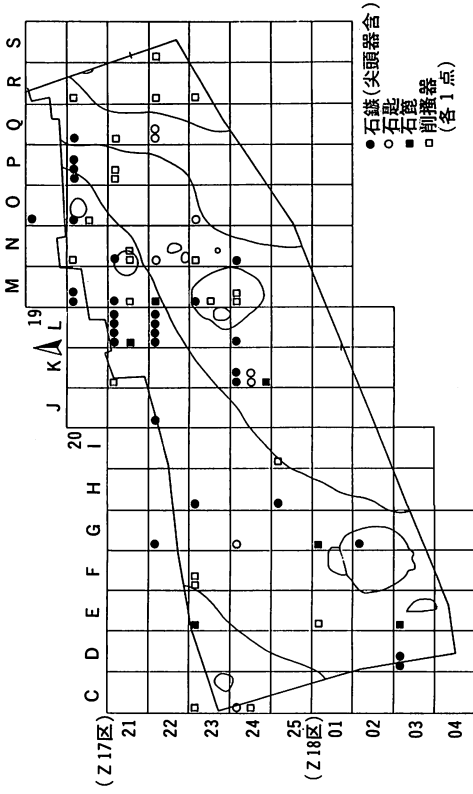
第44図 遺物包含層(2)



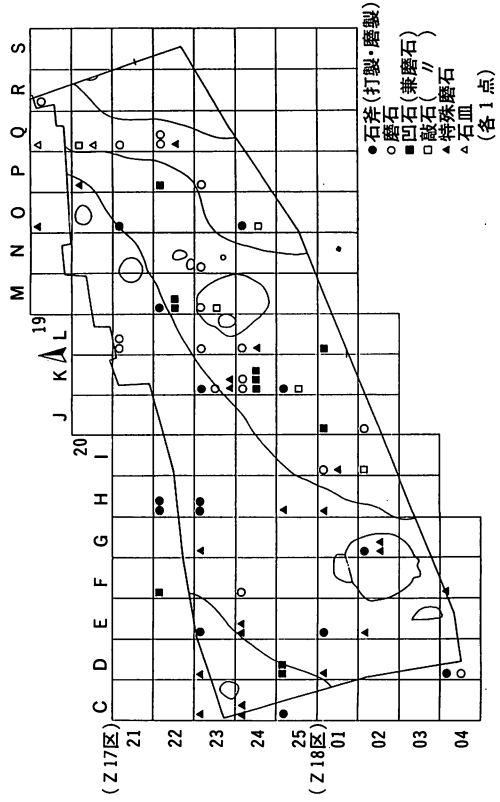
グリッド別土器出土数(中期)



グリッド別土器出土数(早期)



グリッド別石器出土数(1)



グリッド別石器出土数(2)

第45図 遺物包含層(3)

## V. 遺構外の出土遺物

遺構外から出土した遺物の総量は、41×31×30cmのコンテナ（大）で80箱であり、出土遺物全体の大半を占める。そのほとんどがB区の遺物包含層からの出土である。ここでは、B区包含層の出土遺物を中心に、併せてA区の遺構外出土遺物について触れる。

### 1. 土器（第46～65図、写真図版33～51）

約80箱が出土している。分類については、縄文時代早期の土器―第I群、中期の土器―II群として時期区分を行った。さらに小分類を1類・2類…、a類・b類…として記載した。小分類群の設定にあたっては、従来の形式名や分類名に対応するよう努めた。

早期・中期の土器群とも数形式にわたるが、包含層において、それぞれを層位的に把握することは困難であった。そのため分類の基準は土器の器形・文様を中心とした形式的分類である。

#### 第I群土器（第46・56図、写真図版33・43）

縄文時代早期に属する土器群で、貝殻文・条痕文・沈線文・刺突文などにより文様が施される。これらの土器群の出土する層位は、包含層においてほぼ限定されるが、個々の文様を有する土器片は混在しており、層位的に明瞭に区分できなかった。すべて破片資料で、全体の器形や文様の構成がわかるものはなく、器形的に区別することは困難である。破片は、口縁部片・胴部片・底部片がある。底部片はすべて尖底であり、他の土器片も尖底深鉢土器の破片と推定される。ここでは文様の施文方法により細分を行った。

##### I群1類

おもに貝殻腹縁圧痕文が施される土器群である。口縁部破片・胴部片・底部片がある。他の文様要素との組み合わせによりa～cに細分される。

##### I群1類a

貝殻腹縁圧痕文と刺突文が組み合わされる土器群で、口縁部破片のみである。

口唇部に貝殻腹縁圧痕文を施すものと刺突を施すものがある。貝殻腹縁圧痕文は口唇部に対して斜位（左下り）に施される。口縁部直下には刺突文が横走する。58は、縦位に施された3段の刺突文が横走し、59～60は横位に施された5段の刺突文が横走する。刺突文の幅は1.5cmほどである。58は刺突文の下位に3列の貝殻腹縁圧痕文が横走する。62は、貝殻腹縁圧痕文が口唇部に施され、下位に1段の刺突文が斜位（左下がり）に施され、器表面から穿孔した径1cmの円孔をもつ。口縁部には貝殻腹縁圧痕文が施されるが、ほとんどが斜位（左下がり）に施され、器表面には調整の擦痕が残る。

口端部は、丸く整えられているものと、器の表面方向に傾斜し、内面上端から外方に向かっ

て緩い曲線をもってつくられているものがある。58は不均整な突起を有し、不均整な波状口縁を呈するものと推定される。59は1端が外側へ錨状に張り出している。

色調は暗褐色土～浅黄色を呈し、胎土は、黒色ないし灰色の細礫が含まれ、内面はミガキが施されている。

#### I群1類b

貝殻腹縁文のみが施される土器群である。口縁部破片・胴部破片・底部破片がある。

口縁部破片では、口唇部に貝殻腹縁圧痕文が施され、貝殻腹縁圧痕文は口唇部に対して斜位（左下がり）に施される。口縁部には貝殻腹縁圧痕文が斜位（左下がり）に施され、器表面には調整の擦痕が残る。

口端部は、丸く整えられているものと、器の表面方向に傾斜し、内面上端から外方に向かって緩い曲線をもってつくられているものがある。69は器表面から穿孔した径1cmの円孔をもつ。

色調は明褐色～にぶい橙色で、胎土は、黒色ないし灰色の細礫が含まれ、内面はミガキが施されているものもある。86は、口唇部に貝殻腹縁圧痕文が施され、胴部は無文である。口端部は、器の表面方向に傾斜し、内面上端から外方に向かって緩い曲線をもってつくられている。色調は黒褐色を呈し、胎土は、黒色ないし灰色の細礫が含まれる。

胴部片は、貝殻腹縁圧痕文が概ね斜位（左下がり）に施され、器表面には調整の擦痕が残る。色調は明褐色～にぶい橙色で、胎土は、黒色ないし灰色の細礫が含まれ、内面はミガキが施されるものもある。

底部片は1点である。2は砲弾状の円錐形を呈する尖底の底部である。貝殻腹縁圧痕文が斜位（左下がり）に施されている。色調は暗褐色、胎土は、黒色ないし灰色の細礫が含まれている。

#### I群1類c

貝殻腹縁圧痕文と沈線文が施される土器群である。すべて胴部片である。貝殻腹縁圧痕文は横位と斜位に施されており、横位に5～7条の沈線を引いて横区画がなされ、上位には斜位に3本1組とする平行沈線による直線を右斜め方向と左斜め方向に交互に描き、縦位の区画を施した後、貝殻腹縁圧痕文が施されている。色調は、にぶい黄橙色で、胎土は、黒色ないし灰色の細礫が含まれている。焼成も良好である。

#### I群2類

おもに貝殻条痕文が施される土器群である。口縁部片・胴部片・底部片がある。83は口縁部片である。口唇部に刻み目をもち、口縁部には横位に条痕文が施される。口端部は丸く整えられている。色調は暗褐色で、胎土は黒色ないし灰色の細礫が含まれる。

87は横位と縦位に条痕文が施され、器表面から穿孔された径1cmほどの円孔をもつ。色調は暗褐色で、胎土は黒色ないし灰色の細礫が含まれている。

84・85は胴部片で、斜位と縦位に貝殻条痕文が施されており、85は内面にも貝殻条痕文が斜位に施される。6は貝殻条痕文が縦走する。82は、貝殻条痕文・押し引き文が横走する。色調は明褐色～暗褐色土で、胎土は、黒色ないし灰色の細礫が含まれている。

底部片は3点である。4は乳房状の形状を呈する尖底で、貝殻条痕文が斜位（左下がり）に施される。5は鋭角な円錐状を呈する尖底で、貝殻条痕文が横走する。色調は、にぶい黄橙で、胎土は、黒色ないし灰色の細礫が含まれ、内面はミガキが施されている。

### I 群 3 類

無文の土器群である。口縁部片・胴部片・底部片がある。88は口縁部片で、口縁部は平坦に整えられている。89・90は胴部片である。3は乳房状を呈する尖底の底部片である。色調はにぶい橙色を呈し、胎土は、黒色ないし灰色の細礫が含まれている。

## 第II群土器（第47～55・57～65図、写真図版34～42・44～51）

縄文時代中期に属する土器群で、器形や文様要素の違いから以下に細分される。

### II 群 1 類（第50・57・58図、写真図版37・44・45）

口縁部文様帯に幅広い、直線的・曲線的な隆帯の貼り付けにより文様を構成する土器群である。隆帯の上には原体圧痕が施されるものが多い。すべて破片資料であり、全体の器形を知り得るものはないが、大小の深鉢があるようで、口縁部は大きく外反し、弁状突起を有するものが多く見られる。波頂部には円孔をもつものもあり、隆帯間には原体や工具を用いて圧痕が施される。胎土は良く、焼成は良好である。色調は褐色～暗褐色を呈する。文様構成により a～d に細分される。

#### II 群 1 類 a

隆帯間に平行・波状・鋸歯状に原体圧痕が施される土器群である。

#### II 群 1 類 b

隆帯間に原体圧痕を用いた爪形の圧痕が施される土器群である。

#### II 群 1 類 c

隆帯間に工具を用いた爪形の圧痕が施される土器群である。

#### II 群 1 類 d

細い隆帯の貼り付けにより文様が描かれる土器群である。沈線を沿わせて、隆沈線となっているものもある。器形は平縁で、外反し、胴部がやや張る深鉢である。口縁部に小波状の隆帯を巡らし、円文・渦文・横S字状文を配している。

### II 群 2 類（第47・57図、写真図版34・44）

半截竹管工具による平行沈線や波状文、押し引き刺突文が施される土器群である。器種は深鉢と浅鉢で、胎土は良く、焼成は良好である。器壁は薄い。色調は褐色～灰黄色を呈する。

### II群3類 (第47・57図、写真図版34・44)

隆帯・沈線・刺突文・粘土紐貼り付けなどの組み合わせにより文様が施される土器群である。器種は深鉢である。口縁部に横楕円形に区画を構成し、沈線・刺突による文様を施すもの。口縁部に波状または平行沈線を施すもの。粘土の貼り付けを伴うものなどがある。胎土は細礫が混入し、焼成は良好である。色調は、にぶい褐色～暗褐色を呈するものが多い。

### II群4類 (第47・58図、写真図版34・45)

弁状突起を有する土器群で、隆帯あるいは波状隆帯で文様が描かれるものである。波頂部に隆帯により渦文・円文が描かれ、突起の波頂部を起点に、左右から押しつぶしたような波状の粘土紐を貼り付けによる文様が描かれる。原体圧痕が施されるものもある。器種は深鉢で、口縁部が外反するものが多い。胎土は良く、焼成は良好である。色調は褐色～暗褐色を呈するものが多い。

### II群5類 (第48・49・59図、写真図版35・36・40・46)

原体圧痕を多用して文様が描かれる土器群である。器種は深鉢である。原体圧痕のみで文様が描かれるものと、隆帯に沿うように施されるものがある。文様は口縁部に集約される傾向があり、口縁部に帯状に原体圧痕が施されるものや、ループ状・波状・矢羽状に施されるものがある。隆帯の貼り付けにより円文や渦文が描かれる。平縁のものが多いが、小突起を有するものもある。地文は綾絡文・羽状縄文がみられる。胎土は、細礫を含み焼成は良好である。色調は暗褐色～黒褐色を呈するものが多い。

### II群6類 (第49～53・60～64図、写真図版36～41・47～51)

隆帯・沈線・隆沈線により文様が描かれる土器群である。後述のII群7類と明確な区別をなしえないものもある。器種には、深鉢と浅鉢があり、深鉢の器形にはキャリパー形と口縁部が外反する器形がある。キャリパー形の土器は平縁のものと波状口縁のものがあり、文様は口縁部に施され、胴部は地文のみのものである。文様は、隆帯・沈線・隆沈線により直線文・波状文・山形波状文・曲折文・渦文が描かれる。文様の上下端の接点には縦位の刻み目が施されるものがある。地文は胴部は縦回転・口縁部は横回転に施されるものが多い。大型の深鉢では、山形や横S字状・渦状の突起を有するものもある。

口縁部が外反する器形では頸部に横位に平行沈線が巡らすものが多く、また口縁部直下に縦位の刻み目や原体圧痕が施される。頸部に無文帯をもつものもある。胎土は良く、焼成は良好である。色調は褐色～暗褐色を呈するものが多い。

### II群7類 (第51・65図、写真図版31・51)

隆沈線・隆帯・沈線により文様が描かれる土器群である。隆沈線は一体化し、調整が施される。器種は深鉢で、器形は、キャリパー形や樽形を呈するものと、口縁部が外反する器形があ



る。口縁部が外反する器形は、頸部は無文帯となり、口唇部は凹状に窪むものがある。波状口縁で、波頂部には渦文が施されるものもある。胎土は良く、焼成は良好である。色調は黄褐色～暗褐色を呈する。

II群8類 (第54～55図、写真図版41・42)

II群に属すると思われるが、地文のみの土器群で詳細が不明のものである。全体の器形を知り得るもの、底部片、小型の土器を一括した。

II群8類 a

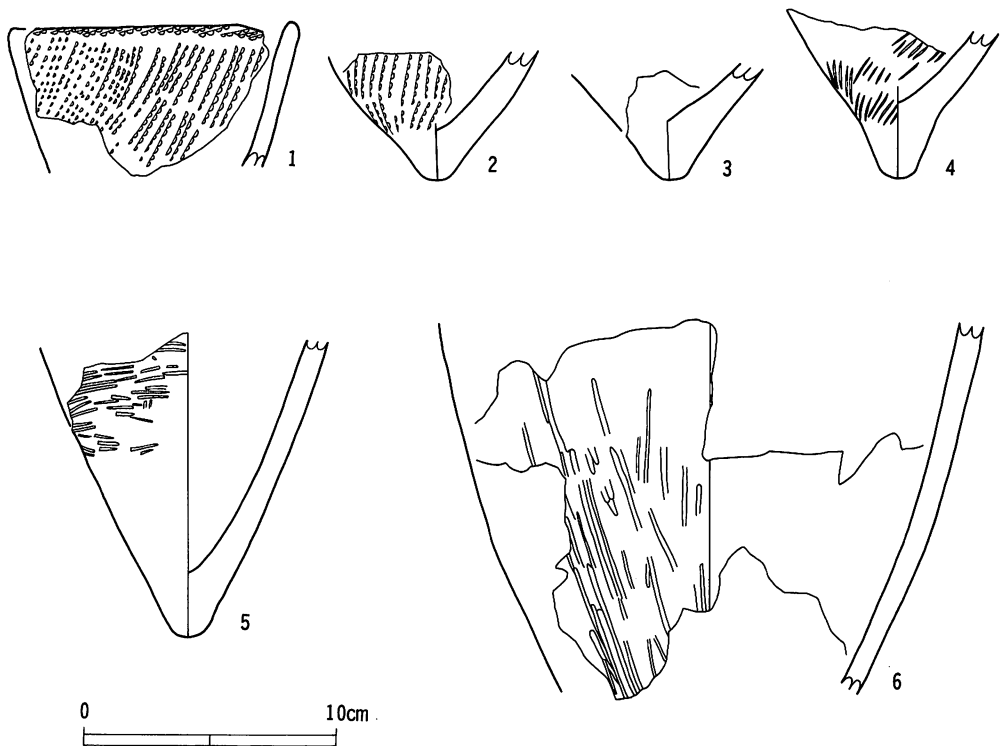
地文のみの土器で、深鉢と浅鉢がある。器形から、41はII群5類、42はII群6類に属するものと推定される。41は底部に木葉痕を有する。

II群8類 b

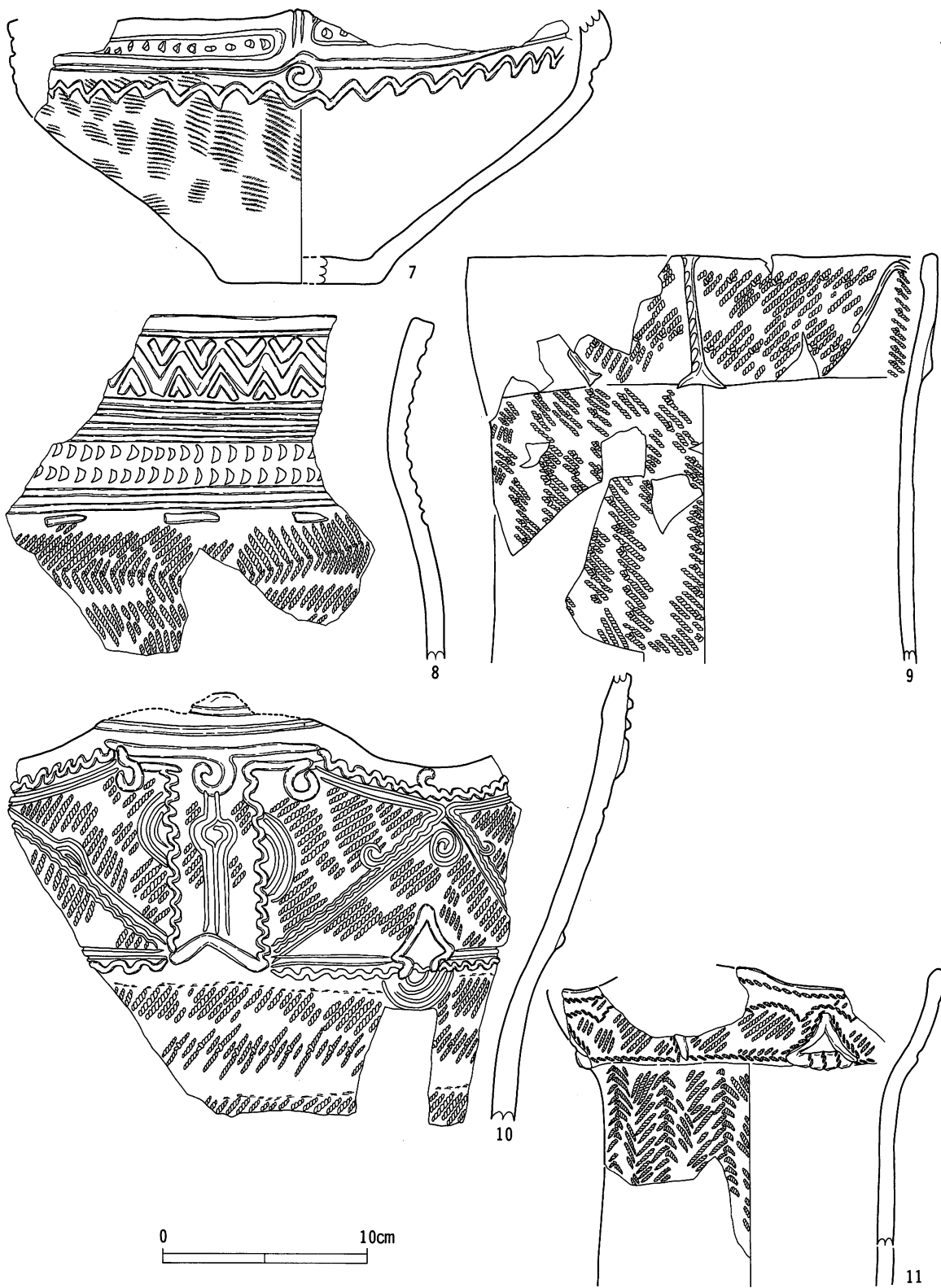
底部片を一括する。底部に網代痕を有するものがある。47～49・51は底部片でここに含めたが、文様からII群7類に属するものと思われる。

II群8類 c

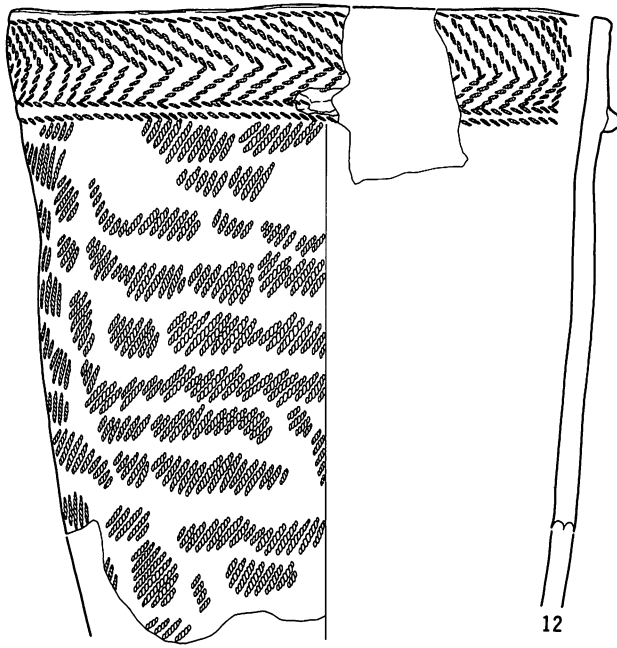
小型の土器を一括した。無文のものと地文が施されるものがある。



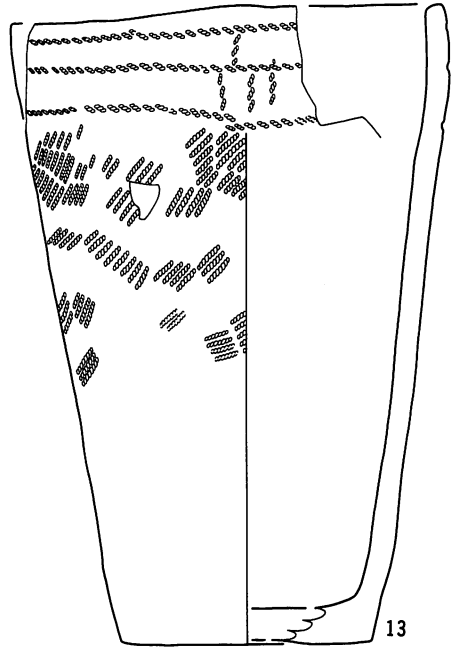
第46図 遺構外出土遺物：土器(1)



第47圖 遺構外出土遺物：土器(2)



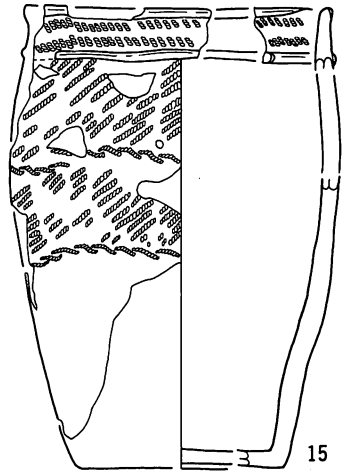
12



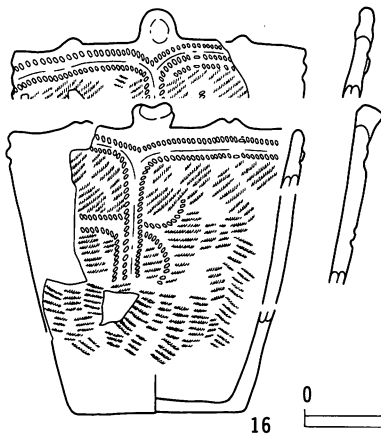
13



14

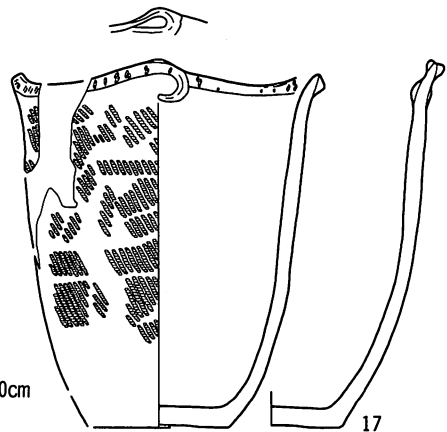


15



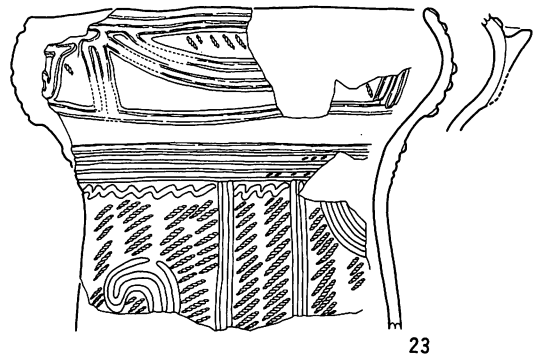
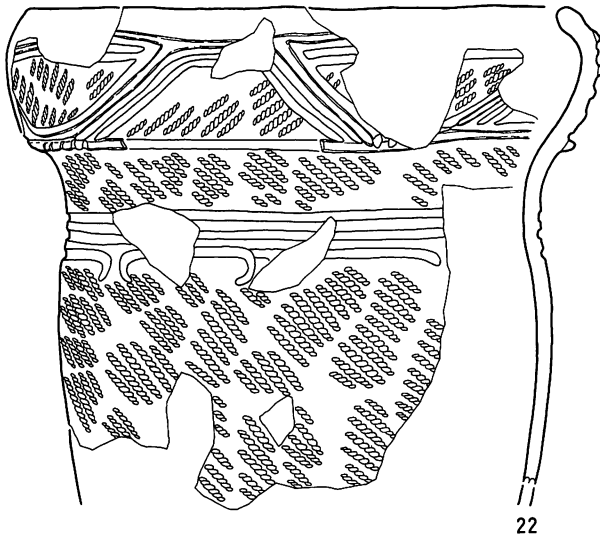
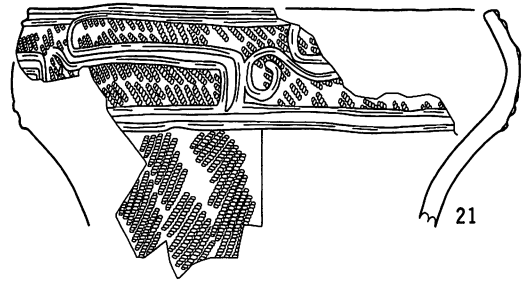
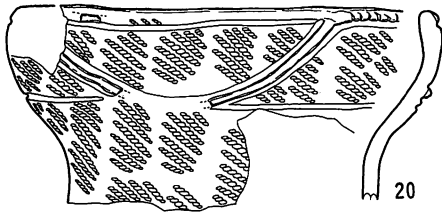
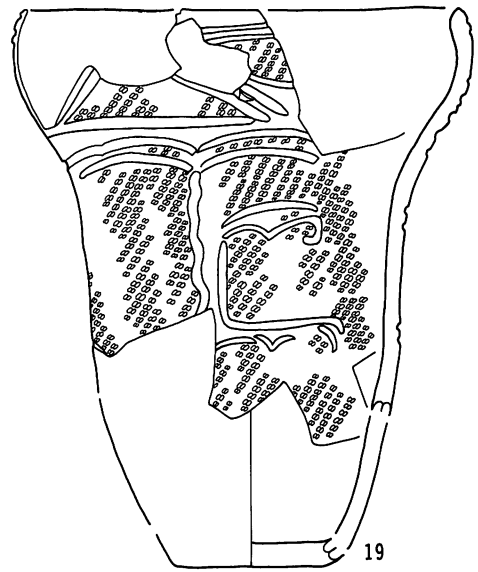
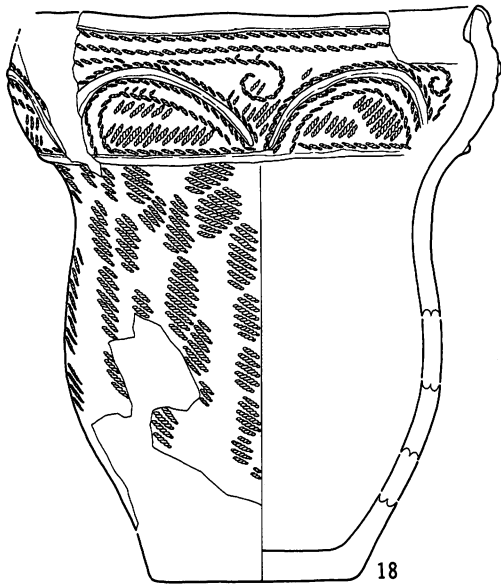
16

0 10cm



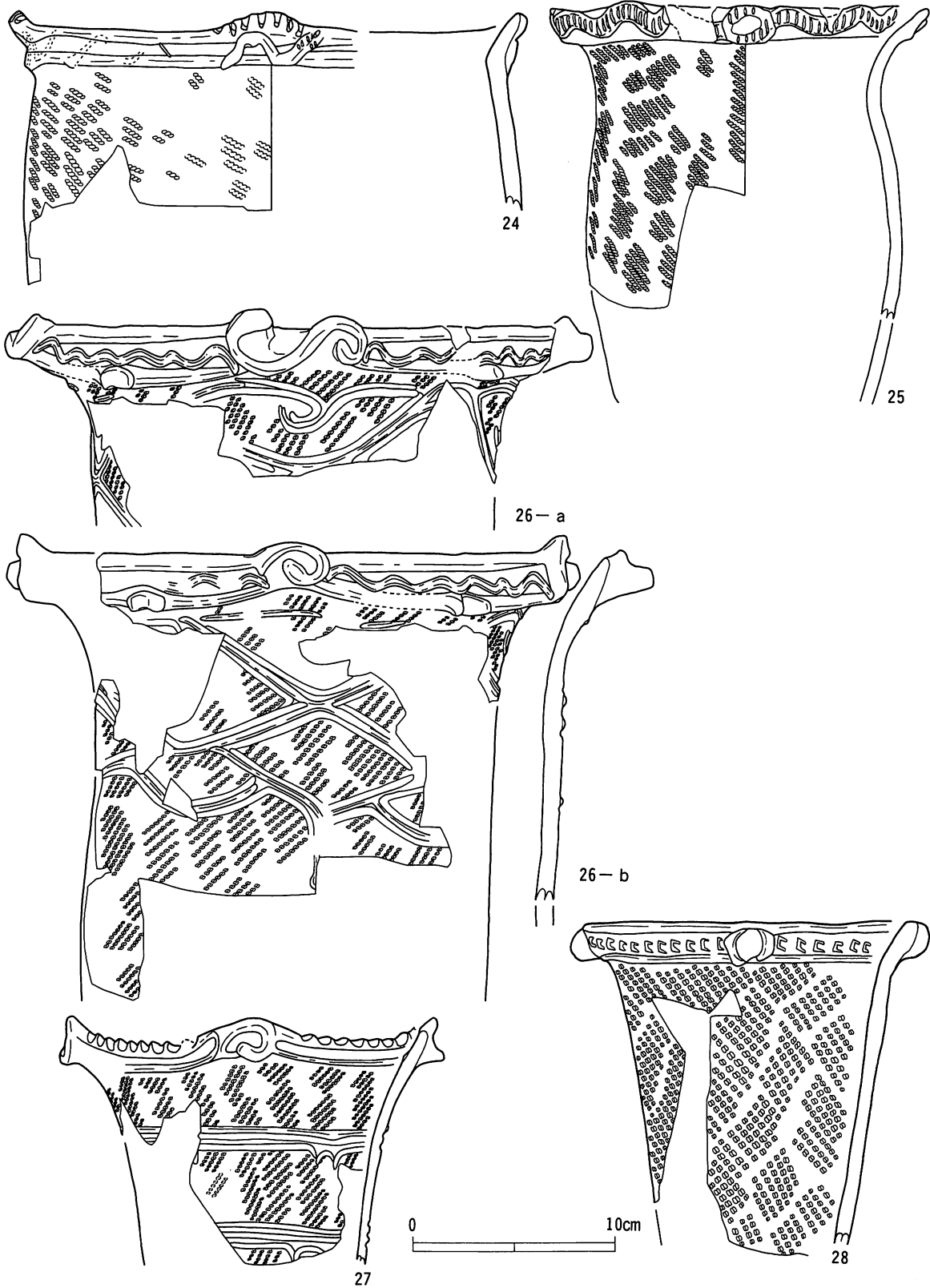
17

第48図 遺構外出土遺物：土器(3)

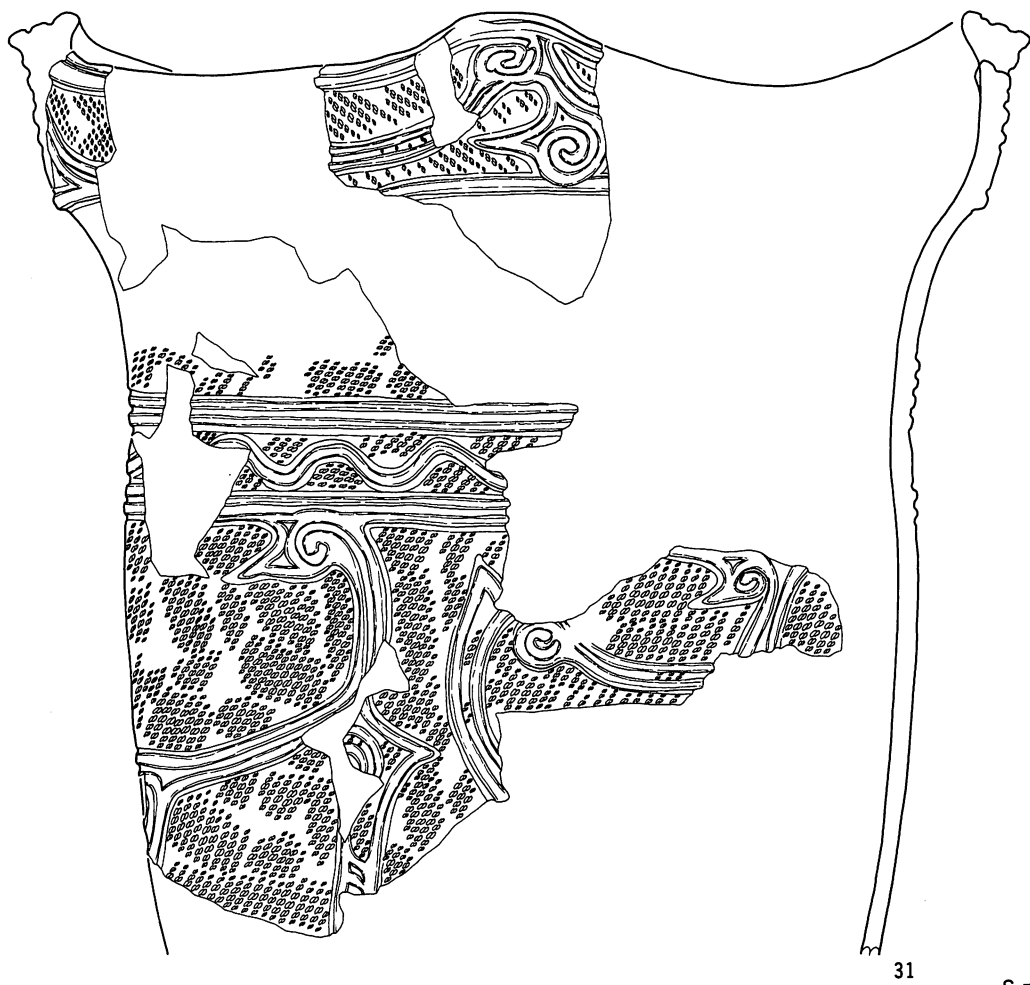
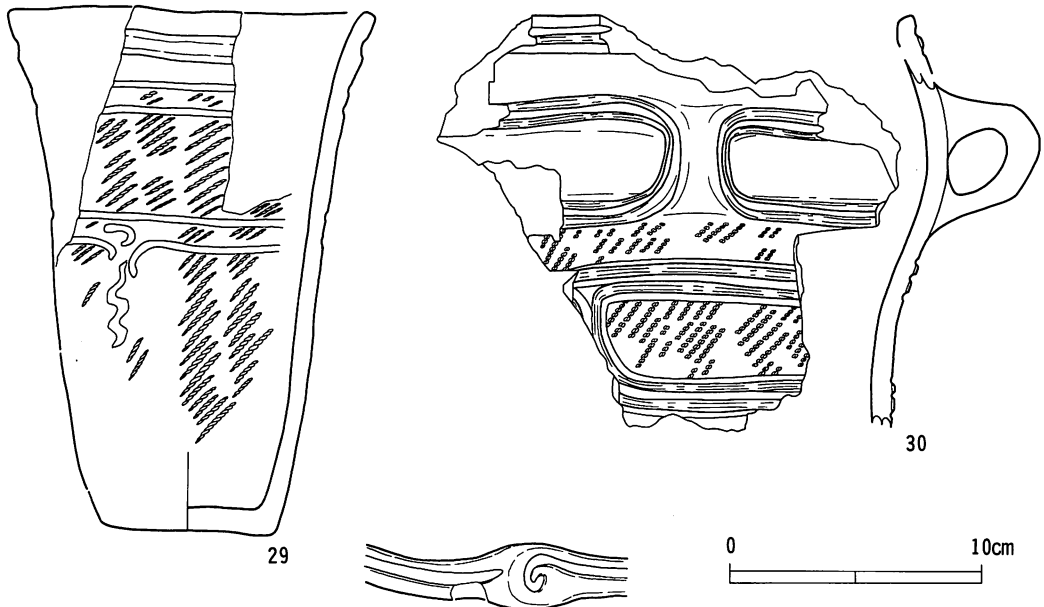


0 10cm

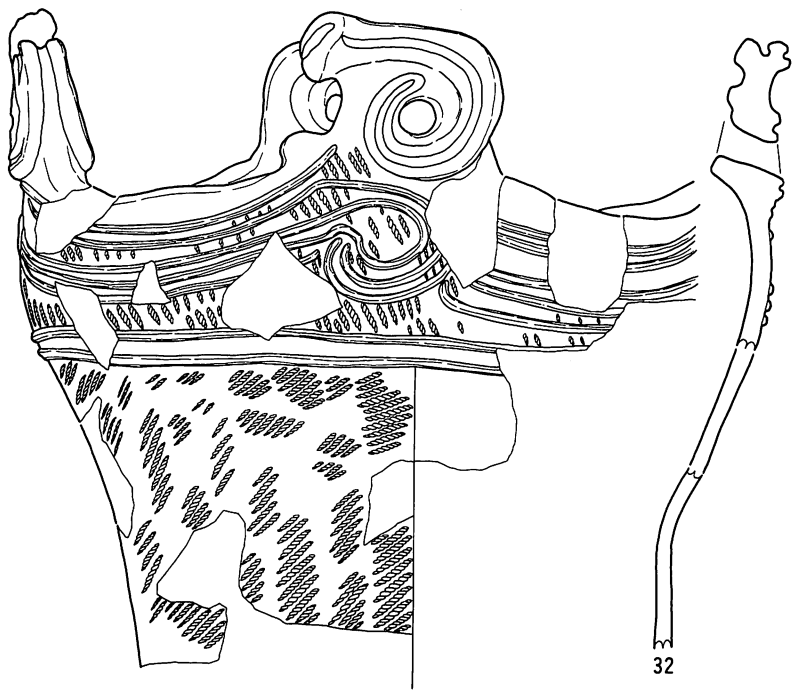
第49図 遺構外出土遺物：土器(4)



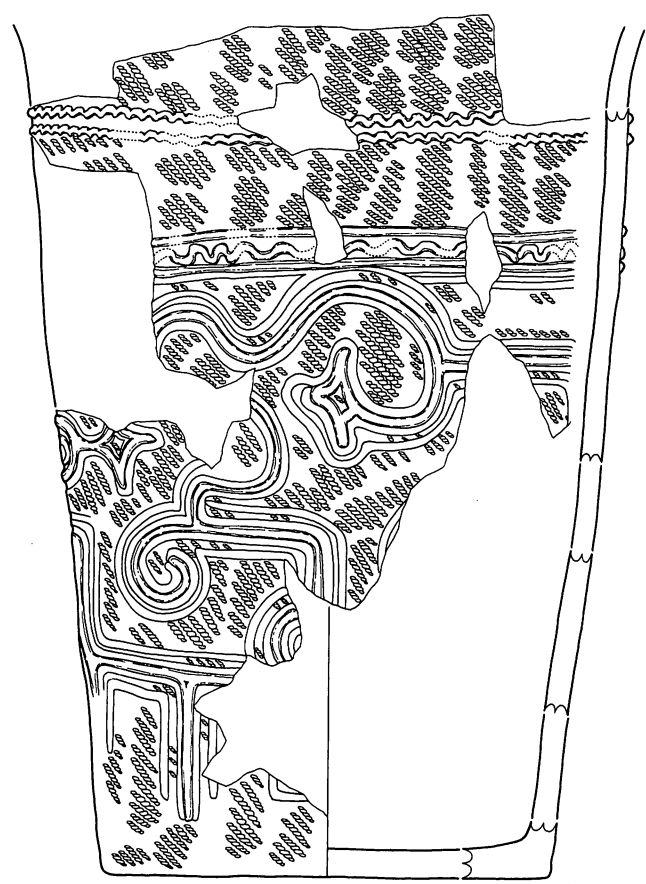
第50図 遺構外出土遺物：土器(5)



第51図 遺構外出土遺物：土器(6)



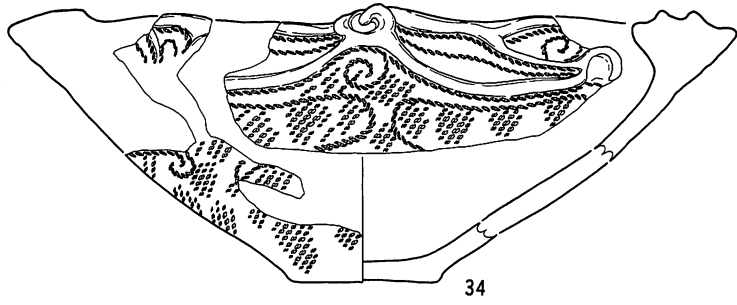
32



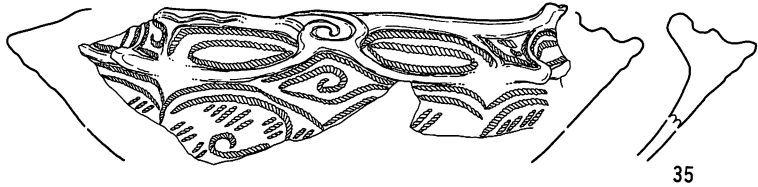
33

0 10cm

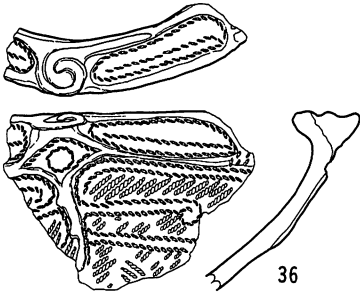
第52図 遺構外出土遺物：土器(7)



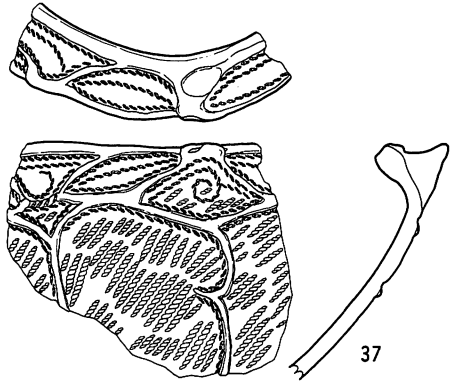
34



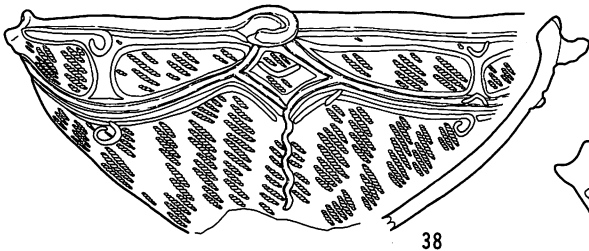
35



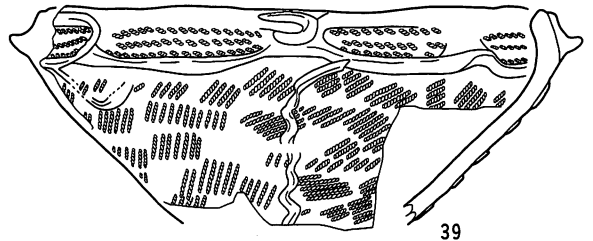
36



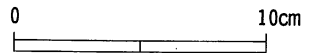
37



38

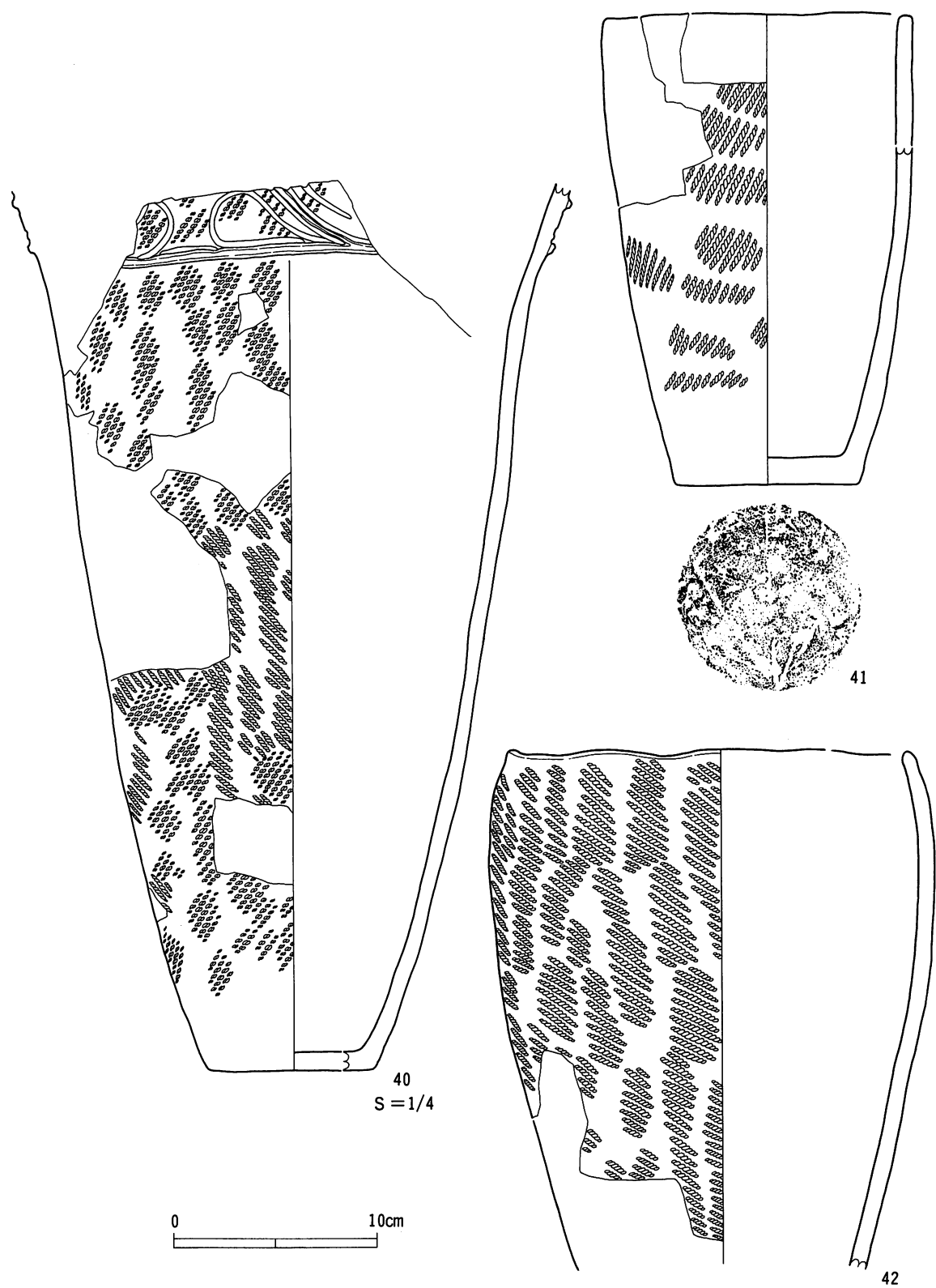


39

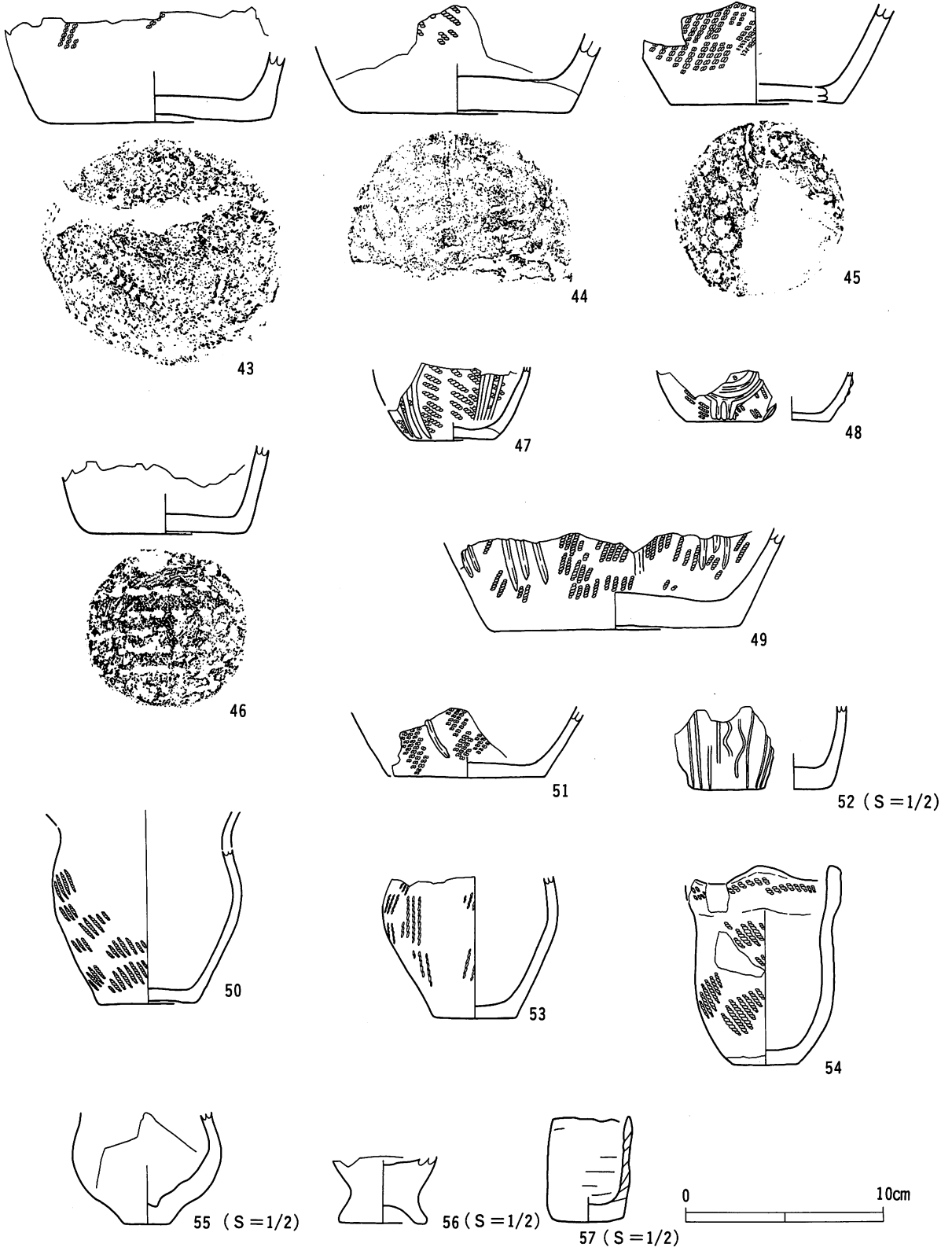


第53図 遺構外出土遺物：土器(8)

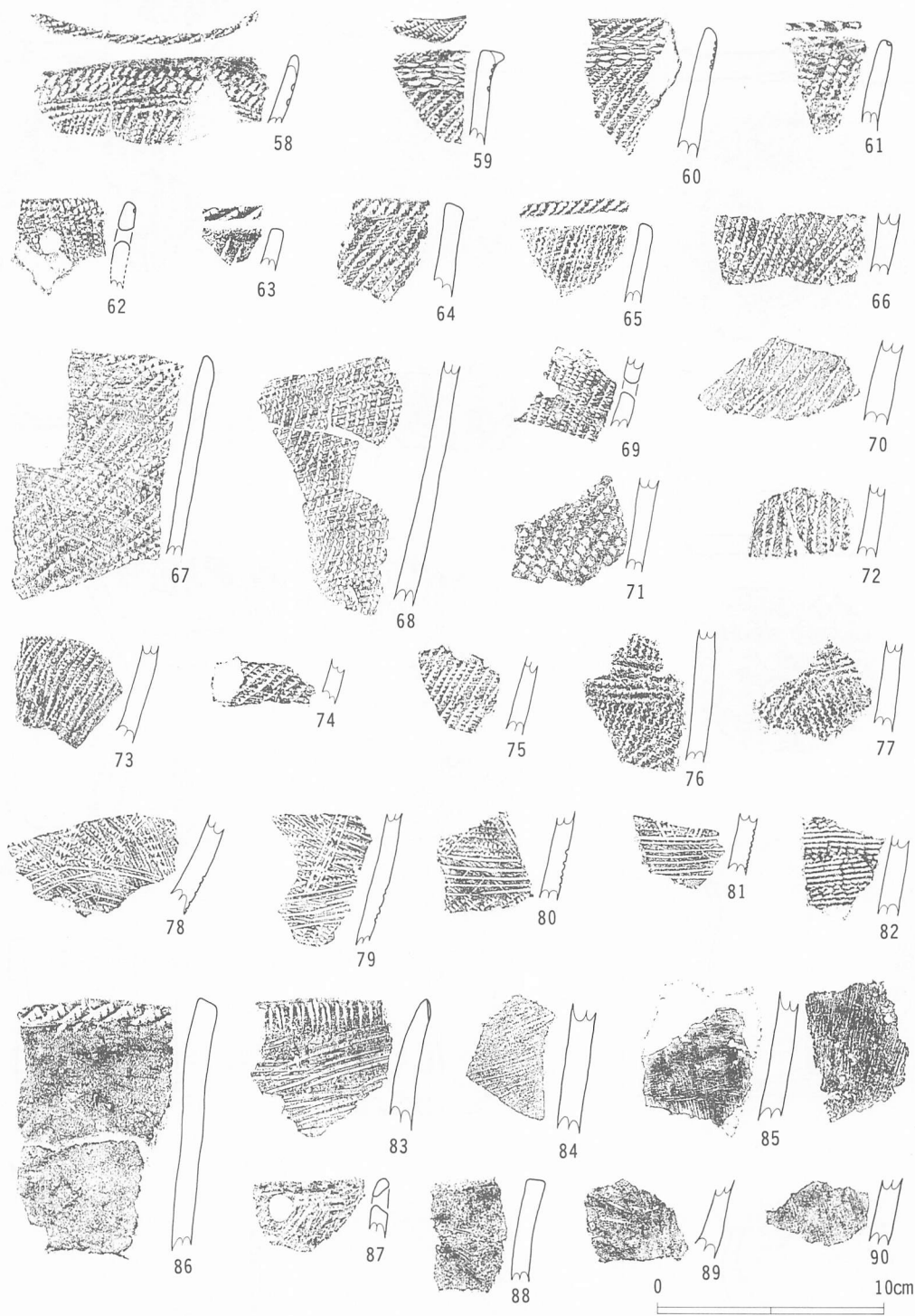




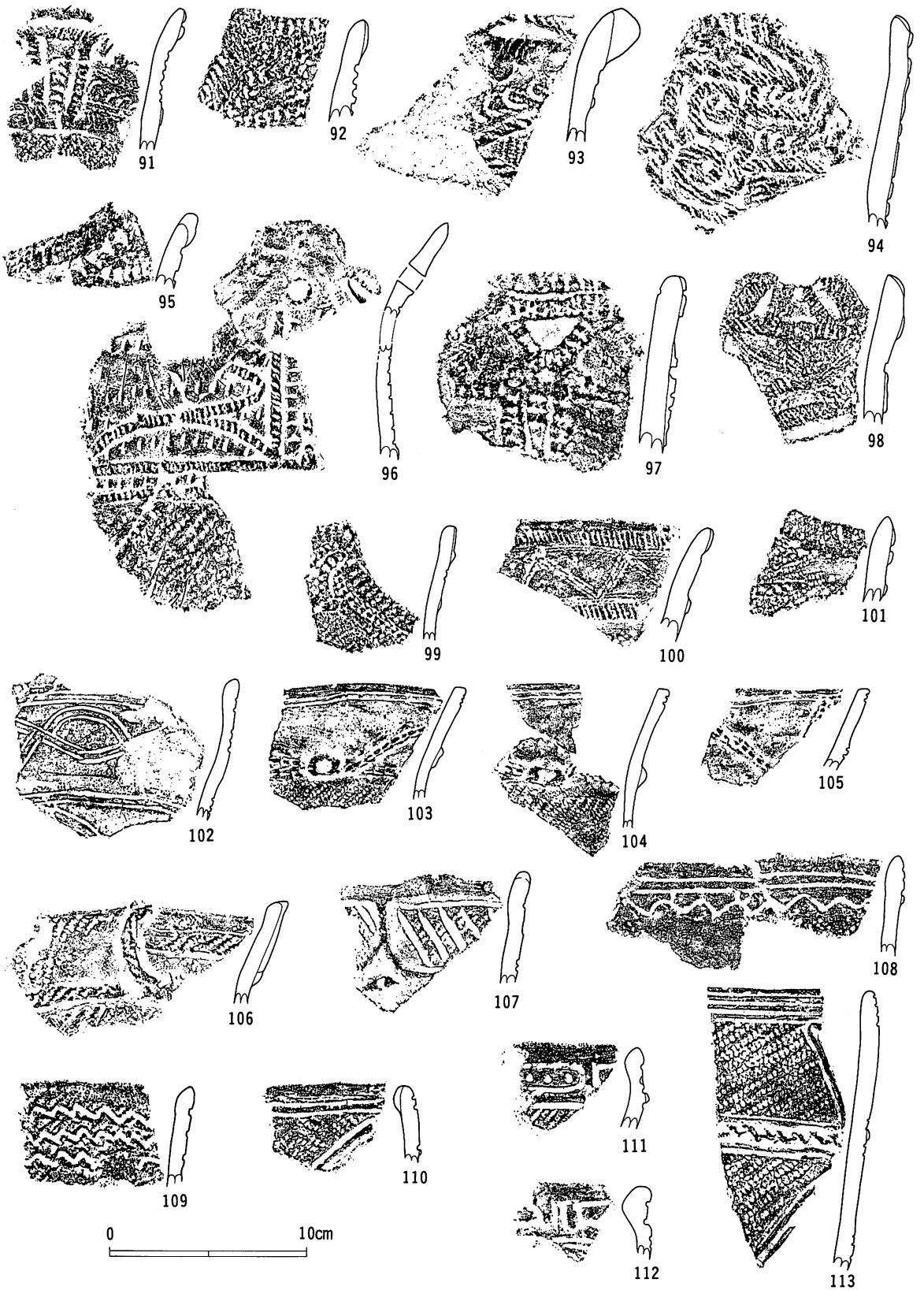
第54図 遺構外出土遺物：土器(9)



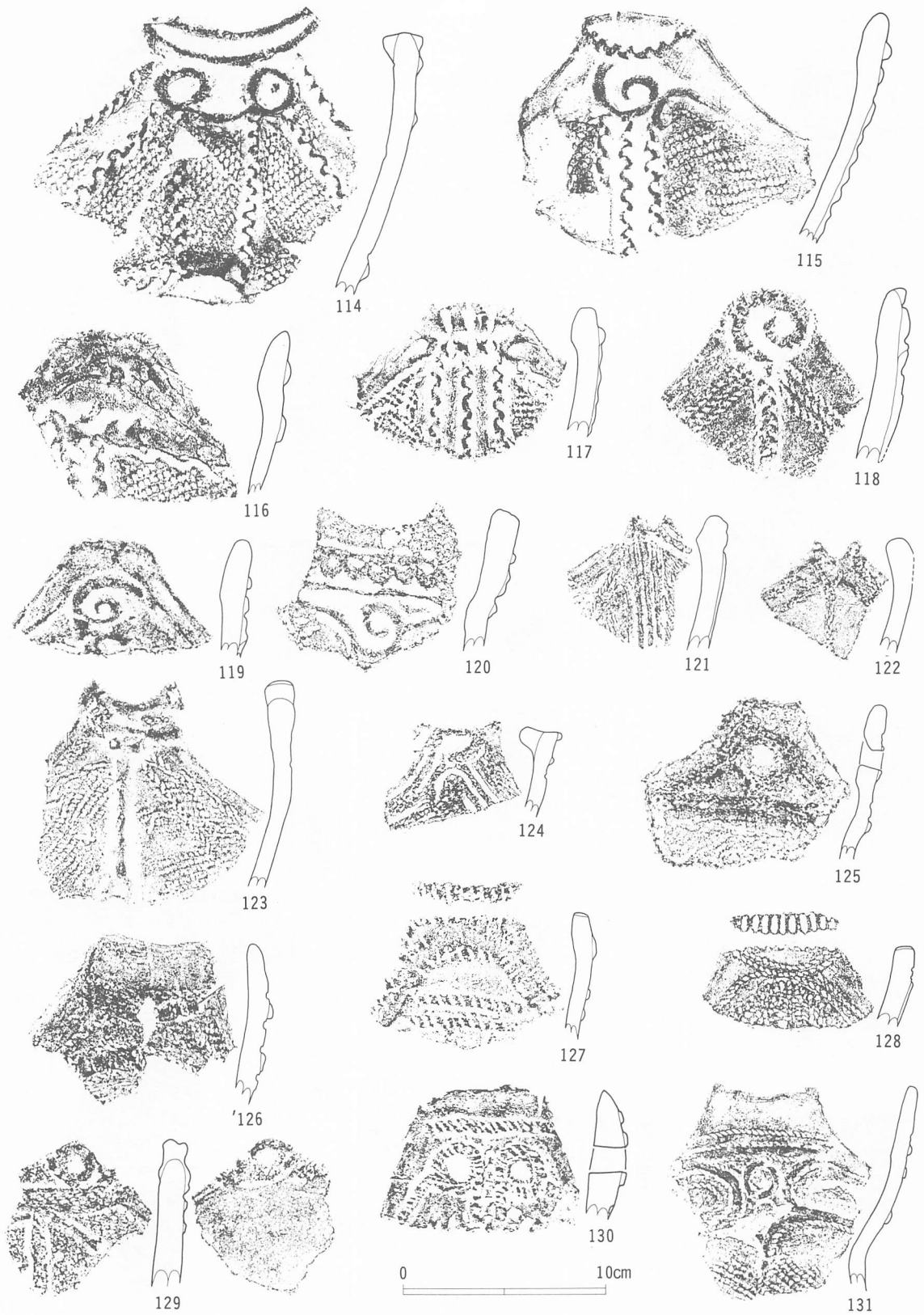
第55圖 遺構外出土遺物：土器(10)



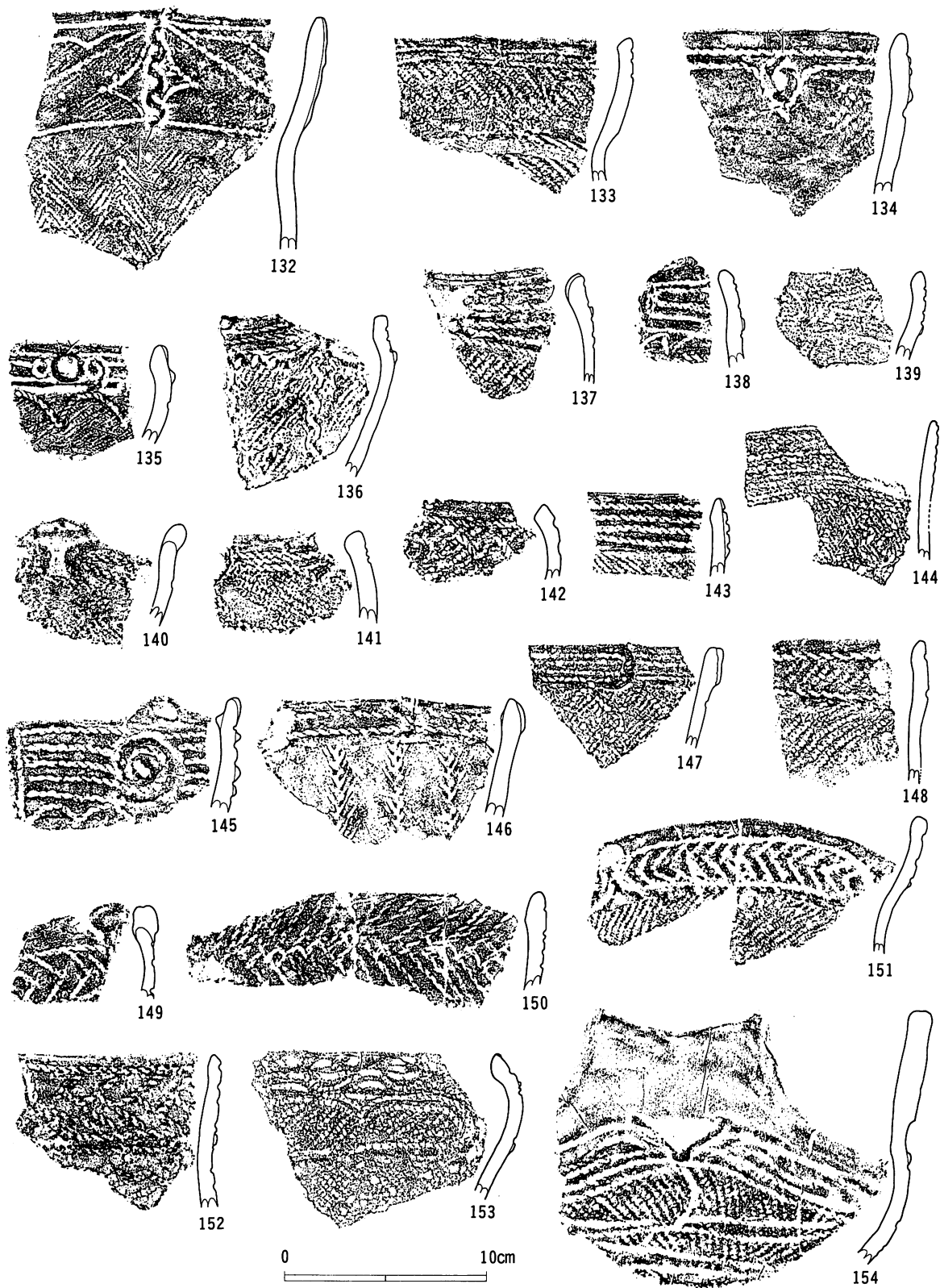
第56図 遺構外出土遺物：土器(11)



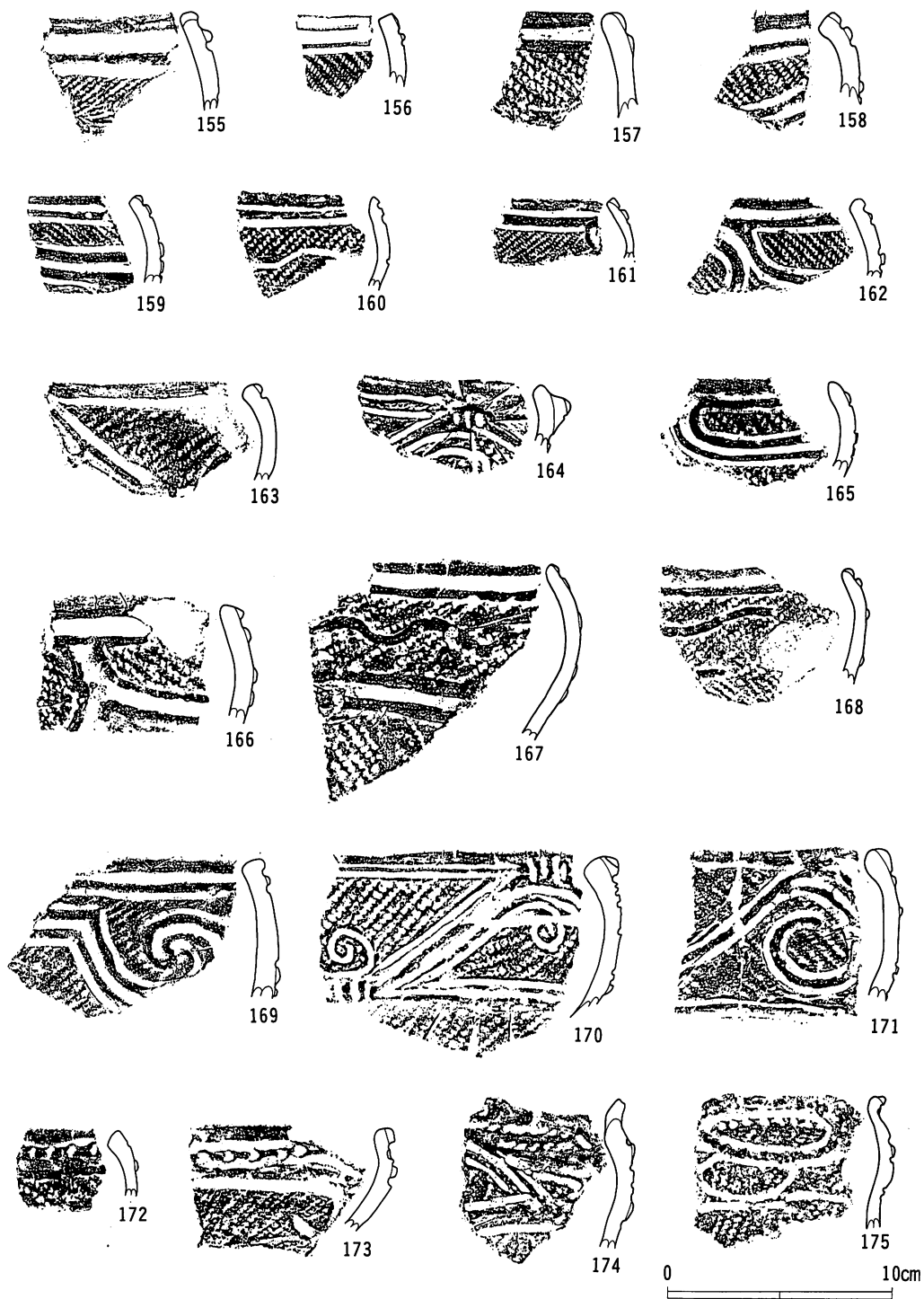
第57图 遺構外出土遺物：土器(12)



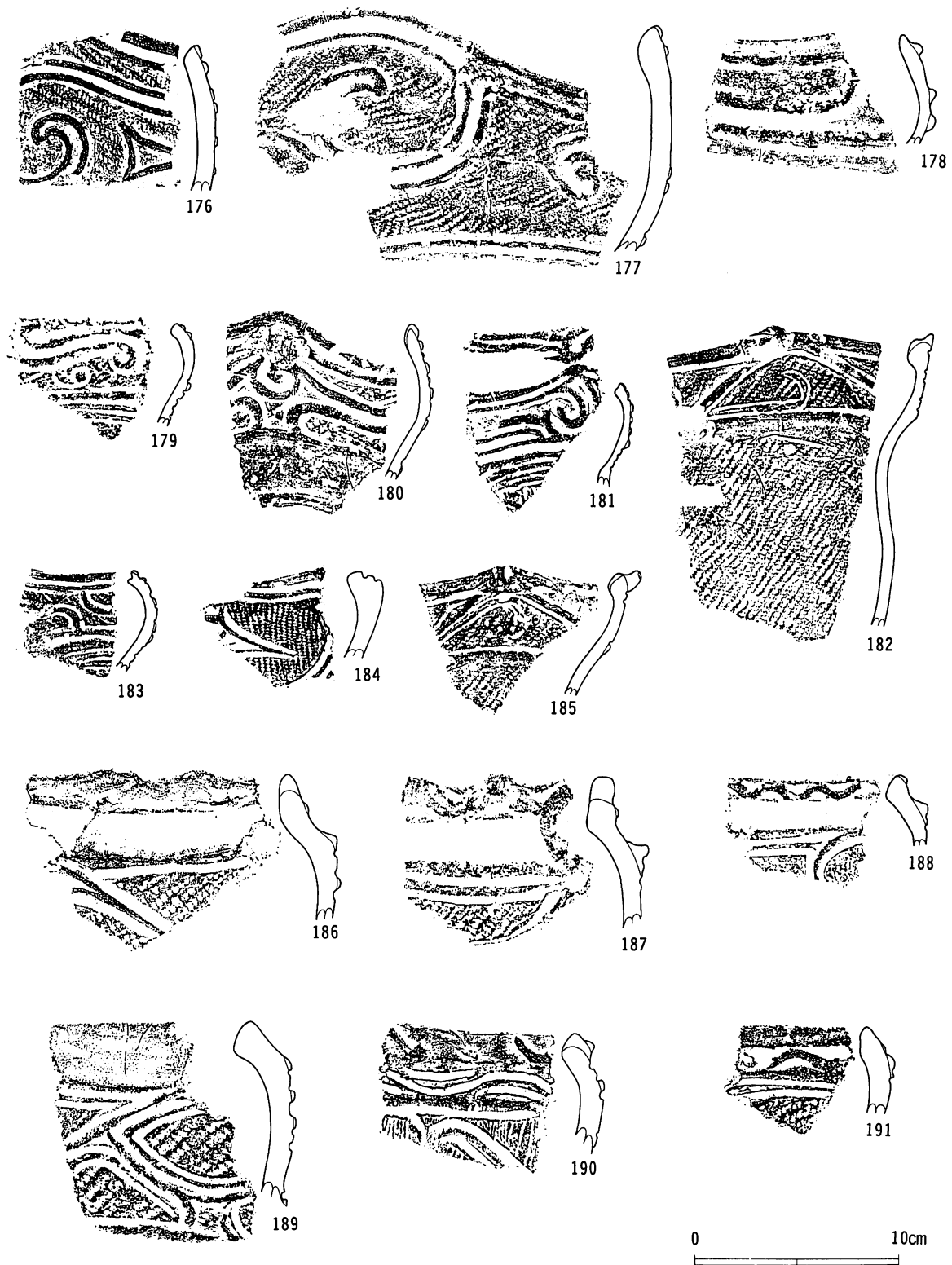
第58圖 遺構外出遺物：土器(13)



第59図 遺構外出土遺物：土器(14)

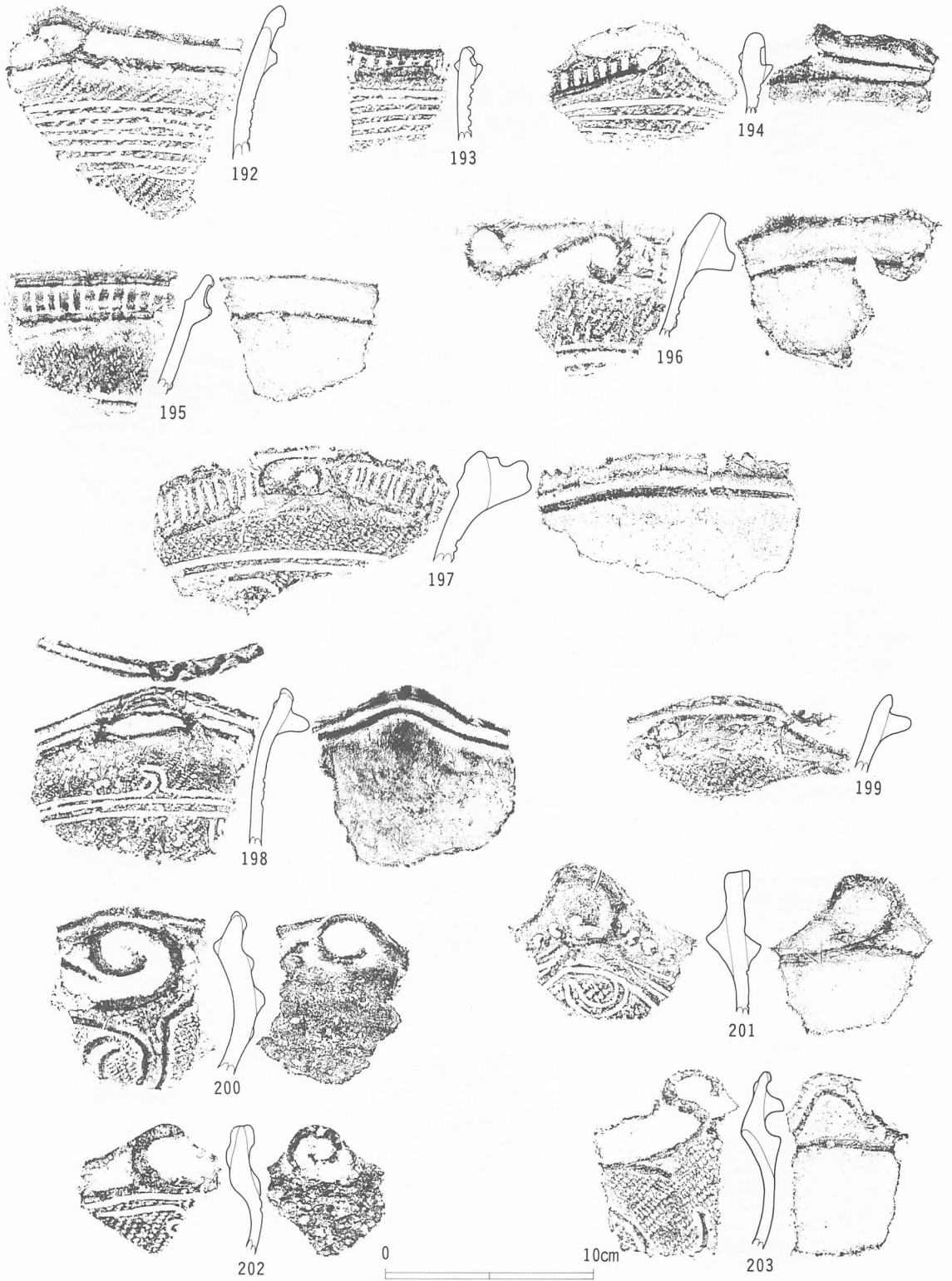


第60图 遺構外出土遺物：土器(15)

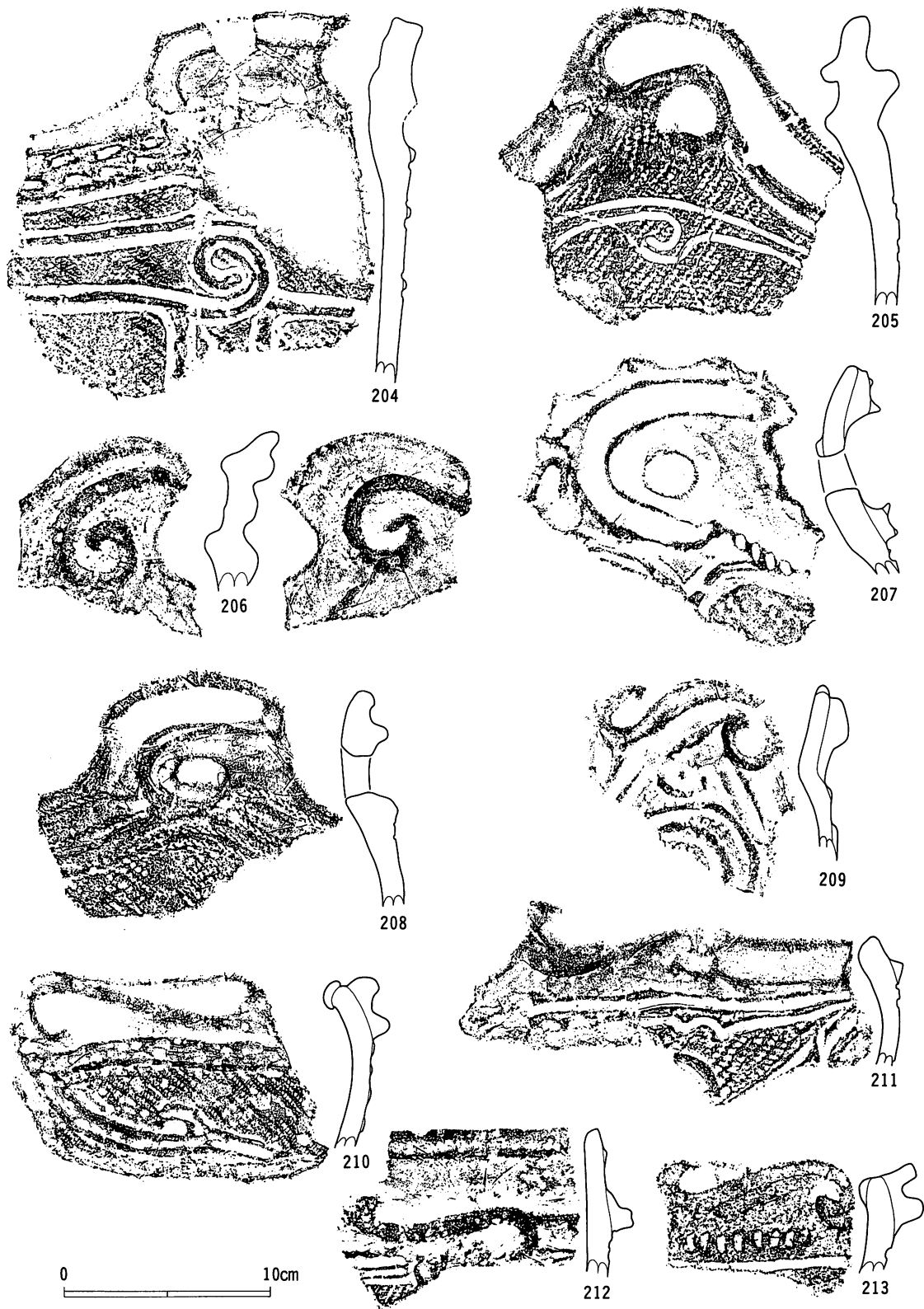


第61圖 遺構外出土遺物：土器(16)

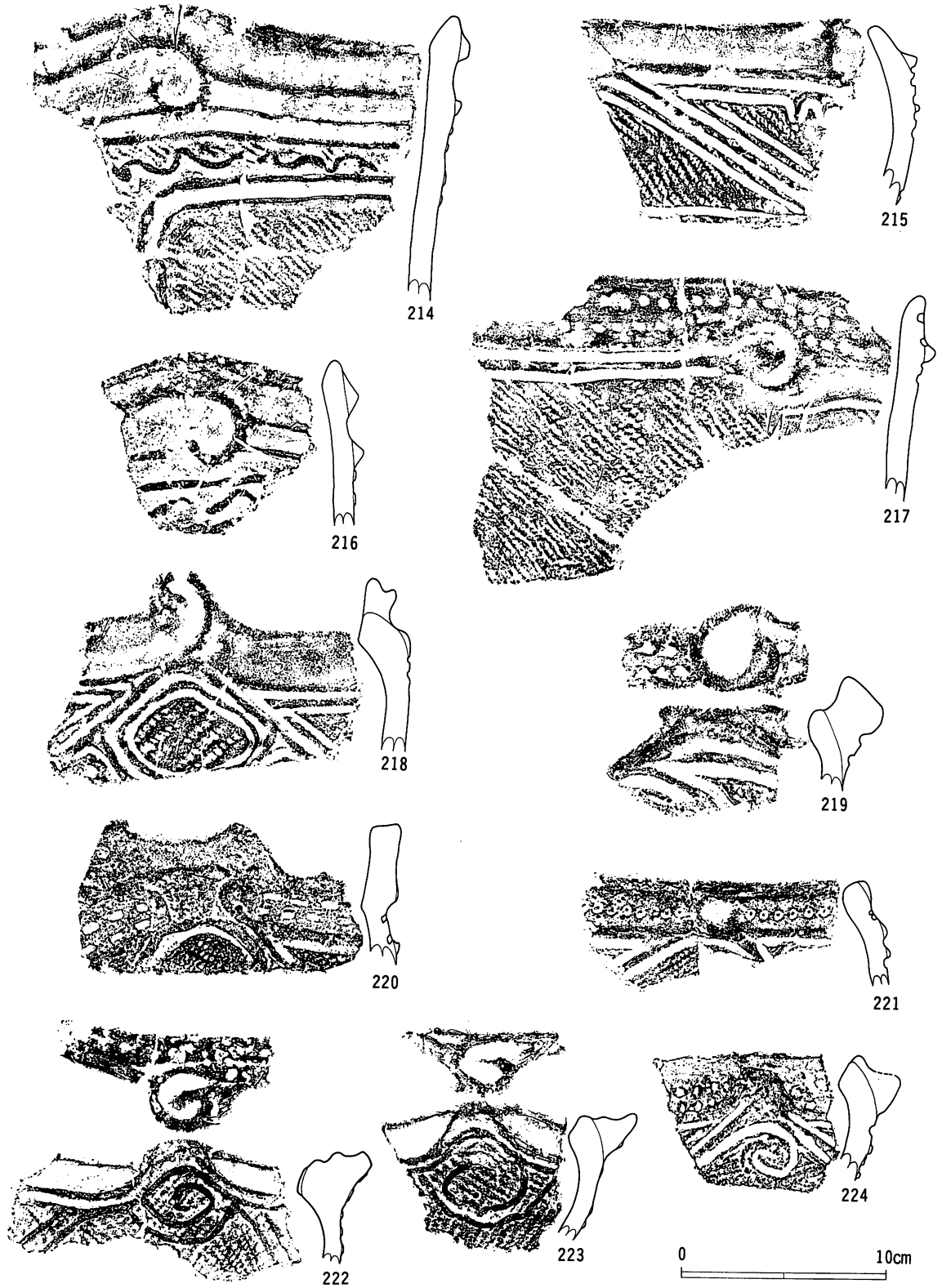




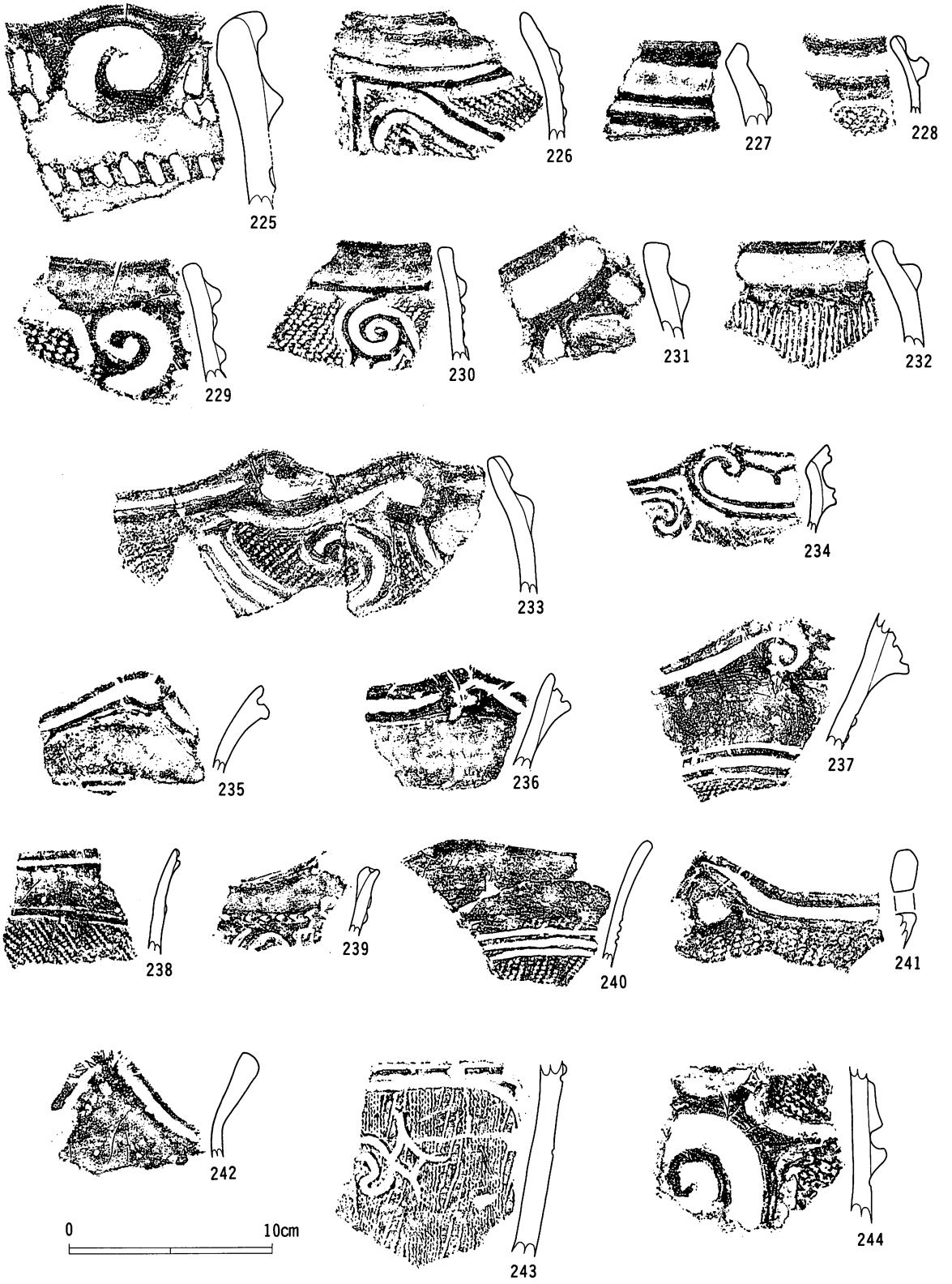
第62圖 遺構外出土遺物：土器(17)



第63圖 遺構外出土遺物：土器(8)



第64図 遺構外出土遺物：土器(19)



第65圖 遺構外出土遺物：土器(20)

## 2. 土製品（第66図、写真図版52）

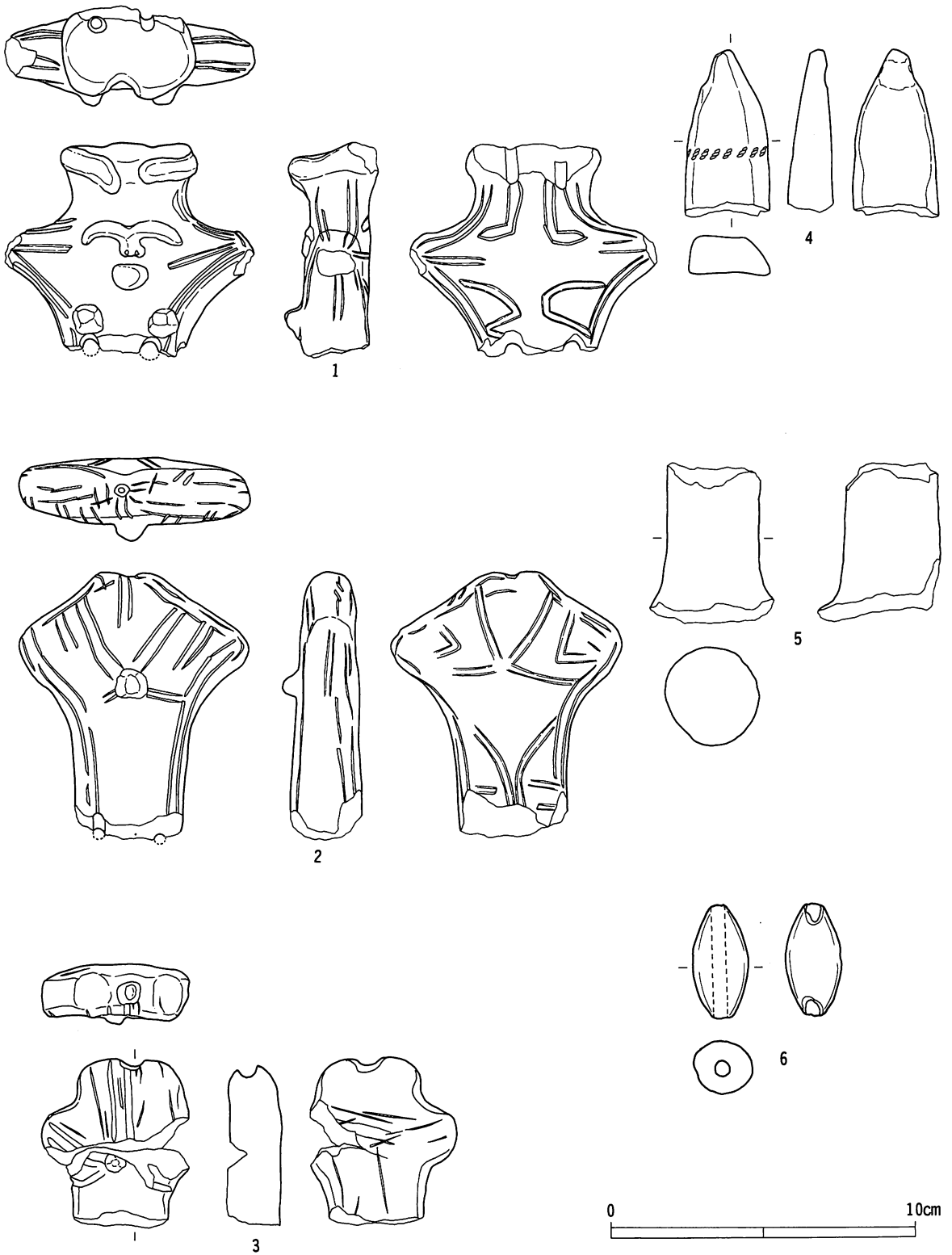
6点出土している。1～3は板状土偶の破損品で、B区遺物包含層からの出土である。1は、後頭部・腕部の先端と胴部下半を欠く破損品である。粘土の貼り付けで目鼻や乳房が表現され、抉りを入れて口を開けた状態が表現されている。後頭部には斜位に径3mmほどの貫通孔が、乳房の下位には水平に径3～4mmほどの貫通孔が、それぞれ2個1対で穿たれている。胴部全体に半截竹管による平行沈線で文様が施されている。

2は胴部下半を欠き、胴部全体に半截竹管による平行沈線で文様が施されている。胴部中央には瘤状の粘土の貼付けを一つもつ。頭部付近には径2mmほどの浅い刺突が施されており、胴部下半には2個1対の貫通孔がある。表面には微量の朱が付着している。1・2とも胴部の貫通孔の部分から欠損している。3は左腕部と胴部下半を欠く破損品で、沈線により施文され、胴部中央には瘤状の粘土の貼り付けの痕跡がある。ただし表面の剝落が激しく、詳細は不明である。頭部付近には径6mmほどの窪みがつくられている。1～3とも暗褐色～褐色を呈し、胎土には細礫・粗砂を含み、器面はミガキが施されている。これらの時期は、文様の様相や胎土から縄文時代中期と思われる。

4は斧形土製品の破損品と思われる。原体圧痕が横位に1条施され、器面にはミガキが施されている。5は土偶の脚部の類か。6は土錘で、縦位に径3mmほどの貫通孔をもち、無文である。

表2 土偶・土製品観察表

図版No	No	出土地点	層位	器種	大きさ(cm)			文様の特徴	分類
					最大長	最大幅	最大厚		
66	1	Z17L22	II b層	土偶	(7.0)	(7.2)	3.0	粘土貼付 沈線 頭部と胴部に2個1対の孔	
66	2	Z17M24	II a層	土偶	(8.6)	7.1	2.5	粘土貼付 沈線 刺突 胴部に2個1対の孔	
66	3	Z17K24	II b層	土偶	(5.5)	(4.9)	1.2	粘土貼付 沈線	
66	4	Z18F01	不明	土製品	(5.4)	3.2	1.5	原体圧痕	
66	5	Z17D24	I層	土製品	(5.3)	4.1	3.2	無文	
66	6	Z17G23	I層	土製品	3.7	1.8	1.8	無文 有孔	



第66図 遺構外出土遺物・土製品

### 3. 石器（第67～84図、写真図版53～69）

石器として取り上げた資料は164点である。使用痕のない石器は含まれていない。器種と図示した点数は次のとおりである。石鏃29点、石槍4点、石匙7点、石篋7点、両極石器3点、削搔器29点・磨製石斧10点・打製石斧6点・磨石類（磨石・凹石・敲石・特殊磨石）62点 石皿4点・石棒1点である。観察表における石質の産地は略号で示してあるが、その対照表は101頁に記した。本文中における（ ）内の数字は該当する石質の個数である。

#### 石鏃（第67・68図、写真図版53）

29点出土している。大きさは長さ1.0～3.0cm、重量0.6～2.5gのものが多い。形態を分類すると、凹基無茎鏃7点・凸基有茎鏃16点・円基鏃4点、不明2点で、凸基有茎鏃が多い。凹基無茎鏃はすべて完形品で、抉りの浅いものと深いものがある。抉りの深いものは小型で側縁が丸みを帯び、抉りの浅いものは二等辺三角形に近い形状になる。凸基有茎鏃は破損品が多く、破損部位は、先端部や先端部と基部が多い。3にはタール状の付着物がある。

石質は珪質泥岩(9)・粘板岩(12)・凝灰質硬質泥岩(4)・流紋岩(3)・硬質泥岩(1)である。形態による石質の片寄りには明瞭ではないが、円基鏃はすべて粘板岩である。

#### 尖頭器（第68図、写真図版53）

石鏃より大型で、槍先状に加工されたものである。4点出土している。32・33は基部に類するものと推定される。石質は粘板岩・凝灰質硬質泥岩・流紋岩・硬質泥岩である。

#### 石匙（第69図、写真図版54）

くびれた摘みがつくり出され、残る縁辺の周辺に刃部加工が施された石器を石匙とした。形態を分類すると、刃部が石器の軸に平行な縦形が3点、直行する横形が4点である。刃部は両面加工されているものが多い。横型はすべて完形品で、縦型は刃部の先端を欠くものがある。38は背面に自然面を残している。

石質は珪質泥岩(3)・粘板岩(2)・凝灰質硬質泥岩(1)・流紋岩(1)で、横形は珪質泥岩が多い。

#### 石篋（第70図、写真図版55）

所謂へら状石器と呼ばれる長形状の定形的な石器を一括した。搔器との識別は刃部の角度が鋭角であること、打製石斧との識別は主に片面調整であること等を識別要素とした。

7点出土している。刃部に最大幅をもつばち形を呈するものが多い。刃部は片面加工がおもで、2側縁に加工したものが多い。

石質は珪質泥岩(1)・粘板岩(4)・硬質泥岩(1)・凝灰質硬質泥岩(1)で、粘板岩が多い。

#### 両極石器 (第70図、写真図版55)

形状は台形や長方形を呈し、上下両端に段階状の剥離を有する石器で、2個1対もしくは4個2対の刃部をもつ。3点出土している。53はやや大型である。

石質は珪質泥岩(1)・粘板岩(2)である。

#### 削搔器 (第71・72図、写真図版56・57)

定型化していない不定形石器を含めて分類した。削る・搔くの機能が考えられるものである。29点出土している。おもに剥片の側縁部に鋭角な刃部加工が施されるもの、鈍角で厚い刃部加工を有するものがあり、刃部の形態には、直刃・凸刃、凹刃などがある。縦長の剥片は両側縁に刃部加工されるものが多い。先の尖った剥片には先端を中心に側縁まで刃部加工されている。48は錐、49は石匙などの摘みに類するものと思われる。50は鏝か錐の未製品の類と推定されるものである。

石質は、珪質泥岩(3)・硬質泥岩(8)・粘板岩(11)・流紋岩(1)・凝灰質硬質泥岩(6)である。

#### 磨製石斧 (第73・74図、写真図版58・59)

研磨により石斧の形状に整えたものである。10点出土している。すべて破損品で刃部を欠くものが多く、基部や基端のみのものがある。横断面形は楕円形のものが多い。92は小型で刃部を欠く破損品である。88は1側面に磨面が形成されている。

石質は濃緑色凝灰岩・粘板岩が多く、輝石分岩・硬質泥岩も用いられている。

#### 打製石斧 (第75図、写真図版59)

主に打欠きにより斧形に整形されたものである。4点出土している。いずれも両面加工されている。95・96は破損品で、両面加工されていることから打製石斧に類するものとしてここに含めた。

石質は、粘板岩(2)・凝灰質硬質泥岩(2)である。

#### 石鍬 (第75図、写真図版59)

主に打欠きにより斧型に整形されたものである。1点出土している。両面加工されている。石質は、粘板岩である。



#### 磨石類 (第75～83図、写真図版60～68)

使用痕によって区別されるが、素材となる石の形状も類似し、また一つの石で複数の機能を有するものが多いことから、磨石類として一括した。62点出土している。以下、磨石・凹石・敲打石・特殊磨石の順に記載する。

#### 磨石 (第75・76図、写真図版60・61)

平面形が円形または楕円形の礫の1面または2面に摩滅痕を有するいわゆる磨石である。15点出土している。105は楕円形を呈する礫の1側縁に、106は、扁平な円礫の周縁にざらざらした磨面をもつ。摩滅痕を有する磨石群と分けるべきであるが、後述する特殊磨石とも形態が異なることからここに含めた。

石質は両輝石安山岩(12)・両輝石安山岩溶岩(1)・安山岩(1)・凝灰質砂岩(1)で、両輝石安山岩が多い。

#### 凹石 (第77・78図、写真図版62・63)

平面形が円形または楕円形の礫の1面または2面に円錐状の凹みをもつものである。14点出土しており、磨面を併わせ持つものが6点ある。破損品は2点のみで磨石類のなかでは破損率は低い。

石質は両輝石安山岩(7)・両輝石安山岩溶岩(6)・凝灰質砂岩(1)があり、凹石のみのものには、両輝石安山岩溶岩が多く用いられている。

#### 敲打石 (第79図、写真図版64)

敲打によって生じたと考えられる潰れがみられるものである。6点出土しており、4点が磨石、2点が凹石との併用である。面や側縁や1端にあまり顕著でない潰れが見られる。

石質は両輝石安山岩(5)・濃緑色凝灰岩(1)があり、両輝石安山岩が多い。

#### 特殊磨石 (第80～83図、写真図版65～68)

自然石の側縁に研磨・敲打に使用された平坦な磨面をもつ石器を一括した。部分磨石とも言われるものである。通常の磨石とは、磨面の形成される箇所と、ややザラついた感触をもつ磨面をもち、石を加工して一定の磨面をもつことで区別した。また凹石・磨石でも側縁に平坦な磨面をもつものを含めた。27点出土している。素材の形状・加工の有無により細分できる。

a 横断面が扁平で凸レンズ状・楕円形のもので、ほとんど加工を施さないもの(4点)、側縁に加工を施しているもの(12点)、周縁に加工を施しているもの(2点)がある。

b 横断面が三角形の礫の頂部に磨面をもつもので、ほとんど加工を施さないもの(2点)、側縁に加工を施しているもの(5点)がある。

c 横断面が四角形のものである(1点)。

1側縁に使用痕をもつものが多いが、2側縁に使用痕をもつものもある(157・159)。敲打痕を長軸方向の端部にもつものもある。破損品が21点(75%)と多く、長軸の残存値は6.9~11.6cmである。完形品の長軸は11.6~16.8cmであり、機能面と直交する横方向に折半したもののようである。機能面の幅は、a類で1.5cm、b類で1.4cm、c類で5.1cmである。全体でも0.45~5.1cmの間であり、平均1.8cmほどである。159は、明瞭な磨面がみられず、形状からすれば石冠状に整形された石製品の類かもしれない。

石質は両輝石安山岩(18)・両輝石安山岩溶岩(1)・安山岩(1)・濃緑色凝灰岩(1)・濃緑色砂質凝灰岩(1)・砂質凝灰岩(1)・凝灰質硬砂岩(1)・流紋岩(1)で、両輝石安山岩が多い。

### 石皿(第84図、写真図版69)

4点出土している。縁や脚がつくり出されているが、いずれも破損品である。石質は両輝石安山岩溶岩である。

### 石棒(第84図、写真図版69)

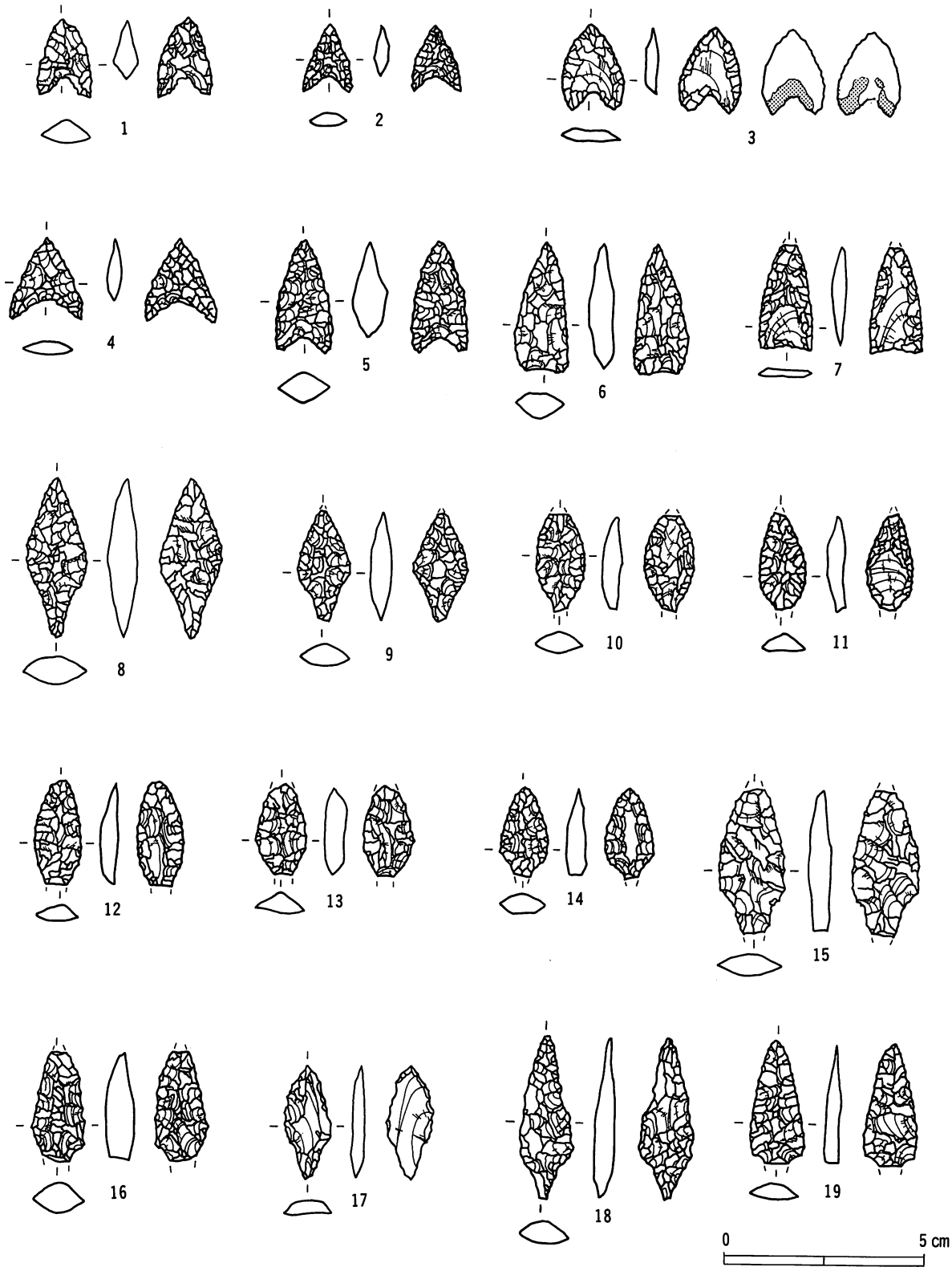
1点出土している。横断面形は六角形を呈する。破損品である。石質は淡緑色凝灰岩である。

表3 特殊磨石の機能面サイズ一覧表

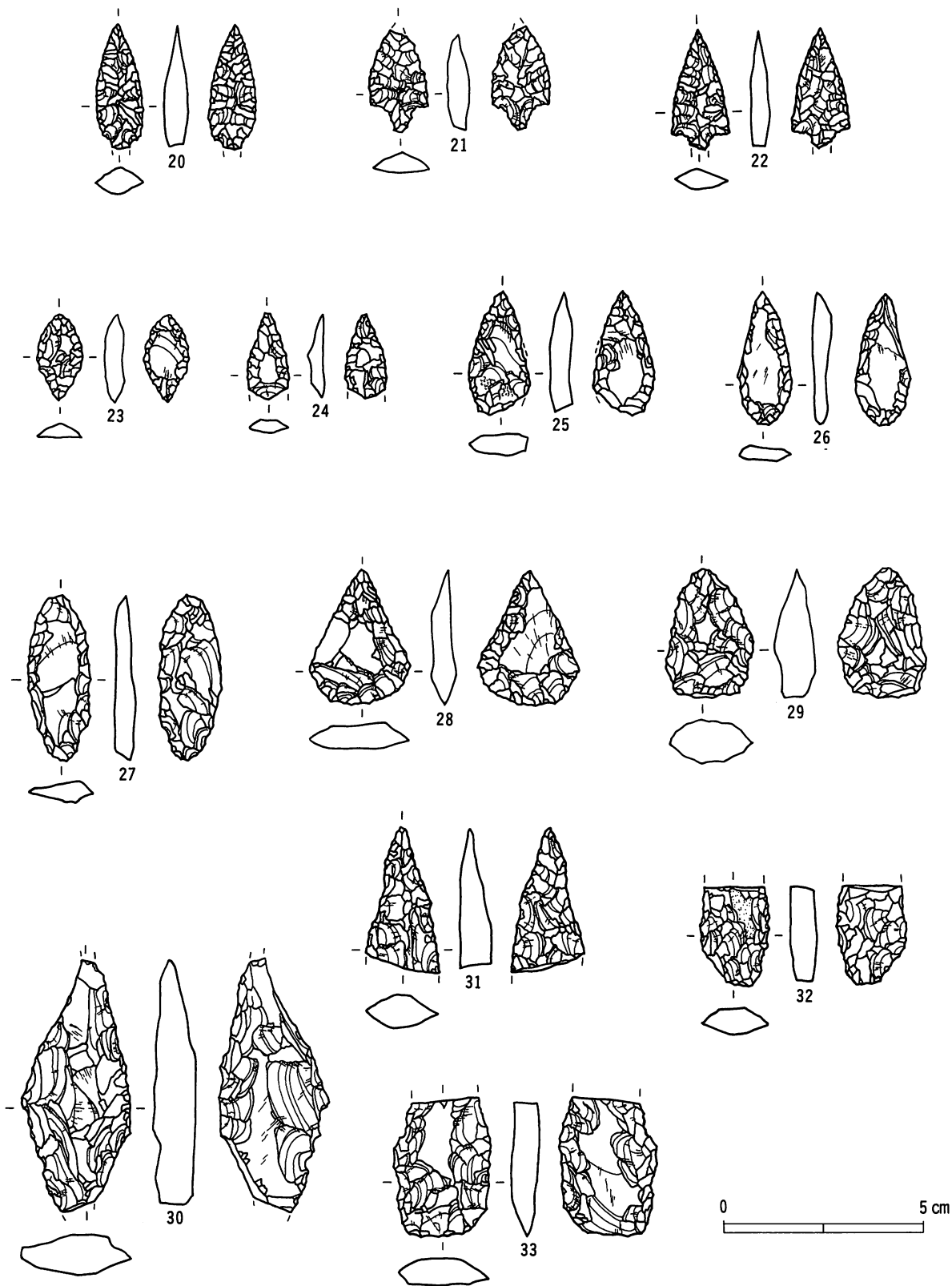
出土地点	No.	横×縦(cm)	出土地点	No.	横×縦(cm)	出土地点	No.	横×縦(cm)
RA13	11	1.8×(5.2)	遺構外	141	1.2×(8.3)	遺構外	151	0.7×9.8
		1.5×4.1		142	0.7×(1.1)		152	0.6×9.7
遺構外	133	1.8×(7.0)		143	1.7×(4.3)		153	1.8×(5.9)
	134	1.9×(8.9)		144	0.4×(4.6)		154	1.4×(7.0)
	135	1.6×6.7		145	2.8×(7.8)		155	1.8×(3.9)
	136	1.2×(10.0)		146	3.7×(8.2)		156	1.2×15.3
	137	2.4×(7.1)		147	1.5×(7.5)		157	1.9×10.5
	138	0.7×(4.2)		148	1.6×(9.6)			2.0×11.3
	139	1.0×(7.8)		149	1.2×13.8		158	5.1×12.9
	140	0.9×(6.9)		150	2.7×10.9			

表4 石器産地略号一覧表

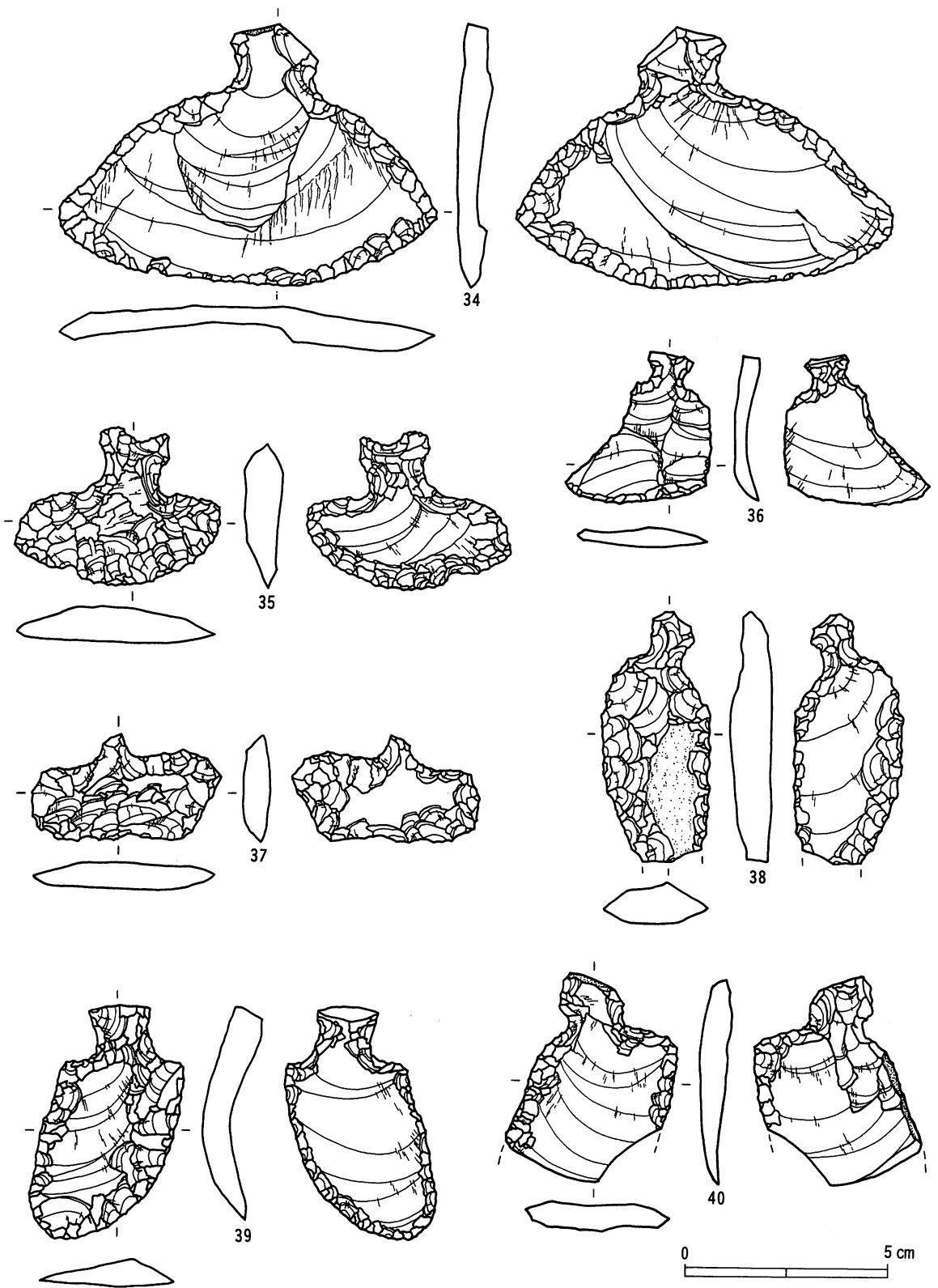
産地		略号
北上山地	古生界	A1
北上山地(乙部地区)	古生界	A2
奥羽山地	中新統・新第三系	B1
奥羽山地(北上川)	中新統・新第三系	B2
雫石西部	中新統・新第三系	C
岩手火山(北上川)	第四系	D



第67图 遺構外出土遺物：石器(1)



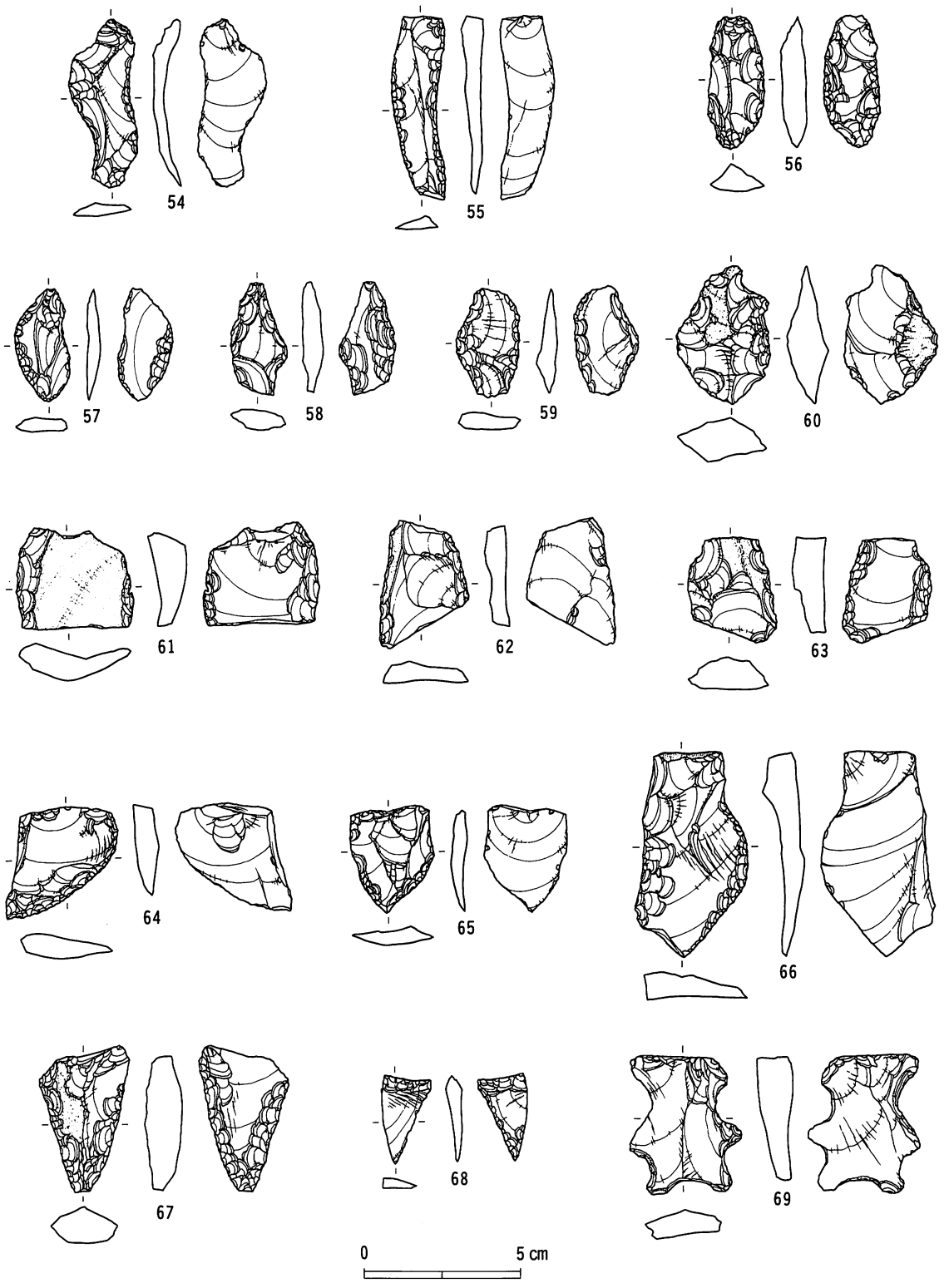
第68圖 遺構外出土遺物：石器(2)



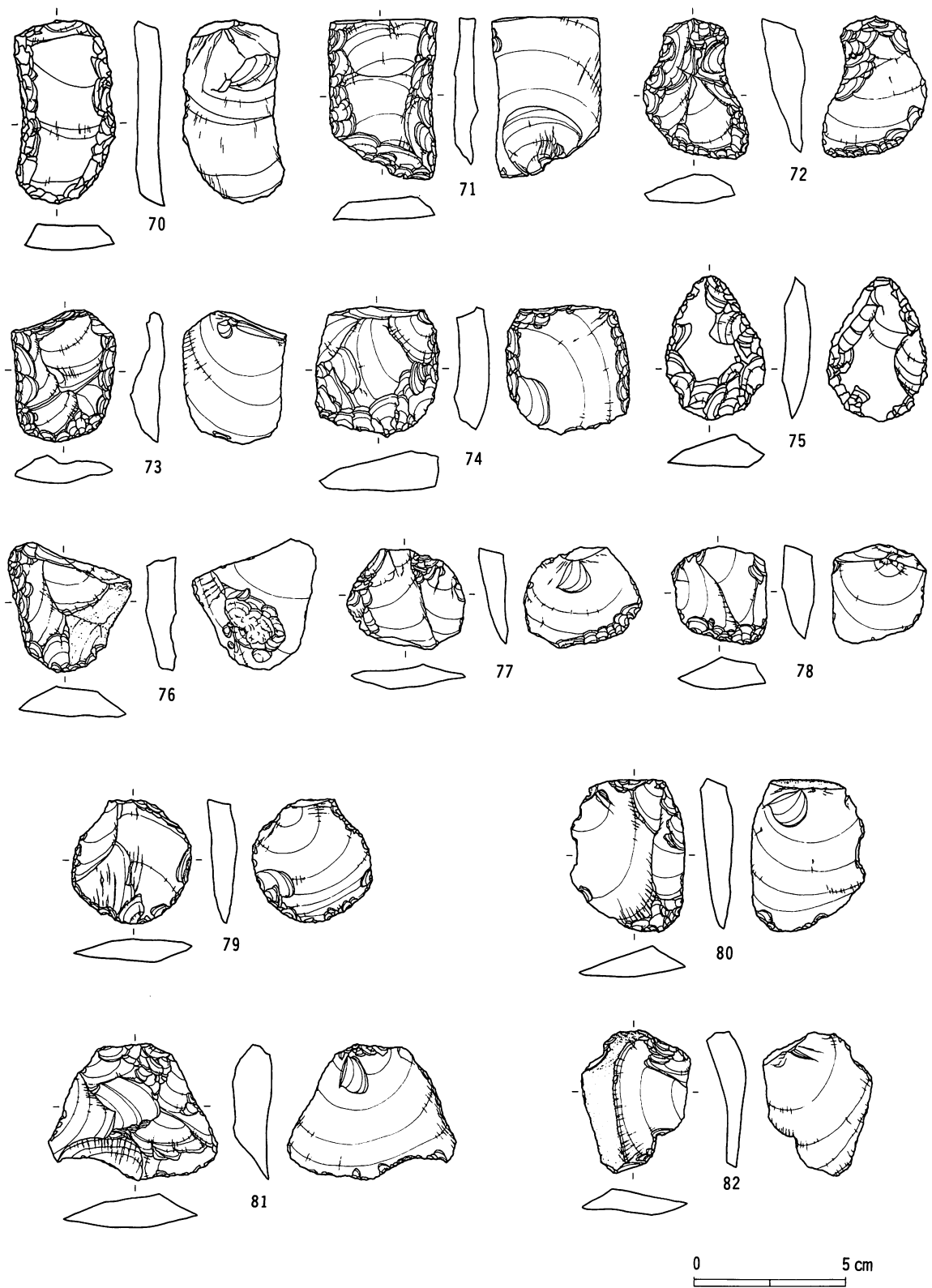
第69圖 遺構外出土遺物：石器(3)



第70図 遺構外出土遺物：石器(4)



第71图 遺構外出土遺物：石器(5)

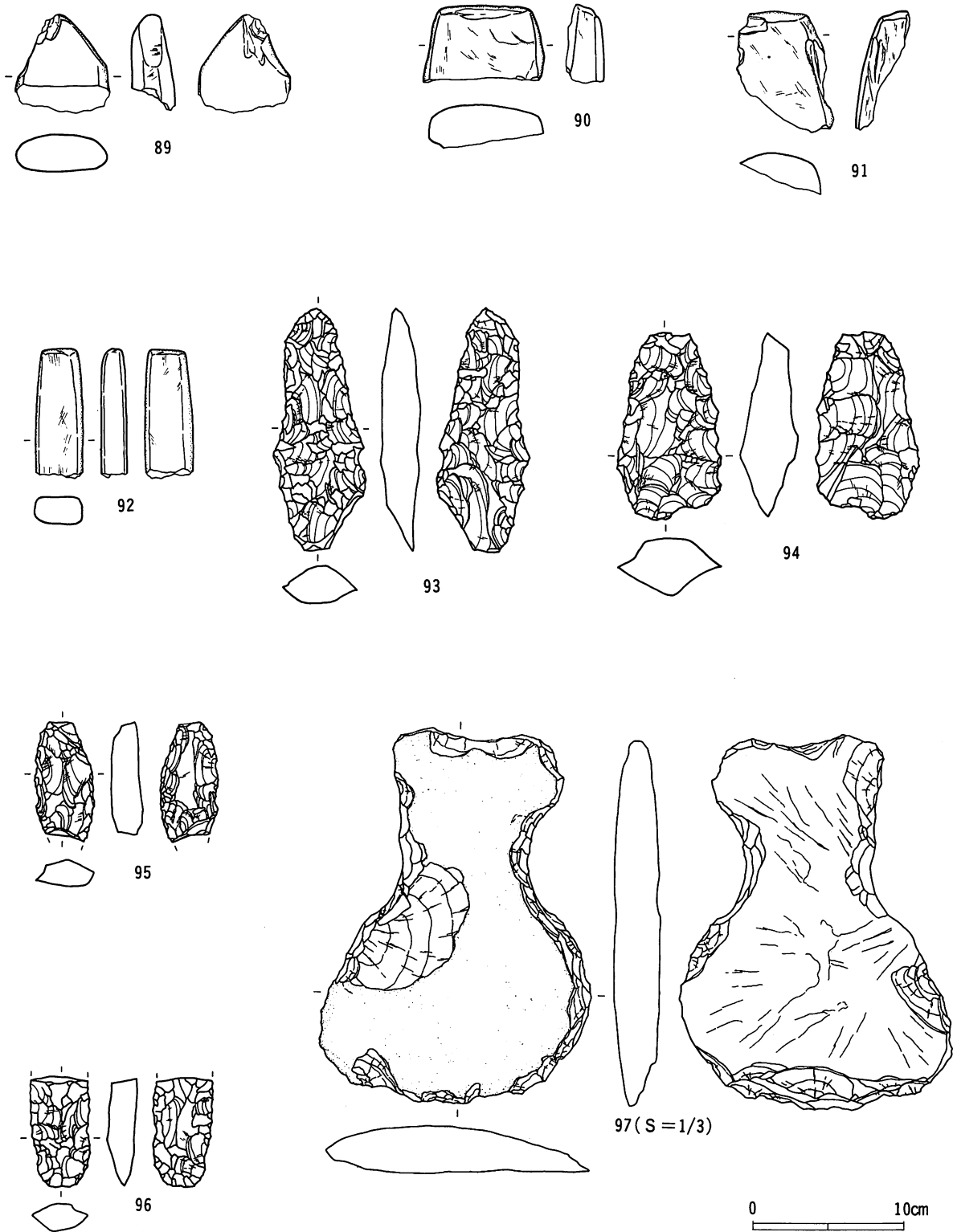


第72図 遺構外出土遺物：石器(6)

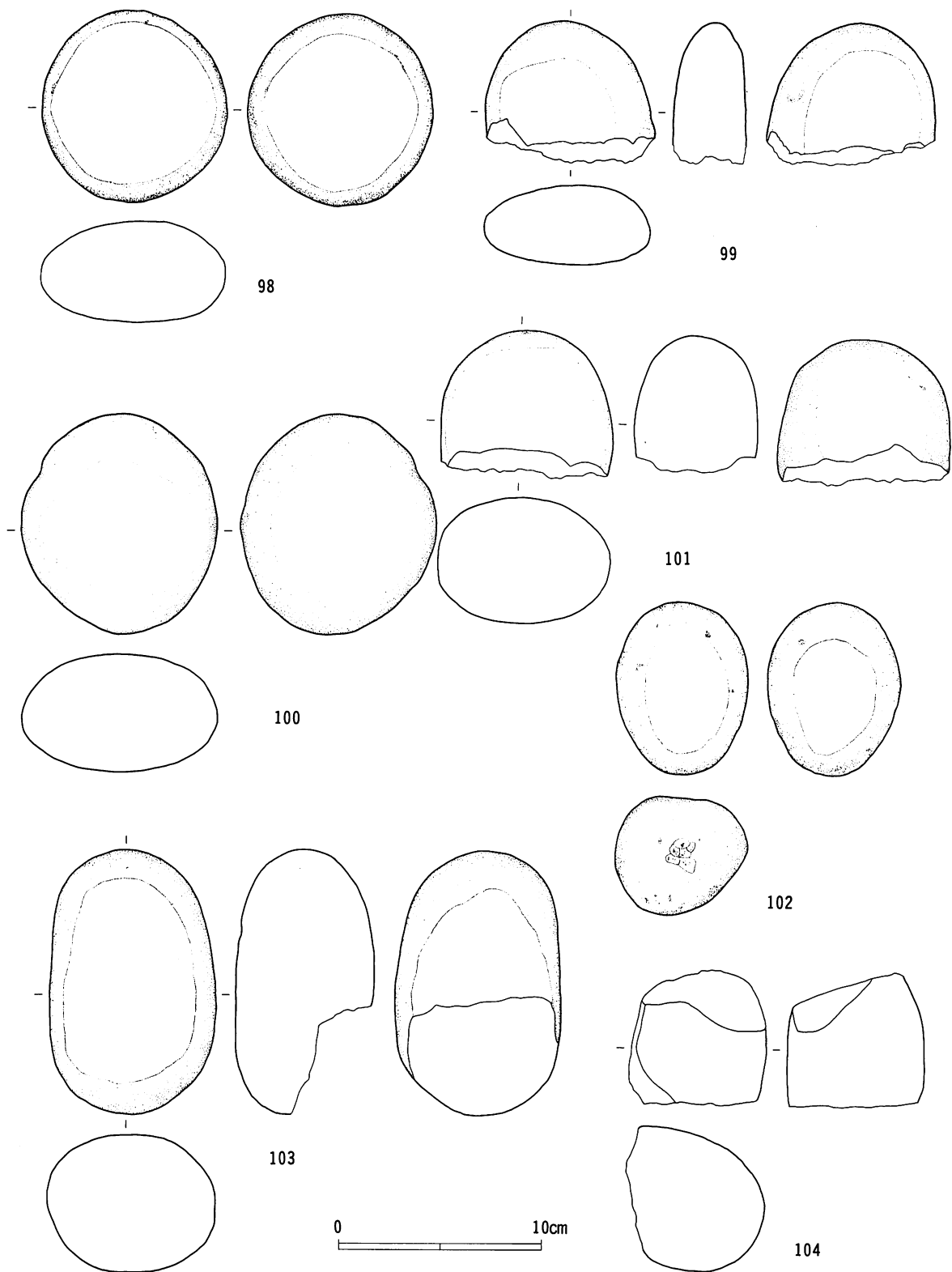




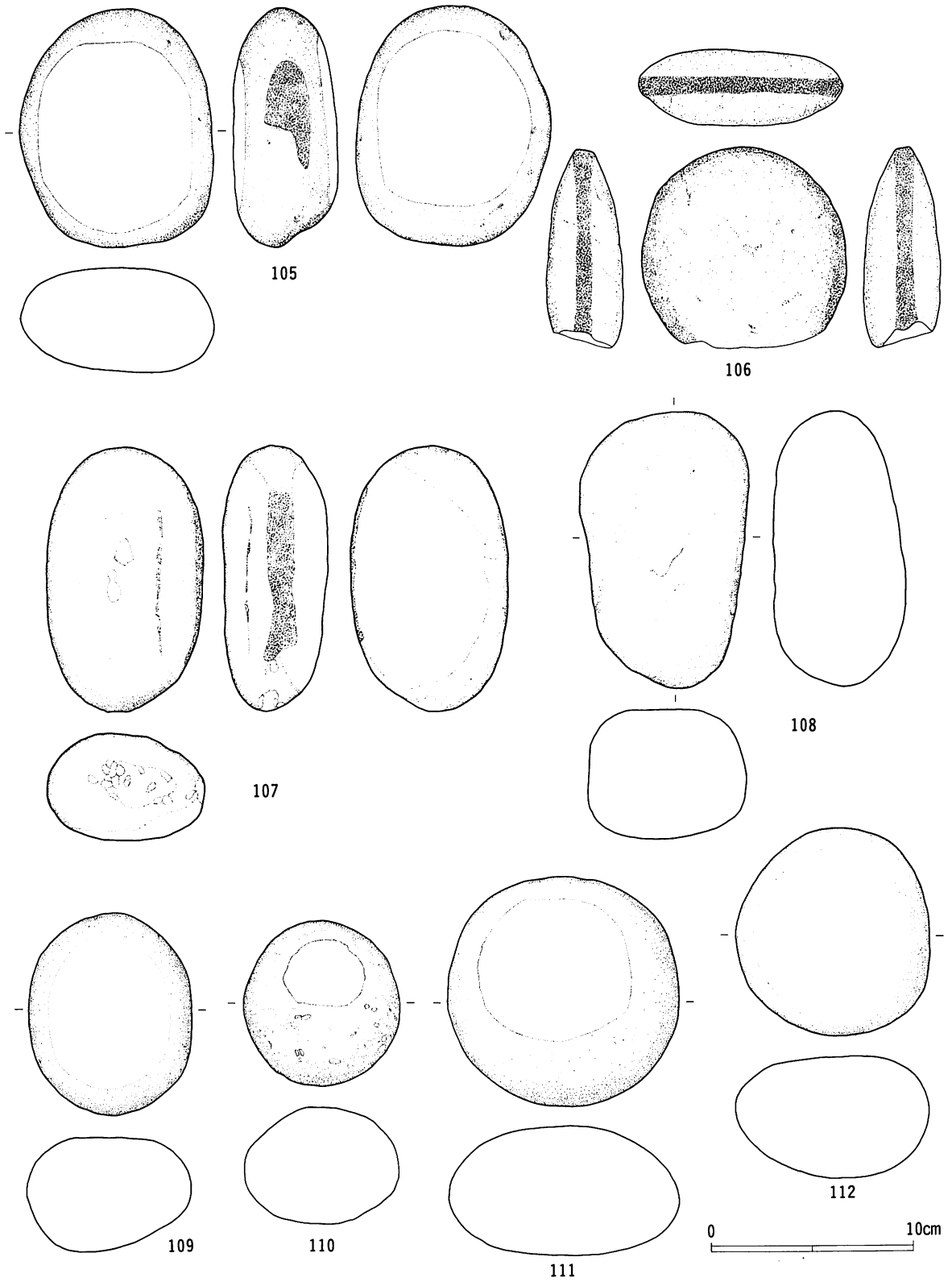
第73図 遺構外出土遺物：石器(7)



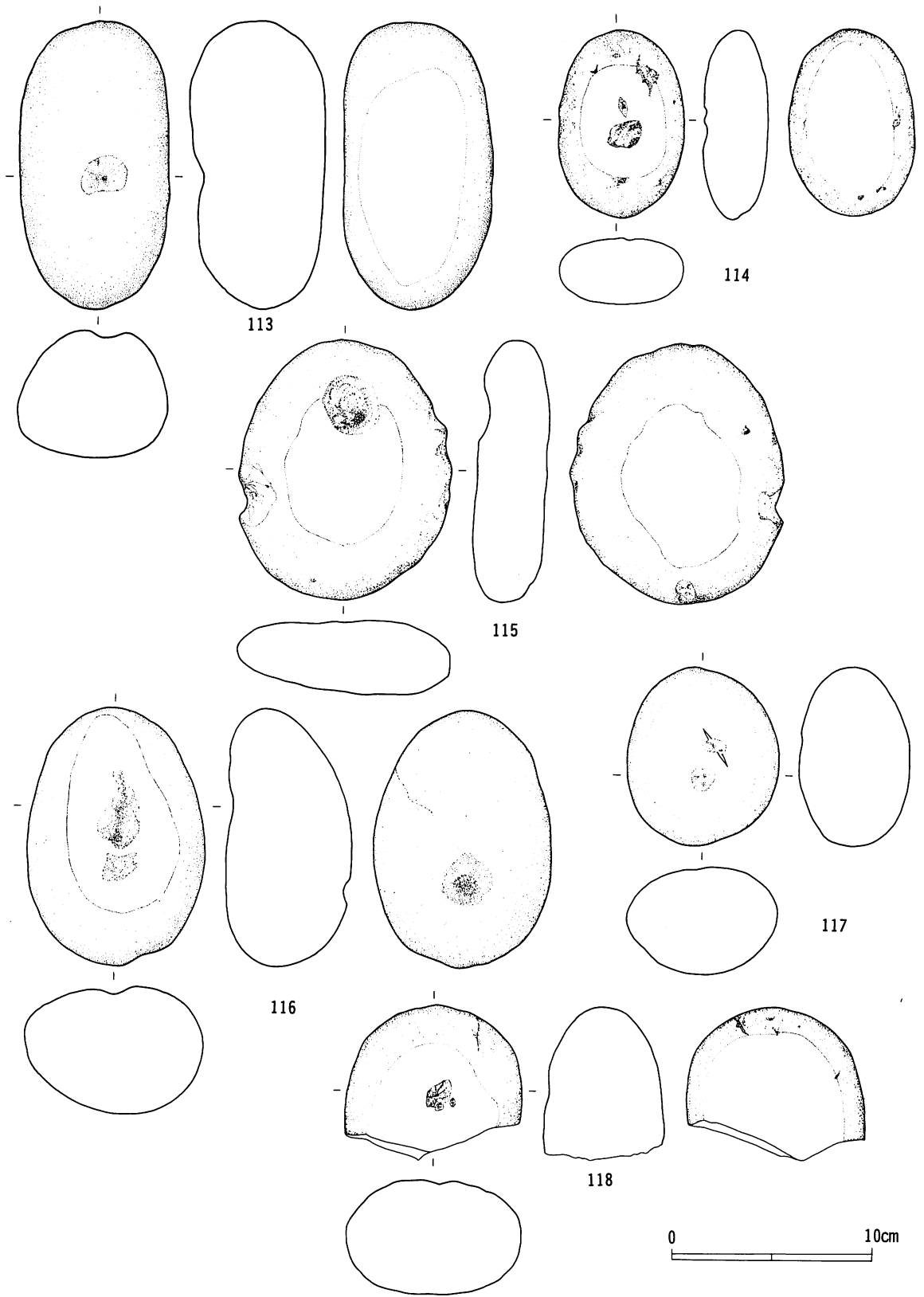
第74図 遺構外出土遺物：石器(8)



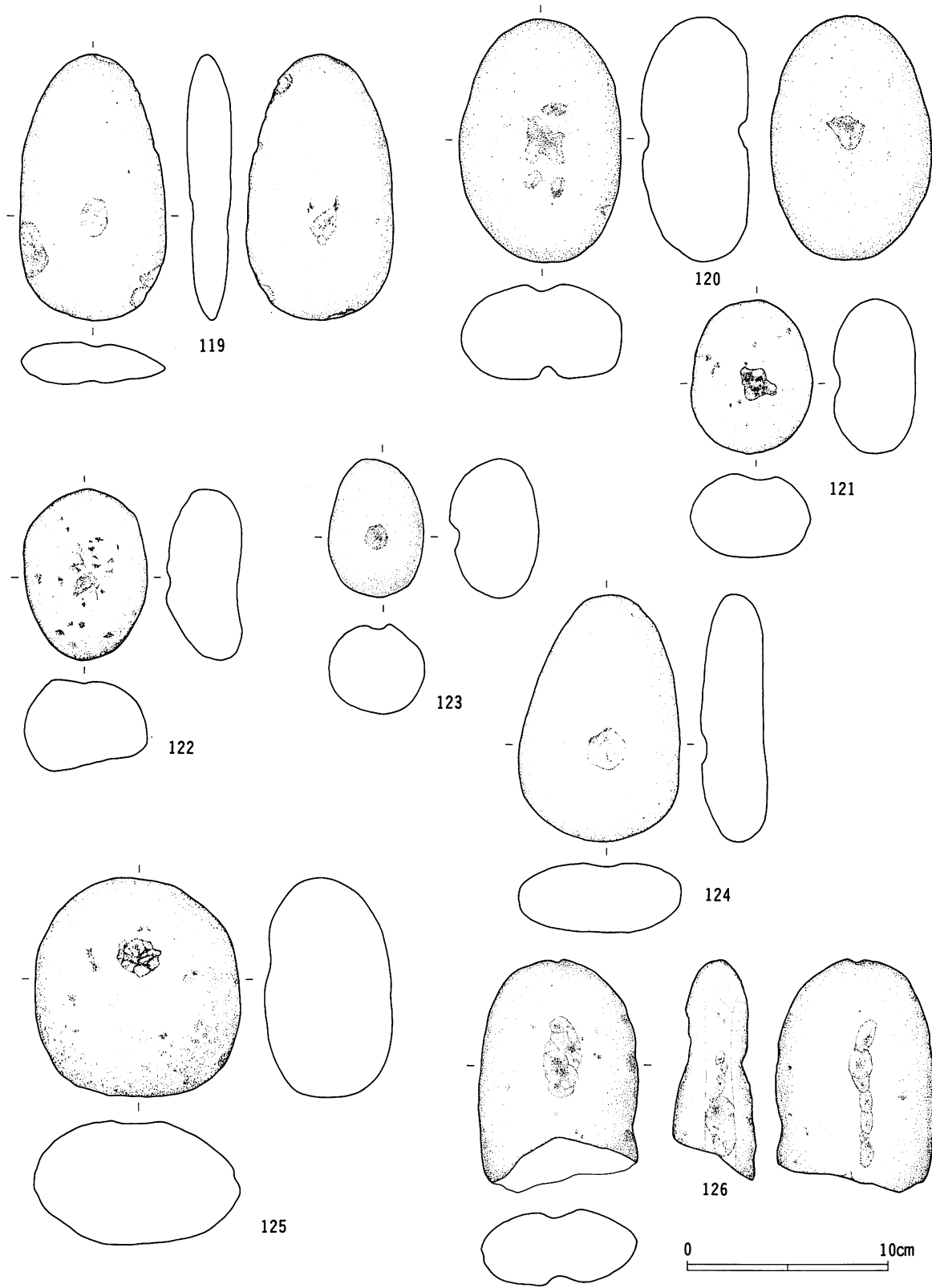
第75図 遺構外出土遺物：石器(9)



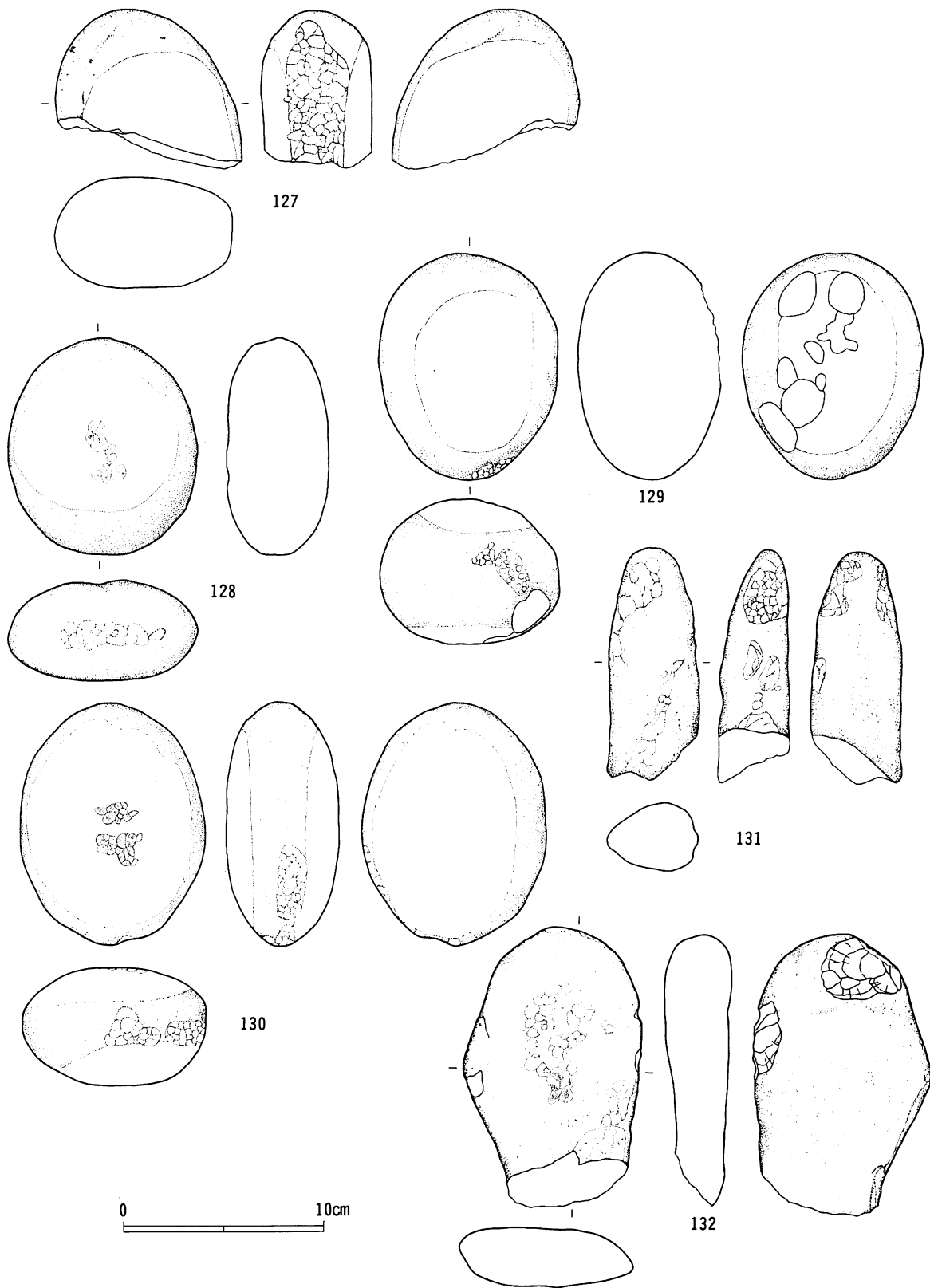
第76図 遺構外出土遺物：石器(10)



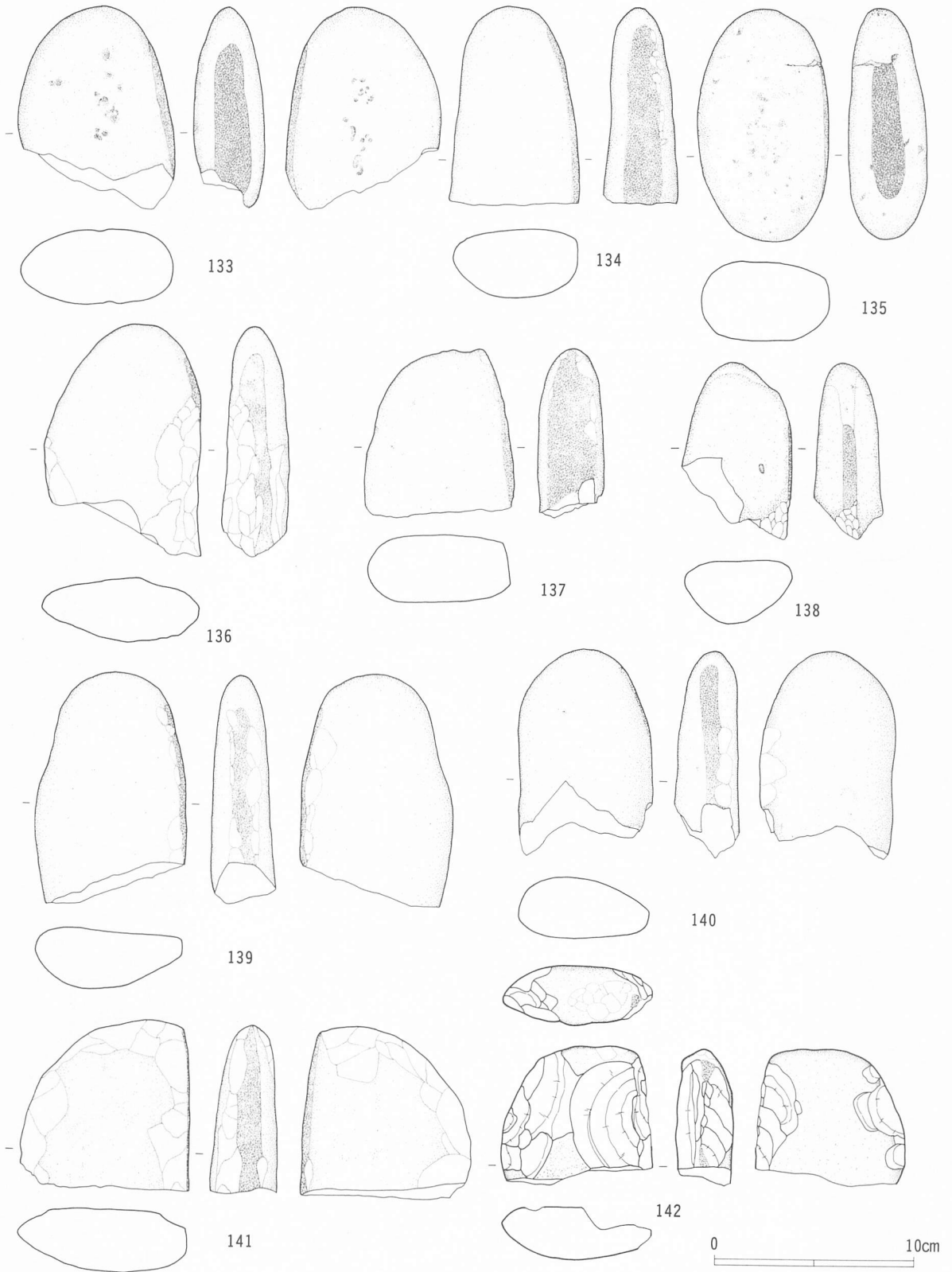
第77図 遺構外出土遺物：石器(1)



第78図 遺構外出土遺物：石器(12)

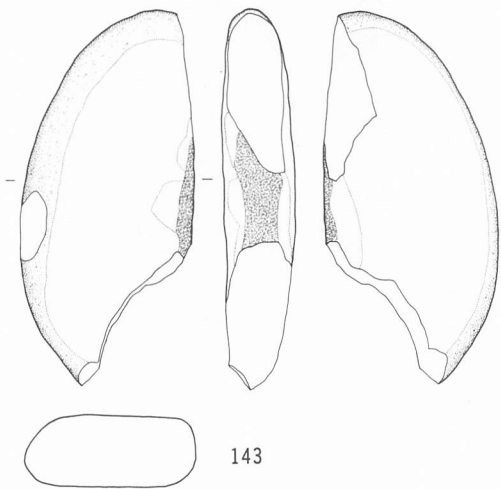


第79図 遺構外出土遺物：石器(13)

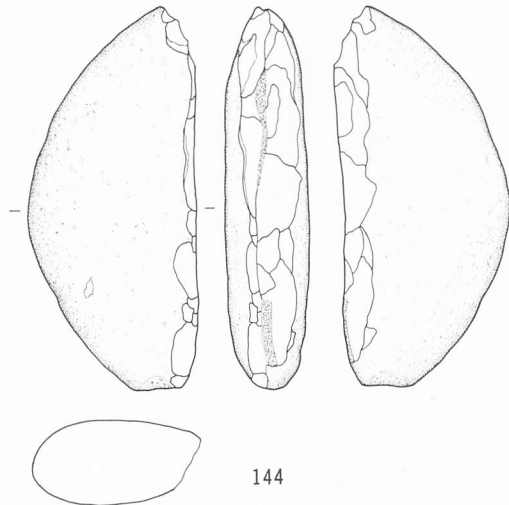


第80図 遺構外出土遺物：石器(14)

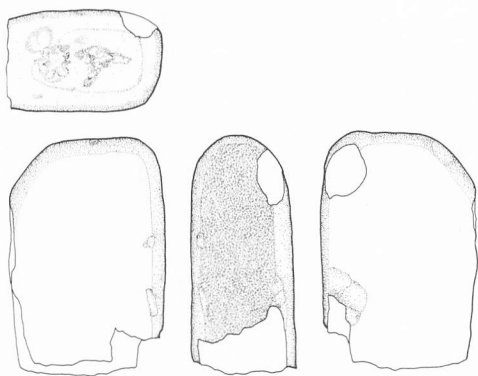




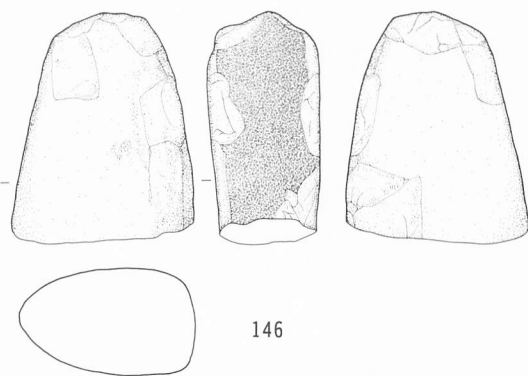
143



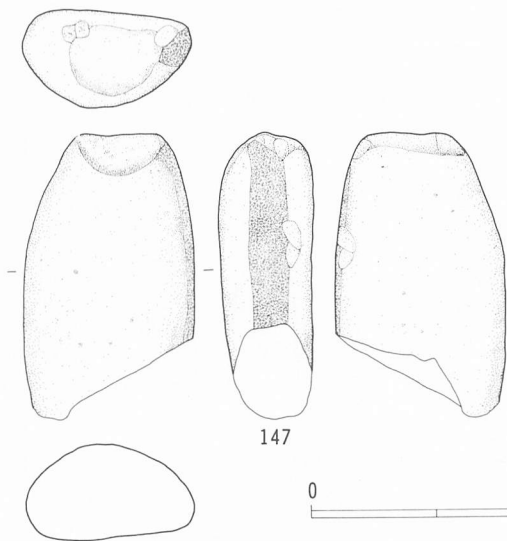
144



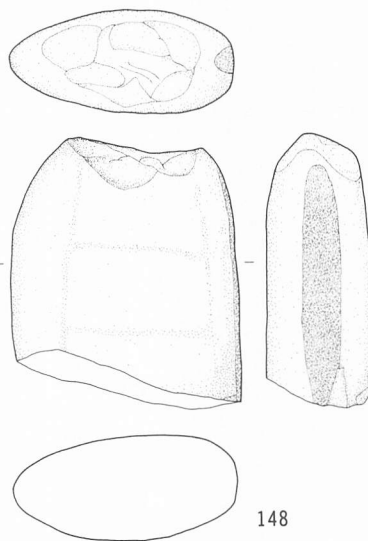
145



146



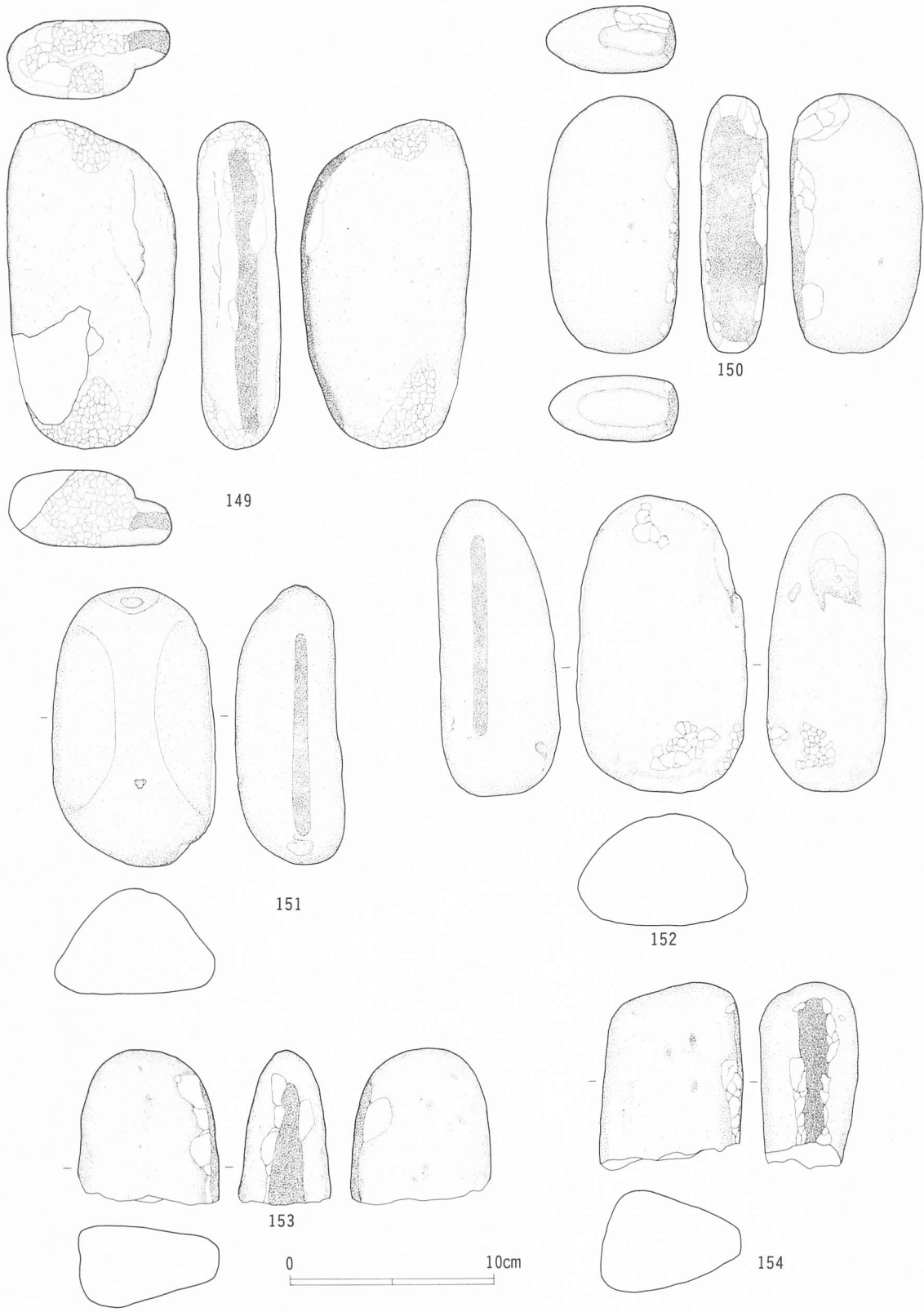
147



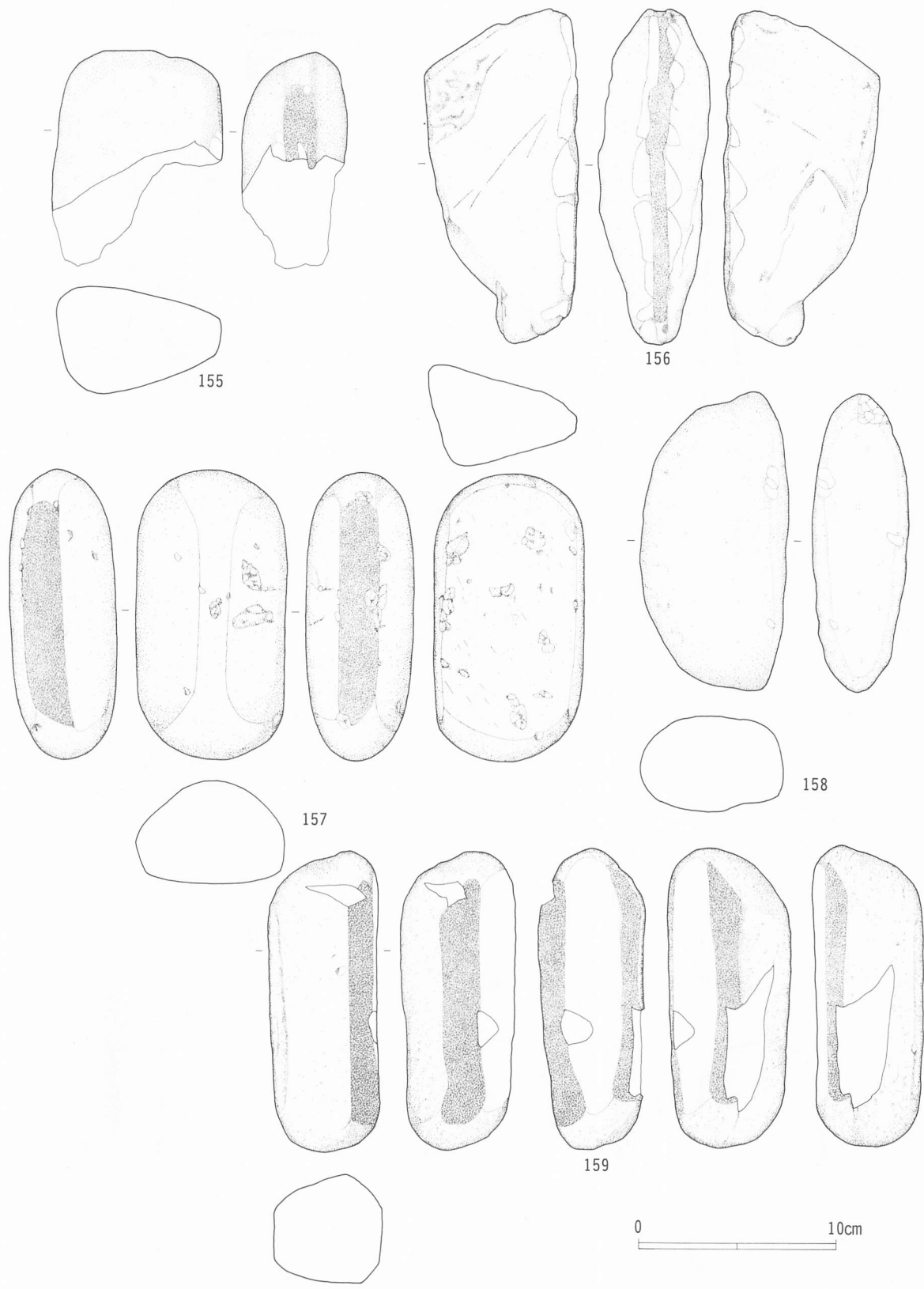
148



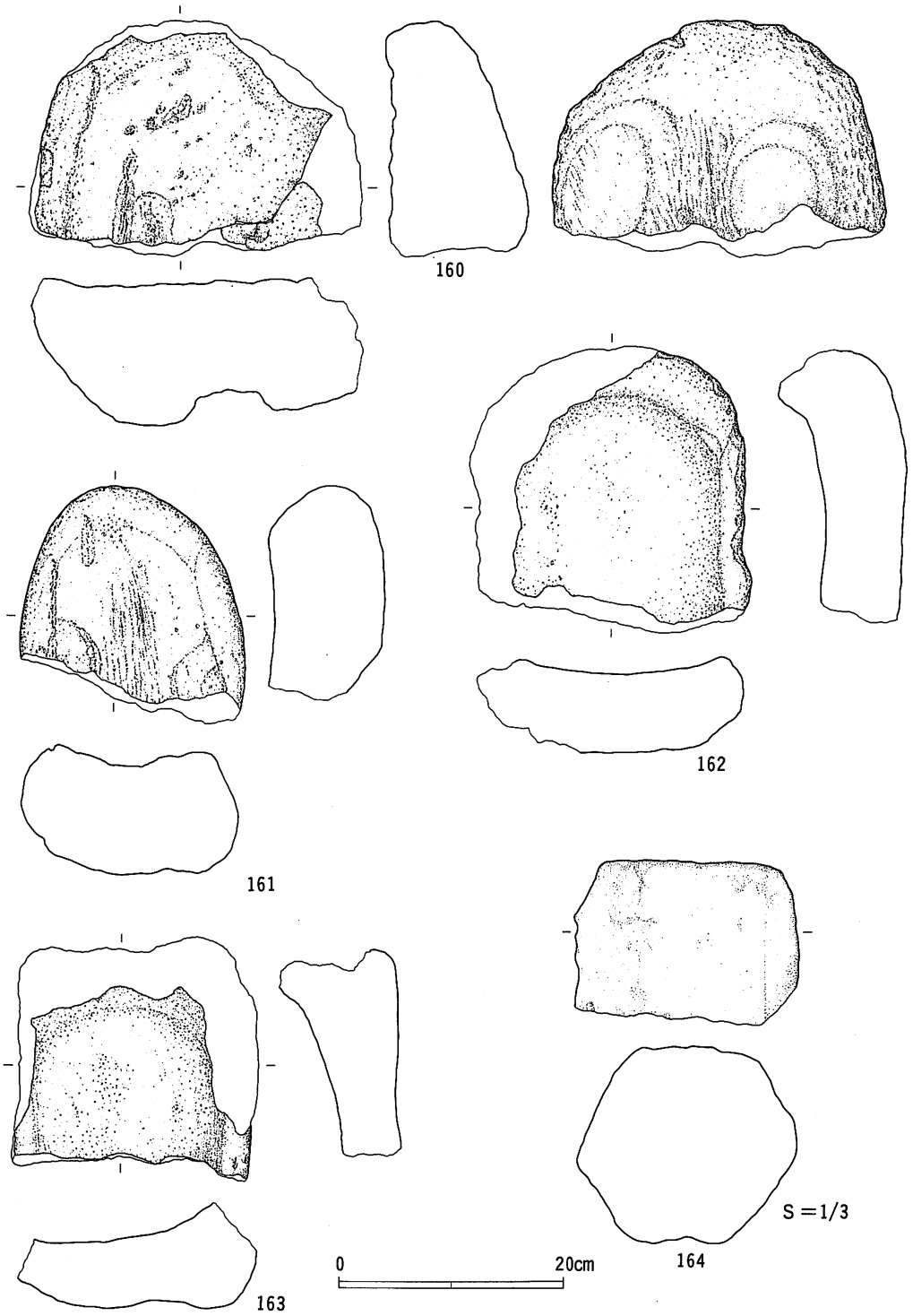
第81図 遺構外出土遺物：石器(15)



第82図 遺構外出土遺物：石器(16)



第83図 遺構外出土遺物：石器(17)



第84図 遺構外出土遺物：石器(8)

表5 土器観察表(1)

図版 No.	No.	出土地点	層位	器種	大きさ (cm)			原体	方向	文様の特徴	分類
					器高	口径	底径				
11	1	RA01	床上	深鉢	25.4	20.0	8.4	RL	縦	3波状 孔2 3本1組沈線 渦文 懸垂文 上げ底	II群7類
11	2	RA01	埋土	深鉢	(15.1)	(22.4)	—	RL	横	平縁 樽形 地文のみ	II群8類
11	3	RA01	床上	深鉢大	38.0	21.0	12.9	LR	縦	樽形 平縁 隆帯 0段多条	II群8類
15	1	RA03	埋土下位	浅鉢	9.6	17.4	5.0	LR	縦	隆帯 沈線 渦文 原体圧痕文	II群6類
15	2	RA03	埋土下位	深鉢	(9.1)	(15.9)	—	RL	縦	4波状 渦文 沈線 沈線による縦位刻み目	II群6類
15	3	RA03	埋土4層	深鉢	(9.6)	(9.4)	—	RL	縦	平縁 3本1組沈線	II群7類
15	4	RA03	埋土3層	深鉢	(5.7)	(16.2)	—	RLR	縦横	キャリパー 平縁 隆沈線 渦文 山形波状文	II群6類
15	5	RA03	埋土	深鉢	17.0	13.5	6.4	RL	横	波状口縁 隆帯 沈線 渦文 頸部無文帯	II群7類
16	6	RA03	埋土3層	深鉢	(11.3)	13.8	—	LR	縦	平縁 沈線による縦位刻目 3本1組沈線	II群6類
16	7	RA03	埋土	深鉢	(11.5)	—	—	RLR	縦	隆帯 渦文 3本1組沈線	II群6類
16	8	RA03	埋土3層	小型鉢	8.1	11.0	(6.2)	—	—	平縁 無文 孔	II群6類
16	9	RA03	埋土	小型鉢	(6.3)	(8.6)	—	LR	縦	隆帯 渦文	II群6類
16	10	RA03	埋土3層	深鉢大	(33.8)	—	13.9	LR	縦横	地文のみ RLR縦 上げ底 底部網代痕 0段多条	II群8類
20	1	RA04	埋土下位	深鉢大	55.8	38.0	13.2	RL	縦	橋状突起 隆帯 沈線 渦文 懸垂文	II群6類
21	2	RA04	埋土下位	深鉢	17.8	(12.2)	6.0	LR	縦横	キャリパー 平縁 地文のみ	II群8類
21	3	RA04	埋土中位	深鉢	(12.5)	—	—	RLR	縦	3本1組沈線 波状文 懸垂文	II群6類
21	4	RA04	埋土	深鉢	(10.4)	(10.6)	—	LR	縦横	キャリパー 平縁 地文のみ	II群8類
21	5	RA04	埋土	深鉢	(13.5)	—	(9.6)	RL	縦	地文のみ	II群8類
25	1	RA05	埋土下位	深鉢大	34.0	25.6	8.7	RL	縦横	キャリパー 平縁 隆沈線 山形波状文 渦文	II群6類
25	2	RA05	埋土下位	深鉢	(6.1)	14.8	—	RL	横	キャリパー 平縁 隆帯 山形波状文 渦文 刻目	II群6類
25	3	RA05	埋土上位	深鉢	(13.9)	(10.3)	—	RLR	縦	頸部無文帯 隆帯 3本1組沈線 渦文 懸垂文	II群6類
25	4	RA05	埋土8層	深鉢	(14.8)	17.3	—	LR	縦横	キャリパー 隆沈線 山形波状文 渦文 刻目	II群6類
26	5	RA05	埋土下位	浅鉢大	17.6	(32.2)	(13.6)	—	—	平縁 隆帯 胴部無文 曲折文	II群6類
26	6	RA05	埋土	浅鉢大	13.9	—	—	LR	縦	隆帯 同部地文のみ	II群6類
26	7	RA05	埋土	深鉢	(23.4)	—	—	RLR	縦	地文のみ	II群6類
26	8	RA05	埋土中位	深鉢	(13.1)	—	—	LR	縦	地文のみ 9と同一固体	II群6類
26	9	RA05	埋土中位	深鉢	(5.3)	—	7.3	LR	縦横	地文のみ 8と同一固体	II群6類
26	10	RA05	埋土	深鉢	(9.5)	—	9.0	LR	縦	3本1組沈線 懸垂文	II群6類
26	11	RA05	埋土下位	深鉢	(8.1)	—	—	LR	横	沈線 渦文 透し 裝飾突起	II群6類
27	12	RA05	埋土	深鉢	(12.9)	(31.0)	—	LR	縦	平縁 地文のみ 樽形	II群6類
28	1	RA07	埋土7層	小型鉢	(9.0)	—	5.8	RLR	縦	沈線 渦文 懸垂文	II群6類
28	2	RA07	埋土1層	浅鉢	(13.6)	8.4	5.6	LR	縦	平縁 隆帯 胴部地文のみ	II群6類
28	3	RA07	埋土中位	小型鉢	(6.5)	(4.2)	—	—	—	キャリパー 平縁 沈線	II群6類
33	1	RA14	床直上	深鉢	(10.1)	—	—	—	—	尖底 貝殻腹縁圧痕文 押引文	I群1類b
40	1	RD08	埋土	浅鉢大	(12.2)	25.2	—	LR	横	平縁 地文のみ	II群8類
46	1	Z17J25	III a層	深鉢	(5.8)	(11.4)	—	—	—	平縁 貝殻腹縁圧痕文	I群1類b
46	2	Z17I24	II e層	深鉢	(5.0)	—	—	—	—	尖底 貝殻腹縁圧痕文	I群1類b
46	3	Z17F24	II b層	深鉢	(4.3)	—	—	—	—	尖底 無文	I群3類
46	4	Z17E25	II b~c層	深鉢	(6.2)	—	—	—	—	尖底 貝殻条痕文	I群2類
46	5	Z17F24	II a層	深鉢	(12.1)	—	—	—	—	尖底 貝殻条痕文	I群2類
46	6	Z17G01	II c~d層	深鉢	(14.4)	—	—	—	—	貝殻条痕文	I群2類
47	7	Z17D23	II c~d層	浅鉢大	(13.3)	—	(7.6)	1	縦	沈線 渦文 波状文 刺突 刻目	II群2類
47	8	Z17K23	II a層	深鉢	(16.4)	—	—	LR LR	縦	沈線 刺突 羽状縄文(結束第1種) 波状V字状	II群3類
47	9	Z17K21	II b層	深鉢	19.8	(22.8)	—	LR	縦横	平縁 隆帯 結束第1種	II群3類
47	10	Z17K22	II b層	浅鉢	(21.6)	—	—	LR	横	波状口縁 隆帯 沈線 渦 コンパス文 波状文	II群4類
47	11	Z17Q20	II a層	深鉢	(13.5)	—	—	RL LR	縦	波状 隆帯 原体圧痕文 羽状縄文(結束第1種)	II群5類
48	12	Z17M23	II a層	深鉢	(25.8)	23.0	—	LR	縦	平縁 粘土瘤 貼付 原体圧痕文(矢羽状)	II群1類

図板No.	No.	出土地点	層位	器種	大きさ(cm)			原体	方向	文様の特徴	分類
					器高	口径	底径				
48	13	Z17N20	II b層	深鉢	25.2	(17.0)	9.9	LR	横	平縁 原体圧痕文	II群5類
48	14	Z17K23	II a層	深鉢	(15.3)	(21.2)	—	LR	縦	平縁 原体圧痕文 綾絡文	II群5類
48	15	Z17M21	II c層	深鉢	18.2	(12.2)	(8.2)	LR	横	平縁 隆帯 原体圧痕文 綾絡文	II群5類
48	16	Z17L22	II b層	深鉢	12.3	(11.4)	6.8	L	縦横	突起2 隆帯 原体圧痕文	II群5類
48	17	X18S21	II層	深鉢	14.5	11.9	5.6	LR	縦	4波状 隆帯 渦文 原体圧痕	II群5類
49	18	Z17E24	II b層	深鉢	22.9	(17.5)	8.2	LR	縦横	キャリパー 平縁 隆帯 原体圧痕文 渦文 山形文	II群5類
49	19	Z17F23	II a層	深鉢	22.1	(17.2)	6.3	RLR	縦	キャリパー 平縁 隆帯 沈線 山形波状文	II群6類
49	20	Z17P20	II a層	深鉢	(8.0)	(16.2)	—	LR	縦	キャリパー 平縁 隆沈線 山形波状文 縦位 刻目	II群6類
49	21	Z17G	不明	深鉢	(10.8)	(18.6)	—	RL	縦横	キャリパー 平縁 隆帯 渦文 曲折状文	II群6類
49	22	Z17F23	II a層	深鉢	(19.9)	(21.6)	—	LR	縦横	キャリパー 平縁 隆沈線 沈線 刻目	II群6類
49	23	X18U22	II b層	深鉢	(13.0)	(16.0)	—	RL	縦横	キャリパー 頸部無文 隆沈線 沈線 突起 渦文	II群6類
50	24	Z17C24	I層	深鉢	(13.4)	(24.7)	—	LR	縦	突起4 隆帯 小波状隆帯? 原体圧痕	II群1類d?
50	25	Z17E24	II b層	深鉢	(19.9)	19.0	—	LR	縦	小波状隆帯 縦位刻目 円文	II群1類d?
50	26	Z17E24	II a層	深鉢	(22.6)	25.0	—	RLR	縦	平縁 隆沈線 渦文 横S字状文 小波状隆帯	II群1類d?
50	27	Z17G25	I層	深鉢	(12.3)	18.0	—	RLR	縦	4波状 隆帯 沈線 渦文 口唇部に刻目	II群6類
50	28	Z17R21	II a層	深鉢	(15.7)	16.2	—	LRL	縦	貼瘤状突起4 隆帯 竹管による刺突	II群6類
51	29	Z17L24	II a層	深鉢	20.7	(14.3)	(7.0)	RL	縦	平縁 沈線	II群6類
51	30	Z17O19	II b層	深鉢	(16.4)	—	—	RLR	縦	隆沈線 橋状突起	II群6類
51	31	A区東側	I~II a層	深鉢大	(50.0)	(46.8)	—	RLR	縦	キャリパー 隆沈線 渦巻文 剣先文 波状文	II群7類
52	32	Z17M23	II a層	深鉢大	(36.3)	(33.0)	—	RL	縦横	キャリパー 山形突起4 透し 隆帯 沈線 渦文	II群6類
52	33	Z17C24	II c~d層	深鉢大	(45.7)	—	(23.5)	LR	縦	隆沈線 隆帯 沈線 波状文 曲折文 渦文	II群6類
53	34	Z17E24	II a層	浅鉢	(10.9)	(20.9)	6.0	RL	縦	隆帯 原体圧痕文 渦文	II群5類
53	35	Z17F23	II a層	深鉢	(6.0)	(20.0)	—	RL	縦	隆帯 渦文 原体圧痕文	II群5類
53	36	Z17G23	不明	浅鉢	(6.9)	—	—	LR	縦横	隆帯 原体圧痕文 渦文	II群5類
53	37	Z17K24	II a層	浅鉢	(9.3)	—	—	RL	縦	隆帯 原体圧痕文 渦文	II群5類
53	38	X18S21	II層	浅鉢	(8.9)	21.0	—	LR	縦	隆帯 沈線 渦文 蛇行垂下文	II群6類
53	39	Z17F23	II b層	深鉢	(8.8)	(19.6)	—	LR	横	蛇行垂下文 隆帯 原体圧痕文 渦文	II群6類
54	40	Z17C23	II a層	深鉢大	(58.0)	—	(11.0)	RLR	縦	隆帯 沈線(LR縦)長胴のキャリパー?	II群6類
54	41	Z17L22	II b層	深鉢	23.1	(15.0)	9.0	LR	横	平縁 地文のみ 底部木葉痕	II群8類
54	42	Z17K21	II b層	深鉢	(25.3)	19.2	—	LR	縦	平縁 地文のみ	II群8類
55	43	Z17E23	II a層	深鉢	(5.7)	—	11.8	RLR	縦	地文のみ 上げ底 底部網代痕	II群8類
55	44	X17L20	II b層	深鉢	(5.4)	—	14.4	LR	縦	地文のみ? 底部網代痕	II群8類
55	45	不明	不明	深鉢	(5.1)	—	(8.8)	RLR	縦	地文のみ? 底部網代痕	II群8類
55	46	Z17O22	II a層	深鉢	(4.2)	—	8.1			無文? 上げ底 底部網代痕	II群8類
55	47	A区東側	不明	深鉢小	(3.9)	—	4.3	LR	縦	3本1組沈線	II群8類
55	48	Z17H23	II a層	深鉢小	(2.6)	—	3.8	LR	縦	隆沈線 渦文?	II群8類
55	49	トレンチ4	不明	深鉢	4.9	—	12.8	RL	縦	隆帯	II群8類
55	50	Z17P20	I~II a層	小型鉢	(8.9)	—	5.0	LR	縦	地文のみ	II群8類
55	51	A区西側	不明	深鉢	(3.4)	—	(8.0)	RLR	縦	隆帯	II群8類
55	52	Z17P20	II c層	小型鉢	(2.8)	—	2.6			沈線 ミニチュア	II群8類
55	53	Z17C24	II b層	小型鉢	(7.1)	—	4.3	R	縦	地文のみ	II群8類
55	54	Z17L23	不明	小型鉢	(10.0)	—	(3.4)	LR	縦	波状口縁 原体圧痕文	II群8類
55	55	Z17P21	II b層	小型鉢	(3.8)	—	1.6			無文 ミニチュア?	II群8類
55	56	Z17K21	II a層	小型鉢	(2.3)	—	3.0			無文 脚付 ミニチュア	II群8類
55	57	Z17L22	II a層	小型鉢	3.6	2.6	2.4			無文 輪積痕 ミニチュア	II群8類

表 6 土器観察表(2)

図版No.	No.	出土地点	層位	器種	部位	原体	方向	文様の特徴	分類
12	4	RA01	埋土	深鉢	口縁部	R L	縦	隆帯 波状文	II群6類
12	5	RA01	埋土	深鉢	口縁部	L R	横	隆帯	II群6類
12	6	RA01	埋土	深鉢	口縁部			隆帯 捺糸 原体圧痕	II群6類
12	7	RA01	埋土	深鉢	胴部	R L	縦横	キャリパー 隆帯 沈線 山形波状文	II群6類
13	1	RA02	埋土	深鉢	口縁部	R L ?	横	隆帯 渦文 沈線 綾杉文	II群7類
13	2	RA02	埋土	深鉢	胴部	R L	縦	沈線	II群6類
13	3	RA02	埋土	深鉢	口縁部	L R	縦	隆帯 沈線 渦文	II群6類
16	11	RA03	埋土	深鉢	口縁部			キャリパー 隆帯 山形波状文	II群6類
16	12	RA03	埋土	深鉢	口縁部	R L R	横	キャリパー 沈線	II群6類
16	13	RA03	埋土	深鉢	口縁部	R L	縦横	キャリパー 隆帯 沈線 渦文	II群6類
16	14	RA03	埋土	深鉢	口縁部	L R	縦	キャリパー 隆沈線	II群6類
16	15	RA03	埋土	深鉢	口縁部	L R	縦	キャリパー 隆帯	II群6類
16	16	RA03	埋土	深鉢	口縁部	R L R	横	キャリパー 隆帯 沈線	II群6類
16	17	RA03	埋土	深鉢	口縁部	R L	横	キャリパー 隆沈線	II群6類
16	18	RA03	埋土	深鉢	口縁部	L R ?	横	隆沈線 刺突	II群6類
16	19	RA03	埋土	深鉢	口縁部	L R	縦	隆沈線	II群6類
16	20	RA03	埋土	深鉢	口縁部			キャリパー 隆帯	II群6類
16	21	RA03	埋土	深鉢	口縁部	L R	縦	隆帯	II群6類
16	22	RA03	埋土	深鉢	口縁部			隆沈線	II群6類
16	23	RA03	埋土	深鉢	口縁部			キャリパー 沈線	II群6類
16	24	RA03	埋土	深鉢	口縁部	L R	縦	隆帯	II群6類
17	25	RA03	埋土	深鉢	口縁部			小突起	II群6類
17	26	RA03	埋土	深鉢	口縁部			3本沈線 渦文	II群7類
17	27	RA03	埋土	深鉢	口縁部	L R	縦	隆沈線 渦文	II群6類
17	28	RA03	埋土	深鉢	口縁部			口縁部無文 隆帯	II群6類
17	29	RA03	埋土	深鉢	口縁部			隆帯貼付 渦文 小突起	II群6類
17	30	RA03	埋土	深鉢	口縁部			キャリパー 山形波状文	II群6類
17	31	RA03	埋土	深鉢	口縁部	L R	縦	隆帯 沈線 渦文 剣先文 懸垂文	II群6類
17	32	RA03	埋土	深鉢	口縁部	L R	横	隆帯貼付 沈線 渦文	II群6類
17	33	RA03	埋土	深鉢	胴部	R L	縦横	キャリパー 隆帯 沈線	II群6類
17	34	RA03	埋土	深鉢	胴部	R L	縦	3本1組沈線 渦文	II群6類
17	35	RA03	埋土	深鉢	胴部	L R	縦	沈線	II群6類
17	36	RA03	埋土	深鉢	胴部	R L	横	隆沈線 渦文	II群6類
17	37	RA03	埋土	深鉢	胴部	L R	縦	隆沈線 沈線	II群6類
17	38	RA03	埋土	深鉢	胴部	R L	縦	3本1組沈線 沈線 曲折文 クランク文 剣先文	II群6類
22	6	RA04	埋土	深鉢	口縁部	L R	縦	隆帯 沈線	II群6類
22	7	RA04	埋土	深鉢	口縁部	L R	縦	沈線 波状文	II群6類
22	8	RA04	埋土	深鉢	口縁部	R L	横	キャリパー 隆沈線 山形波状文 沈線	II群6類
22	9	RA04	埋土	深鉢	胴部	L R	横	キャリパー 隆沈線 隆帯	II群6類
22	10	RA04	埋土	深鉢	口縁部	L R	縦	3本1組沈線	II群6類
22	11	RA04	埋土	深鉢	口縁部			隆帯 横S字状突起 円孔	II群6類
22	12	RA04	埋土	深鉢	口縁部	R L	横	キャリパー 隆帯 波状文	II群6類
22	13	RA04	埋土	深鉢	口縁部	L R	縦	キャリパー 地文のみ	II群6類
22	14	RA04	埋土	深鉢	口縁部	L R	縦	隆帯 渦文	II群6類
22	15	RA04	埋土	深鉢	胴部	R L R	縦	隆帯 沈線	II群6類
22	16	RA04	埋土	深鉢	口縁部			隆帯 波状粘土紐	II群6類
22	17	RA04	埋土	浅鉢	口縁部	R L	縦横	隆帯 沈線	II群6類
22	18	RA04	埋土	深鉢	口縁部	R L	縦	原体圧痕	II群6類

図版No.	No.	出土地点	層位	器種	部位	原体	方向	文様の特徴	分類
22	19	RA04	埋土	深鉢	胴部	R L	縦	隆沈線	II群6類
22	20	RA04	埋土	深鉢	胴部	R L	縦	3本1組沈線 波状粘土紐	II群6類
22	21	RA04	埋土	深鉢	胴部	R L	縦	隆沈線 渦文	II群7類
27	13	RA05	埋土	深鉢	口縁部	R L	縦	隆帯 沈線	II群6類
27	14	RA05	埋土	深鉢	口縁部	R L	横	キャリパー 隆帯 波状文	II群6類
27	15	RA05	埋土	深鉢	口縁部	R L	横	キャリパー 隆帯 渦文	II群6類
27	16	RA05	埋土	深鉢	口縁部	R L	横	キャリパー 隆帯 波状文	II群6類
27	17	RA05	埋土	深鉢	口縁部	L R	横	キャリパー 沈線	II群6類
27	18	RA05	埋土	深鉢	口縁部	R L R	横	隆帯 横位椅凹区画 原体圧痕	II群6類
27	19	RA05	埋土	深鉢	口縁部	?		キャリパー 隆帯 渦文	II群6類
27	20	RA05	埋土	深鉢	口縁部	R L	縦	キャリパー? 隆帯	II群6類
27	21	RA05	埋土	深鉢	口縁部	R L ?	横	キャリパー? 隆帯	II群6類
27	22	RA05	埋土	深鉢	口縁部	R L R	横	キャリパー? 隆帯	II群6類
27	23	RA05	埋土	深鉢	口縁部	R L	横	キャリパー 沈線 渦文	II群6類
27	24	RA05	埋土	深鉢	口縁部			小波状突起	II群6類
28	4	RA07	埋土	深鉢	口縁部	R L	横	キャリパー 沈線 波状文	II群6類
28	5	RA07	埋土	深鉢	口縁部	R L	縦	隆帯 貼瘤状の突起	II群6類
28	6	RA07	埋土	深鉢	口縁部			キャリパー 隆帯 沈線	II群6類
28	7	RA07	埋土	深鉢	口縁部	L R	縦横	キャリパー 隆沈線 隆帯 沈線 山形波状文 刻目	II群6類
28	8	RA07	埋土	深鉢	口縁部	R L	横	キャリパー 沈線 山形波状文	II群6類
28	9	RA07	埋土	深鉢	口縁部	L R	縦	キャリパー? 沈線 刻み目	II群6類
28	10	RA07	埋土	深鉢	口縁部	R L	縦	隆帯 山形小突起	II群6類
28	11	RA07	埋土	深鉢	口縁部	L R	横	キャリパー? 沈線	II群6類
28	12	RA07	埋土	深鉢	口縁部	L R	縦	横S字状突起 隆帯 渦文	II群6類
28	13	RA07	埋土	深鉢	口縁部	L R	縦	隆帯 渦文 刺突	II群6類
28	14	RA07	埋土	深鉢	口縁部	L R	縦	キャリパー 隆帯 沈線	II群6類
28	15	RA07	埋土	深鉢	口縁部	L R	横	キャリパー 隆帯 渦文	II群6類
28	16	RA07	埋土	深鉢	口縁部	L R	縦	渦文 横C字状の小突起	II群6類
28	17	RA07	埋土	深鉢	胴部	R L R	縦	3本1組沈線 渦文 剣先文	II群6類
28	18	RA07	埋土	深鉢	口縁部	R L	縦	沈線 隆帯 短沈線(縦位)	II群6類
30	1	RA10	埋土	深鉢	底部	R L	縦	地文のみ?	II群8類
30	1	RA11	埋土	深鉢	胴部	R L	横	地文のみ?	II群8類
31	1	RA13	埋土	深鉢	口縁部			貝殻腹縁圧痕文 貝殻背圧痕	I群2類
31	2	RA13	埋土	深鉢	口縁部			貝殻腹縁圧痕文 盲孔 1と同一個体	I群2類
31	3	RA13	埋土	深鉢	口縁部			貝殻腹縁圧痕文	I群1類
31	4	RA13	埋土	深鉢	胴部			貝殻腹縁圧痕文	I群1類
31	5	RA13	埋土	深鉢	胴部			貝殻腹縁圧痕文	I群1類
31	6	RA13	埋土	深鉢	胴部			無文?	I群3類
31	7	RA13	埋土	深鉢	口縁部			沈線 貝殻腹縁圧痕文 円文 円孔	I群1類
33	2	RA14	埋土	深鉢	口縁部			貝殻腹縁圧痕文	I群1類
33	3	RA14	埋土	深鉢	胴部			貝殻条痕文	I群2類
33	4	RA14	埋土	深鉢	口縁部	R L	縦	原体圧痕 波状文	II群5類
34	1	RE01	埋土	深鉢	口縁部	L R	縦斜	弁状突起 隆帯 原体圧痕文	II群5類
34	2	RE01	埋土	深鉢	口縁部			隆沈線 3本沈線 渦文 頸部無文	II群7類
34	3	RE01	埋土	深鉢	胴部	L R	斜	地文のみ	II群8類
40	1	RD03	埋土	深鉢	胴部	L R	縦	隆帯貼付	II群6類
40	1	RD05	埋土	深鉢	胴部	R L	縦	キャリパー 隆沈線 隆帯 沈線	II群6類
40	2	RD05	埋土	深鉢	口縁部			隆帯 頸部無文	II群7類
40	3	RD05	埋土	深鉢	口縁部	L R	縦	隆沈線 頸部無文	II群7類



図版No.	No.	出土地点	層位	器種	部位	原体	方向	文様の特徴	分類
40	1	RD07	埋土	深鉢	口縁部	L R	縦	撚紐圧痕文	II群5類
40	2	RD08	埋土	深鉢	口縁部	R L	縦	隆帯に圧痕文	II群5類
40	3	RD08	埋土	深鉢	口縁部	R L	縦	綾絡文 貼瘤	II群5類
56	58	Z17I23	II d ~ e 層	深鉢	口縁部			貝殻腹縁圧痕文 刺突列 小波状口縁	I群1類 a
56	59	Z17H26	II c ~ d 層	深鉢	口縁部			貝殻腹縁文 刺突列	I群1類 a
56	60	Z17P21	II b 層	深鉢	口縁部			貝殻腹縁文 刺突列	I群1類 a
56	61	Z17K23	II c 層	深鉢	口縁部			口唇に刺突 貝殻腹縁圧痕文	I群1類 a
56	62	B区	不明	深鉢	口縁部			貝殻腹縁圧痕文 刺突列 円孔	I群1類 a
56	63	Z18D02	I 層	深鉢	口縁部			貝殻腹縁圧痕文	I群1類 b
56	64	Z18E01	不明	深鉢	口縁部			貝殻腹縁圧痕文	I群1類 b
56	65	Z18T20	II 層	深鉢	口縁部			貝殻腹縁圧痕文	I群1類 b
56	66	Z18G01	II e 層	深鉢	胴部			貝殻腹縁圧痕文	I群1類 b
56	67	Z18F04	II ~ III 層	深鉢	口縁部			貝殻腹縁圧痕文	I群1類 b
56	68	Z17H25	II c ~ d 層	深鉢	胴部			貝殻腹縁圧痕文	I群1類 b
56	69	Z17F23	II d 層	深鉢	胴部			貝殻腹縁圧痕文 円孔	I群1類 b
56	70	Z17I24	II e 層	深鉢	胴部			貝殻腹縁圧痕文	I群1類 b
56	71	Z17F23	II e ~ III a 層	深鉢	胴部			貝殻腹縁圧痕文	I群1類 b
56	72	Z18D02	II e ~ III a 層	深鉢	胴部			貝殻腹縁圧痕文	I群1類 b
56	73	Z18F01	II e ~ III a 層	深鉢	胴部			貝殻腹縁圧痕文	I群1類 b
56	74	Z18D02	II e 層	深鉢	胴部			貝殻腹縁圧痕文	I群1類 b
56	75	Z17F23	II d 層	深鉢	胴部			貝殻腹縁圧痕文	I群1類 b
56	76	Z17D24	II e ~ III a 層	深鉢	胴部			貝殻腹縁圧痕文	I群1類 b
56	77	Z17E24	II d ~ e 層	深鉢	胴部			貝殻腹縁圧痕文	I群1類 b
56	78	X18Q22	II 層	深鉢	胴部			貝殻腹縁文 沈線 3本1組平行沈線	I群1類 c
56	79	X18T20	II a 層	深鉢	胴部			貝殻腹縁文 沈線 3本1組平行沈線	I群1類 c
56	80	X18V18	II 層	深鉢	胴部			貝殻腹縁文 沈線 3本1組平行沈線	I群1類 c
56	81	A区中央	III 層	深鉢	胴部			貝殻腹縁文 沈線 3本1組平行沈線	I群1類 c
56	82	Z18D02	II e 層	深鉢	胴部			貝殻条痕文 押し引き文	I群2類
56	83	A区南側	III 層	深鉢	口縁部			口唇部に刻み目(短沈線) 貝殻条痕文	I群2類
56	84	Z17I23	II d ~ e 層	深鉢	胴部			貝殻条痕文	I群2類
56	85	Z17J25	II e ~ III a 層	深鉢	胴部			貝殻条痕文 内外面	I群2類
56	86	Z19J01	II d ~ e 層	深鉢	口縁部			貝殻腹縁圧痕文 体部無文	I群3類
56	87	Z18K01	不明	深鉢	口縁部			円孔 貝殻条痕文	I群2類
56	88	Z17F24	III 層	深鉢	口縁部			無文	I群2類
56	89	Z17F24	II d ~ e 層	深鉢	胴部			無文	I群2類
56	90	X18U18	II 層	深鉢	胴部			無文	I群2類
57	91	Z17K23	II a 層	深鉢	口縁部	L R	横	原体圧痕隆帯 原体圧痕 爪形圧痕 弁状突起	II群1類 b
57	92	Z17P20	II a 層	深鉢	口縁部			原体圧痕隆帯 爪形圧痕 弁状突起	II群1類 b
57	93	Z17D23	II c ~ d 層	深鉢	口縁部	L R	縦	原体圧痕隆帯 爪形圧痕 弁状突起	II群1類 b
57	94	Z17Q19	II a 層	深鉢	口縁部	L R	横	原体圧痕隆帯 爪形圧痕 弁状突起	II群1類 b
57	95	Z17O20	II a 層	深鉢	口縁部			原体圧痕隆帯 爪形圧痕	II群1類 c
57	96	Z17N20	II b 層	深鉢	口縁部	L R	横	原体圧痕隆帯 爪形圧痕 円孔 弁状突起	II群1類 c
57	97	トレンチ 4	不明	深鉢	口縁部			原体圧痕隆帯 原体圧痕文 弁状突起	II群1類
57	98	Z17L23	不明	深鉢	口縁部			原体圧痕隆帯 原体圧痕 弁状突起	II群1類
57	99	Z17M21	II b 層	深鉢	口縁部	L R	横	原体圧痕隆帯 爪形圧痕 弁状突起	II群1類 c
57	100	Z17L24	II a 層	深鉢	口縁部			原体圧痕隆帯 原体圧痕	II群1類 a
57	101	トレンチ13	不明	深鉢	口縁部	L R	横	原体圧痕隆帯	II群1類
57	102	Z17区	II a 層	深鉢	口縁部			沈線	II群2類
57	103	X17N22	II c ~ d 層	深鉢	口縁部	L R	縦	沈線 ボタン状貼瘤 半截竹管刺突文	II群2類

図版No.	No.	出土地点	層位	器種	部位	原体	方向	文様の特徴	分類
57	104	Z17H22	II b層	深鉢	口縁部	LR	横	沈線 ボタン状貼瘤 半截竹管刺突文	II群2類
57	105	Z17H22	II b層	深鉢	口縁部	LR	横	沈線 ボタン状貼瘤 半截竹管刺突文	II群2類
57	106	トレンチ 4	不明	深鉢	口縁部	LR	縦	原体圧痕隆帯貼付 沈線	II群3類
57	107	Z17R23	I層	深鉢	口縁部	LR	横	隆帯 沈線 貼瘤	II群3類
57	108	Z17L22	II a層	深鉢	口縁部	RL	横	沈線 波状文	II群3類
57	109	Z17E24	II c～e層	深鉢	口縁部	LR	横	沈線 鋸齒状文	II群3類
57	110	Z17H22	II b層	深鉢	口縁部	LR	縦	沈線	II群3類
57	111	Z17J23	II c～d層	深鉢	口縁部	RLR	縦	隆沈線 刺突	II群3類
57	112	Z17E23	II c～d層	深鉢	口縁部	LR	縦	隆帯 沈線	II群3類
57	113	Z17Q20	II d層	深鉢	口縁部	LR	横	沈線 波状隆帯	II群3類
58	114	トレンチ 2	不明	深鉢	口縁部	LRL	横	弁状突起 波状隆帯 隆帯 円文	II群4類
58	115	Z17P20	II c層	深鉢	口縁部	LR	横	弁状突起 波状隆帯 隆帯 渦文	II群4類
58	116	Z17P20	II c層	深鉢	口縁部	LR	縦	弁状突起 波状隆帯 隆帯 渦文	II群4類
58	117	Z17M23	II a層	深鉢	口縁部	LR	縦斜	弁状突起 波状隆帯 隆帯 原体圧痕文	II群4類
58	118	Z17O20	II b層	深鉢	口縁部	LR	横	弁状突起 波状隆帯 渦文 原体圧痕文	II群4類
58	119	Z17P20	II c層	深鉢	口縁部			弁状突起 隆帯 渦文	II群4類
58	120	Z17M22	II a層	深鉢	口縁部			弁状突起 隆帯 渦文 波状隆帯 角状突起	II群4類
58	121	不明	不明	深鉢	口縁部	L	縦	弁状突起 隆帯 原体圧痕 角状突起	II群4類
58	122	Z17Q23	II a層	深鉢	口縁部			弁状突起 原体圧痕文	II群4類
58	123	Z17C21	II b層	深鉢	口縁部	RL	斜	弁状突起 隆帯 原体圧痕文 角状突起	II群4類
58	124	Z17N21	II a層	深鉢	口縁部			弁状突起 隆帯 沈線 角状突起	II群4類
58	125	Z17O20	II b層	深鉢	口縁部			弁状突起 隆帯 原体圧痕 円孔	II群4類
58	126	Z17M24	II a層	深鉢	口縁部	LR	縦	弁状突起 原体圧痕隆帯 原体圧痕文	II群1類
58	127	Z17M22	II b層	深鉢	口縁部	RL	縦	弁状突起 原体圧痕隆帯 原体圧痕	II群1類
58	128	Z18G02	I層	深鉢	口縁部			弁状突起 原体圧痕隆帯 原体圧痕文 刻目	II群1類
58	129	Z17O20	II a層	深鉢	口縁部	RL	縦	弁状突起 原体圧痕隆帯 刺突 円孔	II群1類
58	130	Z17M20	II b層	深鉢	口縁部			弁状突起 原体圧痕隆帯 爪形圧痕 円孔2	II群1類c
58	131	Z17O21	II b層	深鉢	口縁部	LR	縦	弁状突起 隆帯 原体圧痕文 円文	II群5類
59	132	Z17K24	II a層	深鉢	口縁部	RL	縦	波状隆帯 原体圧痕文 羽状縄文	II群5類
59	133	Z17J23	II a層	深鉢	口縁部	RL	横	原体圧痕文	II群5類
59	134	Z17L22	II b層	深鉢	口縁部	LR	縦	隆帯貼付 原体圧痕文	II群5類
59	135	Z17C24	II層	深鉢	口縁部	RL	縦	隆帯貼付 原体圧痕文	II群5類
59	136	Z17O22	II a層	深鉢	口縁部	LR	縦	隆帯 原体圧痕文 綾絡文	II群5類
59	137	Z17L23	II c層	深鉢	口縁部	LR	横	隆帯 原体圧痕	II群5類
59	138	Z17O21	II a層	深鉢	口縁部			隆帯 原体圧痕文	II群5類
59	139	Z17P23	II a層	深鉢	口縁部	LR	横	隆帯 原体圧痕文	II群5類
59	140	Z17K24	不明	深鉢	口縁部			隆帯 原体圧痕文	II群5類
59	141	Z17L22	II b層	深鉢	口縁部	RL	縦	隆帯 原体圧痕文	II群5類
59	142	Z17J22	不明	深鉢	口縁部	RL	横	隆帯 原体圧痕文	II群5類
59	143	Z17Q23	II a層	深鉢	口縁部	LR	縦	隆帯 原体圧痕文	II群5類
59	144	Z17E24	I層	深鉢	口縁部	LR	縦	隆帯 原体圧痕文 綾絡文	II群5類
59	145	Z17L23	II a層	深鉢	口縁部			隆帯 渦文 原体圧痕文 小突起	II群5類
59	146	Z17K23	II c層	深鉢	口縁部			隆帯 原体圧痕文 羽状縄文	II群5類
59	147	Z17L22	II a層	深鉢	口縁部	LRL	縦	隆帯 原体圧痕文	II群5類
59	148	Z17K23	II a層	深鉢	口縁部	LR	横	原体圧痕文	II群5類
59	149	Z17L24	II a層	深鉢	口縁部	RL	縦	原体圧痕文 矢羽状 小突起	II群5類
59	150	Z17P20	II a層	深鉢	口縁部			原体圧痕文 矢羽状	II群5類
59	151	Z17L24	I層	深鉢	口縁部	LR	横	原体圧痕文 矢羽状	II群5類
59	152	Z17J23	II a層	深鉢	口縁部	LR	横	原体圧痕文 隆帯	II群5類

図版No	No	出土地点	層位	器種	部位	原体	方向	文様の特徴	分類
59	153	Z17L24	II c 層	深鉢	口縁部	LR	縦横	キャリパー 隆帯 原体圧痕文 波状文	II群5類
59	154	Z17K25	II a 層	深鉢	口縁部	LR	縦横	弁状突起 隆帯 原体圧痕文	II群5類
60	155	Z17Q20	II a 層	深鉢	口縁部	LR	縦	隆沈線	II群6類
60	156	B区	II a 層	深鉢	口縁部	RL	縦	キャリパー 隆沈線	II群6類
60	157	B区	II b 層	深鉢	口縁部	RRL	横	キャリパー 隆帯	II群6類
60	158	Z17P20	II c 層	深鉢	口縁部	RL	横	キャリパー 隆沈線	II群6類
60	159	Z17P22	II b 層	深鉢	口縁部	RL	横	キャリパー 隆沈線	II群6類
60	160	Z17M22	II a 層	深鉢	口縁部	LRL	横	キャリパー 沈線 波状文	II群6類
60	161	Z17M23	II 層	深鉢	口縁部	RRL	縦	キャリパー 隆沈線 渦文	II群6類
60	162	X18V18	II 層	深鉢	口縁部	RRL	横	キャリパー 隆沈線	II群6類
60	163	Z17O21	II a 層	深鉢	口縁部	LR	横	キャリパー 隆沈線 沈線	II群6類
60	164	Z17F24	II a 層	深鉢	口縁部	RRL	縦	キャリパー 隆帯 沈線 刻み目	II群6類
60	165	Z17E25	II a 層	深鉢	口縁部	RRL	横	キャリパー 隆沈線	II群6類
60	166	B区	II 層	深鉢	口縁部	RRL	横	キャリパー 隆帯	II群6類
60	167	Z17K25	II a 層	深鉢	口縁部	LR	縦横	キャリパー 隆帯 波状文	II群6類
60	168	Z17F24	II c 層～d 層	深鉢	口縁部	LR	縦横	キャリパー 隆帯 波状文	II群6類
60	169	A区北側	不明	深鉢	口縁部	LR	横	キャリパー 隆沈線 渦文	II群6類
60	170	Z17T23	II c 層～d 層	深鉢	口縁部	RL	縦	キャリパー 隆沈線 渦文 山形波状文 刻目	II群6類
60	171	Z17L24	II b 層	深鉢	口縁部	LR	縦	キャリパー 隆沈線 渦文 山形波状文	II群6類
60	172	Z17P20	II b 層	深鉢	口縁部	RL	横	キャリパー? 隆帯 原体圧痕	II群6類
60	173	Z17O20	II a 層	深鉢	口縁部	RRL	縦	キャリパー? 隆帯 沈線 刺突	II群6類
60	174	Z17M21	II b 層	深鉢	口縁部	RL	縦	キャリパー 隆沈線 沈線 原体圧痕	II群6類
60	175	Z17区	不明	深鉢	口縁部	RRL	縦	キャリパー 隆沈線 隆帯 沈線 刺突	II群6類
61	176	A区西側	I 層	深鉢	口縁部	RRL	横	キャリパー 隆帯 渦文	II群6類
61	177	Z17J25	II a 層	深鉢	口縁部	LRL	横	キャリパー 隆帯 渦文	II群6類
61	178	Z17O21	II b 層	深鉢	口縁部			キャリパー 隆帯	II群6類
61	179	Z17M25	II a 層	深鉢	口縁部	不明	縦	キャリパー 隆沈線 沈線 横S字状文	II群6類
61	180	Z18区	II 層	深鉢	口縁部	LR	横	キャリパー 隆沈線 渦文 頸部無文	II群6類
61	181	Z17O22	II a 層	深鉢	口縁部	LR	縦	キャリパー 隆沈線 沈線 渦文	II群6類
61	182	トレンチ4	不明	深鉢	口縁部	RRL	縦	キャリパー 隆沈線 山形波状文 刻み目	II群6類
61	183	Z17P20	II b 層	深鉢	口縁部	LR	縦	キャリパー 隆沈線 3本沈線 曲折文	II群6類
61	184	A区北側	II b 層	深鉢	口縁部	LR	斜	キャリパー 隆沈線 渦文 剣先状文	II群6類
61	185	Z17Q22	II a 層	深鉢	口縁部	RRL	縦	キャリパー 隆帯 沈線 山形波状文 刻み目	II群6類
61	186	X18Q19	II 層	深鉢	口縁部	LRL	横	隆沈線 隆帯 波状粘土紐	II群6類
61	187	Z17P22	II a 層	深鉢	口縁部	LR	横	隆沈線 隆帯貼付 波状粘土紐	II群6類
61	188	Z17Q23	II a 層	深鉢	口縁部	RRL	横	隆沈線 隆帯貼付 波状粘土紐	II群6類
61	189	Z17G22	I 層	深鉢	口縁部	RRL	縦	隆沈線 沈線	II群6類
61	190	X19L24	II 層	深鉢	口縁部	L	縦	隆沈線 隆帯 波状文 沈線	II群6類
61	191	Z17R20	II b 層	深鉢	口縁部	LR	横	沈線 隆帯貼付 波状隆帯	II群6類
62	192	Z17N20	II a 層	深鉢	口縁部	RL	縦	隆帯 沈線 渦文	II群6類
62	193	Z17N21	II a 層	深鉢	口縁部	RL	縦	隆帯貼付 縦位刻み目 沈線	II群6類
62	194	Z17C25	II a 層	深鉢	口縁部	RRL	縦	隆帯貼付 刻み目 沈線	II群6類
62	195	Z17F24	II b 層	深鉢	口縁部			隆帯 刻み目 原体圧痕	II群6類
62	196	Z17E23	II c 層～d 層	深鉢	口縁部	LRL	横	横S字状突起 隆帯 原体圧痕	II群6類
62	197	Z17O21	II b 層	深鉢	口縁部	RRL	縦	隆帯 沈線 渦状突起 刻目	II群6類
62	198	Z17L24	II a 層	深鉢	口縁部	RL	縦	沈線 隆帯 波状粘土紐	II群6類
62	199	Z17M24	II a 層	深鉢	口縁部	RL	縦	口唇部刻目 隆帯	II群6類
62	200	A区北側	不明	深鉢	口縁部	RL	横	隆帯 渦文 内面にも渦文	II群6類
62	201	B区東側	II a 層	深鉢	口縁部	LR	横	隆沈線 C字状突起 刺突 内面にも渦文	II群6類

図版No.	No.	出土地点	層位	器種	部位	原体	方向	文様の特徴	分類
62	202	B区	II層	深鉢	口縁部	RLR	縦	沈線 C字状突起 内面に渦文	II群6類
62	203	Z17H23	II b層	深鉢	口縁部	RL	縦	隆帯 C字状突起 波状粘土紐	II群6類
63	204	Z17L24	II a層	深鉢	口縁部	LR	縦	山形突起 隆沈線 渦文 刺突	II群6類
63	205	Z17K24	II a層	深鉢	口縁部	RLR	縦	山形突起 沈線 隆帯 S字状文	II群6類
63	206	トレンチ13	I層	深鉢	口縁部			山形突起 渦巻状突起	II群6類
63	207	Z17D24	II b層	深鉢	口縁部	RL	横	山形突起 隆帯 波状隆帯 沈線 刺突 円孔	II群6類
63	208	Z17E25	II a層	深鉢	口縁部	LR	縦	山形突起 隆帯 原体圧痕文 円孔	II群6類
63	209	Z17Q20	II a層	深鉢	突起	RL	横	横S字状突起 隆帯	II群6類
63	210	Z18D01	I層	深鉢	口縁部	RL	横	横S字状突起 隆帯	II群6類
63	211	Z17D24	II a層	深鉢	口縁部	RLR	縦	横S字状突起 沈線 隆帯	II群6類
63	212	Z17N20	II b層	深鉢	口縁部			横S字状文 隆帯 沈線	II群6類
63	213	Z17O20	II b層	深鉢	口縁部			横S字状突起 隆帯 刻目 沈線	II群6類
64	214	Z17N19	II a層	深鉢	口縁部	LR	縦	隆帯 渦文 波状文 曲折文	II群6類
64	215	X18R19	II層	深鉢	口縁部	RL	横	隆沈線 沈線	II群6類
64	216	Z17N20	II b層	深鉢	口縁部			隆帯 渦文 波状文	II群6類
64	217	トレンチ4	不明	深鉢	口縁部	L	縦	隆帯 沈線 渦文 刺突	II群6類
64	218	Z17G23	II c～d層	深鉢	口縁部	RL	縦	渦状突起 隆帯 沈線	II群6類
64	219	Z17O20	II a層	深鉢	口縁部			渦状突起 隆沈線 刺突	II群6類
64	220	Z17N21	II a層	深鉢	口縁部	LR	縦	隆帯 隆沈線 刺突 角状突起	II群6類
64	221	Z18J01	II a層	深鉢	口縁部	LR	横	隆沈線 刺突列	II群6類
64	222	Z17M20	II b層	深鉢	口縁部	LRL	縦	隆帯 渦文 渦状突起	II群6類
64	223	Z17Q20	II a層	深鉢	口縁部	RLR	横	隆帯 渦文 渦状突起	II群6類
64	224	Z17D24	I層	深鉢	口縁部	LR	横	隆沈線 渦文 刺突	II群6類
65	225	B区東側	I層	深鉢	口縁部			隆沈線 刺突列 渦文	II群7類
65	226	Z17P20	II a層	深鉢	口縁部	RLR	横	隆帯 渦文	II群7類
65	227	Z17G23	不明	深鉢	口縁部			隆帯	II群7類
65	228	Z17L23	II b層	深鉢	口縁部	RLR	縦	隆帯 沈線	II群7類
65	229	B区東側	II a層	深鉢	口縁部	RLR	縦	隆沈線 隆帯 渦文	II群7類
65	230	A区北側	I層	深鉢	口縁部	RLR	縦	隆沈線 隆帯 渦文	II群7類
65	231	トレンチ10	II b層	深鉢	口縁部			隆帯	II群7類
65	232	A区北側	III層	深鉢	口縁部			隆帯 沈線	II群7類
65	233	B区中央	II層	深鉢	口縁部	LR	縦	隆沈線 隆帯 横S字状文 渦文	II群7類
65	234	A区北側	I層	深鉢	口縁部	RLR	横	隆帯 沈線 渦文	II群7類
65	235	Z17P24	II a層	深鉢	口縁部	RLR	縦	隆沈線 渦文 頸部無文	II群7類
65	236	Z17L24	II b層	深鉢	口縁部			頸部無文 隆帯 渦文	II群7類
65	237	Z17L24	II a層	深鉢	口縁部	RL	縦	頸部無文 沈線 渦文	II群7類
65	238	Z17O21	II a層	深鉢	口縁部	LR	縦	頸部無文 沈線 隆帯	II群7類
65	239	Z17R21	II a層	深鉢	口縁部			頸部無文 沈線 刺突 隆沈線	II群7類
65	240	Z17M22	II b層	深鉢	口縁部	RLR	縦	頸部無文 3本沈線	II群7類
65	241	Z18J01	I層	深鉢	口縁部	RLR	縦	隆帯 沈線 山形突起 円孔	II群7類
65	242	Z17N21	II a層	深鉢	口縁部			頸部無文 波状口縁	II群7類
65	243	トレンチ3	不明	深鉢	胴部			隆沈線 沈線 剣先状文 撚糸	II群7類
65	244	B区東側	I層	深鉢	胴部	RL	縦	隆沈線 渦文	II群7類

表7 石器観察表(1)

図版No.	No.	出土地点	層位	器種	大きさ(cm)			重量(g)	特徴・備考	石質	産地
					長さ	幅	厚さ				
12	8	RA01	床直上	尖頭器?	(3.2)	1.3	0.6	8.7		粘板岩	A1
12	9	RA01	埋土下位	打製石斧	7.7	2.6	1.4	31.8	両面加工	粘板岩	A1
12	10	RA01	埋土下位	礫	12.8	6.8	3.1	485.0		花崗閃緑岩	A1
12	11	RA01	床直上	石皿?	12.6	10.0	4.5	829.0	煤状の付着物	両輝石安山岩	B2
17	39	RA03	埋土9層	石鏃	(3.7)	1.2	0.4	1.6	凸基有茎鏃 尖端部欠損	粘板岩	A1
17	40	RA03	埋土3層	両極石器	2.3	2.2	0.7	4.7	2個1対の刃部	凝灰質硬質泥岩	C
17	41	RA03	埋土5層	磨石兼敲石	14.8	10.8	7.3	148.0	両面 片面に浅い敲打痕	両輝石安山岩	B2
17	42	RA03	埋土5層	台石?	(17.7)	(14.4)	4.7	1636.0	破損品	砂質凝灰岩	B1
22	22	RA04	埋土中位	打製石斧	5.4	2.3	1.2	12.6	両面加工	凝灰質硬質泥岩	C
22	23	RA04	埋土5層	石鏃	(2.7)	1.2	0.5	1.4	凸基有茎鏃 基部欠損	粘板岩	A1
22	24	RA04	埋土中位	磨製石斧	(2.5)	(1.9)	(1.7)	4.4	基端のみ	粘板岩	A1
22	25	RA04	埋土	磨石	(10.9)	7.9	6.0	771.0	両面	花崗閃緑岩	A1
27	25	RA05	埋土	石鏃	(2.3)	1.2	0.6	1.3	凸基有茎鏃 基部欠損	珪質泥岩	C
27	26	RA05	埋土1層	削搔器?	5.5	2.2	1.2	12.9		硬質泥岩	C
27	27	RA05	埋土下位	磨製石斧	(6.7)	5.2	2.0	127.0	刃部 基部欠損	輝石矽岩	A1
27	28	RA05	埋土5層	台石	30.0	(14.5)	7.6	4231.0	煤状の付着物有り	花崗閃緑岩	A1
28	19	RA07	埋土上位	石鏃	2.1	1.6	0.6	1.7	凹基無茎鏃	珪質泥岩	C
28	20	RA07	埋土中位	石鏃	3.7	1.2	0.5	1.8	凸基有茎鏃	珪質泥岩	C
28	21	RA07	埋土8層	削搔器	5.5	2.6	0.6	8.7	刃部両面加工	珪質泥岩	C
28	22	RA07	埋土上位	削搔器	3.7	2.2	0.8	5.8	刃部両面加工	粘板岩	A1
30	1	RA12	埋土	削搔器	6.2	3.4	0.9	16.4	片面加工	珪質泥岩	C
32	8	RA13	埋土中位	石鏃	(1.9)	1.3	0.4	0.7	基部欠損	珪質泥岩	C
32	9	RA13	埋土下位	削搔器	4.5	2.4	0.7	8.1	刃部両面加工	硬質泥岩	C
32	10	RA13	埋土上位	磨製石斧	(3.5)	(3.7)	(1.0)	11.8	破損品	粘板岩	A1
32	11	RA13	埋土中位	特殊磨石	(9.1)	6.3	5.7	420.0	2側縁使用 断面三角形	両輝石安山岩	B2
32	12	RA13	埋土	台石?	36.5	38.6	13.9	26500.0		花崗閃緑岩	A1
40	4	RD08	埋土上位	石鏃	2.7	1.7	0.5	1.5	凹基無茎鏃 基部欠損	珪質泥岩	C
67	1	Z17N21	II b層	石鏃	1.9	1.4	0.6	0.8	凹基無茎鏃	流紋岩	A1
67	2	Z17G22	II b層	石鏃	1.6	1.2	0.3	0.3	凹基無茎鏃 タール状の付着物	粘板岩	A1
67	3	Z17L21	II b層	石鏃	2.1	1.5	0.3	0.8	凹基無茎鏃	珪質泥岩	C
67	4	Z17K24	II b層	石鏃	1.9	1.8	0.3	0.6	凹基無茎鏃	凝灰質硬質泥岩	C
67	5	Z17Q03	II a層	石鏃	2.8	1.4	0.9	2.2	凹基無茎鏃	粘板岩	A1
67	6	Z18D03	II c層	石鏃	3.2	1.3	0.6	2.2	凹基無茎鏃	粘板岩	A1
67	7	Z17P20	II層	石鏃	(2.4)	1.3	0.4	1.0	凹基無茎鏃 尖端部欠損	流紋岩	A1
67	8	Z17L22	II a層	石鏃	3.9	1.5	0.7	2.8	凸基有茎鏃	珪質泥岩	C
67	9	Z18G02	II層	石鏃	(2.7)	1.3	0.5	1.3	凸基有茎鏃 尖端部欠損	珪質泥岩	C
67	10	Z17M21	II b層	石鏃	(2.4)	1.2	0.5	1.3	凸基有茎鏃 尖端部,基部欠損	珪質泥岩	C
67	11	Z17L22	不明	石鏃	(2.4)	1.1	0.5	1.1	凸基有茎鏃 尖端部,基部欠損	凝灰質硬質泥岩	C
67	12	Z17N24	II a層	石鏃	(2.5)	1.1	0.4	1.2	凸基有茎鏃 基部欠損	硬質泥岩	C
67	13	Z17L22	II b層	石鏃	(2.2)	1.3	0.5	1.3	凸基有茎鏃 尖端部,基部欠損	珪質泥岩	C
67	14	Z17M23	II a層	石鏃	(2.2)	1.2	0.5	1.1	凸基有茎鏃 基部欠損	粘板岩	A1
67	15	Z17L21	不明	石鏃	(3.6)	1.7	0.6	2.9	凸基有茎鏃 尖端部,基部欠損	珪質泥岩	C
67	16	不明	不明	石鏃	(2.7)	1.3	0.7	2.5	凸基有茎鏃 尖端部,基部欠損	珪質泥岩	C
67	17	Z17O20	II a層	石鏃	2.8	1.1	0.3	1.0	凸基有茎鏃	凝灰質硬質泥岩	C
67	18	Z17Q02	II a層	石鏃	4.0	1.3	0.5	2.0	凸基有茎鏃	粘板岩	A1
67	19	Z17J22	II b層	石鏃	(3.0)	1.3	0.3	1.4	凸基有茎鏃 基部欠損	珪質泥岩	C
68	20	A区北側	II b層	石鏃	(3.0)	1.2	0.6	1.9	凸基有茎鏃 基部欠損	粘板岩	A1
68	21	Z17M20	II b層	石鏃	(2.5)	1.5	0.6	1.7	凸基有茎鏃 尖端部欠損	粘板岩	A1

図版No.	No.	出土地点	層位	器種	大きさ (cm)			重量 (g)	特徴・備考	石質	産地
					長さ	幅	厚さ				
68	22	Z17H23	II b 層	石鏃	(3.9)	1.5	0.5	1.4	凸基有茎鏃 基部欠損	凝灰質硬質泥岩	C
68	23	Z17L21	II b 層	石鏃	2.2	1.2	4.5	0.9	尖基鏃	珪質泥岩	C
68	24	Z17P20	II a 層	石鏃	(2.1)	1.1	0.4	0.6	基部欠損	粘板岩	A 1
68	25	トレンチ 5	II 層	石鏃	(3.0)	(1.5)	0.5	1.9	基部欠損	流紋岩	A 1
68	26	Z17M21	II b 層	石鏃	3.3	1.4	0.5	2.1	円基鏃?	粘板岩	A 1
68	27	Z17O19	II a 層	石鏃	4.0	1.6	0.6	3.9	円基鏃?	粘板岩	A 1
68	28	Z17L21	I 層	石鏃	3.3	2.5	0.6	4.0	円基鏃?	粘板岩	A 1
68	29	Z17P20	II a 層	石鏃	3.2	2.2	1.0	7.1	円基鏃?	粘板岩	A 1
68	30	Z17K24	II c 層	尖頭器	(6.3)	2.2	1.0	10.8	尖端部 基部欠損	流紋岩	A 1
68	31	Z17H25	I 層	尖頭器	(3.5)	1.8	0.8	4.4	尖端部 半欠	凝灰質硬質泥岩	C
68	32	Z19Q19	II a 層	尖頭器	(2.5)	1.7	0.7	3.6	基部? 半欠	硬質泥岩	C
68	33	Z18D03	II c 層	尖頭器	(3.5)	2.5	0.6	7.8	基部? 半欠	粘板岩	A 1
69	34	Z17G24	II b 層	石匙	6.4	9.3	0.8	39.5	横形 刃部両面加工	珪質泥岩	C
69	35	Z17K24	II b 層	石匙	5.0	3.8	1.0	13.8	横形 刃部両面加工	珪質泥岩	C
69	36	Z17O23	II a 層	石匙	3.8	3.4	0.4	4.4	横形 刃部片面加工	珪質泥岩	C
69	37	Z17Q22	II a 層	石匙	2.8	4.7	0.7	5.7	横形 刃部両面加工	流紋岩	A 1
69	38	Z17Q02	II a 層	石匙	(6.1)	2.7	1.0	17.0	縦形 刃部両面加工 刃部欠損	凝灰質硬質泥岩	C
69	39	Z17C24	II a 層	石匙	5.2	3.7	0.7	15.4	縦形 刃部両面加工	粘板岩	A 1
69	40	Z17K24	II c 層	石匙	(5.1)	4.1	0.7	12.0	縦形 刃部両面加工 刃部欠損	粘板岩	A 1
70	41	Z17E03	II b 層	石筩	7.9	3.4	1.0	30.1	刃部片面加工	粘板岩	A 1
70	42	Z18E03	II b 層	石筩	7.3	3.1	1.0	24.7	刃部片面加工	粘板岩	A 1
70	43	Z18G01	II e 層	石筩	6.0	3.2	1.3	22.7	刃部片面加工	粘板岩	A 1
70	44	A区北側	II b 層	石筩	6.3	3.8	1.4	37.1	刃部片面加工	硬質泥岩	C
70	45	Z17M22	II a 層	石筩	5.2	3.2	1.3	18.5	刃部片面加工	珪質泥岩	C
70	46	Z17L21	II b 層	石筩	3.8	3.2	1.1	13.4	刃部に細部加工伴わない	粘板岩	A 1
70	47	Z17K24	II b 層	石筩	7.5	2.5	1.4	27.9	片面加工	凝灰質硬質泥岩	C
70	48	Z17O20	II a 層	石錐?	(2.2)	1.7	0.7	2.1	摘み? 破損品	珪質泥岩	C
70	49	Z17N23	II a 層	石匙?	(2.4)	1.9	0.9	3.6	摘み? 破損品	粘板岩	A 1
70	50	Z17E25	II b 層	石錐?	3.0	1.6	0.9	3.5	未製品?	珪質泥岩	C
70	51	Z17C24	I 層	両極石器	2.5	3.2	0.9	8.5	2個 1 対の刃部	珪質泥岩	C
70	52	Z17M21	II b 層	両極石器	3.3	2.6	0.9	9.9	4個 2 対の刃部	粘板岩	A 1
70	53	Z17N24	II a 層	両極石器	4.0	3.9	1.4	21.0	4個 2 対の刃部	粘板岩	A 1
71	54	Z17P21	II a 層	削搔器	5.3	2.2	0.9	4.5	片面からの刃部加工	粘板岩	A 1
71	55	Z17M21	II b 層	削搔器	5.8	1.8	0.7	5.8	片面からの刃部加工	粘板岩	A 1
71	56	トレンチ 5	II 層	削搔器	4.2	1.8	0.9	6.7	片面からの刃部加工	珪質泥岩	C
71	57	Z17N21	II a 層	削搔器	3.5	1.8	0.5	3.0	両面からの刃部加工	凝灰質硬質泥岩	C
71	58	Z18E01	I 層	削搔器	3.9	1.8	0.7	3.6	両面からの刃部加工	硬質泥岩	C
71	59	Z17N	不明	削搔器	3.5	2.1	0.7	4.3	両面からの刃部加工	硬質泥岩	C
71	60	Z17F23	II a 層	削搔器	4.4	3.0	1.5	14.0	片面からの刃部加工 両面に自然面	硬質泥岩	C
71	61	トレンチ 5	不明	削搔器	3.3	3.8	1.2	14.6	両面からの刃部加工	粘板岩	A 1
71	62	Z17I25	II b 層	削搔器	4.1	2.9	0.8	9.4	片面からの刃部加工	粘板岩	A 1
71	63	Z17N23	II a 層	削搔器	3.4	2.9	1.1	10.9	片面からの刃部加工 片面に自然面	硬質泥岩	C
71	64	Z17N21	II d 層	削搔器	3.5	3.7	0.8	9.6	片面からの刃部加工	粘板岩	A 1
71	65	Z17F23	II a 層	削搔器	3.4	2.7	0.6	4.9	片面からの刃部加工 片面に自然面	流紋岩	A 1
71	66	X19O05	II 層	削搔器	6.5	3.7	1.3	21.7	片面からの刃部加工 片面に自然面	硬質泥岩	C
71	67	トレンチ 4	II 層	削搔器	4.7	2.9	1.2	13.3	両面からの刃部加工	凝灰質硬質泥岩	C
71	68	Z17S22	II a 層	削搔器	2.9	1.6	0.5	1.4	片面からの刃部加工	粘板岩	A 1
71	69	Z17Q21	II a 層	削搔器	4.5	3.6	1.2	17.0	片面からの刃部加工	粘板岩	A 1
72	70	Z17R22	II a 層	削搔器	6.0	3.0	0.7	20.9	片面からの刃部加工	凝灰質硬質泥岩	C

図版No	No	出土地点	層位	器種	大きさ(cm)			重量(g)	特徴・備考	石質	産地
					長さ	幅	厚さ				
72	71	X19G11	II b層	削搔器	5.3	3.6	0.8	20.1	片面からの刃部加工	凝灰質硬質泥岩	C
72	72	Z17N20	II b層	削搔器	4.6	3.5	1.5	15.4	両面からの刃部加工	粘板岩	A 1
72	73	Z17O20	II a層	削搔器	4.3	3.5	1.1	16.2	片面からの刃部加工	粘板岩	A 1
72	74	Z17C24	II b層	削搔器	4.3	4.1	1.3	28.0	片面からの刃部加工	粘板岩	A 1
72	75	Z17C23	II a層	削搔器	4.7	3.3	1.1	15.6	石籠類? 片面からの刃部調整	珪質泥岩	C
72	76	Z17M23	II a層	削搔器	4.3	4.1	1.0	17.1	片面からの刃部加工	珪質泥岩	C
72	77	Z17K21	II a層	削搔器	3.3	3.9	0.9	10.0	片面からの刃部加工	凝灰質硬質泥岩	C
72	78	X18A01	II層	削搔器	3.2	3.2	1.1	11.8	片面からの刃部加工	凝灰質硬質泥岩	C
72	79	トレンチ5	II層	削搔器	4.1	3.9	1.0	14.5	両面からの刃部加工	硬質泥岩	C
72	80	Z17P21	II d層	削搔器	5.0	3.8	1.1	18.6	片面からの刃部加工	硬質泥岩	C
72	81	Z17R23	II a層	削搔器	4.5	5.5	1.3	23.9	片面からの刃部加工	粘板岩	A 1
72	82	Z17R20	II b層	削搔器	4.3	3.6	1.3	13.4	片面からの刃部加工	硬質泥岩	C
73	83	Z18G02	I層	磨製石斧	(8.2)	3.8	1.6	70.4	基部 刃部欠損	粘板岩	A 1
73	84	Z17E23	II a層	磨製石斧	(9.8)	4.2	2.5	170.8	基部 刃部欠損	濃緑色凝灰岩	C
73	85	Z17T25	II a層	磨製石斧	(7.1)	6.3	3.1	159.9	基部残存	濃緑色凝灰岩	C
73	86	Z17H23	I層	磨製石斧	(5.0)	5.4	3.3	128.1	基部 刃部欠損	粘板岩	A 1
73	87	Z18D04	I層	磨製石斧	(8.5)	4.7	2.9	183.1	基部 刃部欠損	濃緑色凝灰岩	C
73	88	Z17H22	II b層	磨製石斧	(7.3)	5.2	(5.2)	204.6	基部 刃部欠損 磨面	濃緑色凝灰岩	C
73	89	Z17M22	II a層	磨製石斧	(3.2)	(4.1)	(1.4)	14.9	基端残存	濃緑色凝灰岩	C
74	90	Z17K23	II e層	磨製石斧	(2.6)	(3.1)	(1.4)	22.1	基端残存	粘板岩	A 1
74	91	Z18E01	I層	磨製石斧	(3.9)	(3.4)	(1.1)	16.6	基端残存	粘板岩	A 1
74	92	Z17H23	I層	磨製石斧	(4.2)	1.6	0.9	12.2	刃部欠損 小型	濃緑色凝灰岩	C
74	93	A区溝	埋土	打製石斧	7.9	3.0	1.3	28.2	両面加工	凝灰質硬質泥岩	C
74	94	A区南側	II b層	打製石斧	6.1	3.4	1.9	29.1	両面加工	粘板岩	A 1
74	95	Z17K25	II a層	打製石斧	(3.9)	2.0	1.0	8.2	両面加工 刃部欠損	粘板岩	A 1
74	96	Z17O21	II b層	打製石斧	(3.6)	2.0	0.9	8.0	両面加工 基部欠損	凝灰質硬質泥岩	C
74	97	Y18A16	不明	石鏃	18.0	13.0	2.2	661.0		粘板岩	A 1
75	98	Z17N23	II b層	磨石	9.4	9.1	5.0	588.0	両面	両輝石安山岩	B 2
75	99	X18X08	盛土	磨石	(6.9)	8.3	3.7	311.0	両面 破損品	両輝石安山岩	B 2
75	100	Z17K23	II c層	磨石	10.3	9.7	5.8	828.0	両面	両輝石安山岩	B 2
75	101	Z17F24	II a層	磨石	(7.2)	8.5	6.1	531.0	両面 破損品	両輝石安山岩	B 2
75	102	Z17K24	II c層	磨石	8.0	6.5	6.7	453.0	両面 端部に敲打痕	両輝石安山岩	B 2
75	103	Z17Q22	II b層	磨石	13.0	8.3	6.8	934.0	両面 破損品	両輝石安山岩	B 2
75	104	Z18J02	II b層	磨石	(6.7)	(6.8)	6.7	444.0	全面? 破損品	両輝石安山岩	B 2
76	105	Z17R19	II b層	磨石	11.7	9.6	5.1	903.0	両面 1側縁	両輝石安山岩	B 2
76	106	A区西側	不明	磨石	(9.9)	(10.1)	3.8	559.0	側縁 破損品	凝灰質砂岩	B 1
76	107	Z17K24	II a層	磨石	13.1	7.8	5.1	746.0	片面 1側縁 端部に敲打痕	両輝石安山岩	B 2
76	108	Z17P23	II a層	磨石	13.6	7.8	6.3	1165.0	片面	両輝石安山岩	B 2
76	109	Z17L24	II b層	磨石	10.0	8.2	5.6	668.0	片面	両輝石安山岩	B 2
76	110	Z17M23	II a層	磨石	8.1	7.8	5.9	388.0	片面	両輝石安山岩溶岩	D
76	111	Z17L23	II a層	磨石	11.4	11.4	6.5	1173.0	片面	安山岩	A 1
76	112	Z17L21	II c層	磨石	10.3	9.6	6.0	806.0	片面	両輝石安山岩	B 2
77	113	A区北側	盛土	磨石兼凹石	14.3	7.5	6.5	1124.0	片面 片面に凹み	両輝石安山岩	B 2
77	114	Z17K24	II c層	磨石兼凹石	9.4	6.4	3.3	283.0	両面 片面に凹み	両輝石安山岩	B 2
77	115	Z17D25	II a層	磨石兼凹石	13.0	10.7	3.9	646.0	両面 片面に凹み	両輝石安山岩溶岩	D
77	116	Z17F22	II b層	磨石兼凹石	12.8	9.0	6.3	1102.0	片面 両面に凹み	両輝石安山岩	B 2
77	117	X18U25	I層	磨石兼凹石	8.9	8.1	5.6	136.0	片面 片面に凹み	両輝石安山岩	B 2
77	118	Z17P22	II a層	磨石兼凹石	(7.6)	9.0	6.1	548.0	両面 片面に凹み 破損品	両輝石安山岩	B 2
78	119	Z18J01	II a層	凹石	13.3	7.3	2.1	295.0	両面に凹み	凝灰質砂岩	B 1

図版No.	No.	出土地点	層位	器種	大きさ (cm)			重量 (g)	特徴・備考	石質	産地
					長さ	幅	厚さ				
78	120	Z17M22	II b 層	凹石	12.0	7.9	5.3	386.0	両面に凹み	両輝石安山岩溶岩	D
78	121	A区北側	不明	凹石	7.1	6.1	4.1	180.0	片面に凹み	両輝石安山岩溶岩	D
78	122	Z18L01	II a 層	凹石	8.4	6.2	3.8	288.0	片面に凹み	両輝石安山岩	B 2
78	123	X19E12	II 層	凹石	7.3	4.8	4.4	94.0	片面に凹み	両輝石安山岩溶岩	D
78	124	Z17D25	II a 層	凹石	12.3	8.1	3.4	506.0	片面に凹み	両輝石安山岩	B 2
78	125	Z17K24	II a 層	凹石	10.8	10.3	6.3	740.0	片面に凹み	両輝石安山岩溶岩	D
78	126	Z17M22	II a 層	凹石	(11.1)	7.9	4.2	412.0	両面1側面に凹み 破損品	両輝石安山岩溶岩	D
79	127	Z18I 01	II b 層	磨石兼敲石	(7.9)	8.9	5.5	505.0	両面を敲打痕 破損品	両輝石安山岩	B 2
79	128	Z17K24	II c 層	磨石兼敲石	10.8	9.5	5.0	741.0	両面 片面に凹み 1端に敲打痕	両輝石安山岩	B 2
79	129	Z17K25	II a 層	磨石兼敲石	11.3	9.0	7.2	1011.0	両面 側縁に敲打痕	両輝石安山岩	B 2
79	130	Z18I2	I 層	磨石兼敲石	11.8	9.3	5.8	934.0	両面 1端に敲打痕	両輝石安山岩	B 2
79	131	Z17T25	II a 層	敲石	11.6	4.6	3.6	277.0	棒状 両側面 1端に敲打痕 破損品	両輝石安山岩	B 2
79	132	Z17M23	II a 層	敲石	(14.1)	(8.7)	2.9	635.0	片面 破損品	濃緑色凝灰岩	A 2
80	133	Z17P20	II b 層	特殊磨石	(10.1)	7.7	3.6	377.0	1側縁 両面に浅い凹み 破損品	両輝石安山岩	B 2
80	134	Z18G02	I 層	特殊磨石	(9.9)	6.1	3.4	333.0	1側縁 ほとんど無加工 破損品	濃緑色砂質凝灰岩	B 1
80	135	Z17D23	II c 層	特殊磨石	11.6	6.4	3.9	463.0	1側縁 ほとんど無加工	両輝石安山岩	B 2
80	136	Z18I 01	II b 層	特殊磨石	(10.9)	7.9	3.1	412.0	1側縁 側部に加工 破損品	両輝石安山岩	B 2
80	137	A区北側	II b 層	特殊磨石	(8.5)	7.1	3.3	333.0	1側縁 ほとんど無加工 破損品	両輝石安山岩	B 2
80	138	Z18D01	II c 層	特殊磨石	(8.8)	5.4	3.5	193.0	1側縁 破損品	両輝石安山岩	B 2
80	139	Z17C23	II c 層	特殊磨石	(11.6)	7.3	2.9	404.0	1側縁 ほとんど無加工 破損品	両輝石安山岩	B 2
80	140	Z17C24	II a 層	特殊磨石	(10.3)	6.6	3.2	293.0	1側縁 ほとんど無加工 破損品	砂質凝灰岩	B 1
80	141	Z17O19	II a 層	特殊磨石	(8.1)	8.5	3.2	313.0	半円状打製石器 周縁を加工 破損品	濃緑色砂質凝灰岩	B 1
80	142	Z18H01	II c 層	特殊磨石	(6.9)	7.5	2.7	200.0	半円状打製石器 周縁を加工 破損品	濃緑色砂質凝灰岩	B 1
81	143	B区東側	I 層	特殊磨石	15.1	6.5	2.8	359.0	1側縁 側部に加工	流紋岩	A 1
81	144	Z17K23	II a 層	特殊磨石	15.1	6.8	3.4	468.0	1側縁 側部に加工	両輝石安山岩	B 2
81	145	Z17E24	II c 層	特殊磨石	(9.4)	(6.2)	4.1	459.0	1側縁 両面も加工 端部に敲打痕	両輝石安山岩溶岩	D
81	146	B区	不明	特殊磨石	(10.3)	7.3	4.2	434.0	1側縁 端部と側部に加工 破損品	両輝石安山岩	B 2
81	147	X18S19	II 層	特殊磨石	(11.4)	6.7	3.8	426.0	1側縁 端部に加工 破損品	両輝石安山岩	B 2
81	148	Z17K23	II a 層	特殊磨石	(10.4)	9.1	4.3	667.0	1側縁 端部に加工 破損品	両輝石安山岩	B 2
82	149	Z17C24	II a 層	特殊磨石	15.9	7.9	3.7	829.0	1側縁 両端部 側縁に敲打痕と併打	濃緑色凝灰岩	A 2
82	150	Z17G23	II 層	特殊磨石	12.4	6.5	3.3	453.0	1側縁 端部に敲打痕	両輝石安山岩	B 2
82	151	Z18F04	II b 層	特殊磨石	13.6	8.0	5.2	868.0	1側縁 断面三角形	両輝石安山岩	B 2
82	152	Z17L22	II a 層	特殊磨石	14.5	8.3	5.5	1094.0	1側縁 断面三角形	両輝石安山岩	B 2
82	153	Z17E24	II c 層	特殊磨石	(7.5)	6.8	4.1	286.0	1側縁 断面三角形 破損品	両輝石安山岩	B 2
82	154	Z17H26	II c 層	特殊磨石	(9.1)	6.9	4.9	488.0	1側縁 断面三角形 破損品	両輝石安山岩	B 2
83	155	Z17L24	II b 層	特殊磨石	(10.8)	8.3	5.3	446.0	1側縁 断面三角形 破損品	両輝石安山岩	B 2
83	156	Z18G02	II c 層	特殊磨石	16.8	7.8	5.4	862.0	1側縁 断面三角形	凝灰質硬砂岩	A 1
83	157	Z18E02	II e 層	特殊磨石	14.4	7.6	5.4	934.0	2側縁 1面	両輝石安山岩	B 2
83	158	Z17Q22	II e 層	特殊磨石	15.1	5.4	5.3	826.0	2側縁 1面	安山岩	A 1
83	159	B区東側	不明	特殊磨石?	15.1	7.3	4.1	741.0	石冠?	両輝石安山岩	B 2
84	160	A区北側	II b 層	石皿	(20.8)	29.6	12.8	4576.0	脚付 破損品	両輝石安山岩溶岩	D
84	161	Z17Q20	II a 層	石皿	(21.0)	20.0	11.6	3763.0	縁付 破損品	両輝石安山岩溶岩	D
84	162	B区東側	II 層	石皿	(25.3)	(25.2)	(11.4)	4000.0	縁付 破損品	両輝石安山岩溶岩	D
84	163	Z17Q19	II a 層	石皿	(21.5)	(22.0)	(11.0)	3241.0	縁付 破損品	両輝石安山岩溶岩	D
84	164	Z17L24	II a 層	石棒?	(7.3)	9.8	8.7	979.0	破損品	淡緑色凝灰岩	B 1



## IV. 考察とまとめ

### 1. 遺構（第85・86図）

松屋敷遺跡の遺構はすべて縄文時代に属するものと推定される。検出された遺構は竪穴住居跡14棟、竪穴状遺構1棟、土坑7基、陥し穴5基、焼土遺構1か所、柱穴状土坑19基である。遺構配置図にみるようにA区南側に竪穴住居跡群が、その北側に陥し穴群が集中して分布している。土坑類は散在している。また中期と早期の遺物包含層がB区全域に広がっている。以下、各遺構について考察を加え、まとめをしたい。

#### （1）竪穴住居跡

##### 〈時期・占地〉

竪穴住居跡は14棟検出された。すべて縄文時代の遺構である。出土遺物から時期を推定できるものは8棟である。時期的に中期と早期に分けられ、中期中葉6棟(RA01・02・03・04・05・07)と早期2棟(RA13・14)である。

中期中葉の住居跡はA区南側の平坦面(標高188～189m)に集中している。A区北側が北西に向かった急斜面であることや遺構の検出状況等から、同時期の集落はA区の東側から南側にかけて広がっていたものと推定される。A区に立地する出土遺物のない住居跡も重複関係その他の状況から同時期の可能性が高いと思われ、今回、調査したA区の住居跡群は中期集落の北端にあたるものと推定される。

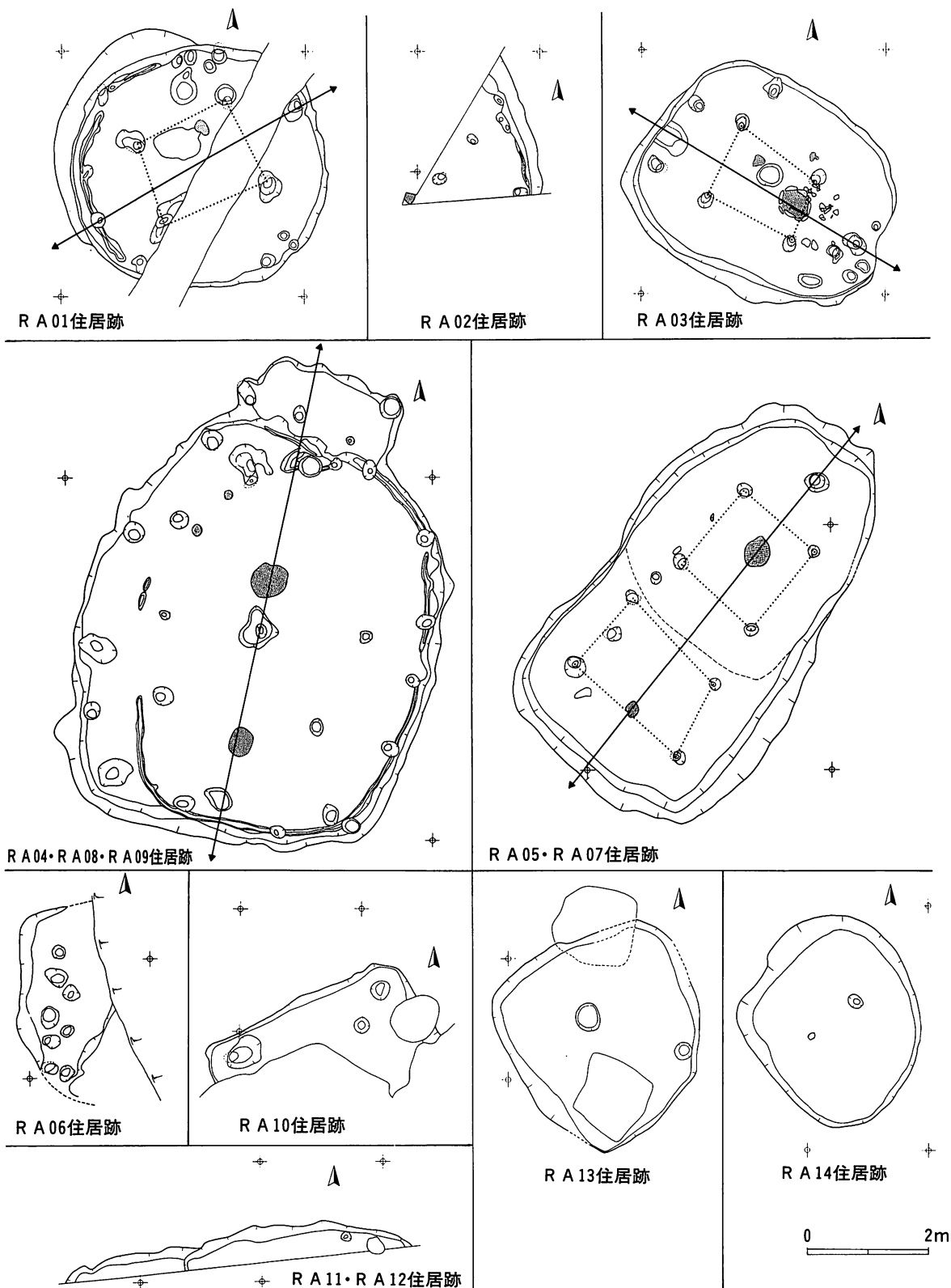
早期の住居跡はB区斜面下位の比較的平坦な面に位置している。B区は北西から南東に向かった緩斜面となっており、東側は急斜面となっている。2棟の住居跡はほぼ同レベル(標高180～181m)に立地している。早期の集落は、B区の東側から南側の緩斜面にかけて広がっていたものと推定される。早期と中期の集落の占地は異なっていた可能性がある。調査区を含め、周辺地域の現況は旧地形から懸け離れたものとなっているが、確認できた遺構の配置や旧地形図を見るかぎり、上述の推定は大過ないものと思われる。

##### 〈平面形・規模〉

平面形が把握できるもの及び推定できるものは13棟あり、円形を基調とするもの2棟、方形を基調とするもの11棟である。

方形を基調とするものは、RA03・RA04・RA08・RA05・RA07・RA14住居跡である。RA14住居跡のように楕円形がかかるものもあるが、隅丸方形を基調としている。残存部から、RA02・RA09・RA10・RA11・RA12住居跡も方形を基調とするプランと推定される。RA13住居跡は攪乱を受けているため、ややいびつであるが、本来、隅丸方形を呈するものと思われる。

円形を基調とするものはRA01住居跡である。時期別にみると、中期の住居跡は方形基調であ



第85図 竪穴住居跡集成図

り、隅丸方形でやや長方形がかかる傾向がある。早期の住居跡は方形基調でも隅丸方形を基本とする傾向がある。

規模は床面積を基に算出したが、測定可能なものは6棟で、残存部から推定が可能なものが2棟である(重複しているものも含む)。最小は5.96㎡(RA14住居跡)、最大は29.72㎡(RA04住居跡)で、平均は、12.9㎡である。時期別では、中期の住居跡の床面積は11～12㎡、早期の住居跡の床面積は6.8㎡を平均とする。

#### 〈柱穴・壁〉

柱配置が推定できる住居跡は8棟である。このうち中期の住居跡は大きく二つのタイプが見られる。一つは、RA01・RA03住居跡で、いずれも炉もしくは中央付近を中心とする4本の柱配置である。RA05・RA07住居跡も柱穴の規模・配置から4本配置と推定される。柱の規模は20～45cm、深さ35～72cmで、柱間は160～250cmである。これらの住居跡は、規模も近似しており、本遺跡における中期の標準的な住居跡であったと思われる。またRA01住居跡では6本、RA03・07住居跡では5・7本の柱配置の可能性もある。本遺跡最大の規模のRA04・RA08住居跡は壁際に柱穴が廻る配置である。規模・配置から主柱穴としての機能が考えられ、前者との違いは、住居跡の規模に関わるものと考えられる。

早期の住居跡2棟は中央付近に1本の柱穴が検出されている。

#### 〈炉〉

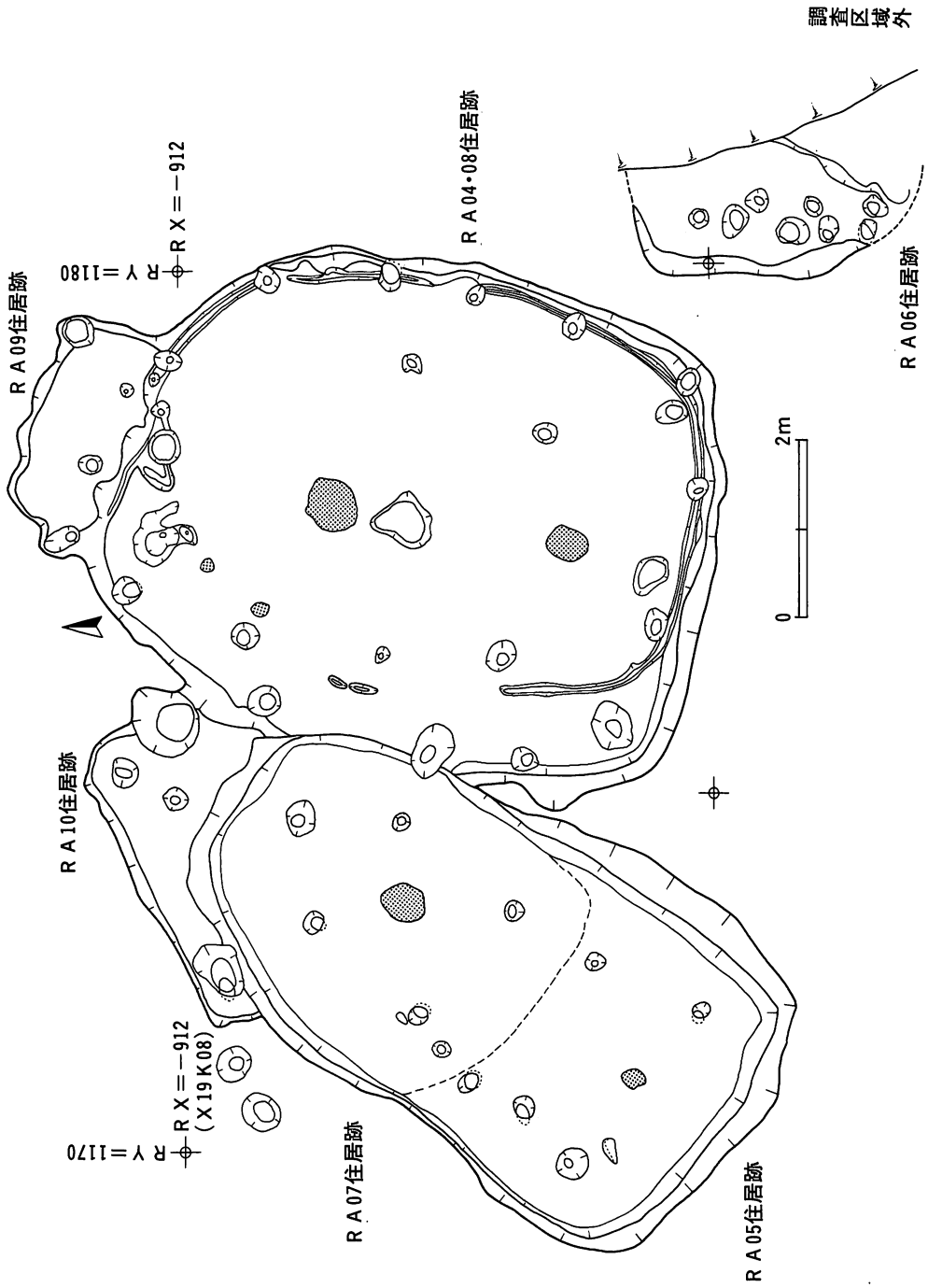
炉跡が検出された住居跡は7棟で、いずれも中期に属する。石囲炉はRA03住居跡の1棟のみで、他はすべて地床炉である。地床炉は焼土の範囲や厚さをみると全体的に貧弱である。住居跡内における炉の位置は、住居跡の長軸線上で中央に位置するものと、一方の壁際に寄るものがある。早期の住居跡からは屋内炉は検出されていない。

#### 〈重複・建て替え〉

住居跡相互の重複関係がみられた例は7例である。A区南側で6棟が重複し、A区南端の調査区域外に続いて2棟が重複している。新旧関係の把握できたものは、前者はRA05→RA07、RA07→RA04、RA10→RA07、RA08→RA04、RA09→RA04住居跡である。後者はRA11→RA12である。RA08→RA04住居跡は拡張の可能性はある。いずれも出土した土器から時期は縄文時代中期中葉で、住居跡間に長い時間差は認められず、短い時間での重複・建て替えと考えられる。

#### 〈焼失〉

14棟中5棟の住居跡から、まとめて炭化材の分布がみられた。すべて縄文時代中期の住居跡である。焼失住居と推定される。検出された炭化樹種はすべてクリである。またこれらの住居から比較的多くの遺物が得られている。まとまった炭化材がみられなかった住居跡でも炭化材を含む埋土の状況は近似しており、焼失住居であった可能性が高い。



第86図 A区南侧住居跡重複図

### 〈遺物出土状況〉

縄文時代中期の住居跡から多くの遺物を得たが、そのなかでRA05住居跡の埋土中から胴部下半を欠く、キャリパー形深鉢が倒立した状態で出土している。周囲に明瞭な掘り込みは確認できず、埋設されたものかどうかは不明である。縄文時代中期中葉の時期は、底部穿孔埋甕の風習が盛行する時期であり、住居跡の埋土中とはいえ、今後、注意を要する事例である（註1）。

#### （2）土坑

7基検出された。いずれも形状は円形を基調としている。単独で検出され、配置にまとまりはみられず、散在している。所属する時期については遺物が少なく断定できないが、いずれも出土遺物や検出状況等から、縄文時代中期前葉から中葉と推定される。

#### （3）陥し穴

5基検出された。形態から2つに分類できる。平面形が楕円形を呈するタイプと、溝状を呈するタイプである。いずれも副穴はもたない。このうち溝状を呈するものは配置にまとまりをもっており、A区中央付近で3基が北東から南西方向に約3m間隔で並ぶ。連続すると思われた西側部分には検出できなかった。陥し穴は、さらに東側に続いていたものと推定される。楕円形を呈する陥し穴は、和賀町林崎館遺跡（大木8b式）でまとまりのある配置をもって検出されている。所属する時期については遺物が少なく断定できないが、出土した土器は、いずれも中期中葉であり、これらの陥し穴の時期は、縄文時代中期中葉以降と推定される。

#### （4）遺物包含層

包含層には、人工遺物を含む自然堆積層の意味と、集落の周囲に形成された斜面、凹地などの廃棄の場「捨て場」として特定の地域を指す狭義の意味がある。B区の包含層は、形成された地形の状況や遺物出土状況などから、中期においては後者の可能性が高い。中期の遺物はB区北側に多く分布するが、斜面北側には周囲より一段高い平坦面がある。B区はこの平坦面の南斜面にあたり、斜面北側の平坦面には中期の集落が広がっていたものと推定される。

早期の遺物はB区東側に片寄る分布を示している。東側が急斜面であり、検出された住居跡が立地する地形面の続く南東側の緩斜面に、早期の集落が広がっていたものと推定される。

註1 武田将男，1978では、大館町遺跡A7-1住居跡の床面から胴部以下を欠いたキャリパー形深鉢（大木8a式）が、口縁部を下にして出土している。胴部下半を意識的に欠損していることが指摘されているが、埋設されたものか否か、底部穿孔埋甕との関わりについては言及されていない。

表 8 竪穴住居跡一覧表

No.	遺構名	規模(m)	面積(m <sup>2</sup> )	主軸方向	平面形	炉の形態	主柱の配置	周溝	時期	備考	焼失
1	RA01	4.40×4.40	12.32	N-60° -E	円形	地床炉?	4本 壁柱穴	○	中期中葉	中央部攪乱を受ける	○
2	RA02	不明(2m以上)	(2.04)	不明	方形?	地床炉?	不明 壁柱穴	○	中期中葉	大半が調査区域外にかかる	○
3	RA03	4.35×3.50	11.04	N-45° -W	隅丸長方形	石囲炉	4本?		中期中葉	東壁を削られる	○
4	RA04	6.50×5.90	29.72	N-15° -W	不整な隅丸長方形	地床炉	壁柱穴		中期中葉	RA09→RA04, RA07→RA04	
5	RA05	不明(4m)	(8.56)	N-40° -W	隅丸方形?	地床炉	4本		中期中葉	RA05→RA07	○
6	RA06	不明	(2.96)	不明	不明	不明	不明		不明	大半が削られる	○
7	RA07	(4.25)×3.50	10.92	N-40° -W	隅丸長方形	地床炉	4本		中期中葉	RA07→RA04	
8	RA08	(6.50×5.10)	(24.8)	N-15° -W	不整な隅丸長方形	(地床炉?)	壁柱穴	○	中期中葉	RA08→RA04	
9	RA09	不明(2.4m以上)	(2.2)	不明	方形?	不明	不明		不明	RA09→RA04	
10	RA10	不明(3.2m以上)	(2.8)	不明	方形?	不明	不明		不明	RA10→RA07, RA10→RD12	
11	RA11	不明(2m以上)	(0.36)	不明	方形?	不明	不明		不明	RA11→RA12	
12	RA12	不明(3.8m以上)	(1.16)	不明	方形?	不明	不明		不明	RA11→RA12	
13	RA13	3.40×3.20	7.68	不明	隅丸方形	不明	1本?		早期	中央部攪乱を受ける	
14	RA14	3.45×2.40	5.96	不明	不整な隅丸方形	不明	1本?		早期	RA14→RD10	

表 9 土坑・陥し穴一覧表

No.	遺構名	平面形 (断面形)	規模(cm)		主軸方向	副穴	検出状況・重複関係	備考	時期	
			開口部径 底部径	深さ						
1	RD01	円形 (楕形)	70×75 60	45		無し	A区 II b層 東壁上部を削平される		不明	
2	RD02	楕円形	215×150 180×70	150	N-5° -W	無し	A区 III a層	陥し穴	不明	
3	RD03	溝状 V字状	359×60 280×8	120	N-30° -W	無し	A区 III a層	陥し穴	RD03・04・06 の3基が北東- 南西方向に3m 間隔で並ぶ	中期中葉
4	RD04	溝状 V字状	330×40 305×10	90	N-5° -W	無し	A区 III a層 東壁上部を削平される	陥し穴		不明
5	RD05	溝状 Y字状	350×75 330×15	110	N-52° -E	無し	A区 III a層	陥し穴		中期中葉
6	RD06	溝状 V字状	315×40 255×10	95	N-25° -W	無し	A区 III a層 南側を削平される	陥し穴		不明
7	RD07	円形 (楕形)	87×80 96	65		無し	B区 II層上面	土器片 1	中期中葉	
8	RD08	円形 (楕形)	125×115 70~80	80		無し	B区 II b層	浅鉢・土器片・石鏃	中期前葉	
9	RD09	円形 (フラスコ形)	(78) (100)	65		無し	B区 II層下位 東側半分が調査区域外		不明	
10	RD10	楕円形? (楕形)	(70×80) 60×48	60		無し	B区 II層 RA14を切る 東側半分のみ検出		不明	
11	RD11	不整な円形 (筒形)	100 80×60	130		無し	B区 II層	1層から炭化材が出土 樹種はクリ	不明	
12	RD12	楕円形 (浅鉢形)	85×70 35×30	32		無し	A区 II b層 RA10を切る		不明	

## 2. 遺物（第87・88図）

### （1）土器

出土した土器の総量は、コンテナ大85箱である。大半がB区遺物包含層からの出土であり、時期的には、早期と中期の土器が出土している。ここでは、設定した分類に対応する時期・形式名について触れながら、出土遺物全般について概観し、まとめとする。

#### 〈I群土器〉

縄文時代早期に属する土器群で、貝殻腹縁圧痕文を多用する土器群・条痕文が用いられる土器群、他に刺突文・沈線文などが文様要素として加わるものもある。これらの特徴を有する土器群は、早期中葉で、寺ノ沢遺跡出土土器や白浜・小船平式に比定されるものと思われる。

また、I群土器のなかでは、沈線文により区画が施されるI群1類cが、上述の土器群より時期的に旧くなる可能性がある。

またRA13住居跡出土土器7は、その文様構成などからI群土器のなかでも異質な土器である。特徴としては、口唇部に施される沈線、平行沈線による横位の区画と帯状格子目文による縦区画、沈線による直線文・円文と貝殻腹縁圧痕文の充填などが挙げられる。類似する資料としては、岩手県においては蛇王洞Ⅱ式、大新町遺跡出土の沈線文土器がある。また県外では東北南部の大平式、関東の三戸式土器の文様構成に類似する。沈線文土器群から貝殻沈線文土器群へ移行する、この時期の土器群の成立には、異系統文化との接触があったことを示す資料と思われる。

#### 〈II群土器〉

縄文時代中期に属する土器群である。以下、次のように細分した。

II群1類とした土器は、原体圧痕隆帯により口縁部に文様が描かれる土器群で、円筒上層式に比定されるものと思われる。以下、II群1類aは円筒上層a式、II群1類bは円筒上層b式、II群1類cは円筒上層c式、II群1類dは、円筒上層d式に比定される。なお、II群1類dとして、ここでとりあげたものには、II群6類の要素がみられることから、本来は、II群6類に含まれるべきものかもしれない。円筒上層d類似の資料としておく。

II群2類とした土器は、半截竹管による平行沈線や押し引き刺突文が施される土器群である。大木7a式に比定されるものと思われるが、大木7a式の古い段階に属するか、あるいは大木6式に属するものも含まれるかもしれない。

II群3類とした土器は、沈線・刺突文・粘土紐貼り付けの組み合わせにより文様が描かれる土器群である。大木7a式に比定されるものと思われる。

II群4類は、弁状突起を有する土器群で、波状隆帯や沈線により文様が描かれる土器群である。原体圧痕が施されるものもある。大木7a～7bに比定されるものと思われる。

II群5類は、原体圧痕により文様が描かれる土器群で、大木7b式に比定されるものと思われる。

II群6類・7類は、隆帯・沈線・隆沈線により文様が描かれる土器群で、大木8a式・8b式にそれぞれ比定されるものと思われる。

II群8類は、中期に属する粗製の土器、網代痕をもつ底部片、小型土器を一括した。

出土遺物について、上記のような細分を試みたが、それぞれの要素で土器形式に明確に一線を区することができるものではない。例えば、大木7b式の指標である原体圧痕は、大木8a式の古い段階には用いられており、大木8b式の指標である隆沈線や剣先状文も大木8a式の新しい段階には用いられている。その点、細部については不明瞭な部分が多い。

II群6類土器については、住居跡からまとまった資料が得られている。概観すると、キャリパー形を呈する深鉢が多く、他に口縁部が外反する深鉢や浅鉢もある。キャリパー形は、口縁部に文様が施され、胴部は地文のみである。口縁部文様は、隆沈線により山形波状文が描かれ、渦文が配される。山形波状文が接する文様帯の上下端には、縦位の刻み目が施される。口縁部が外反する深鉢では、沈線により文様が描かれ、頸部に横位の3本1組の沈線が描かれる。頸部に無文帯をもつ土器もある。これらの土器は、大木8a式のなかでも新しい要素をもつ土器群と思われる。

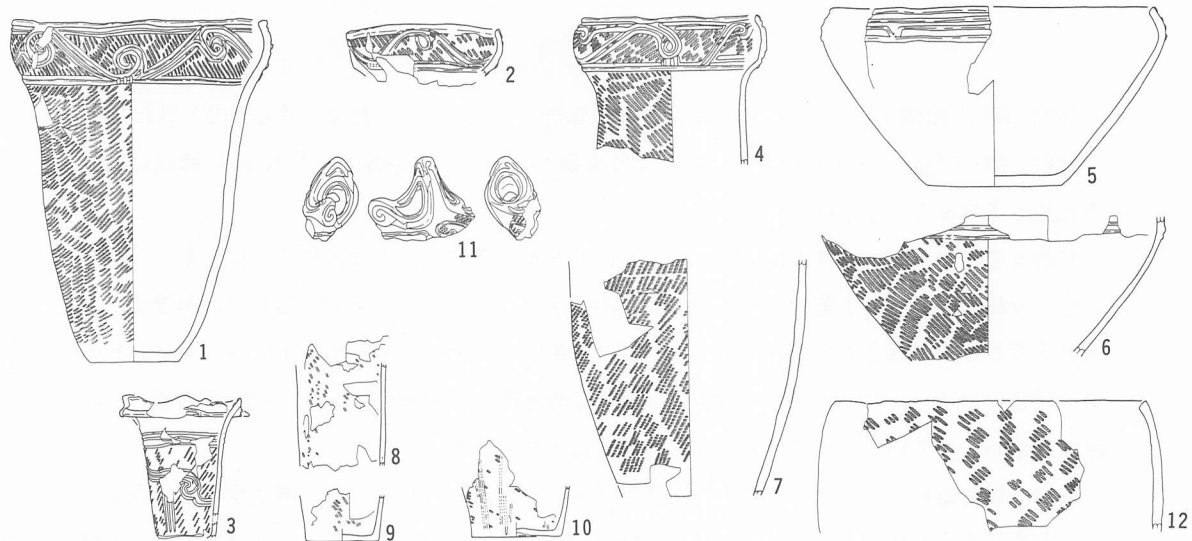
出土した土器の口縁部破片数を算出すると、時期別では中期の土器片が大半を占める。円筒系・大木系に属する土器が出土しているが、大木系の占める割合が非常に高く、そのなかで大木8a式の占める割合が高い。出土土器の大半を占めるB区の遺物包含層が形成された時期のピークは、遺構内、とくに竪穴住居跡からの出土遺物と一致するものである。今回の調査で、円筒系と大木系の明確な同伴関係を示す事例はなく、併行関係については言及できないが、遺構内の出土遺物を概観すると、円筒系もしくはその影響を受けたと思われる土器をみることができない。また、口縁部破片数からみた出土土器全体における大木系土器の占める比率の高さからも、本遺跡では、円筒系の影響は決して大きいものとはいえない(註2)。

従来、秋田・宮古を結ぶ線上にある盛岡市周辺の地域は、縄文時代前期から中期にかけて、円筒文化圏と大木文化圏が接触する境界線と言われている。事実、盛岡市にける繫遺跡・塩ヶ森遺跡など雫石川流域に立地する縄文時代中期の遺跡では、両形式の土器が相伴したり、折衷した土器が出土している例がある。松屋敷遺跡は北上川流域に立地し、上述の遺跡と立地が異なるが、盛岡市周辺における該期の遺跡のなかで、遺跡の立地による性格の差を導き出すことができれば、文化の搬入経路など、今後、様々なことを明らかにすることができるものと思われる(註3)。

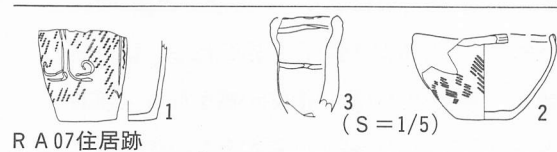
註2 遺構外出土遺物では、円筒系の影響を受けていると思われる土器にII群1類d(24~26)がある。

註3 西根町の間館遺跡では、出土土器全体の口縁部破片数を算出しているが、大木7b段階で、ほぼ3:2(円筒上層c)、大木8a段階で、ほぼ7:1(円筒上層d)の比率が得られている。

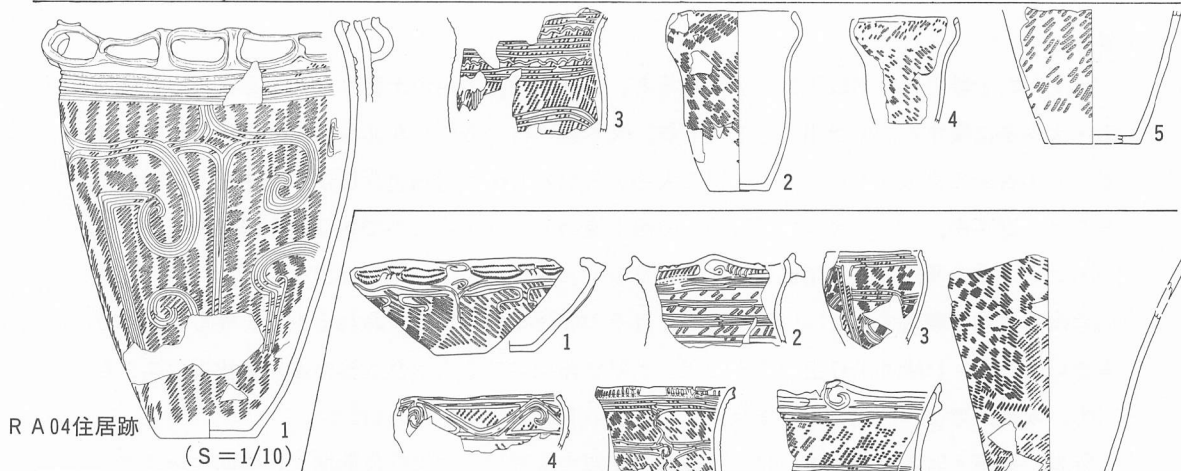




R A 05住居跡

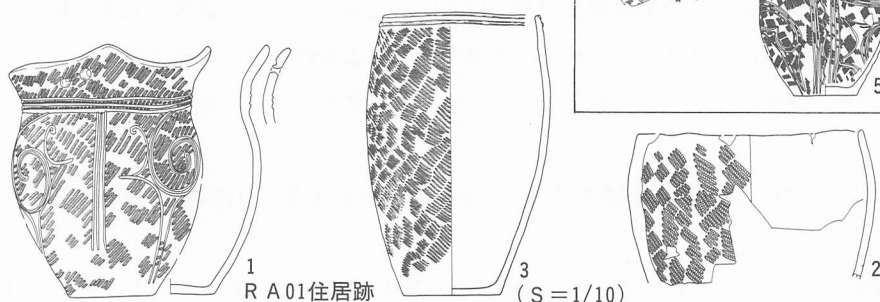


R A 07住居跡



R A 04住居跡

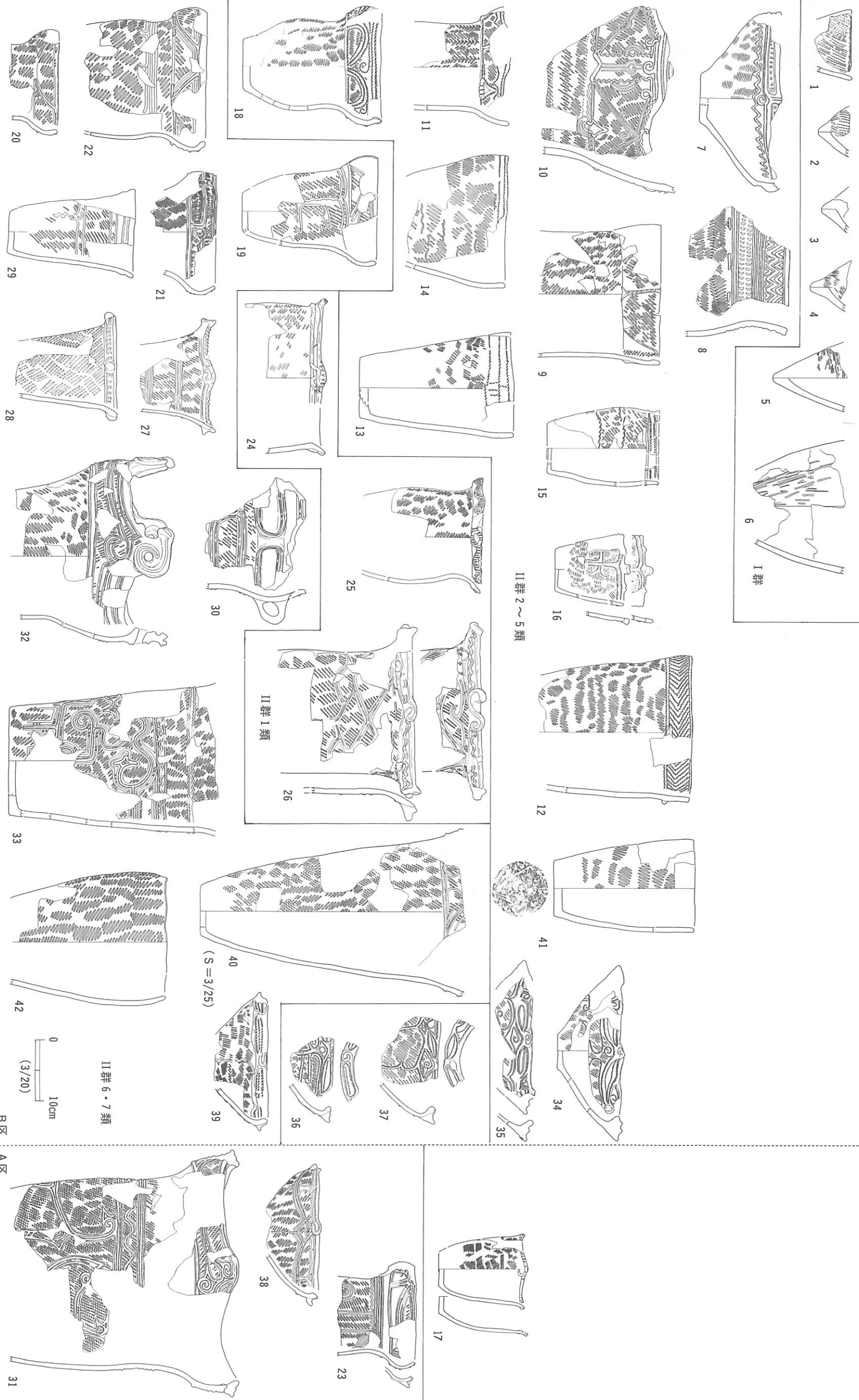
R A 03住居跡



R A 01住居跡

0 10cm

第87图 住居跡出土土器集成图



第88图 遺物包含層出土土器集成图

## (2) 石器

石器は、遺構内外から191点出土している。内訳は剥片石器96点、石斧類20点、礫石器75点である。剥片石器では、石鏃36点(18%)、削搔器34点(18%)が多い。礫石器では磨石類68点(35%)が多い。そのなかでは特殊磨石が28点(14%)と多い。

石質をみると、剥片石器では、粘板岩・泥岩が多く、石斧類では、磨製石斧で濃緑色凝灰岩が卓越する。礫石器では両輝石安山岩・溶岩が多く用いられており、とくに凹石と石皿において安山岩溶岩が多用されるのが目立つ。花崗岩を用いた磨石の占める割合は低い。

石器の時期別の組成については不明であるが、その多くは縄文時代中期に属するものと推定される。B区における石器の出土状況を見ると、II a～II b層から出土しているものが多く、また石鏃の形態をみると凸基有茎鏃が多いことから上述の推定は大過ないものと思われる。

ただし、特殊磨石については、II c～d層の下位の層から出土しているものもあり、出土分布をみると、B区西側に多く出土しており、中期中葉より時期が下がる可能性がある。早期に伴う石器としては、RA13住居跡から石鏃・削搔器・磨製石斧・特殊磨石などが出土している。

## 引用・参考文献

草間俊一他，1960：一本松熊の沢遺跡発掘調査報告，史学第33巻1号。

名久井文明，1974：北日本縄文早期編年に関する一試考，考古学雑誌第60巻3号。

武田将男他，1978：大館町遺跡，岩手大学考古学研究会編・盛岡市教育委員会。

阿部・遊佐，1978：長者原貝塚，南方町文化財調査報告書第1集。

杉山武，1980：白浜式・小船戸平式土器にかかわる館平遺跡出土の早期貝殻文土器について，  
奥南創刊号。

杉山武，1980：白浜式・小船戸平式土器にかかわる館平遺跡出土の早期貝殻文土器について(2)  
奥南2号。

小田野・熊谷・高橋，1980：岩手の土器，岩手県立博物館。

武田良夫・吉田義昭，1980：盛岡市大新遺跡，奥羽史談第54号。

丹羽茂，1981：大木式土器，縄文文化の研究4，雄山閣。

岩手大学考古学研究会，1982：柿の木平遺跡－昭和50・51年度発掘調査報告一。

名久井文明，1982：貝殻沈線文系土器，縄文文化の研究3，雄山閣。

熊谷常正，1989：北上川中流域における大木8a式土器，岩手県立博物館研究報告第7号。

富樫泰時，1989：貝殻沈線文系土器様式，縄文土器大観，小学館。

藤村敏男他，1991：間館遺跡，岩手県埋蔵文化センター。

小田野哲憲，1992：林崎館遺跡発掘調査報告書，岩手県埋蔵文化センター。

## VII. 分析・鑑定

### 種子等分析鑑定報告

パリノ・サーヴェイ株式会社

松屋敷遺跡(抜刷)

#### 1. 目的

松屋敷遺跡は盛岡市の北、約6.5kmに位置し、北上山地の縁辺部に相当する丘陵地の北端で、北上川に向かって張り出した台地上に立地する。遺跡は縄文時代中期中葉と早期の集落が中心で、多数の遺構・遺物が検出されている。

今回、同定を行った試料は、縄文時代中期中葉の住居跡(RA01)から検出された炭化種実遺体である。この住居跡は、底面に焼土や炭化材の広がりが見られ、焼失家屋であるとみられている。この種実遺体の種類を知り、当時の植物利用に関する情報を得るために種実同定を行った。

#### 2. 試料

試料は、RA01から検出された種実遺体1点(UMI-01 RA01 住居跡 No.29 (930517))である。

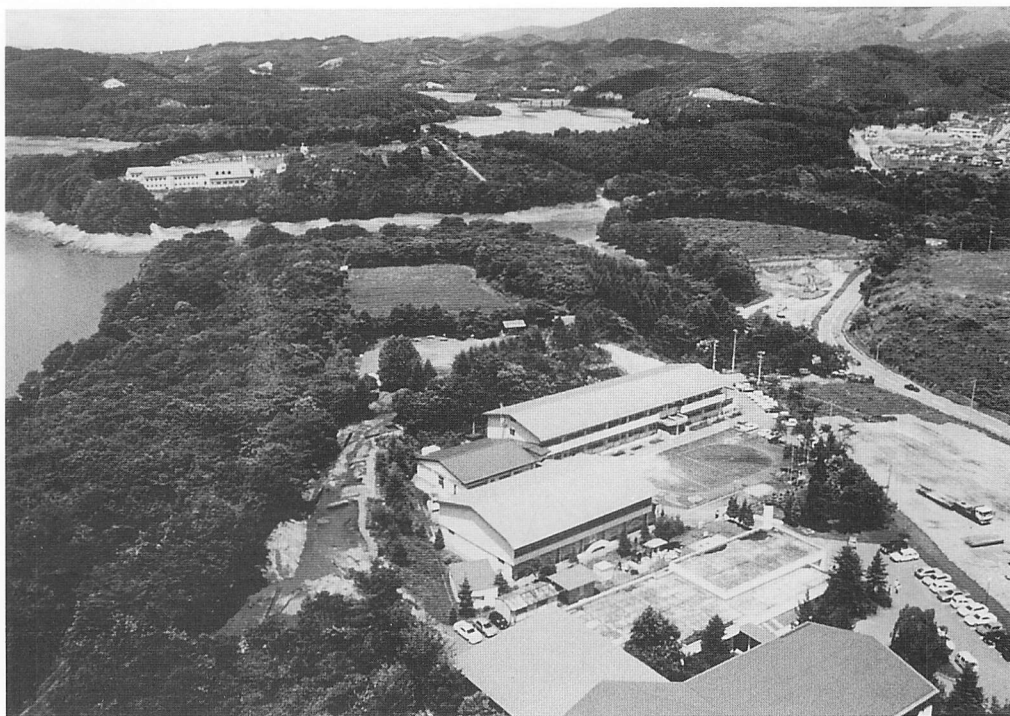
#### 3. 結果・考察

この試料はオニグルミと同定された。今回検出された個体は、1 cm程度の破片で、炭化していた。オニグルミは生食可能なため、古くから食用として利用されていたとみられ、各地で多くの検出例が知られている。本州の山野では沢沿いなどに普通に見られる種類であることから、遺跡周辺でも平易に入手可能であり、食用として利用していたものと推測される。



1. オニグルミ(試料番号 ; UMI-01 RA01 住居跡No.29(930517))

# 写 真 图 版



遺跡遠景(南から)



A区全景

写真図版 1 遺構全景(1)





B区全景(南から)



A区基本土層

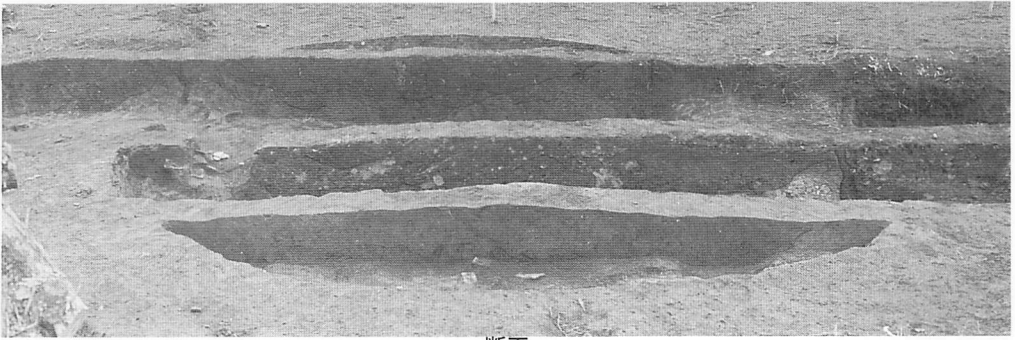


B区基本土層

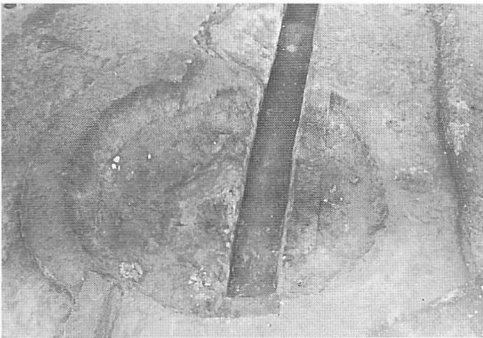
写真図版 2 遺跡全景(2)



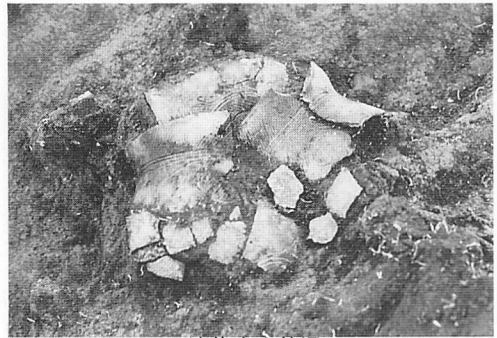
全景(南から)



断面



炭化材出土状況(南から)

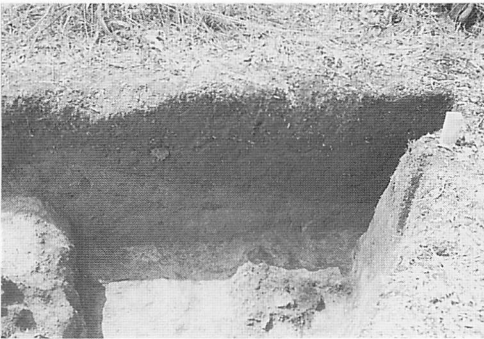


遺物出土状況

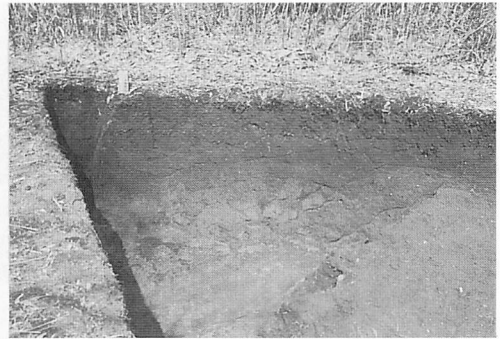




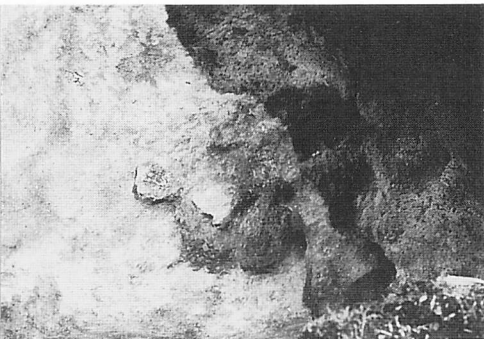
全景(南から)



断面

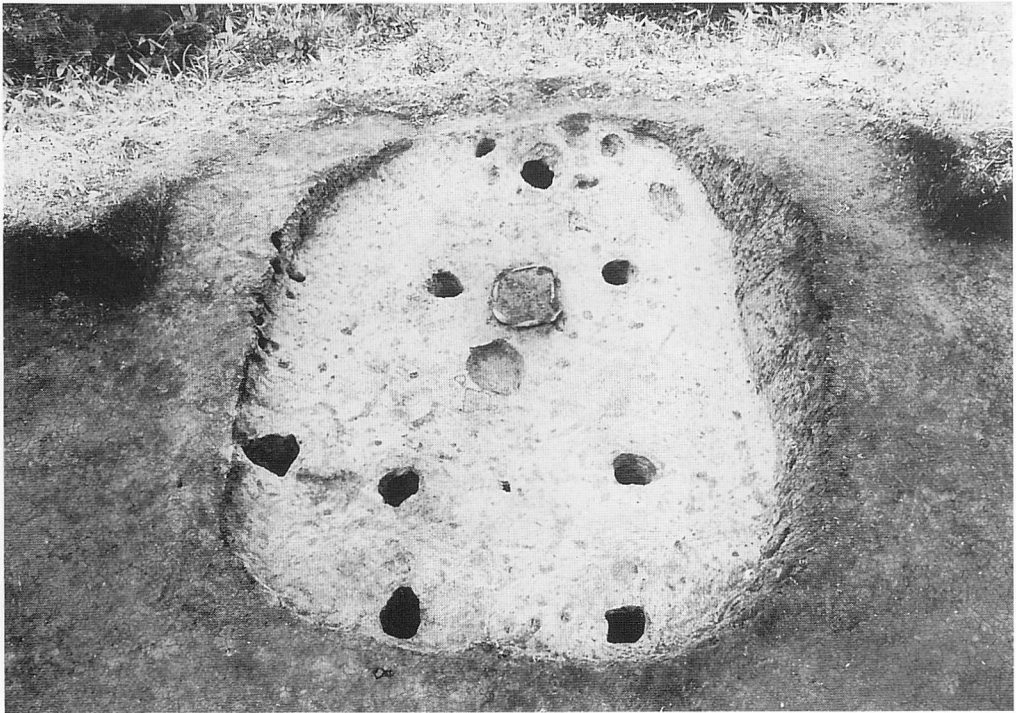


断面

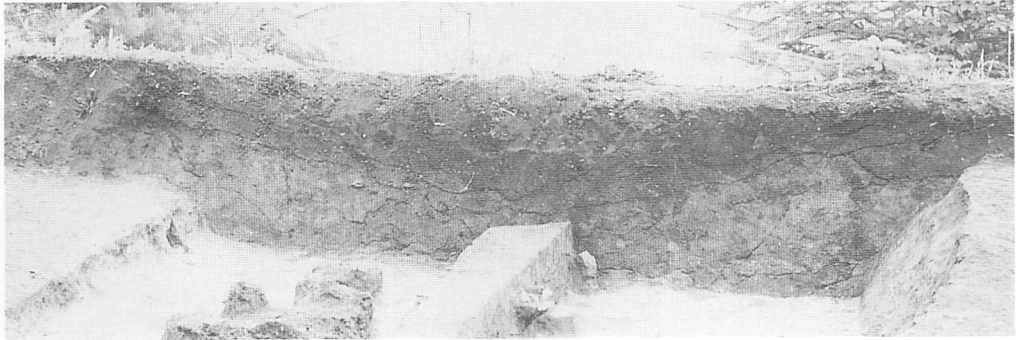


炭化材出土状況(南から)

写真図版4 R A 02住居跡



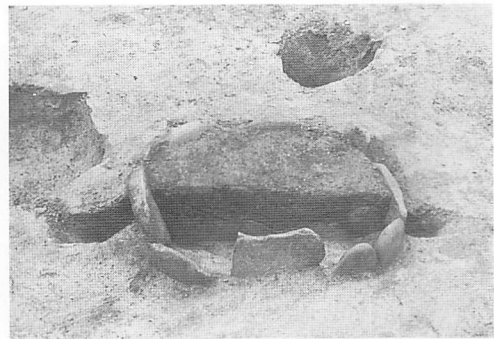
全景(西から)



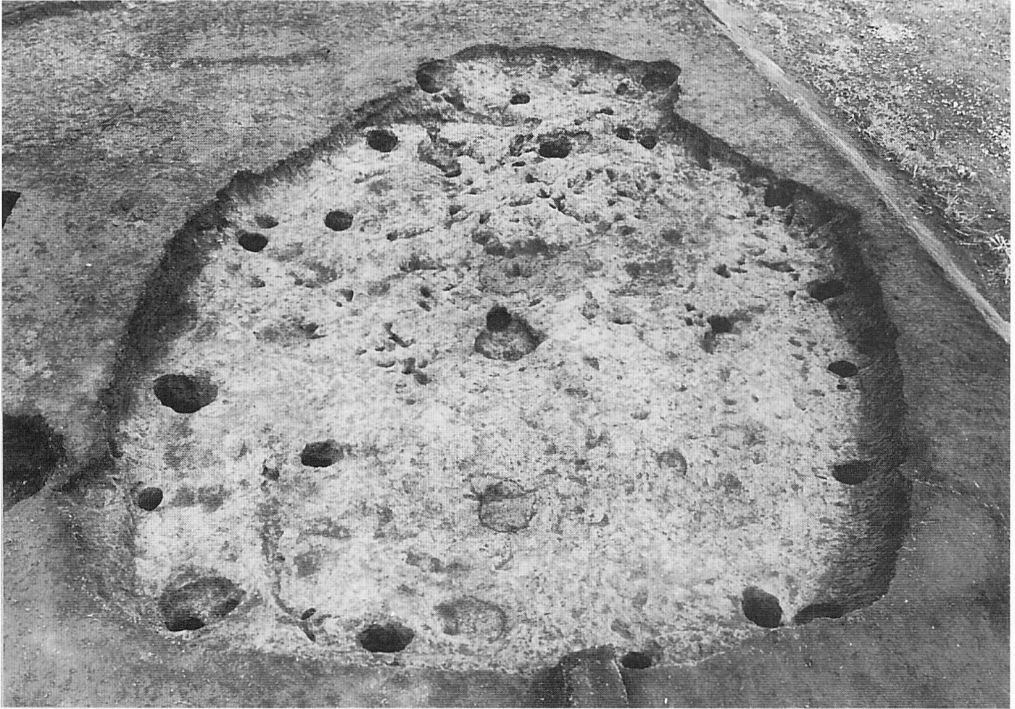
断面



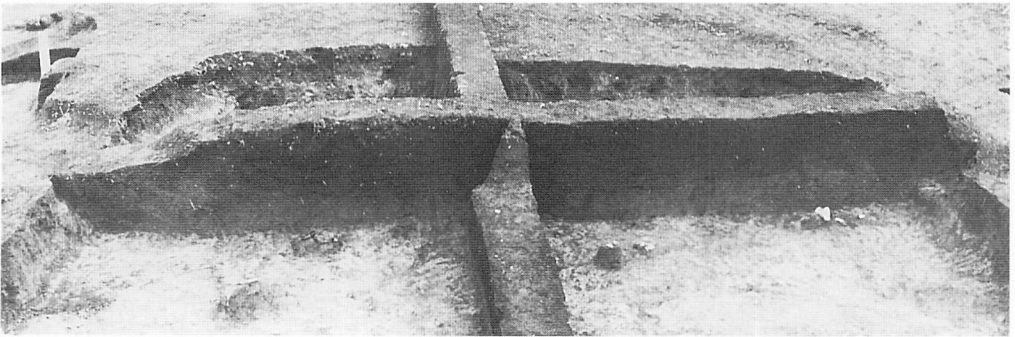
遺物出土状況(西から)



石囲炉 断面



全景(南から)



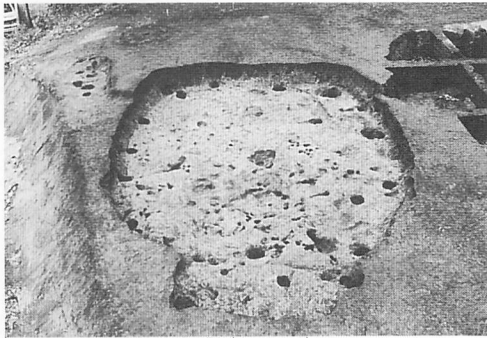
断面



断面

写真図版6 RA04・RA08・RA09住居跡(1)

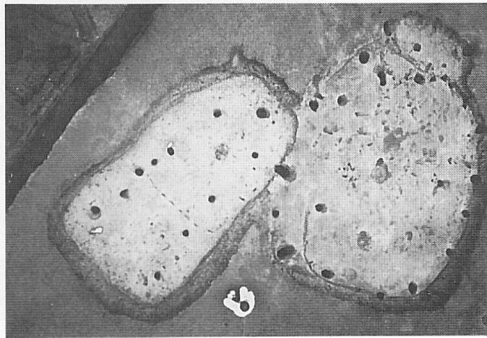




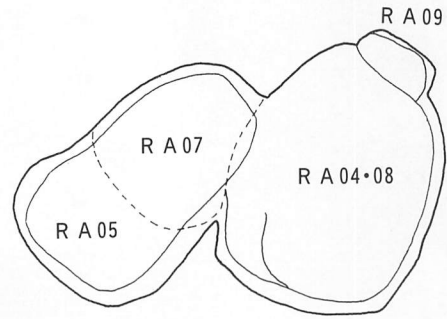
全景(北から)



遺物出土状況



全景



平面(東から)

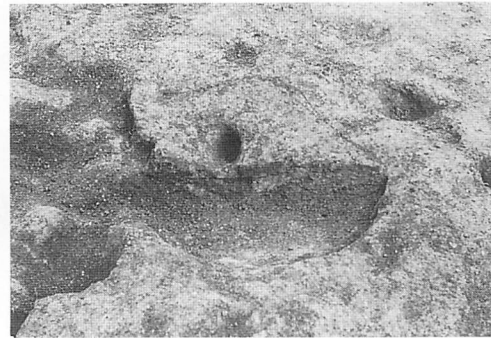


断面

焼土 1



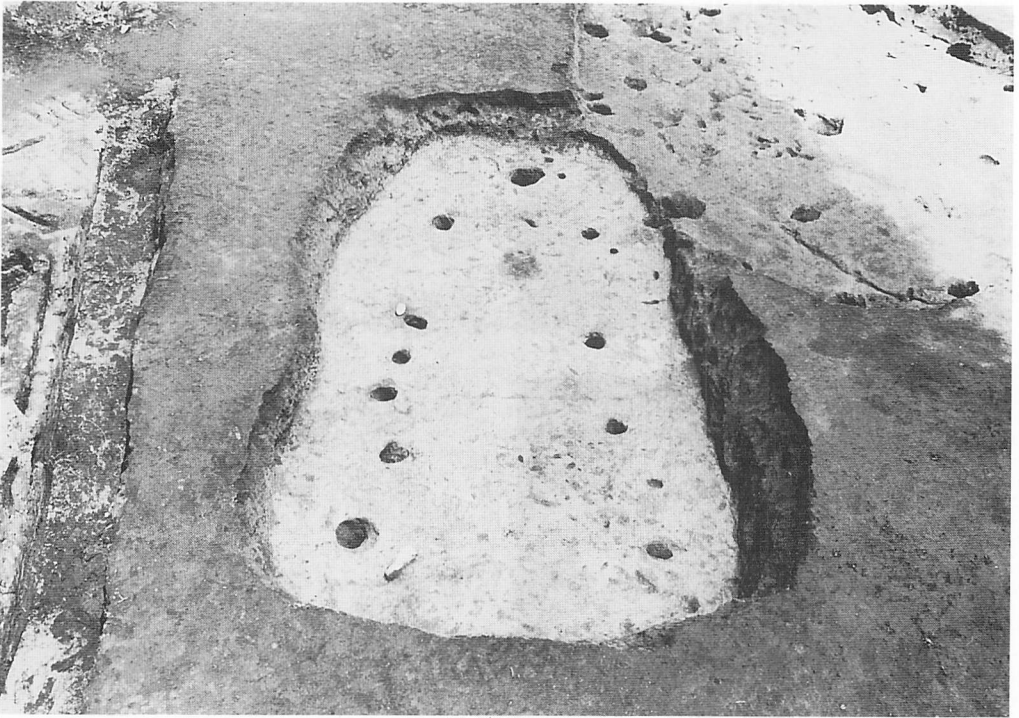
平面(東から)



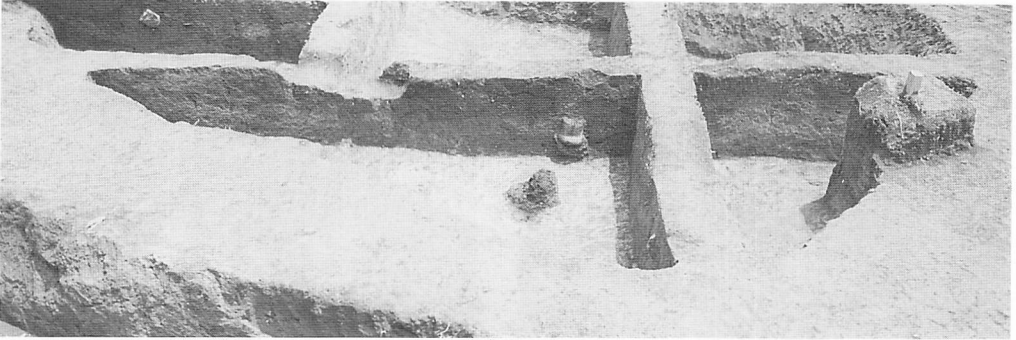
断面

焼土 2

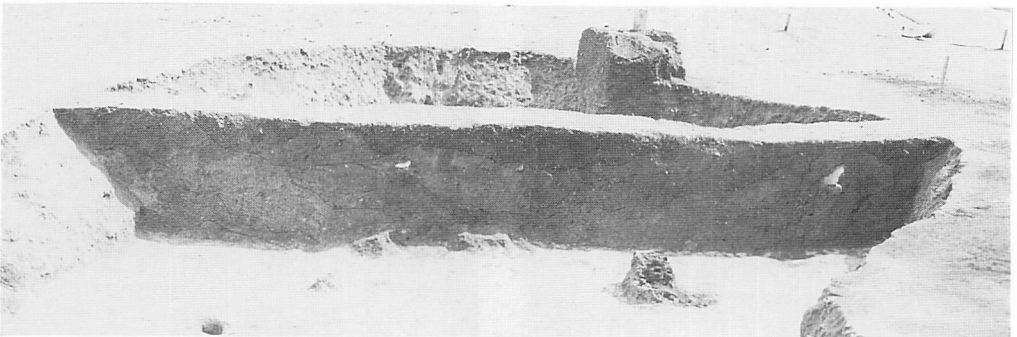
写真図版 7 RA 04・RA 08・RA 09住居跡(2)



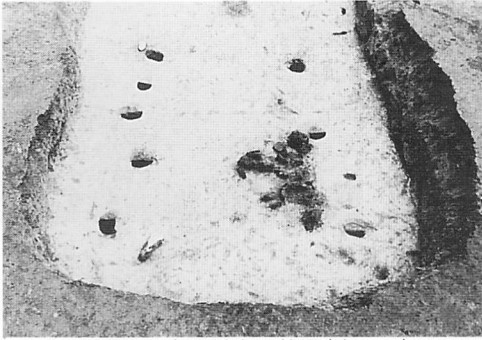
全景(南から)



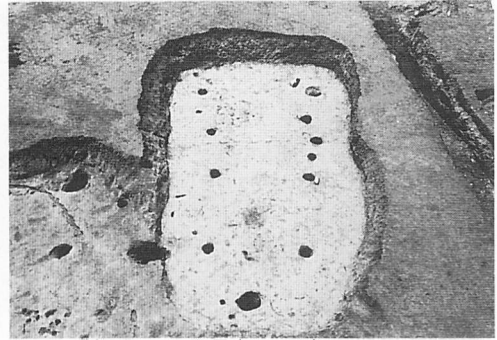
断面



断面



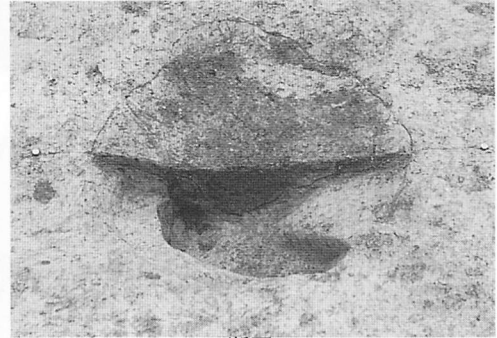
R A 05 炭化材出土状況(南から)



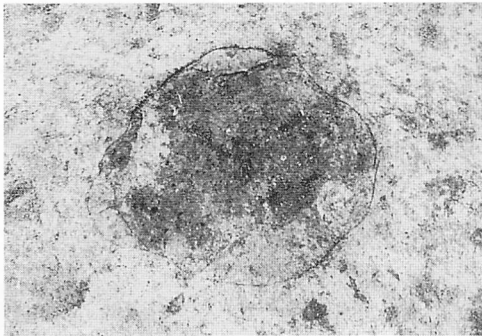
全景(北から)



平面(南から)



R A 05 炉 断面



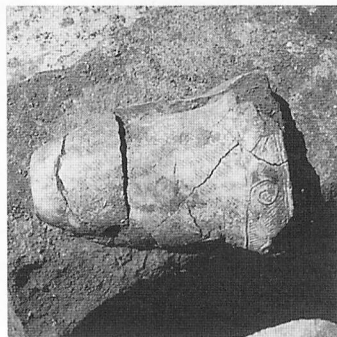
平面(南から)



R A 07 炉 断面



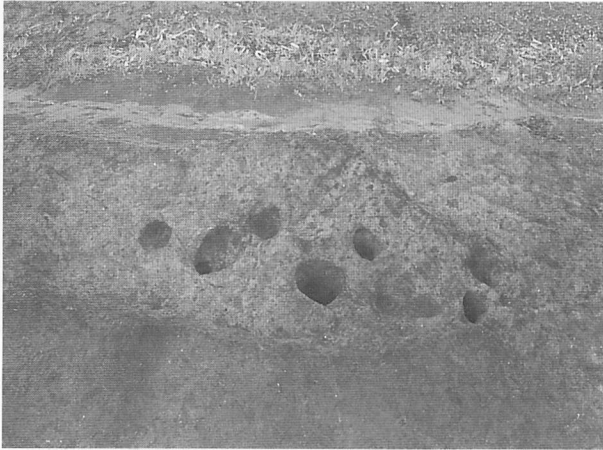
遺物出土状況



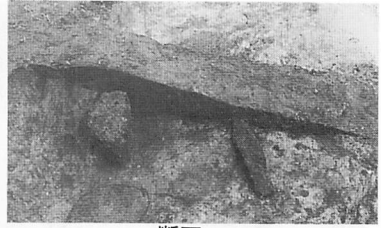
遺物出土状況



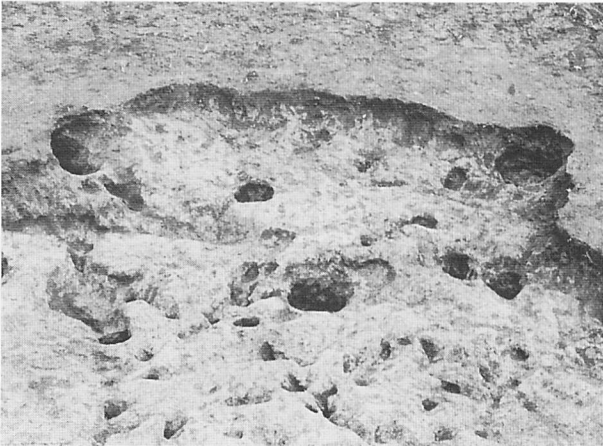
遺物出土状況



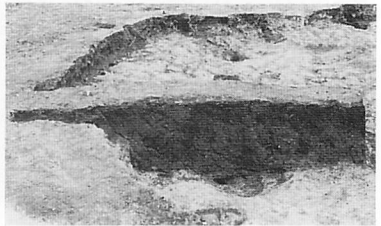
RA06住居跡 全景(西から)



断面



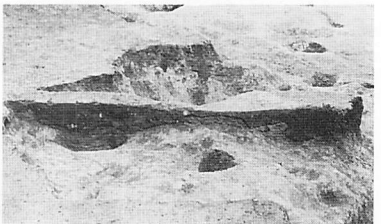
RA09住居跡 全景(南から)



断面



RA10住居跡 全景(南から)



断面

写真図版10 RA06・RA09・RA10住居跡

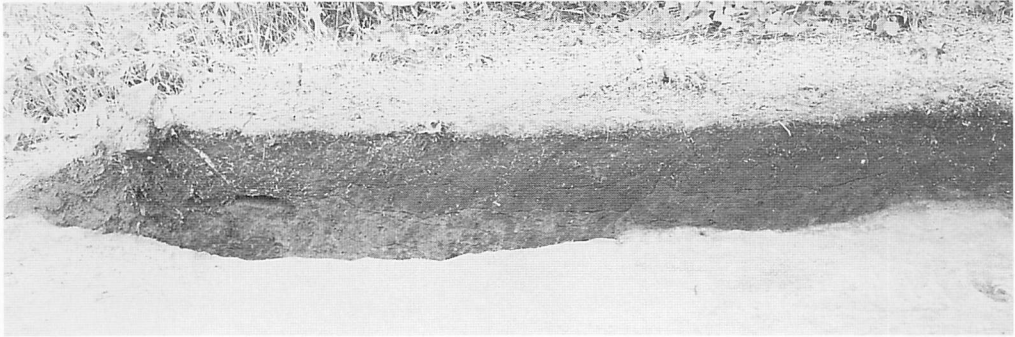




全景(西から)



作業風景



断面



遺跡見学会

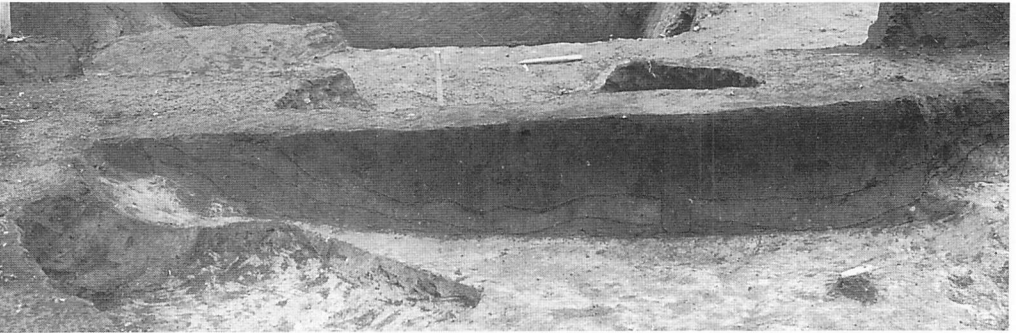


現地説明会



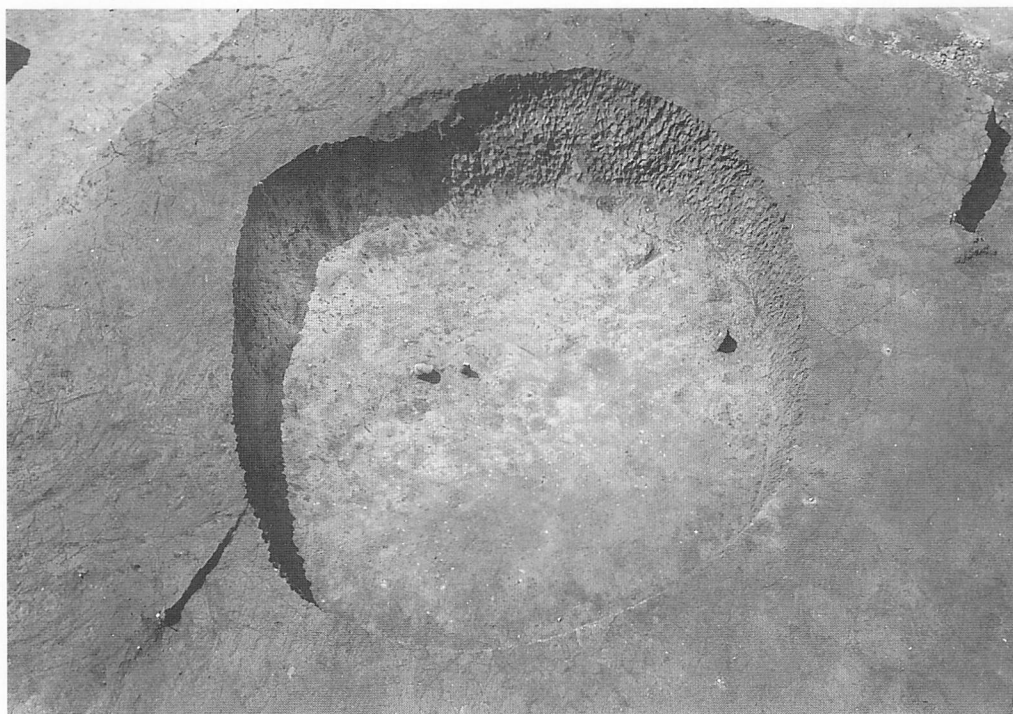


全景(南から)

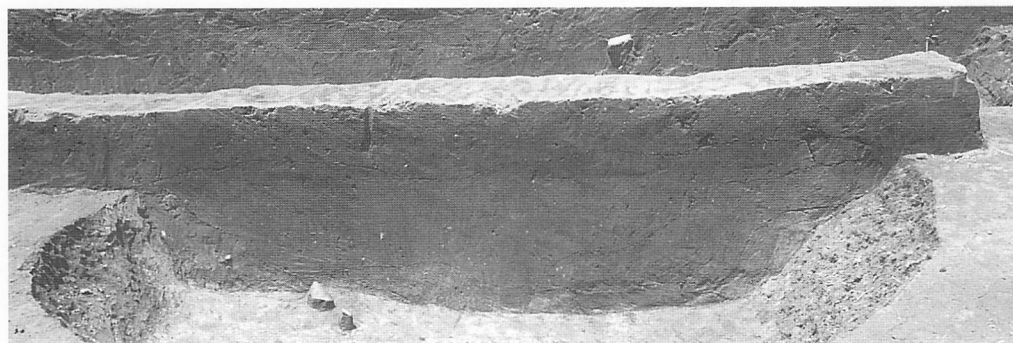


断面

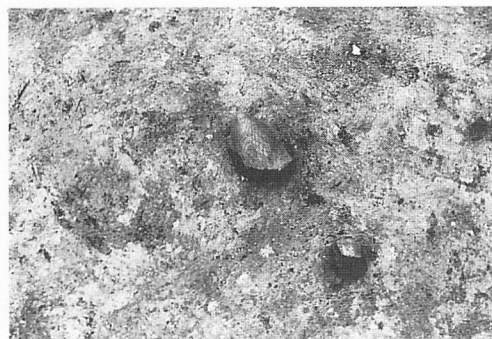




全景(南から)



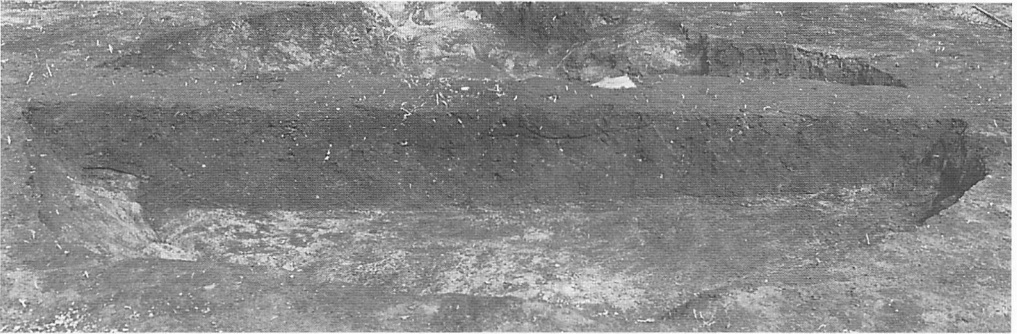
断面



遺物出土状況(西から)



全景(西から)



断面



作業風景



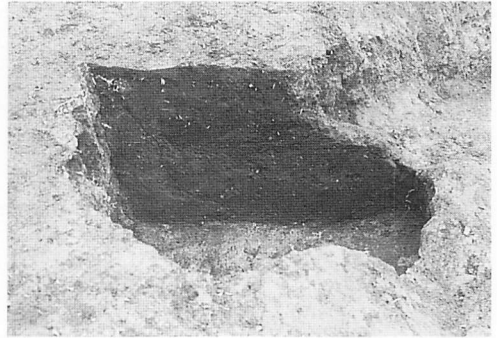
A区柱穴群(南から)

写真図版14 RE01 竪穴状遺構、柱穴群

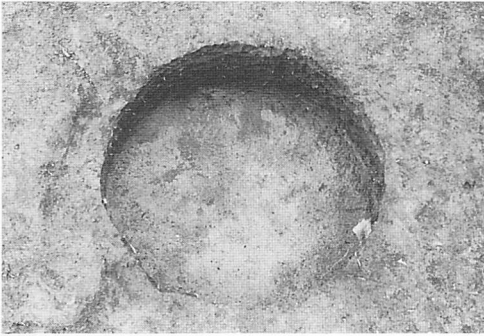


平面

R D 01土坑

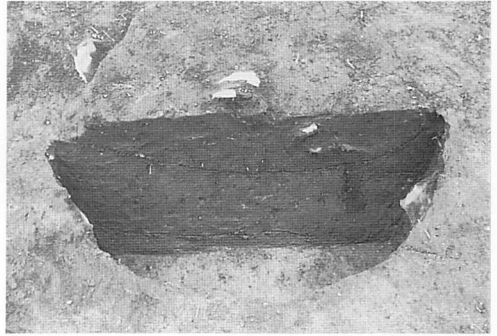


断面

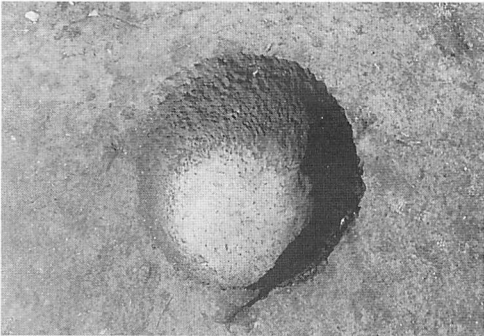


平面

R D 07土坑

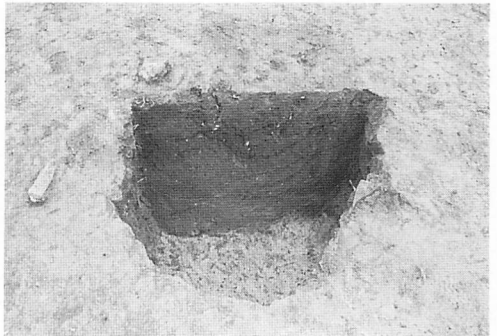


断面

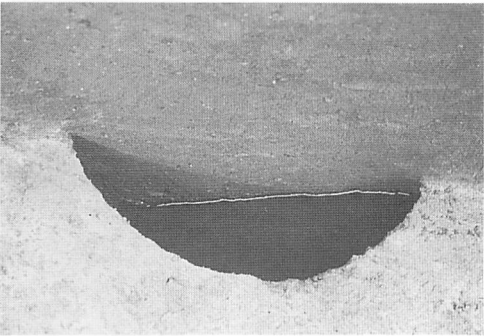


平面

R D 08土坑

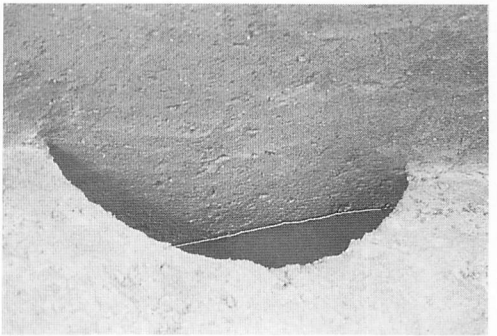


断面



平面

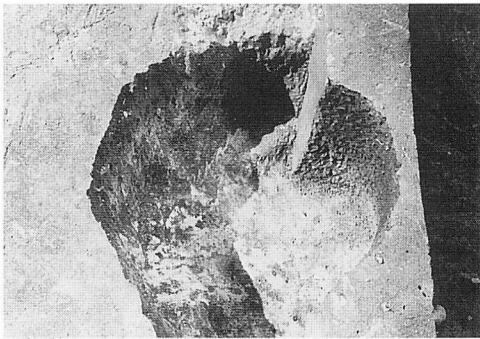
R D 09土坑



断面

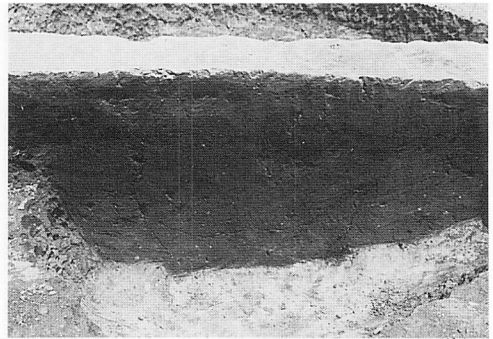
写真図版15 土坑(1)



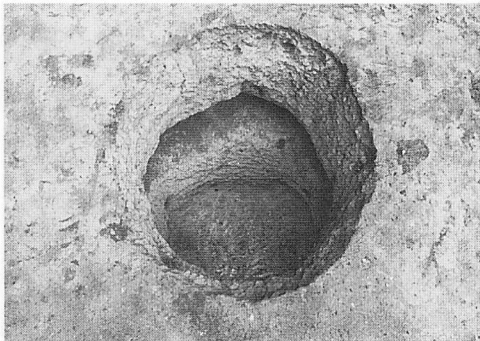


平面

R D 10土坑

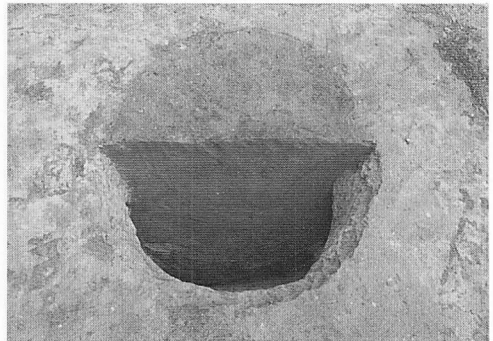


断面

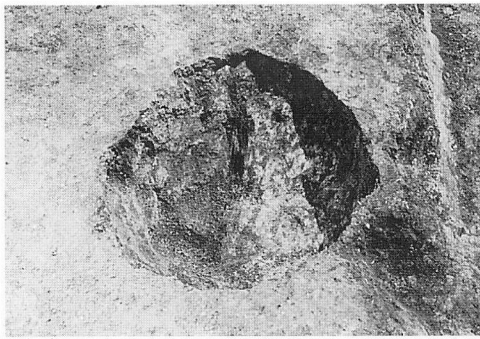


平面

R D 11土坑

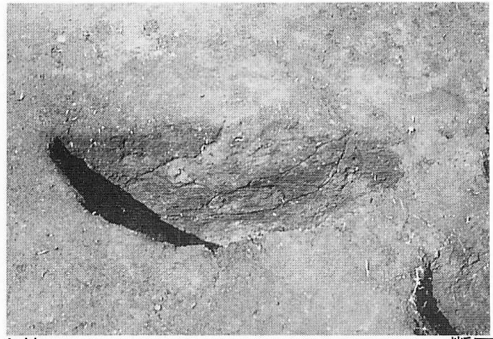


断面

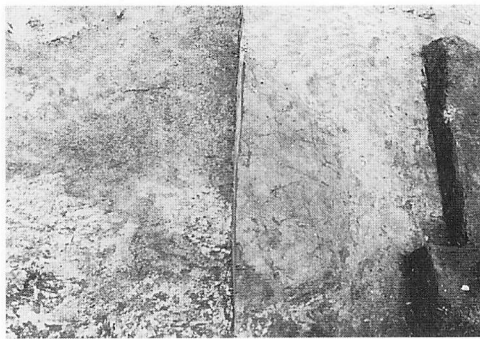


平面

R D 12土坑

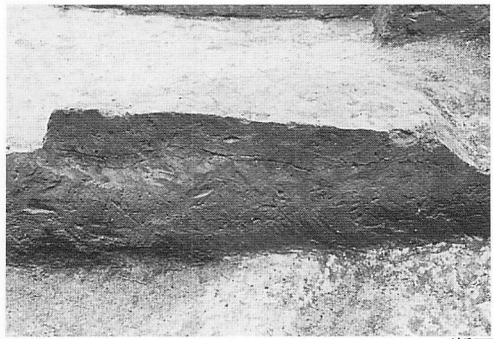


断面



平面

R F 01烧土



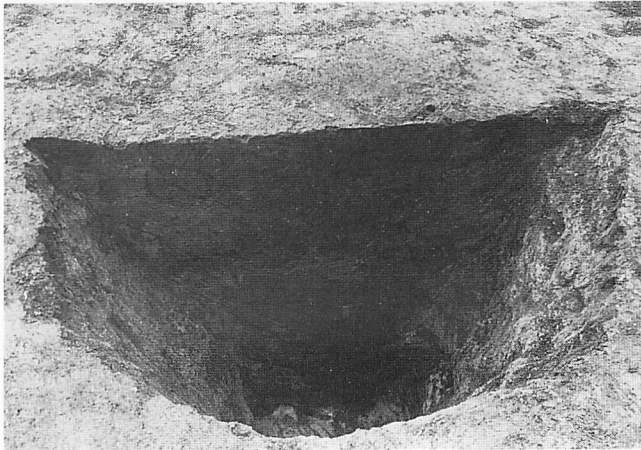
断面

写真图版16 土坑(2)、烧土

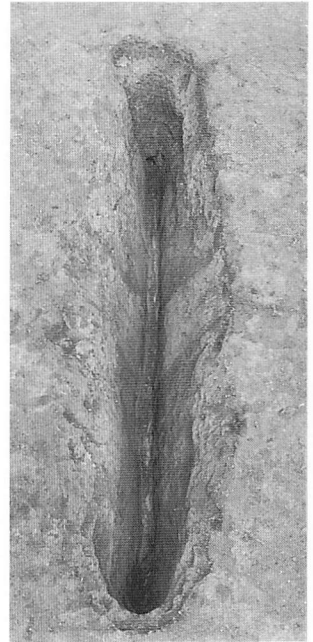


R D 02陥し穴

平面

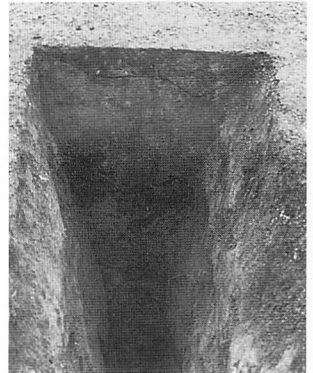


断面



R D 03陥し穴

平面



断面

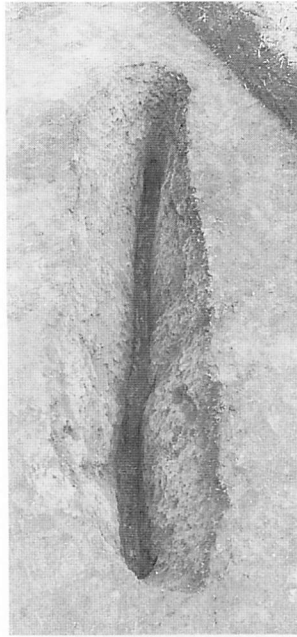


陥し穴列配列状況

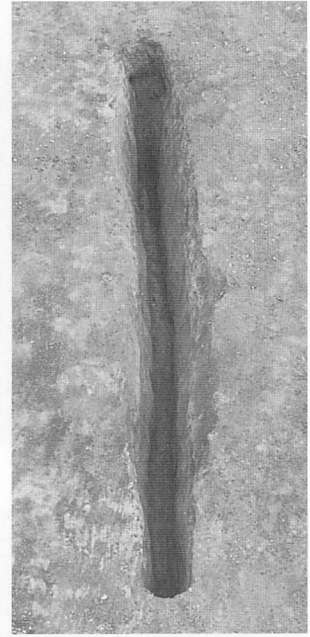
写真図版17 陥し穴(1)



R D04陥し穴 平面



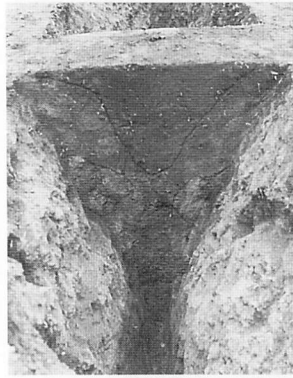
R D05陥し穴 平面



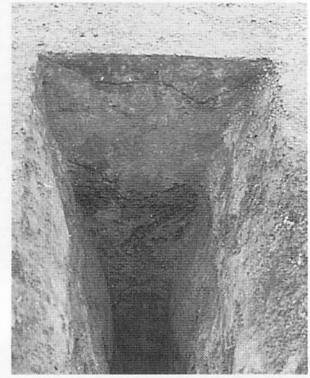
R D06陥し穴 平面



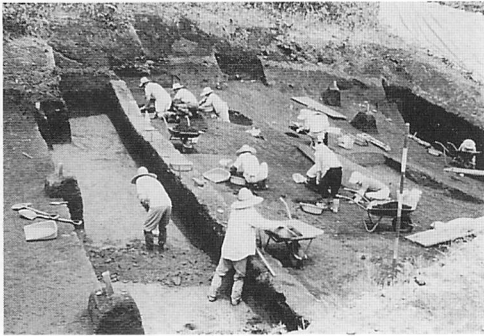
断面



断面



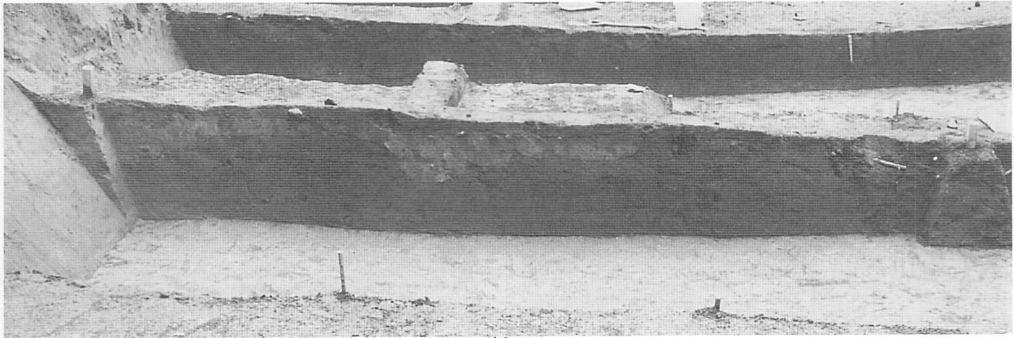
断面



全景(南から)



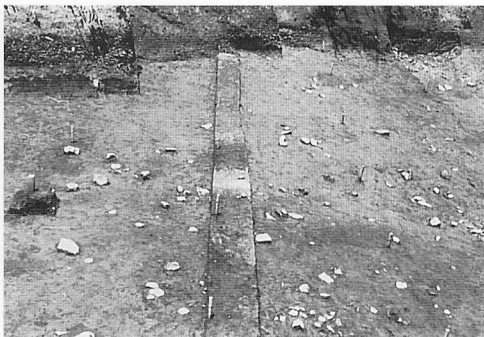
全景(東から)



断面



断面



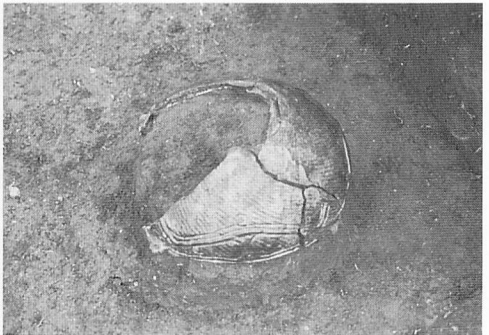
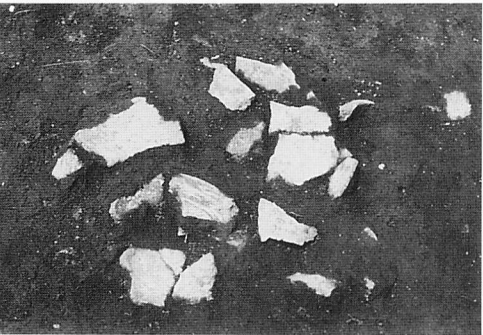
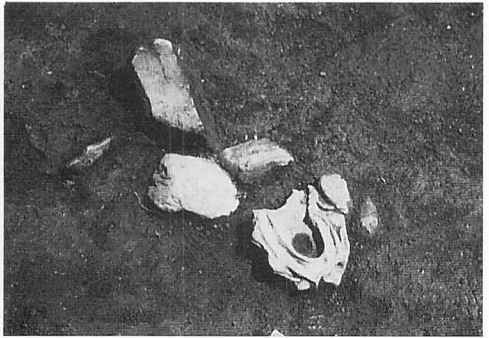
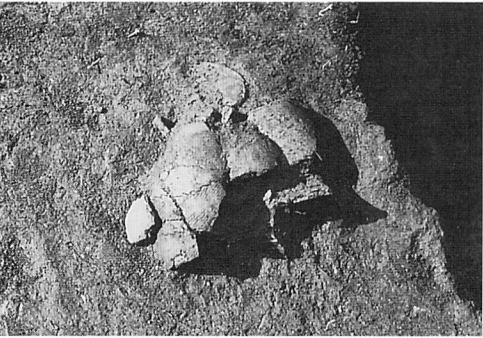
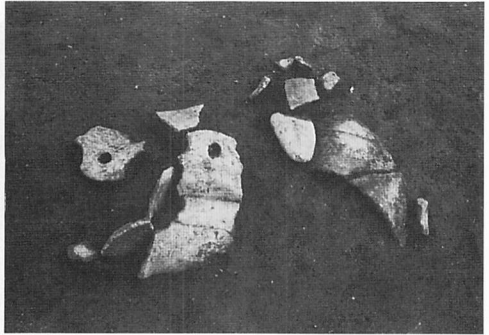
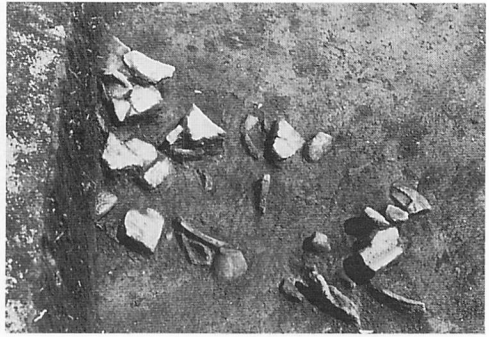
遺物出土状況



土偶出土状況

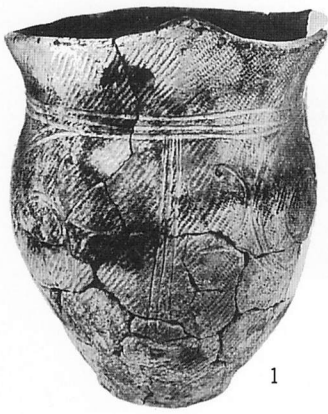
写真図版19 遺物包含層(1)



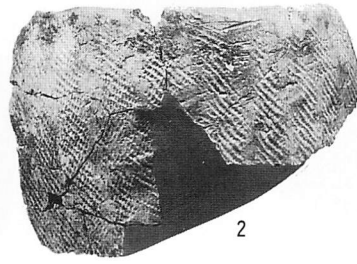


遺物出土状況

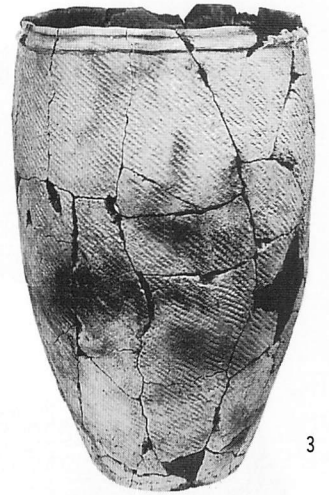
写真図版20 遺物包含層(2)



1



2



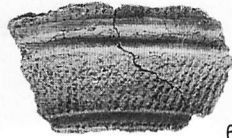
3



4



5



6



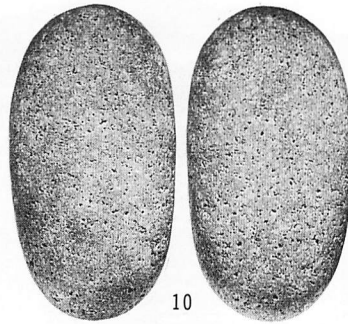
7



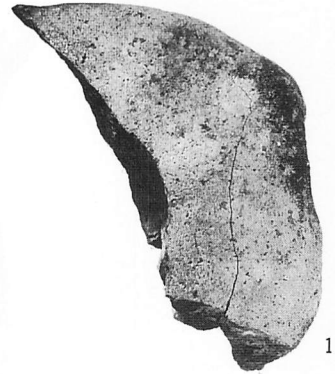
8



9

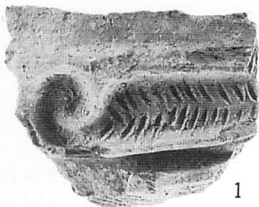


10



11

R A 01住居跡



1



2

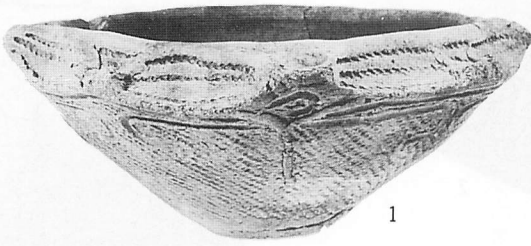


3

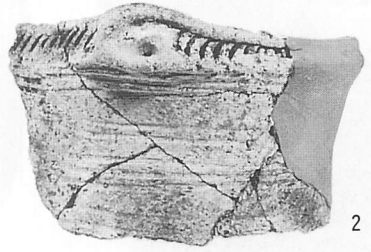
R A 02住居跡

写真図版21 R A 01・R A 02住居跡出土遺物

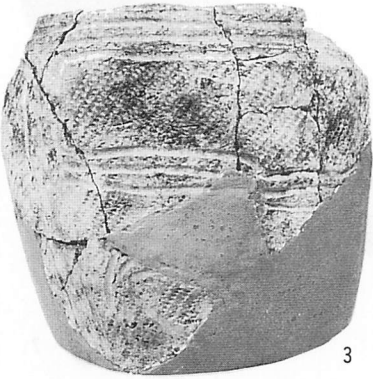
S=1/6 (3)  
S=2/9 (1・2)  
S=1/3



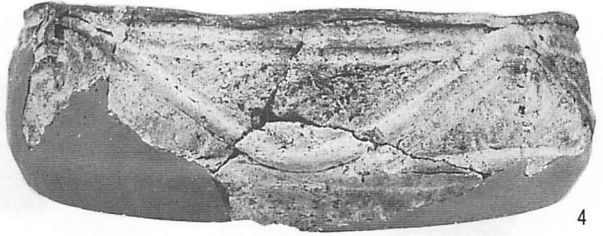
1



2



3



4



5

S=1/3 (1・2)  
S=1/2

写真図版22 RA03住居跡出土遺物(1)



6



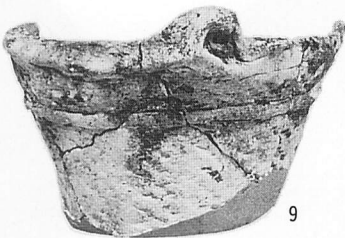
7



8



10



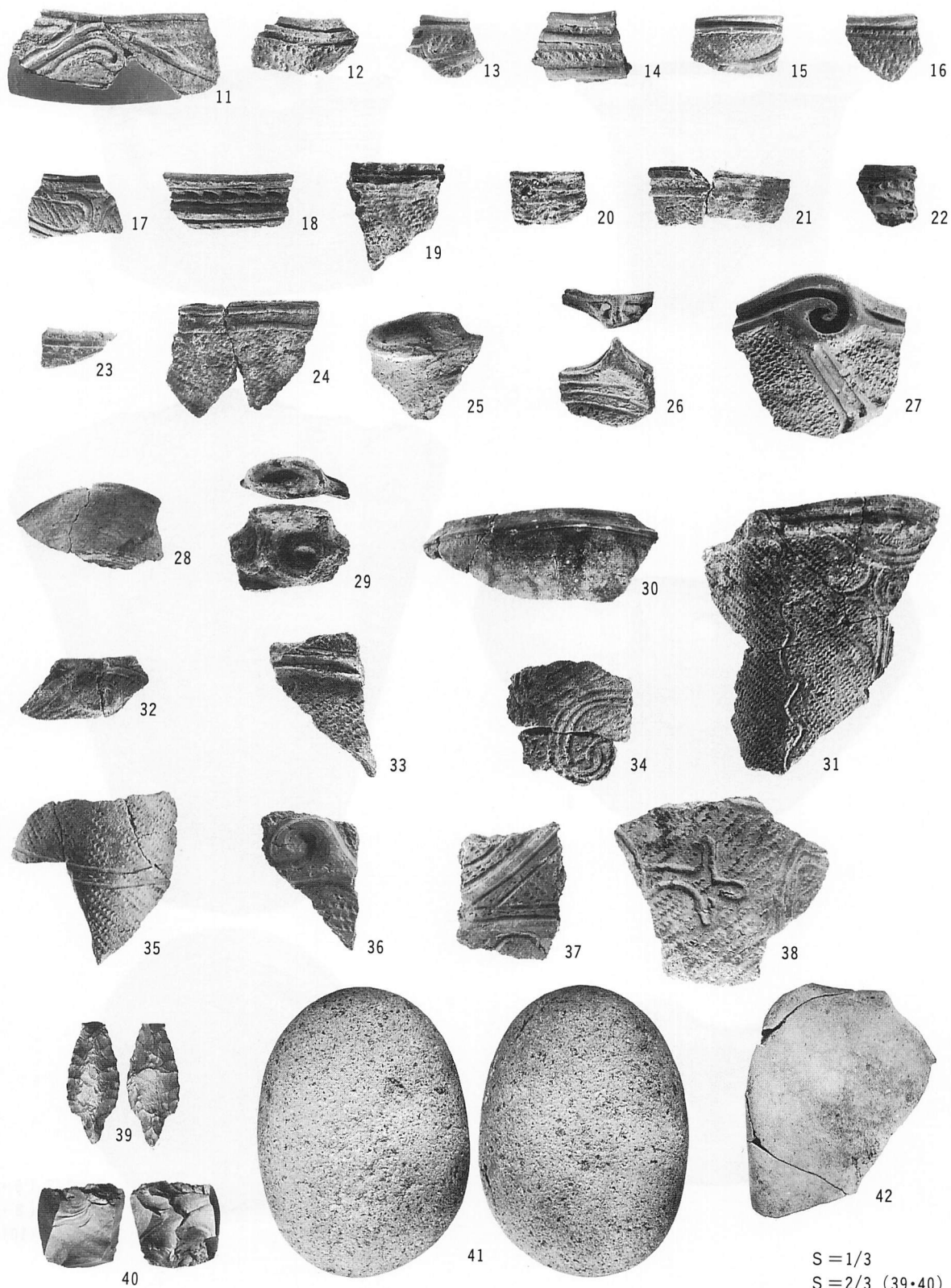
9



S=1/3 (6・7)  
S=1/2 (8・9)  
S=1/4 (10)

写真図版23 RA 03住居跡出土遺物(2)



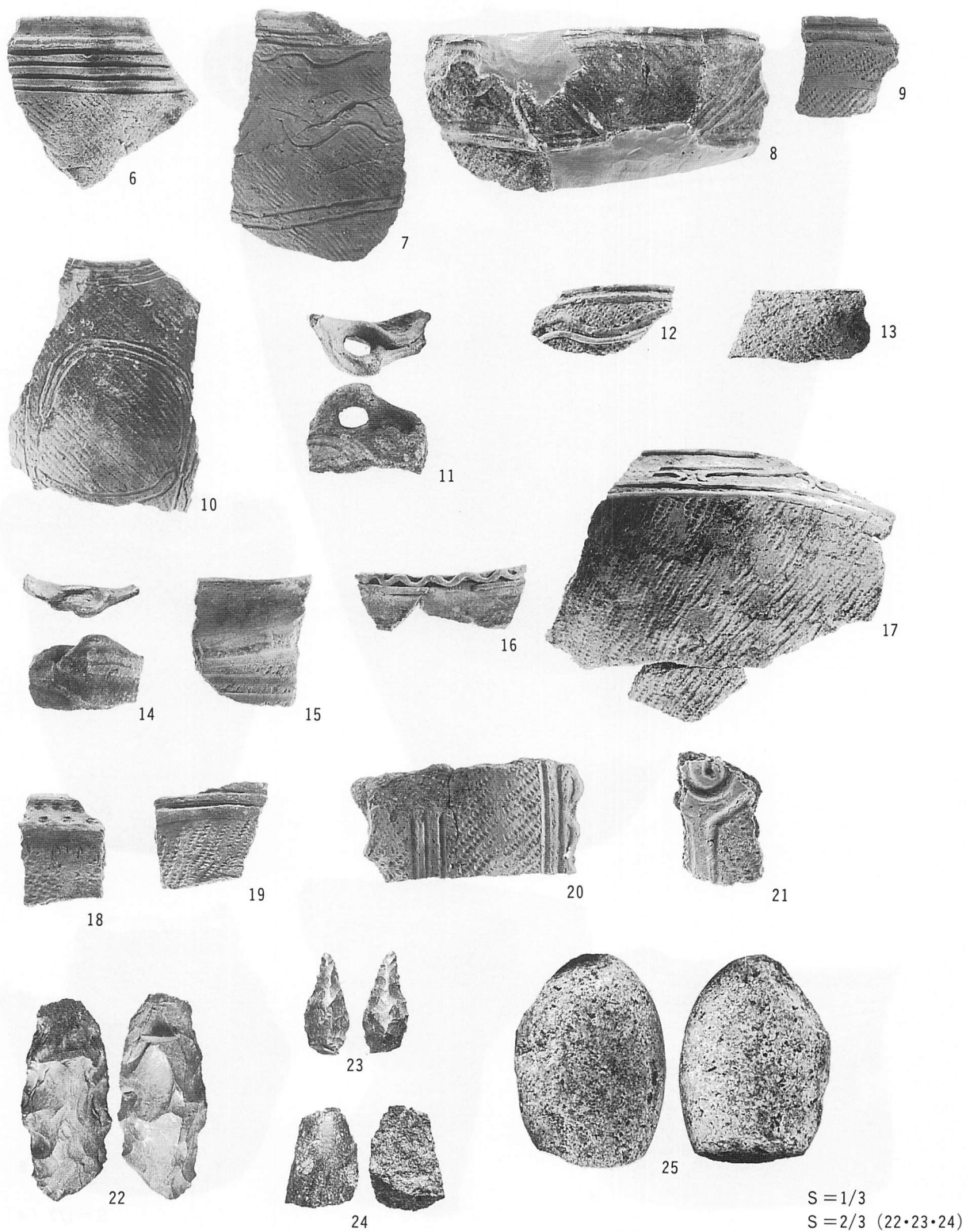


写真図版24 R A 03住居跡出土遺物(3)



S=1/2 (4)  
 S=1/3 (2・3)  
 S=1/4 (1・5)

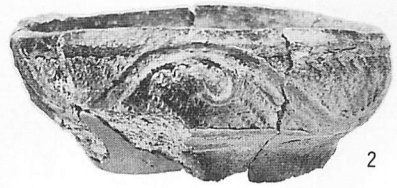
写真図版25 RA 04住居跡出土遺物(1)



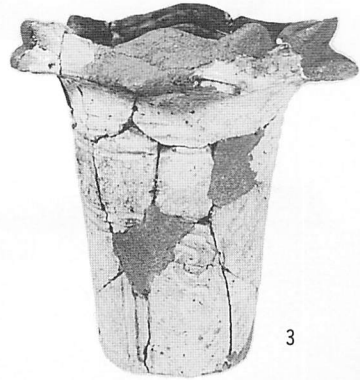
写真図版26 R A 04住居跡出土遺物(2)



1



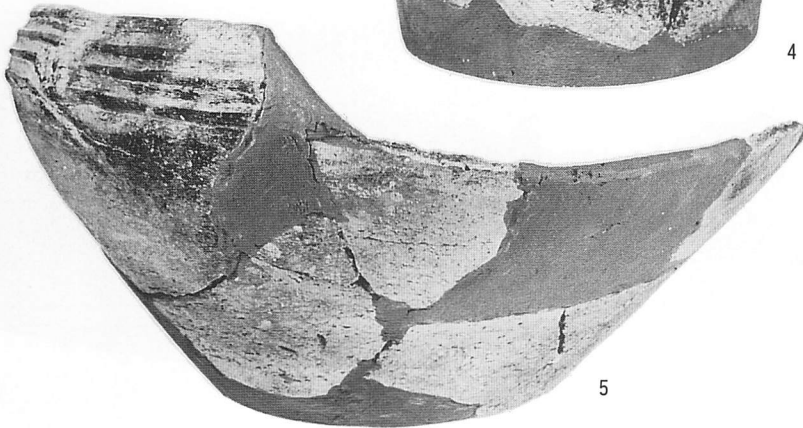
2



3



4

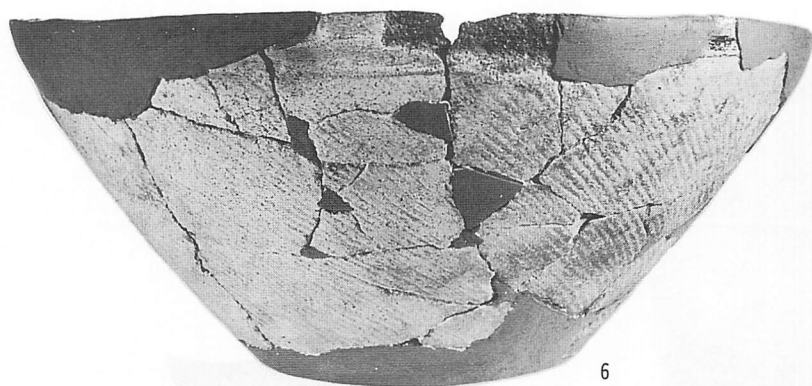


5

S=1/4 (1)  
S=1/3

写真图版27 RA 05住居跡出土遺物(1)





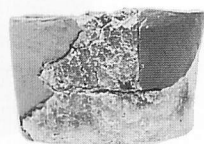
6



8



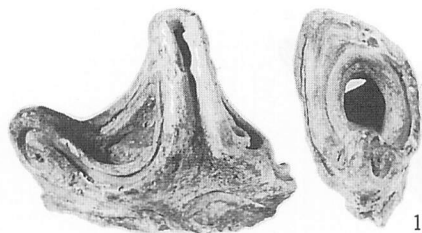
7



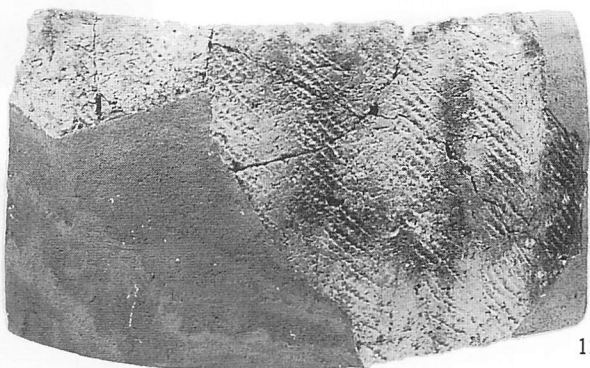
9



10



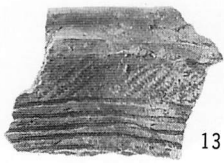
11



12

S=1/3

写真図版28 RA05住居跡出土遺物(2)



13



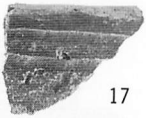
14



15



16



17



18



19



20



21



22



23



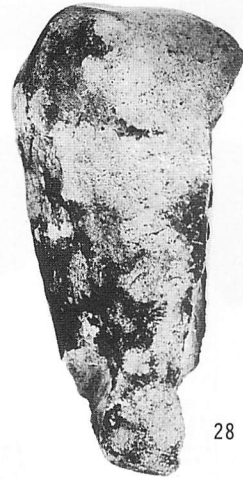
24



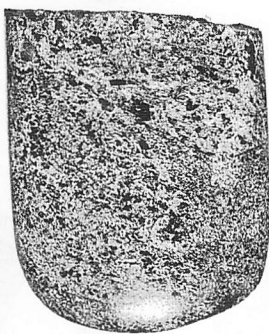
25



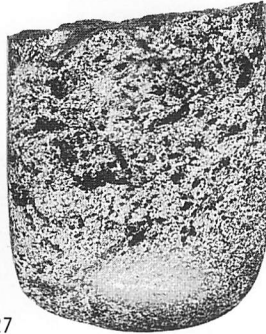
26



28

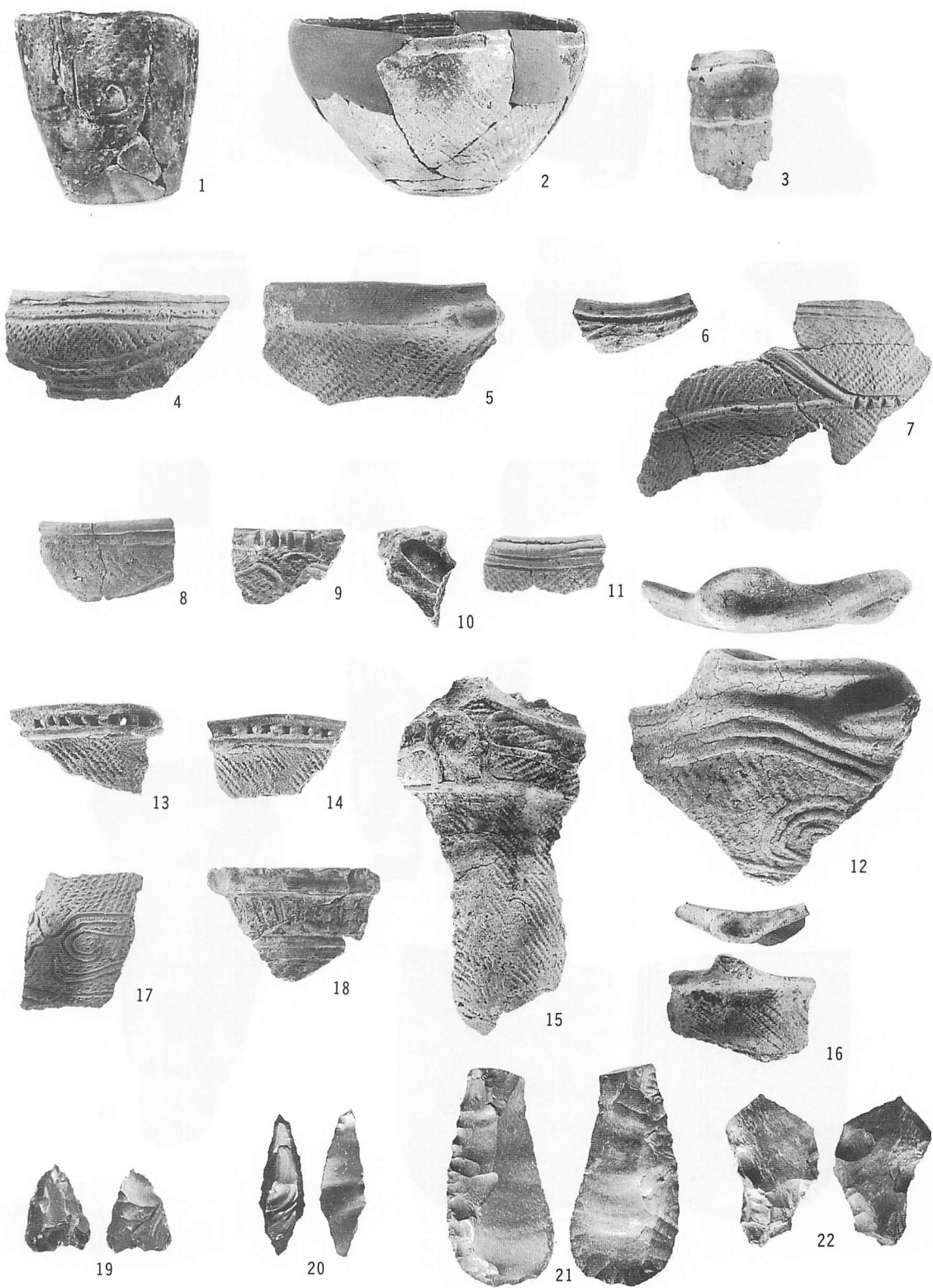


27



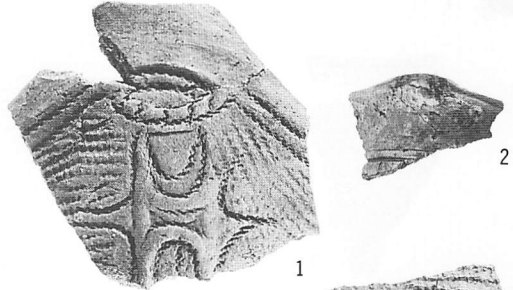
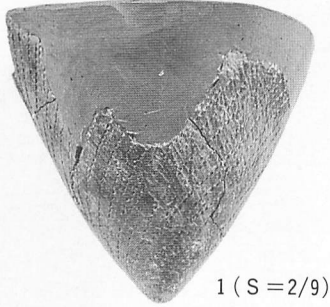
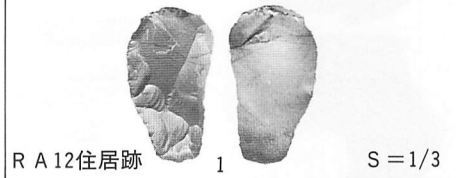
S = 1/3  
S = 2/3 (17·25·26·27)  
S = 1/2 (28)

写真図版29 R A 05住居跡出土遺物



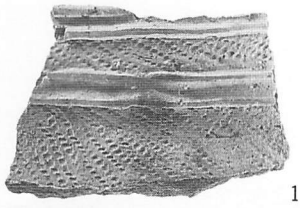
写真図版30 RA 07住居跡出土遺物

S = 1/3  
S = 2/3 (19~22)



RA 14住居跡

RE 01竖穴状遺構



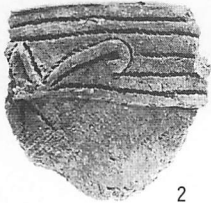
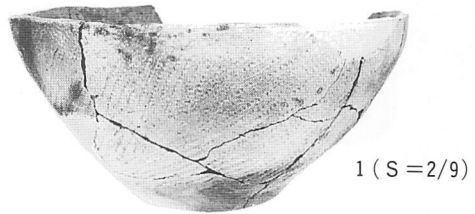
RD 03土坑



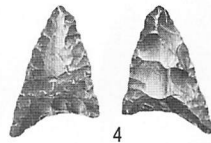
RD 05土坑



RD 07土坑

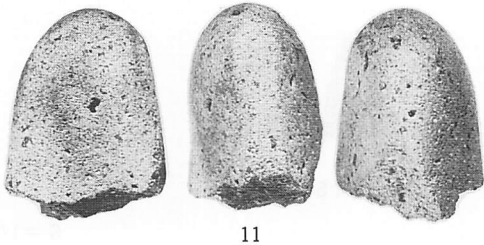
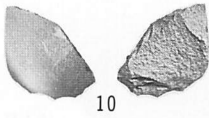
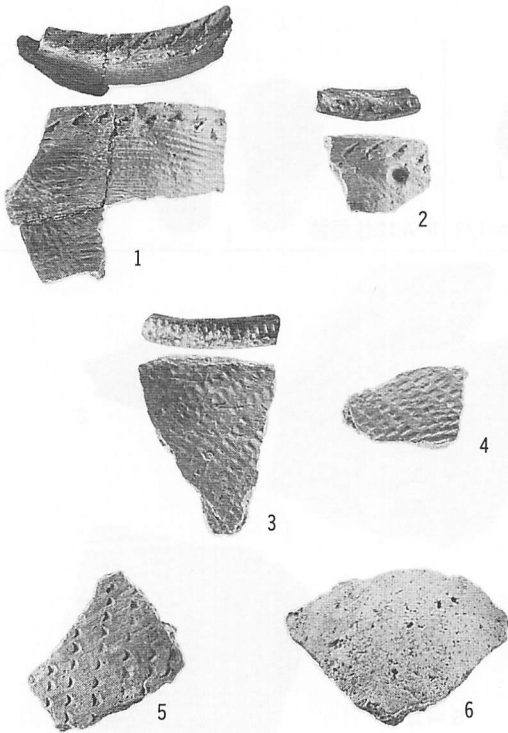


RD 08土坑



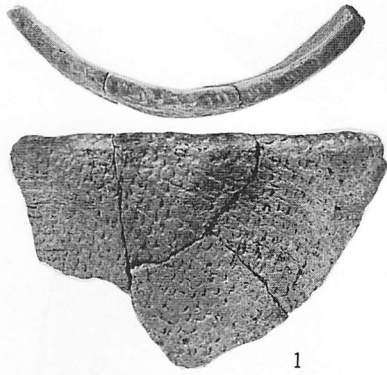
S=1/3

写真図版31 RA 10・RA 11・RA 12・RA 14住居跡  
RE 01竖穴状遺構、RD 03・RD 05陷し穴  
RD 07・RD 08土坑出土遺物



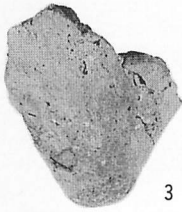
S=1/2  
 S=1/3 (8・9・10・11)  
 S=1/6 (12)

写真図版32 RA13住居跡出土遺物

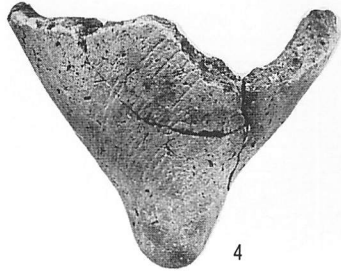


1

2



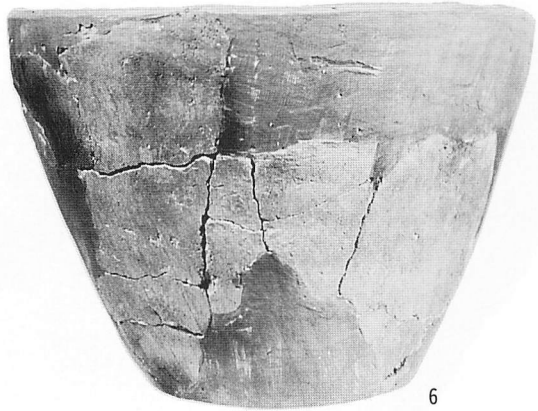
3



4



5

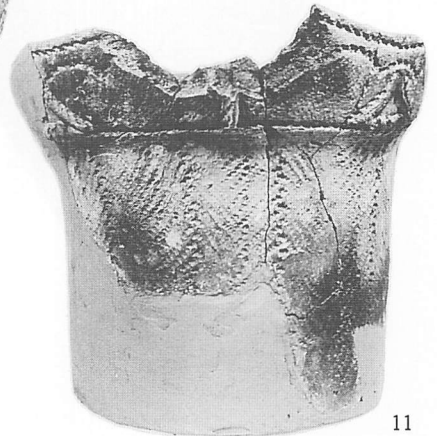
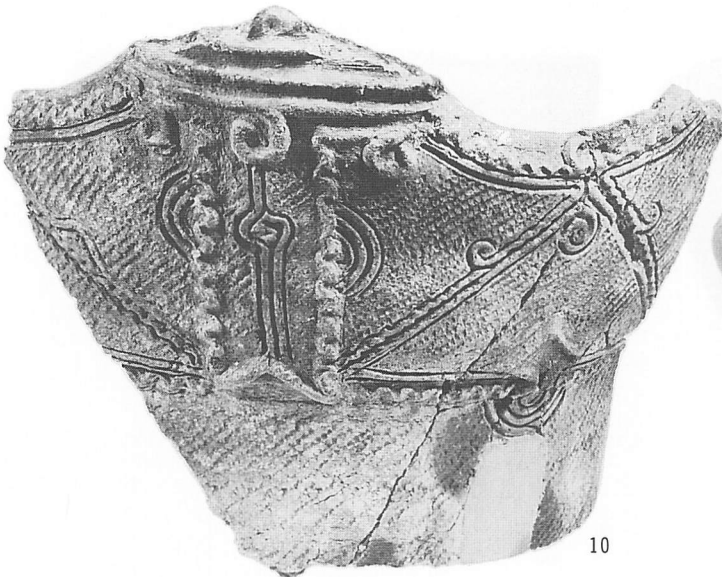
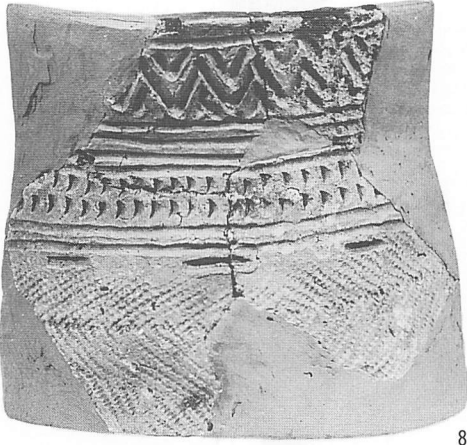


6

S=1/2  
S=1/3 (6)

写真図版33 遺構外出土遺物：土器(1)





S = 1/3

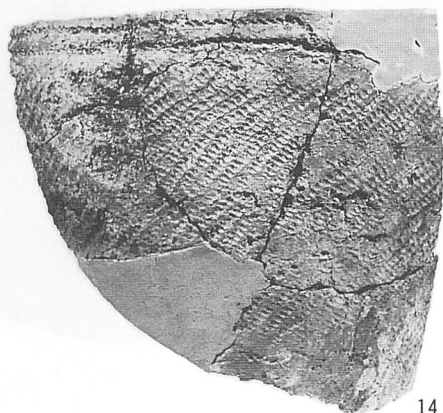
写真図版34 遺構外出土遺物：土器(2)



12



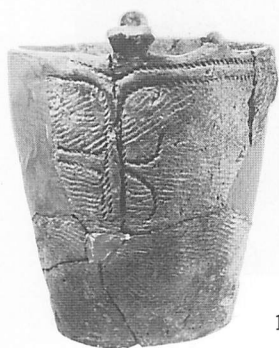
13



14



15



16



17

S = 1/3

写真図版35 遺構外出土遺物：土器(3)

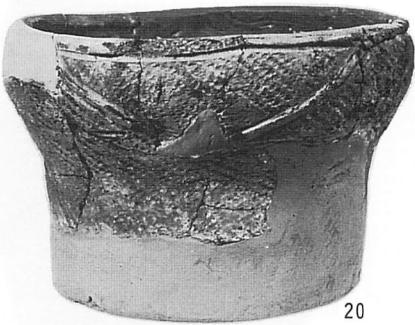




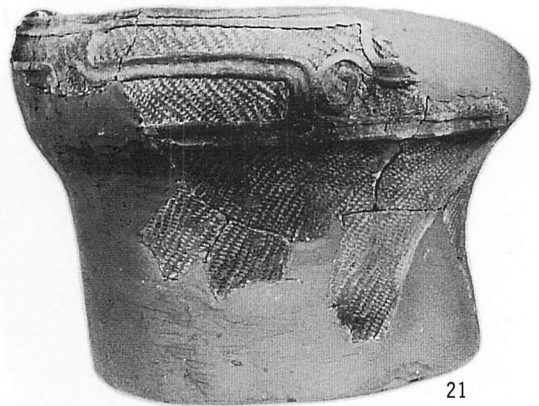
18



19



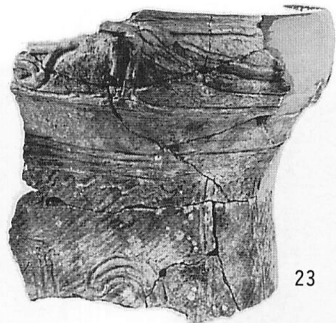
20



21



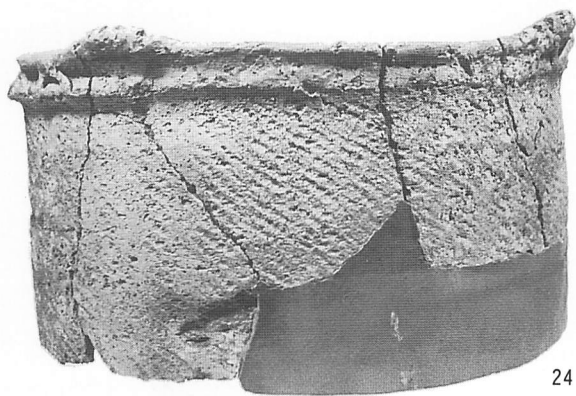
22



23

S = 1/3

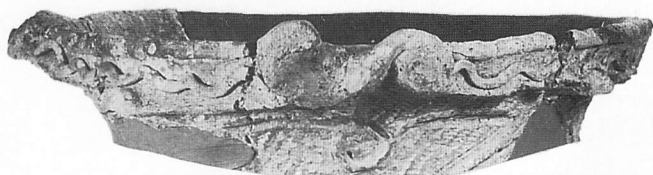
写真図版36 遺構外出土遺物：土器(4)



24



25



27



26



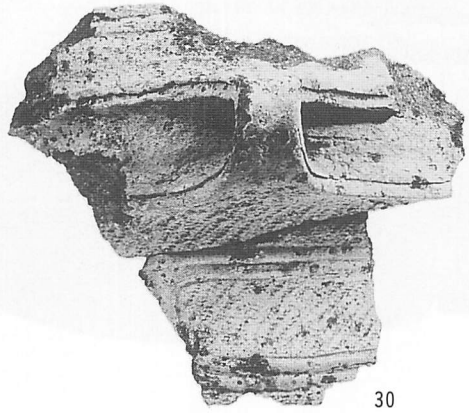
28

S = 1/3

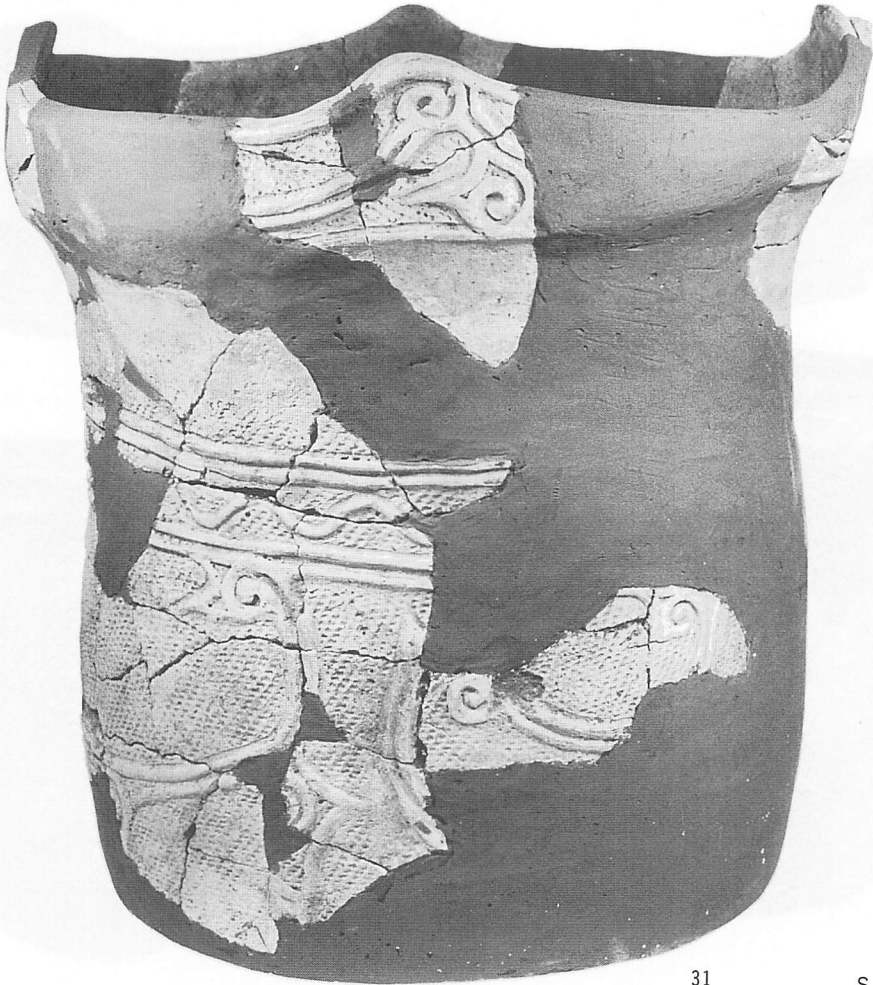
写真図版37 遺構外出土遺物(5)土器(6)



29



30



31

写真図版38 遺構外出土遺物：土器(6)

S = 1/3  
S = 1/4 (31)



32

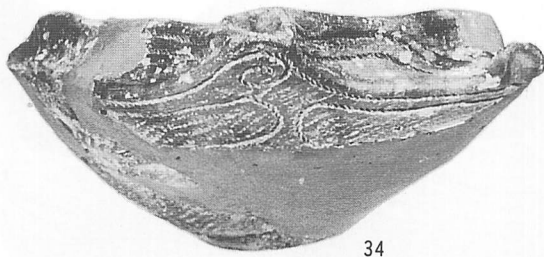


33

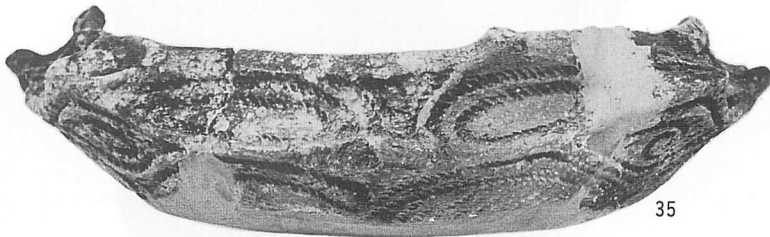
S = 1/4 (32)

S = 1/3 (33)

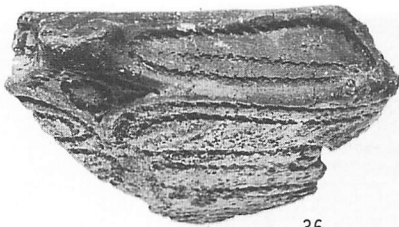
写真図版39 遺構外出土遺物：土器(7)



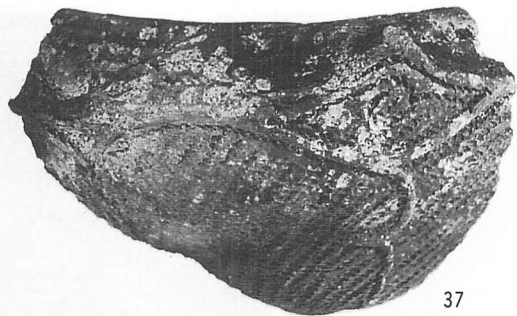
34



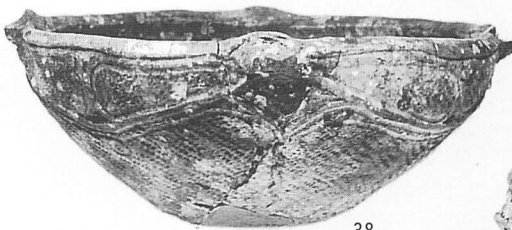
35



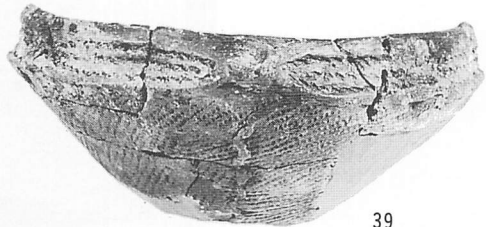
36



37



38



39

S = 1/2 (35·36·37)  
S = 1/3 (34·38·39)





40

S = 1/3  
S = 1/4 (40)

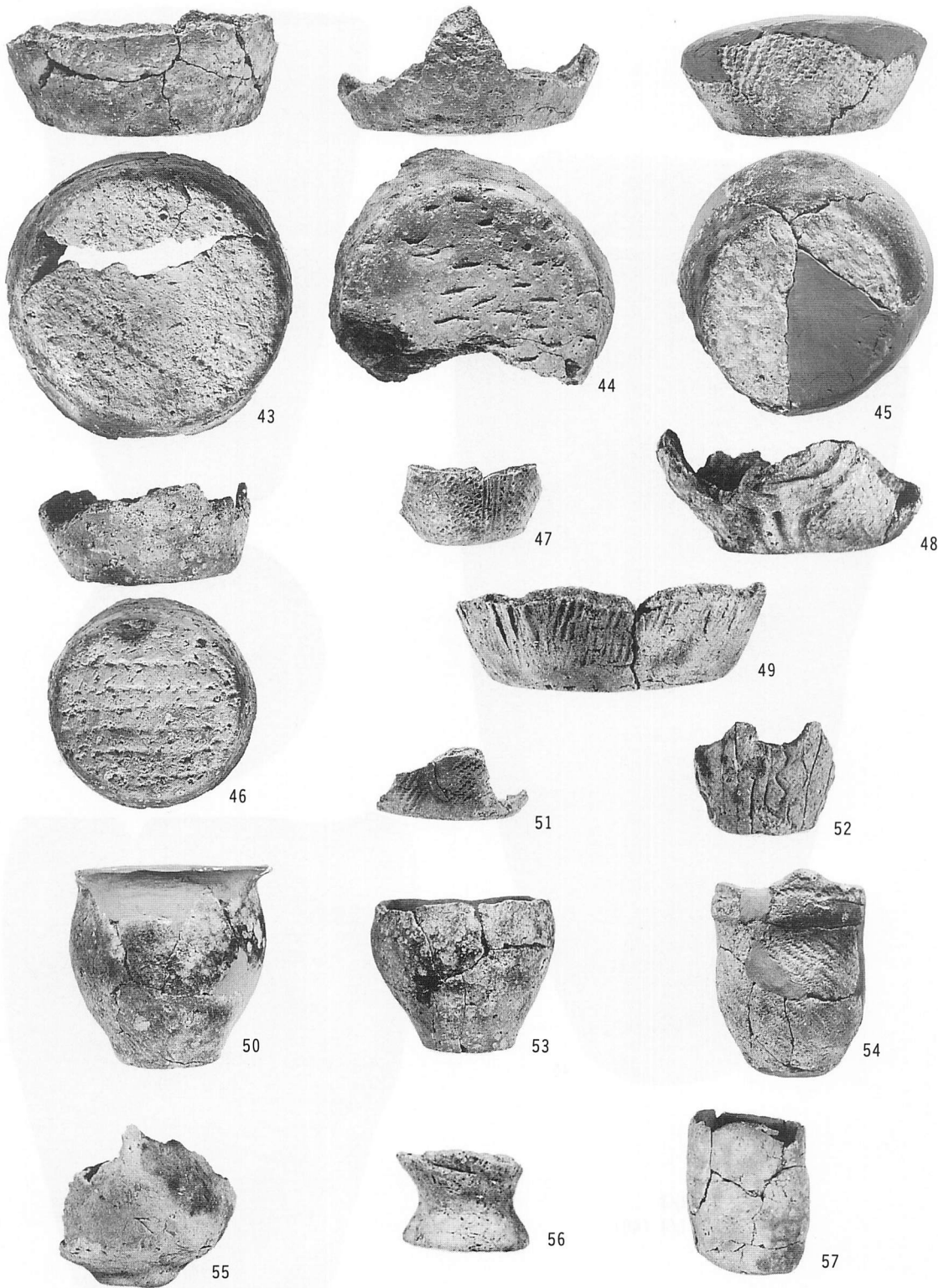


41



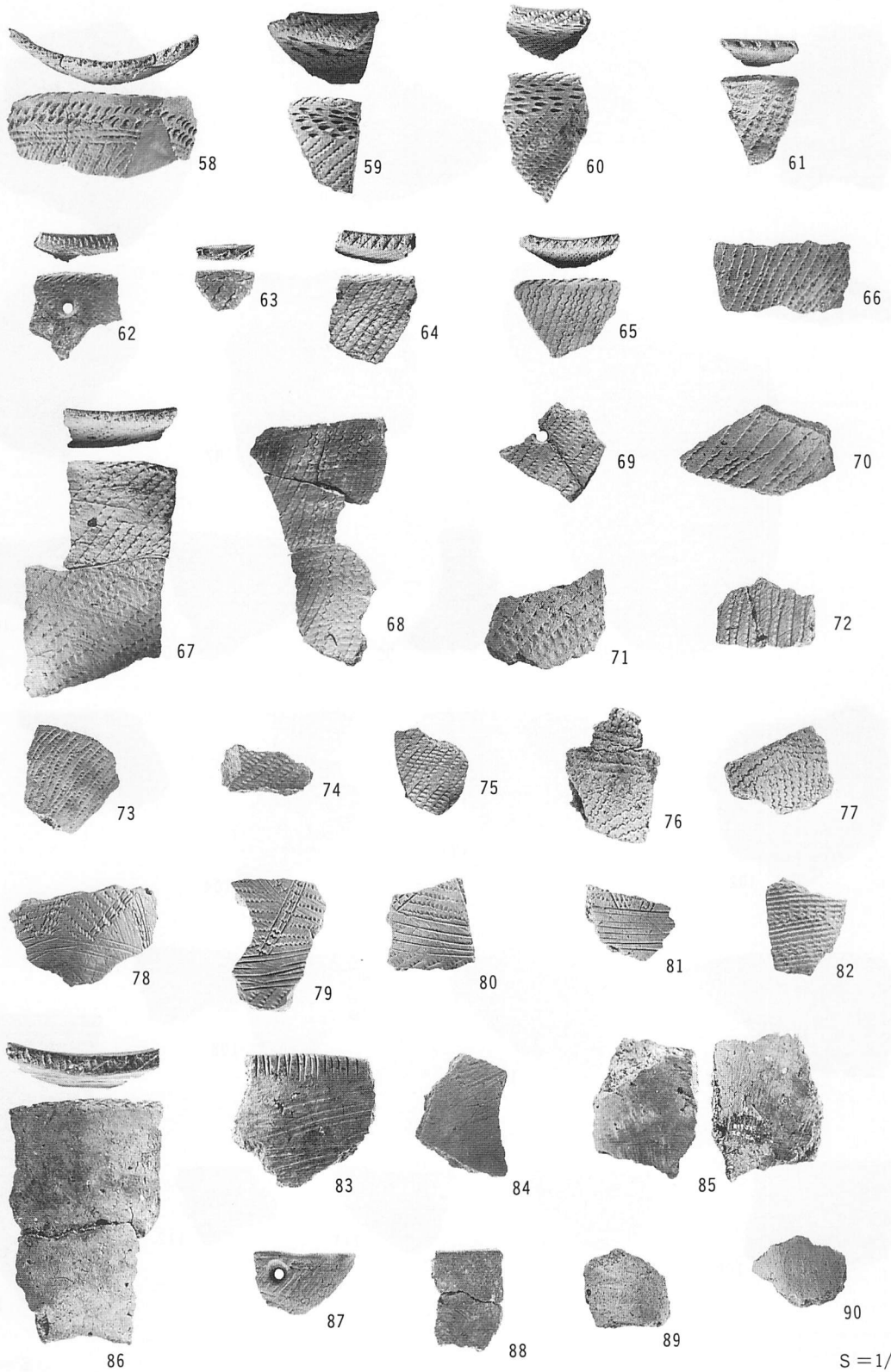
42

写真図版41 遺構外出土遺物：土器(9)



写真図版42 遺構外出土遺物：土器(10)

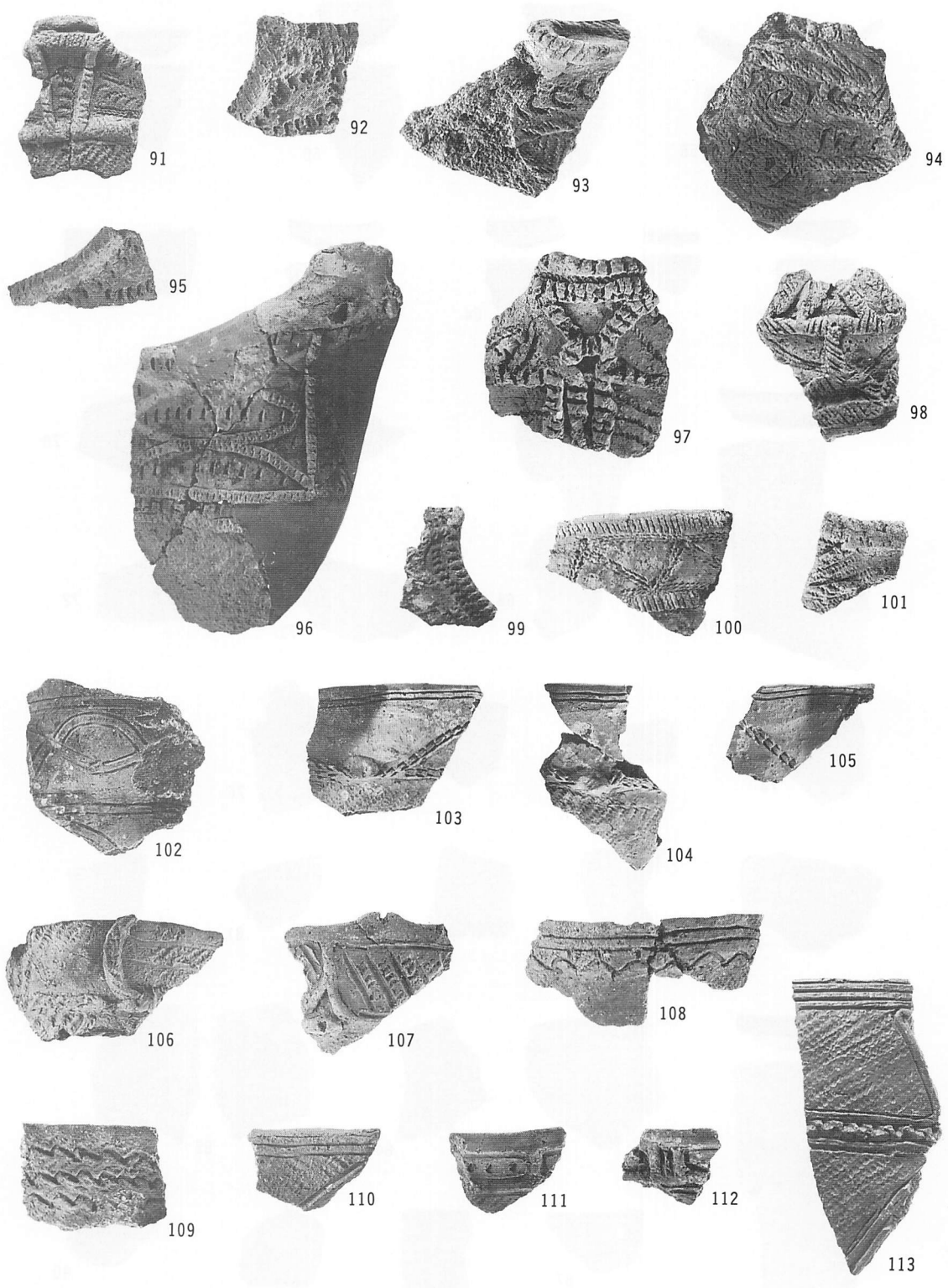
S = 1/3  
 S = 2/3 (48・52・55・56・57)



S = 1/3

写真図版43 遺構外出土遺物：土器(11)



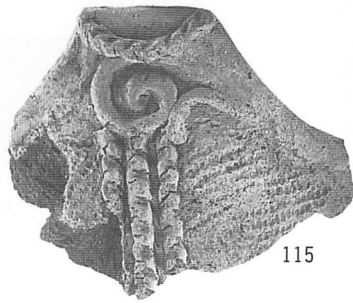


S = 1/3

写真図版44 遺構外出土遺物：土器(12)



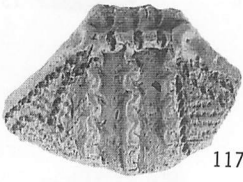
114



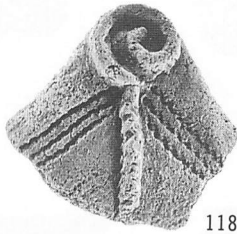
115



116



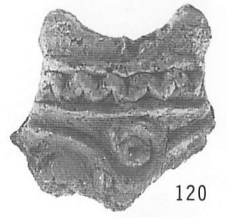
117



118



119



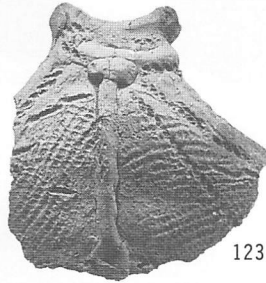
120



121



122



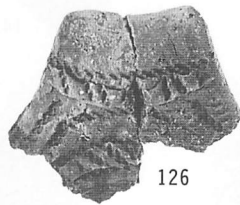
123



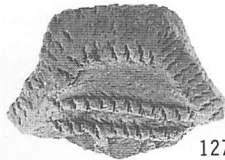
124



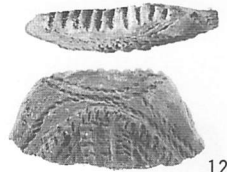
125



126



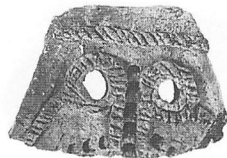
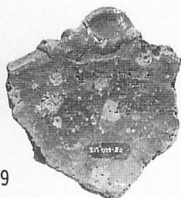
127



128



129



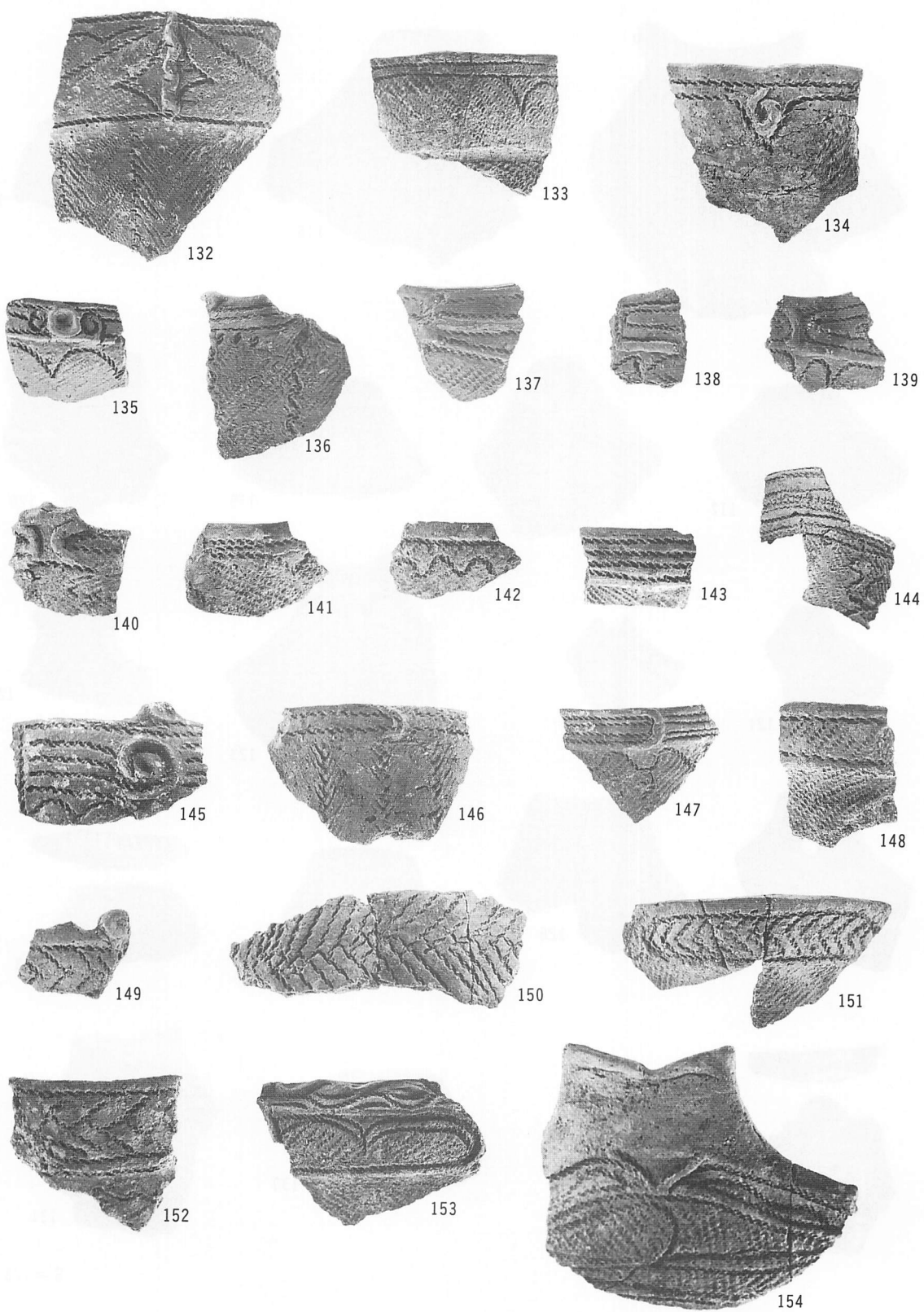
130



131

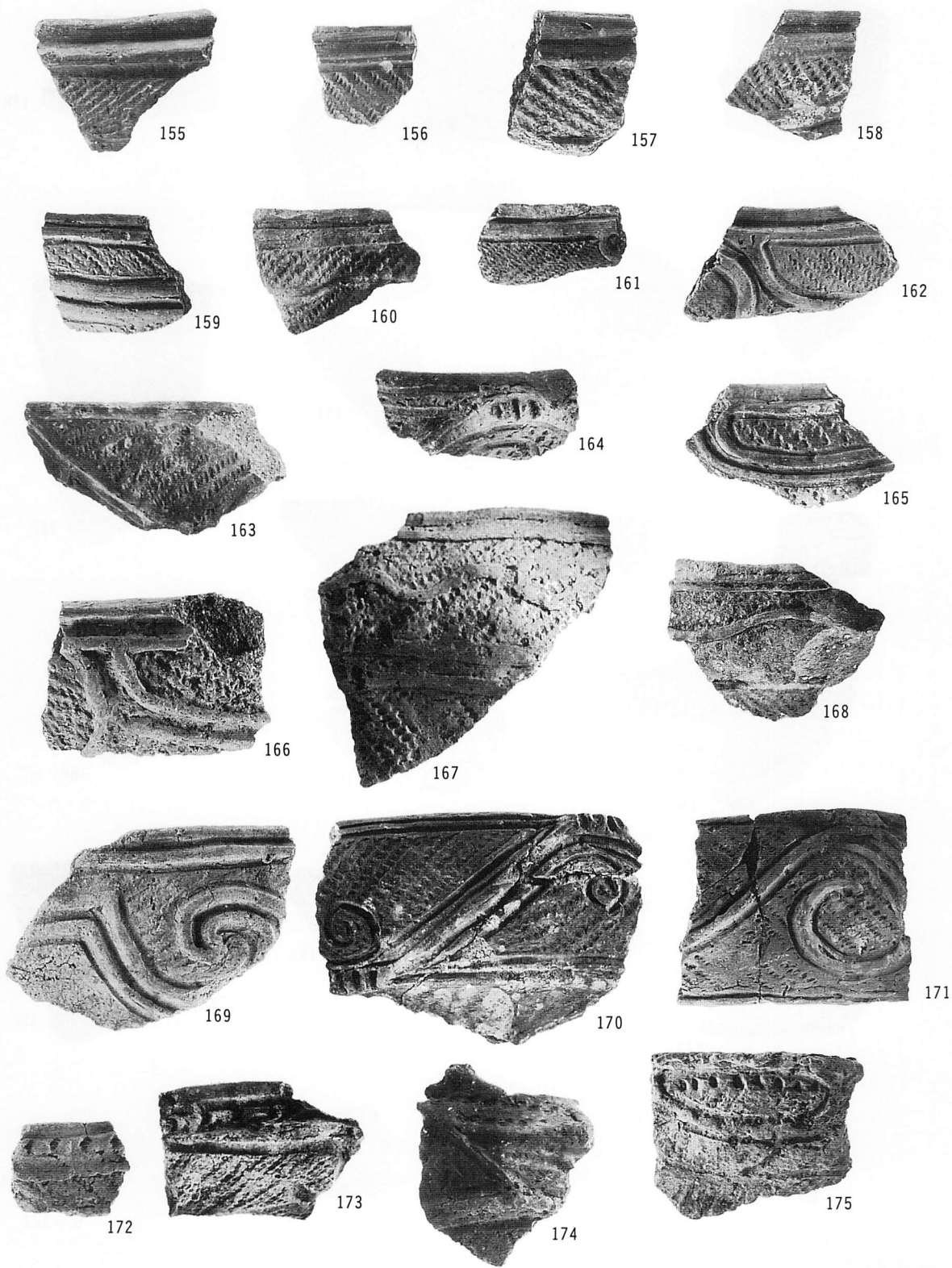
S = 1/3

写真図版45 遺構外出土遺物：土器(13)



写真図版46 遺構外出土遺物：土器(14)

S=1/3

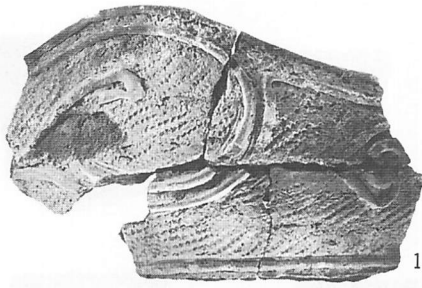


写真図版47 遺構外出土遺物：土器(15)

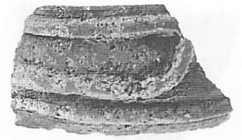
S=1/3



176



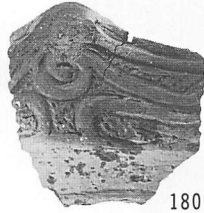
177



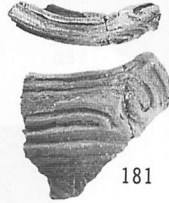
178



179



180



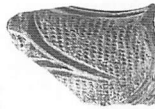
181



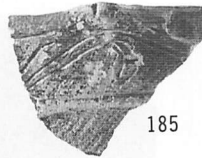
182



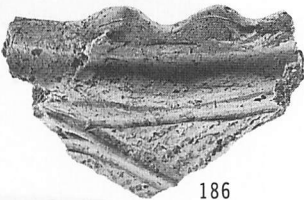
183



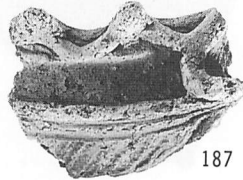
184



185



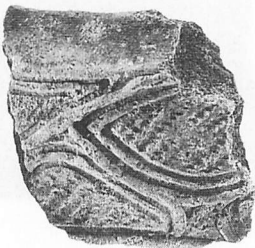
186



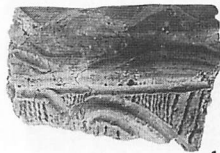
187



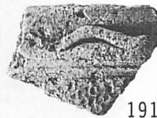
188



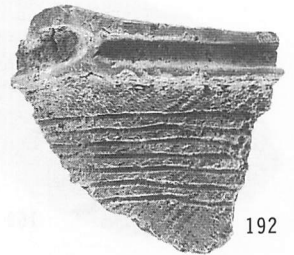
189



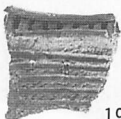
190



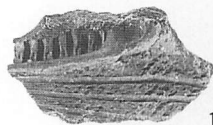
191



192



193



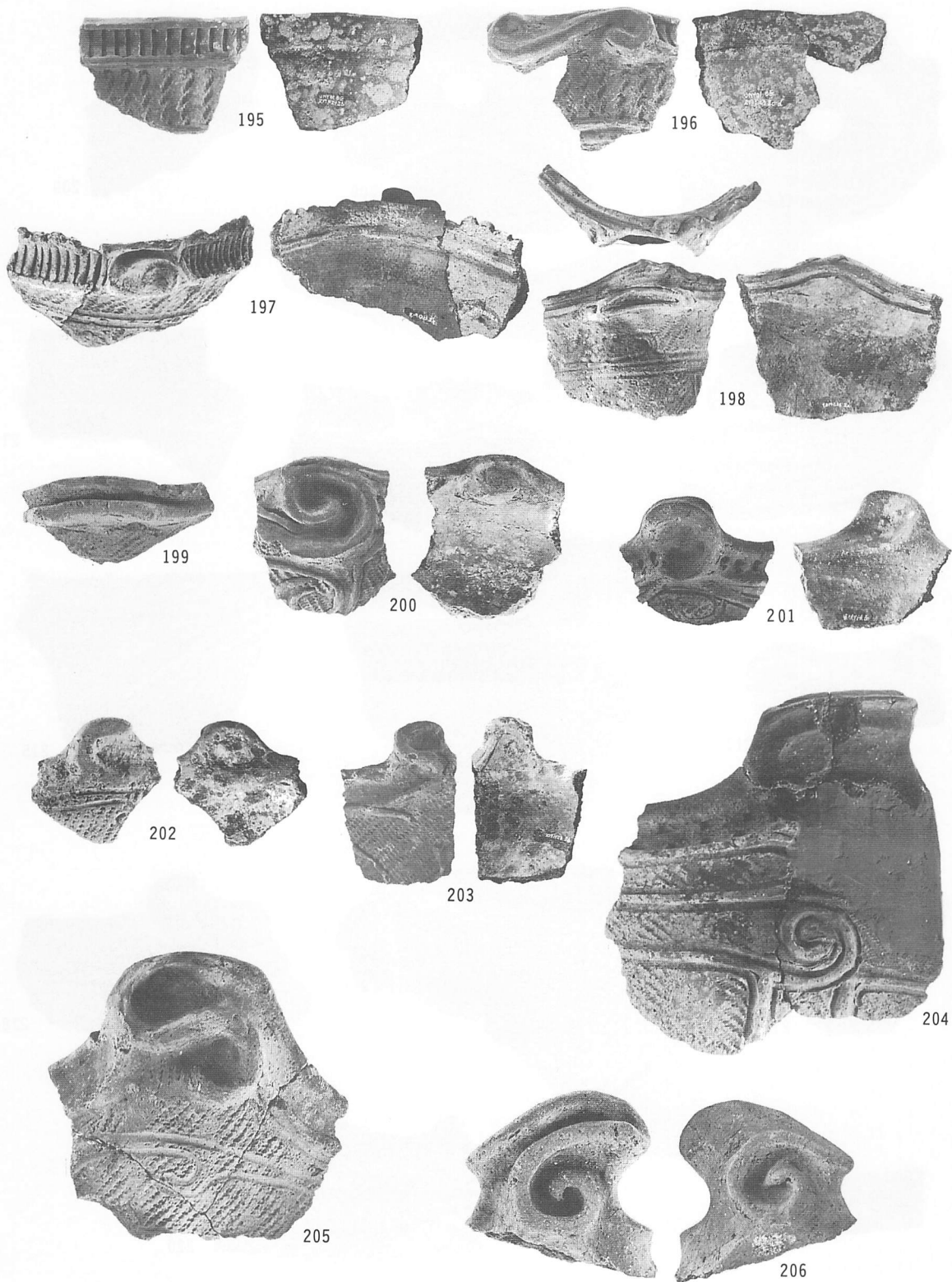
194



S = 1/3

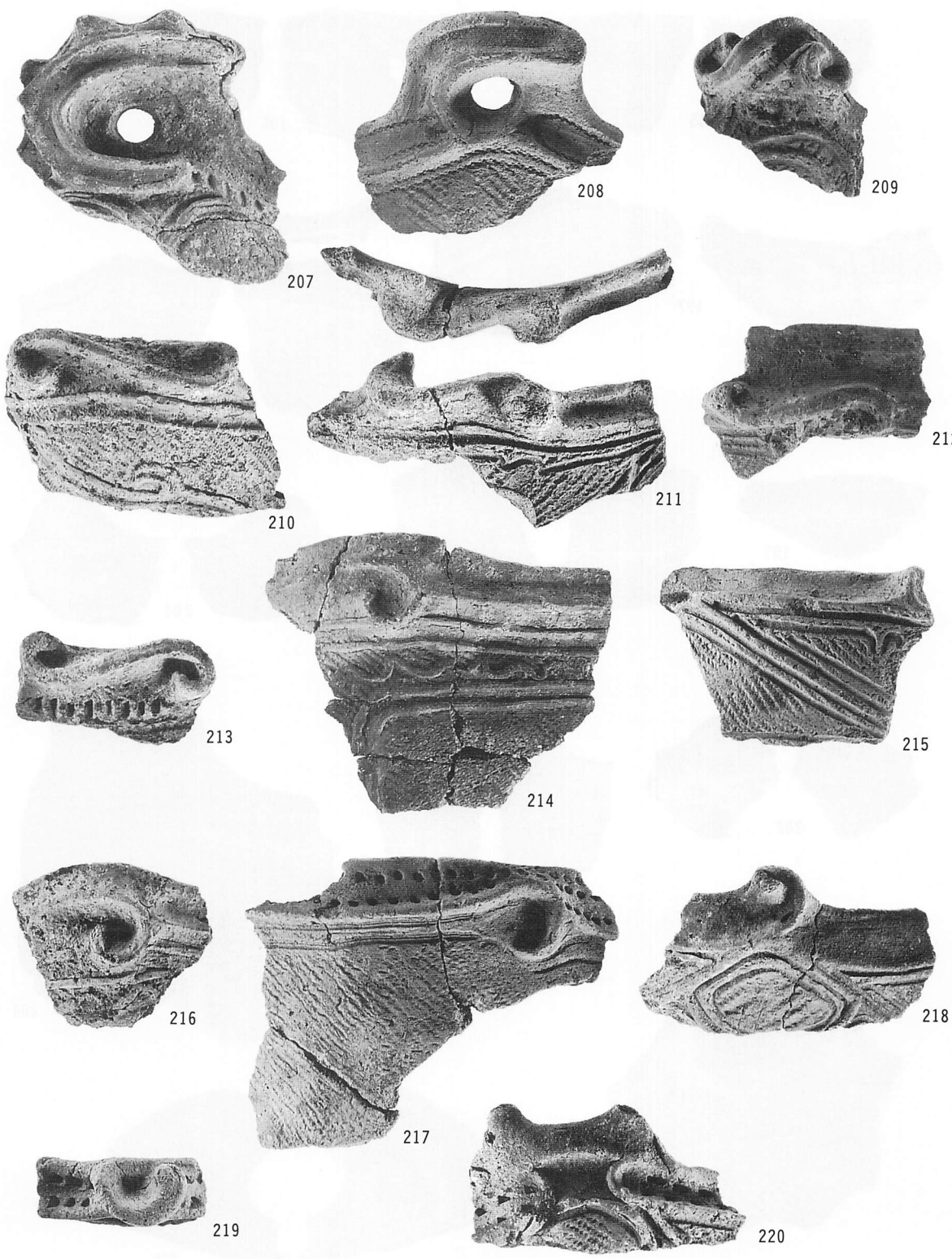
写真図版48 遺構外出土遺物：土器(16)





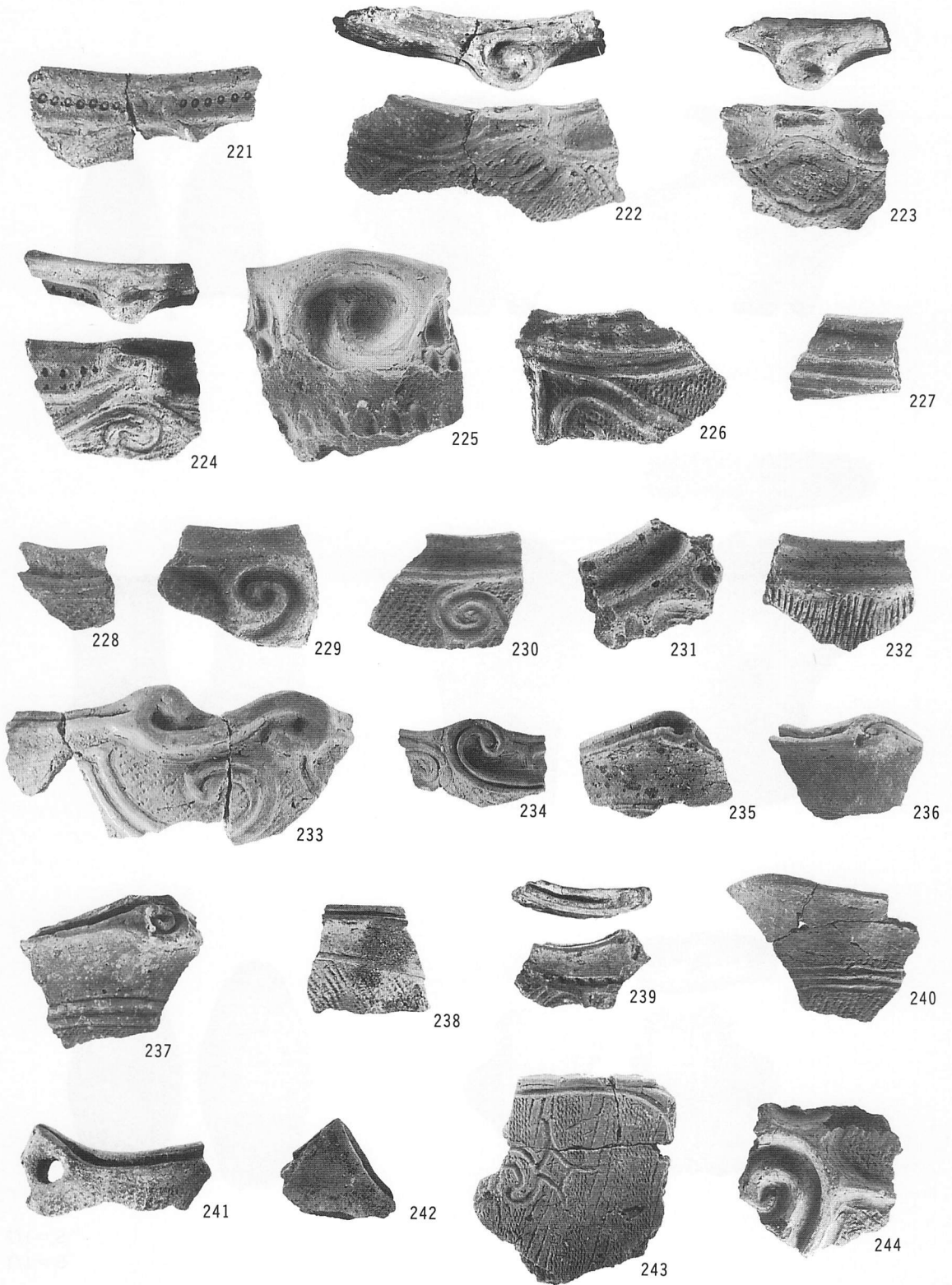
写真図版49 遺構外出土遺物：土器(17)

S = 1/3



写真図版50 遺構外出土遺物：土器(18)

S = 1/3



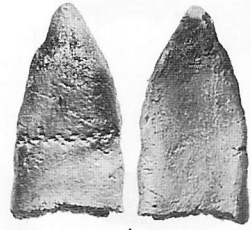
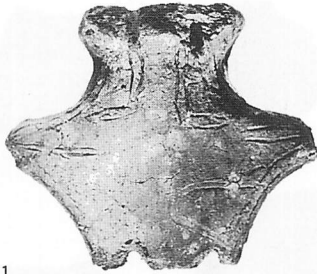
S=1/3

写真図版51 遺構外出土遺物：土器(19)

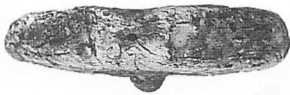




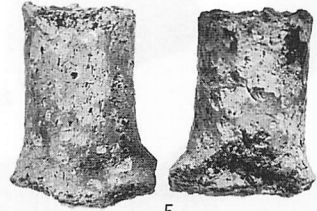
1



4



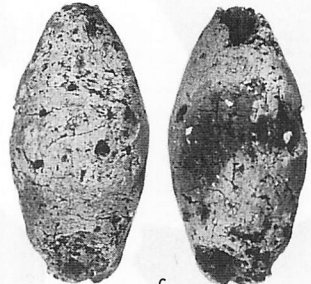
2



5



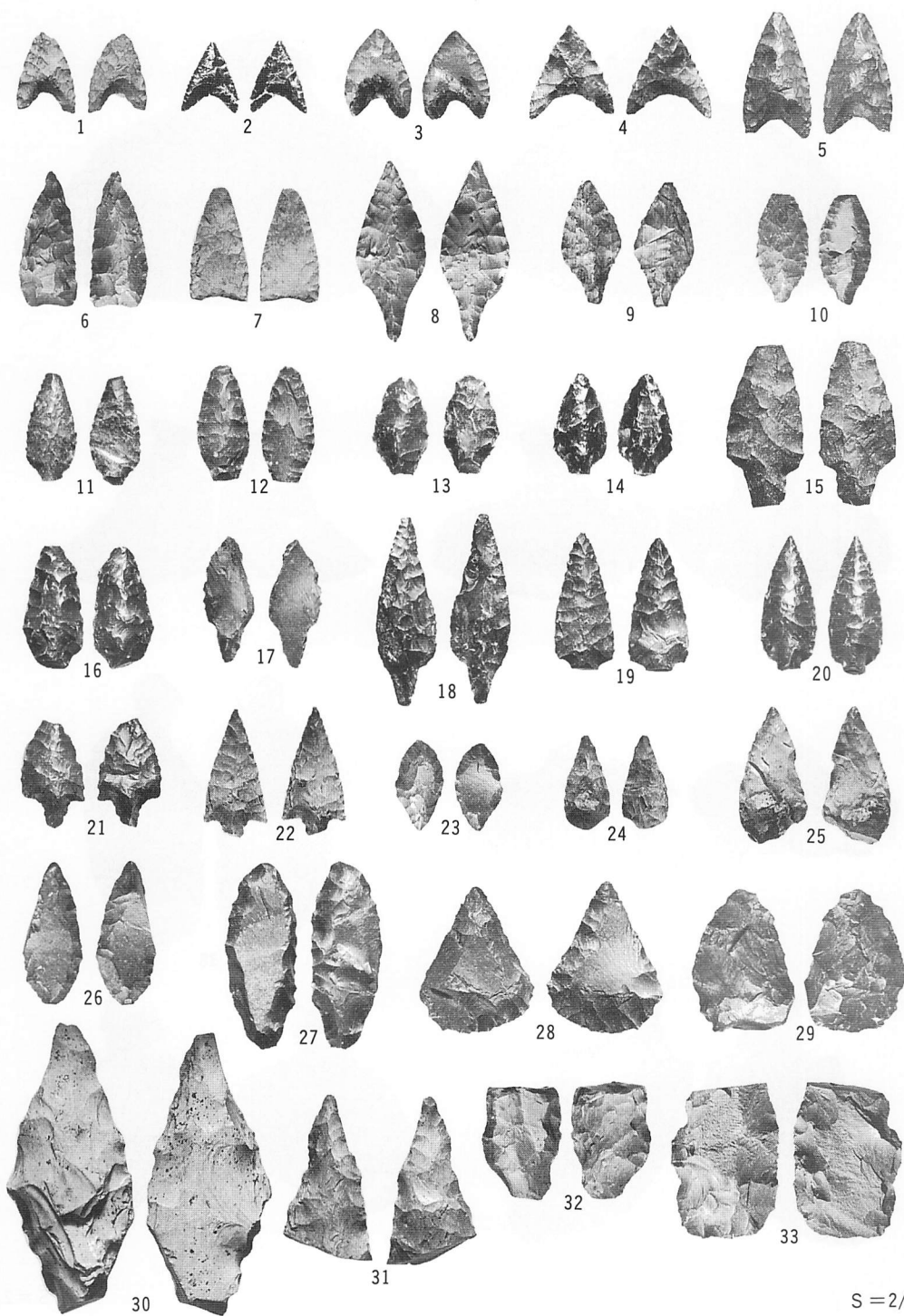
3



6

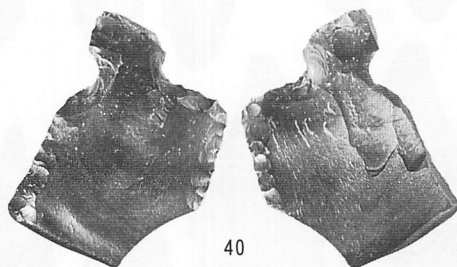
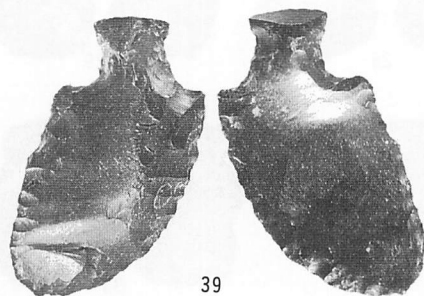
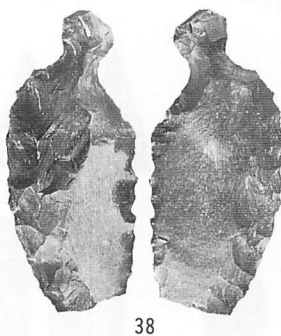
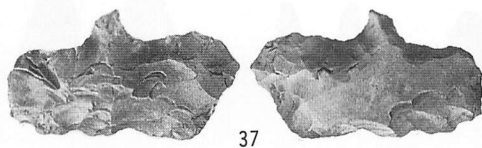
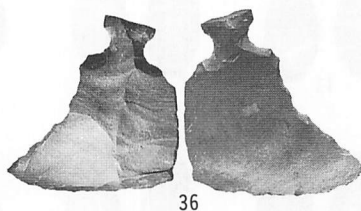
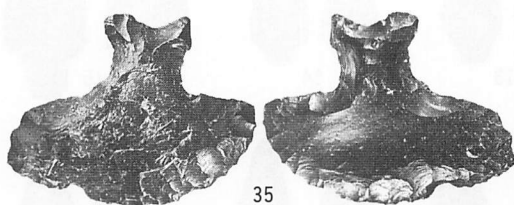
S=1/2  
S=1/1 (6)

写真図版52 遺構外出土遺物：土製品

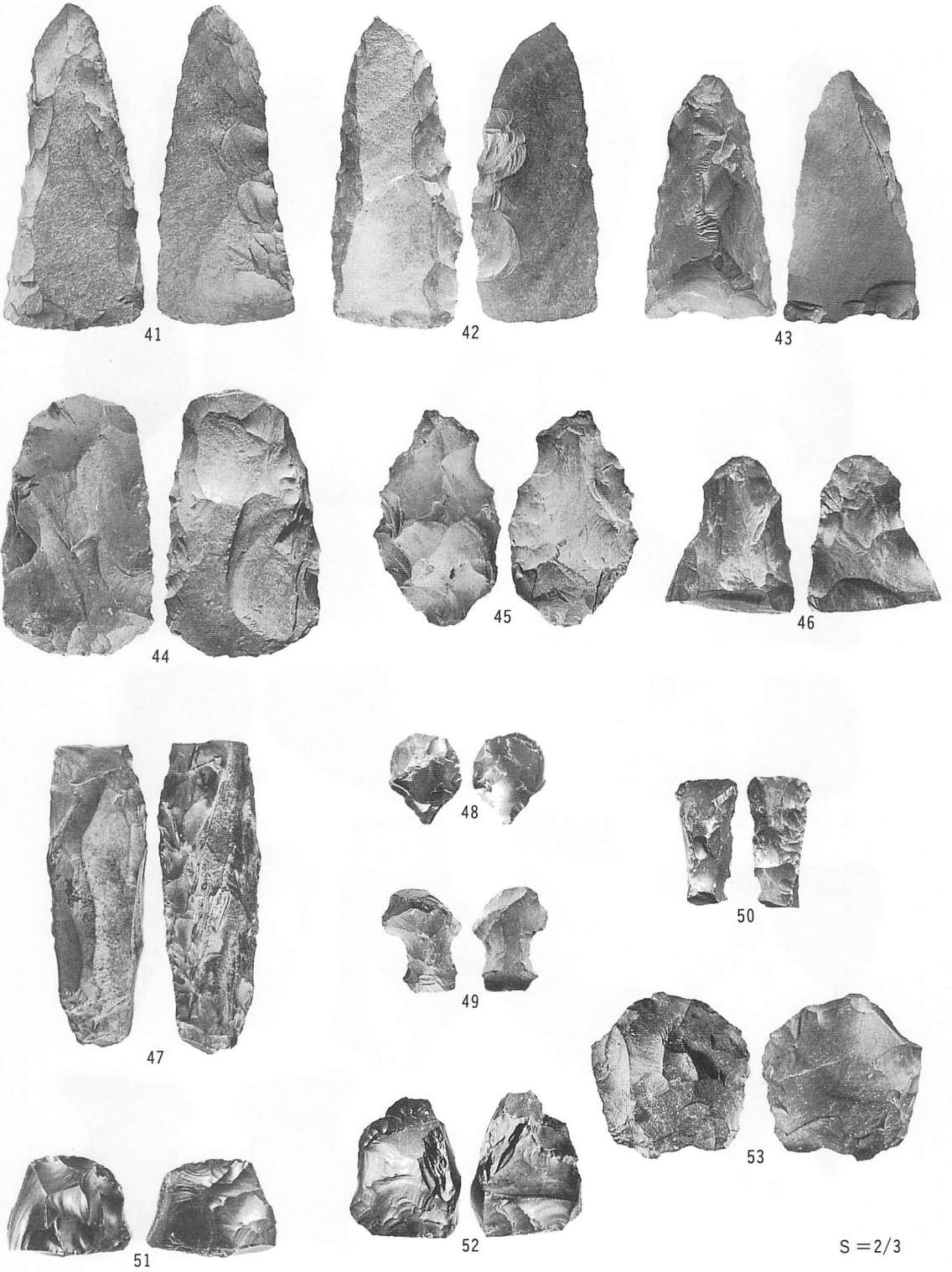


S = 2/3

写真図版53 遺構外出土遺物：石器(1)

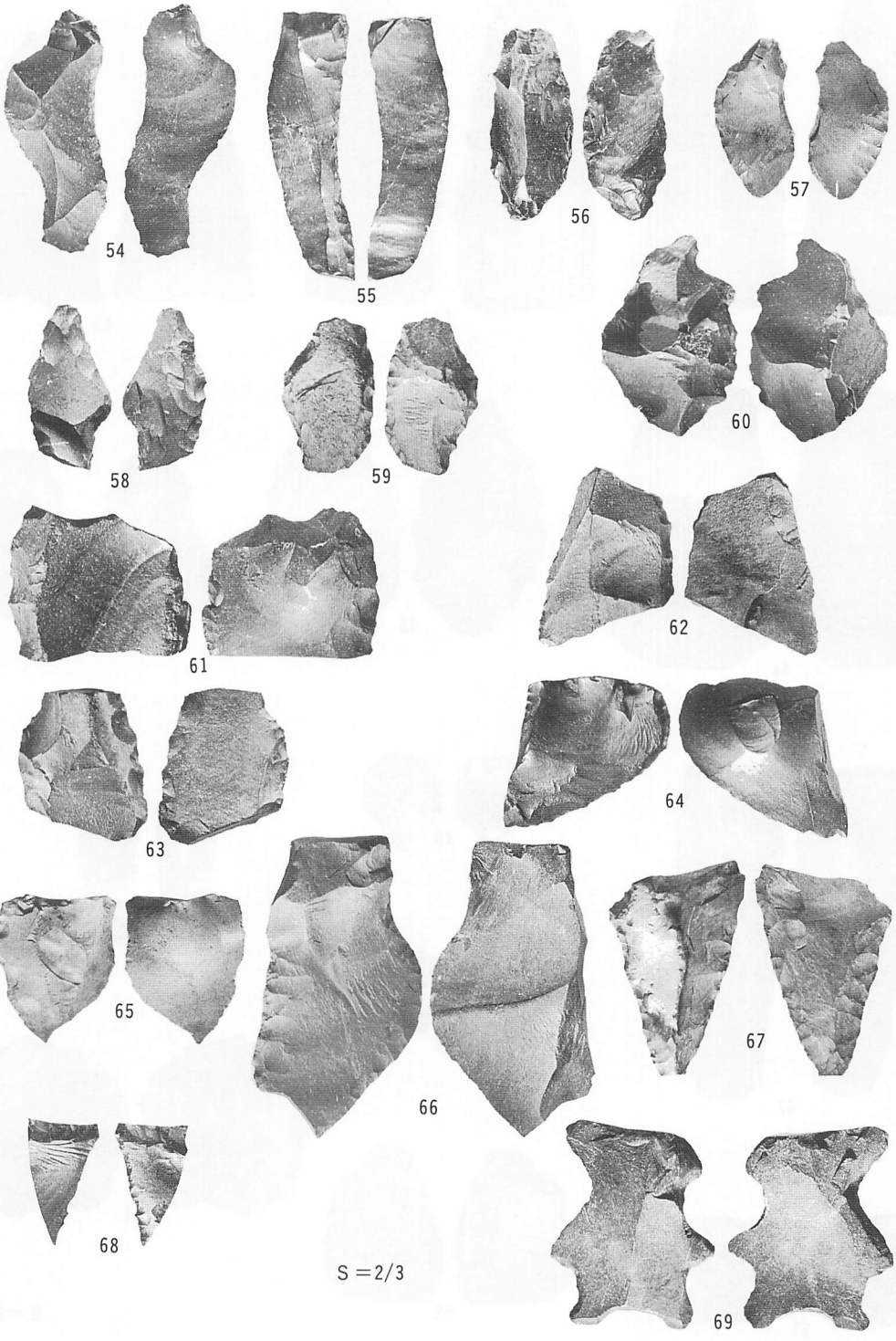


S=2/3



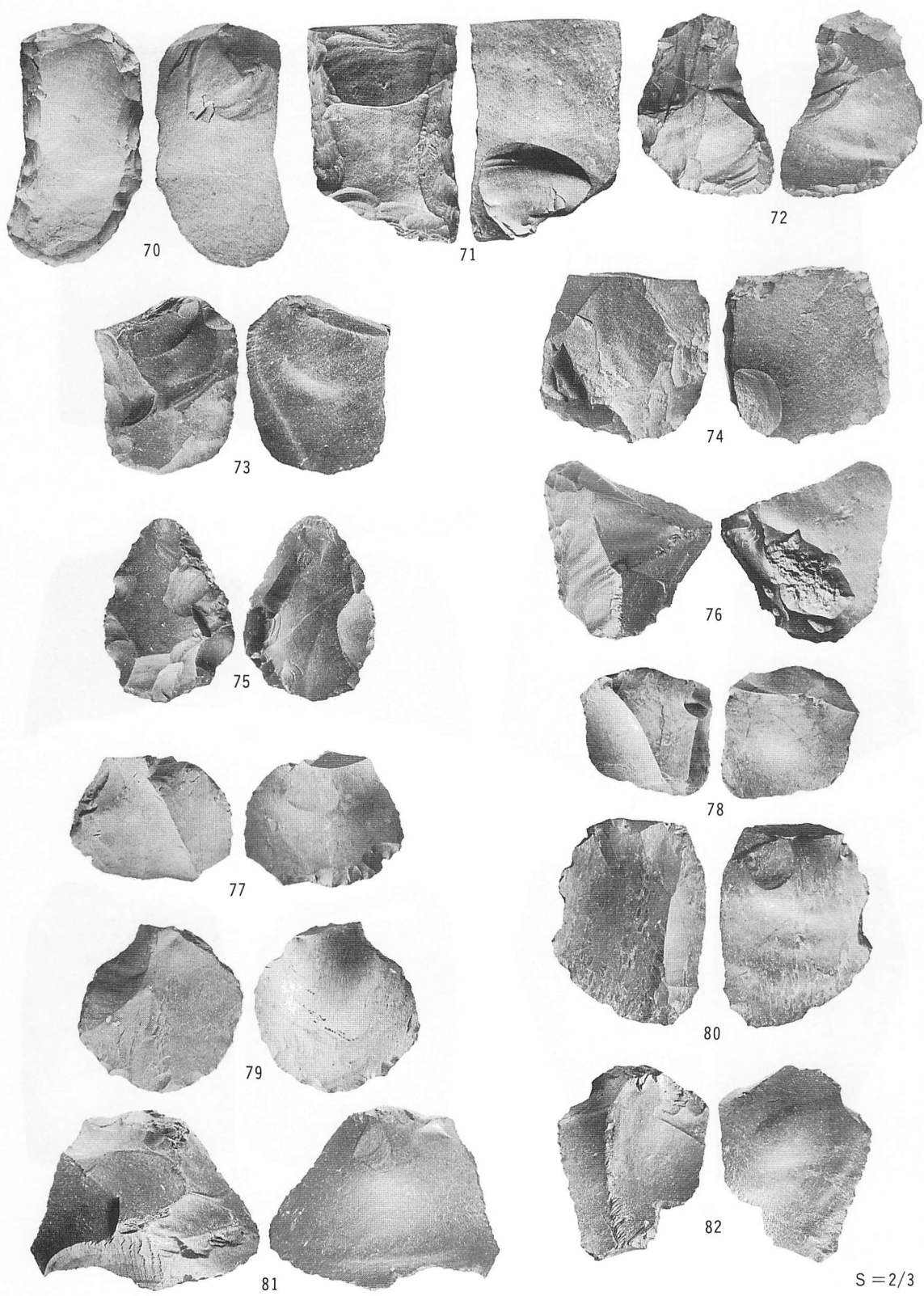
S=2/3

写真図版55 遺構外出土遺物：石器(3)



写真図版56 遺構外出土遺物：石器(4)



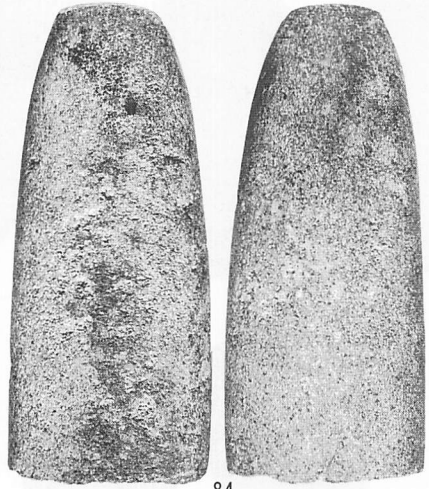


写真図版57 遺構外出土遺物：石器(5)

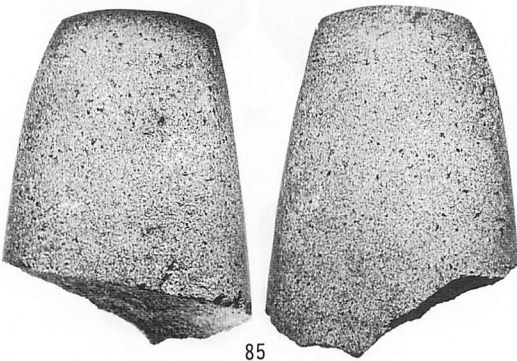
S=2/3



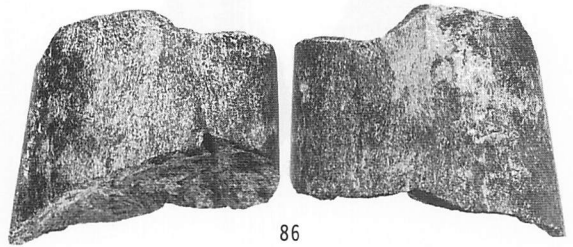
83



84



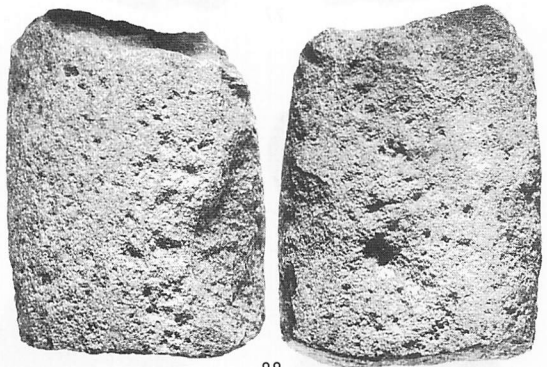
85



86



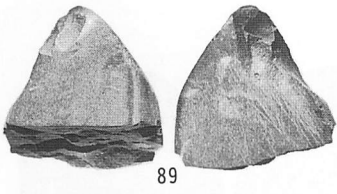
87



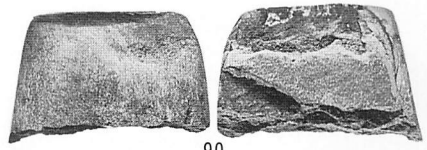
88

S = 2/3

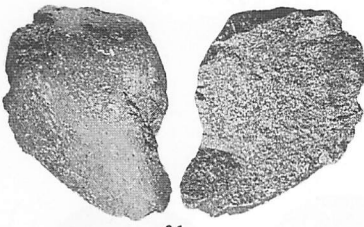
写真図版58 遺構外出土遺物：石器(6)



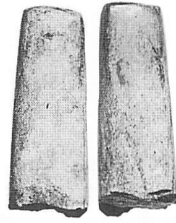
89



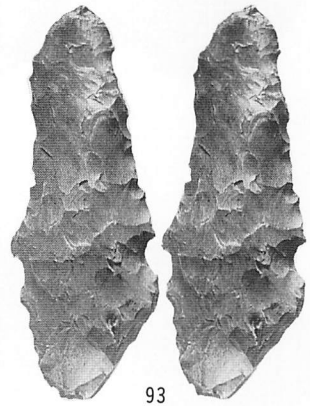
90



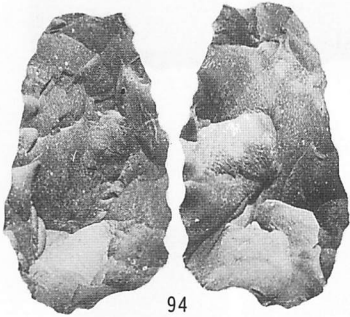
91



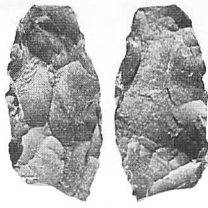
92



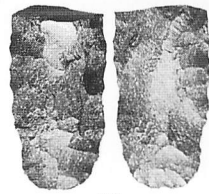
93



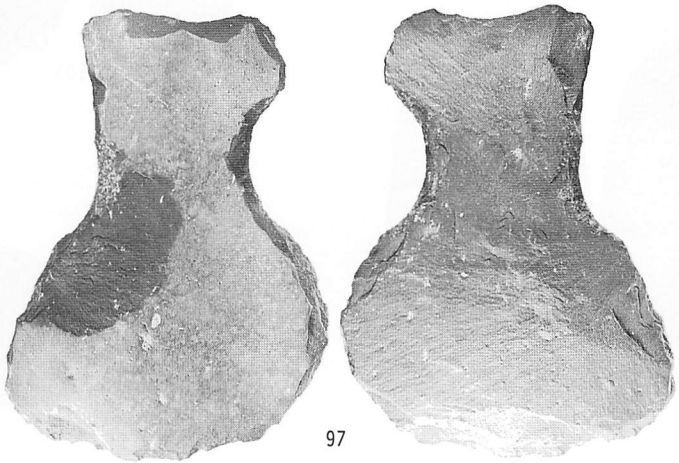
94



95



96

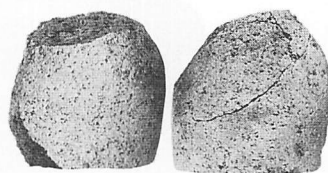
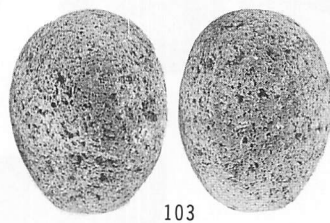
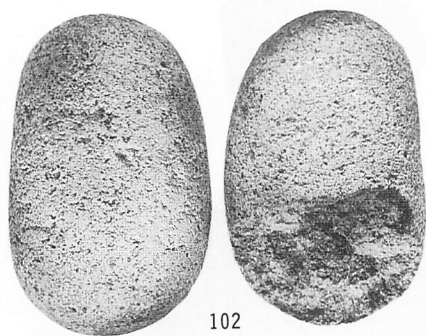
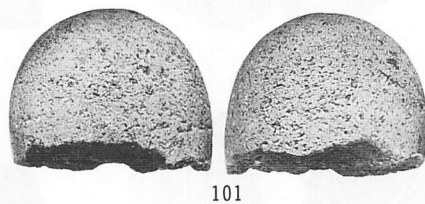
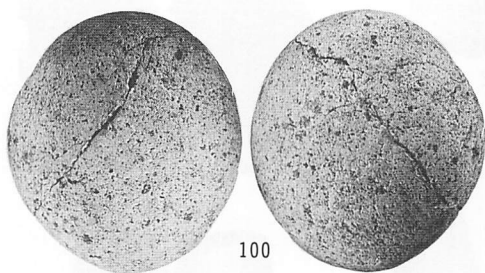
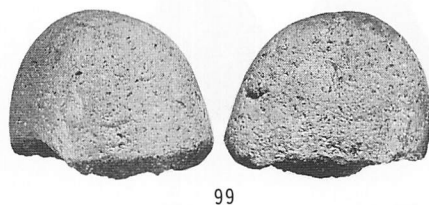
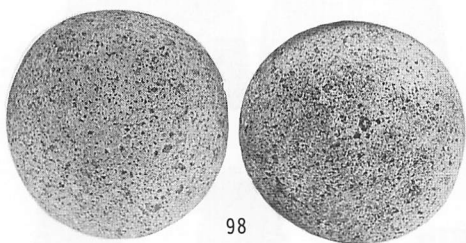


97

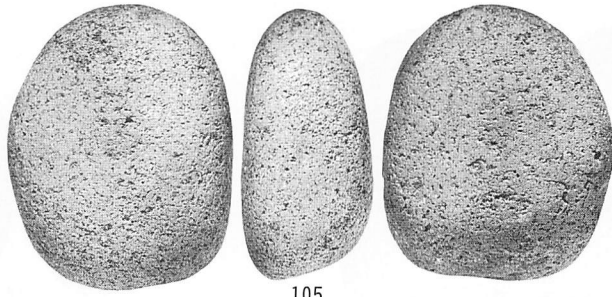
S = 1/3

写真図版59 遺構外出土遺物：石器(7)





S = 1/3

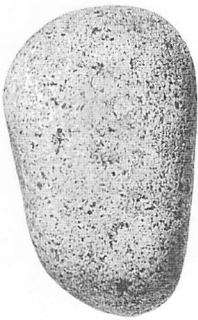


105

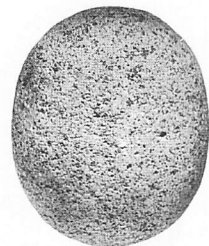


106

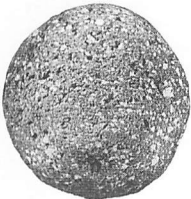
107



108



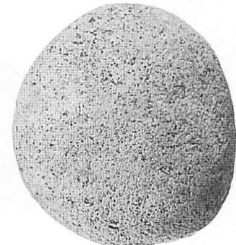
109



110

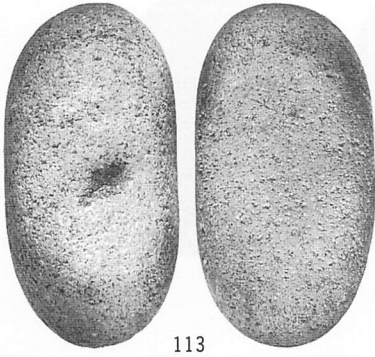


111

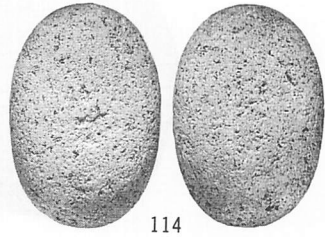


112

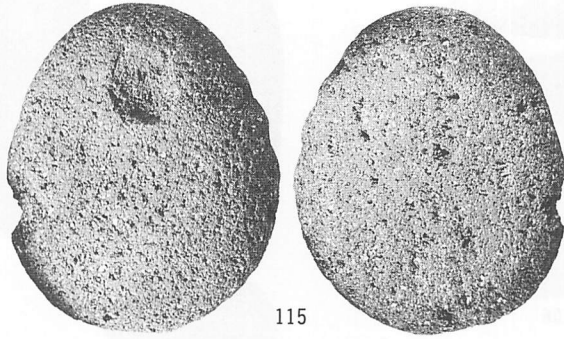
S = 1/3



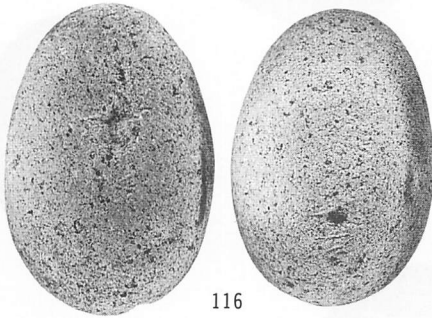
113



114



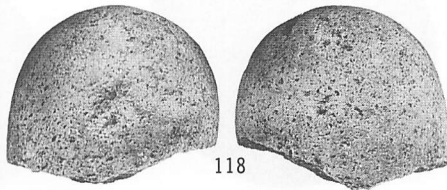
115



116



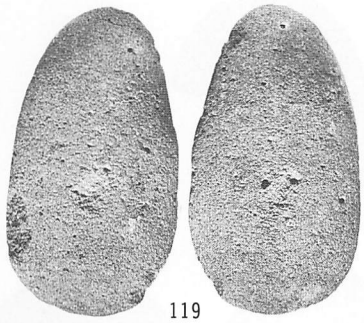
117



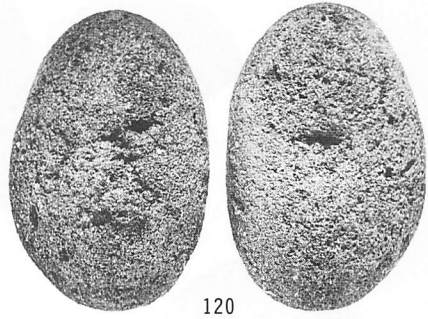
118

S = 1/3

写真図版62 遺構外出土遺物：石器(10)



119



120



121



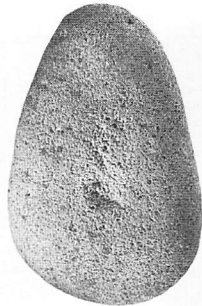
122



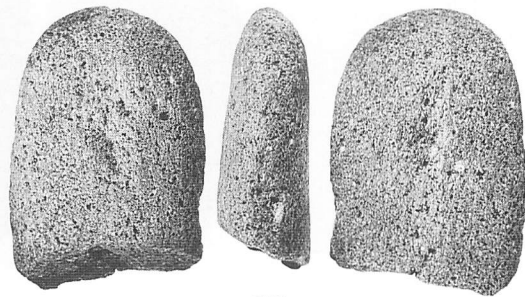
123



124



125

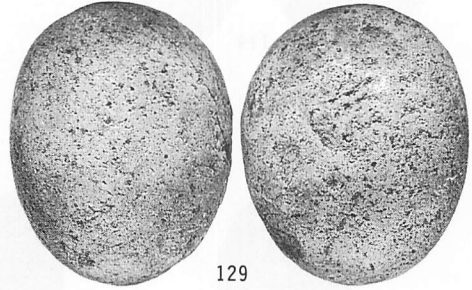
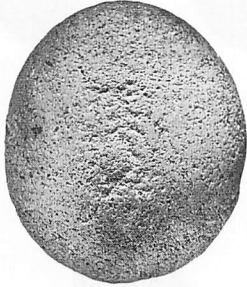


126

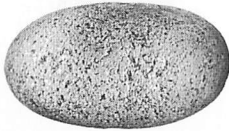
S = 1/3



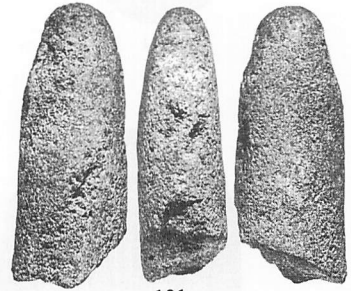
127



129



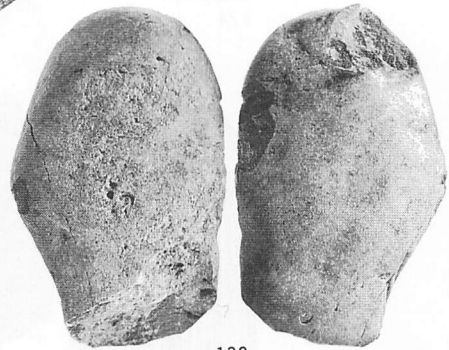
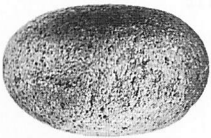
128



131

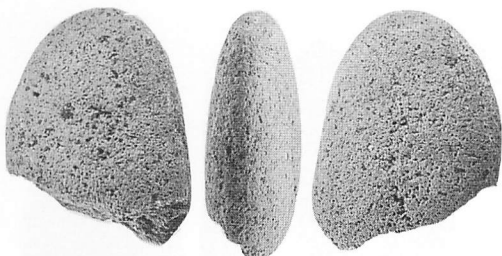


130

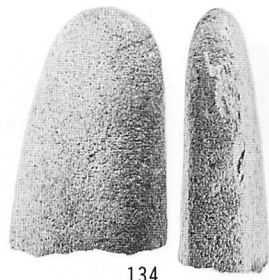


132

S = 1/3



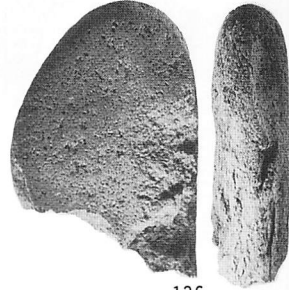
133



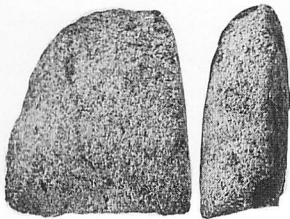
134



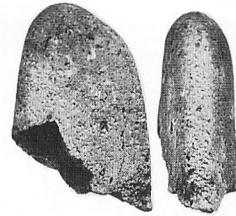
135



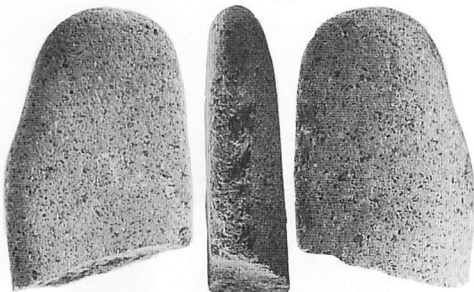
136



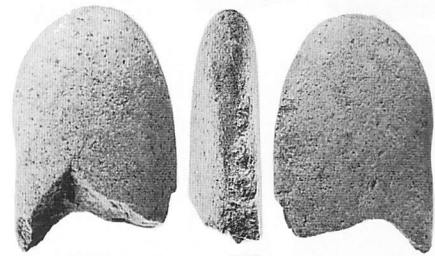
137



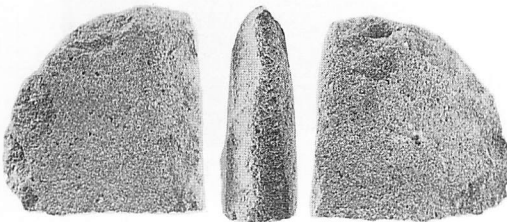
138



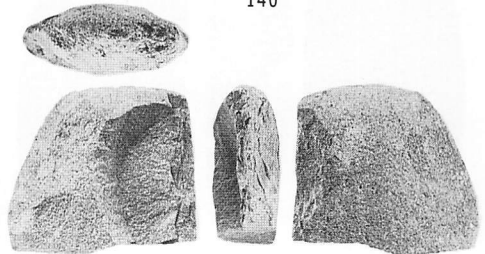
139



140



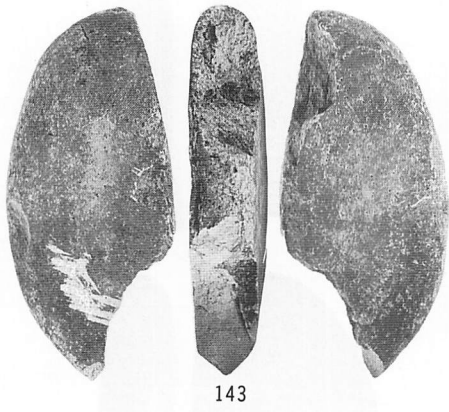
141



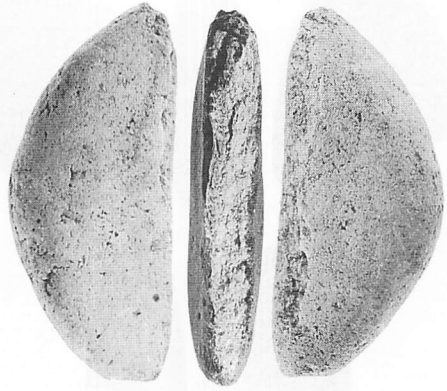
142

S = 1/3

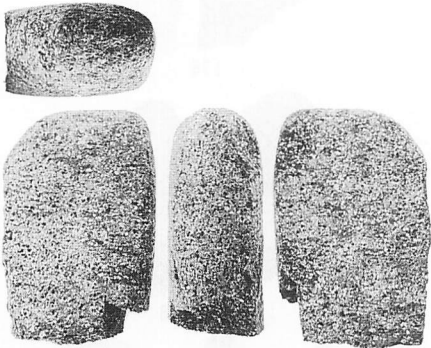




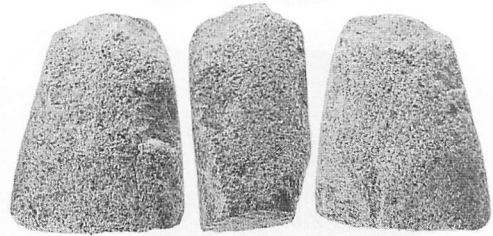
143



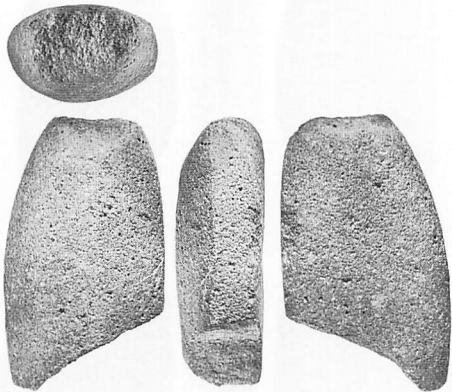
144



145



146



147



148

S = 1/3



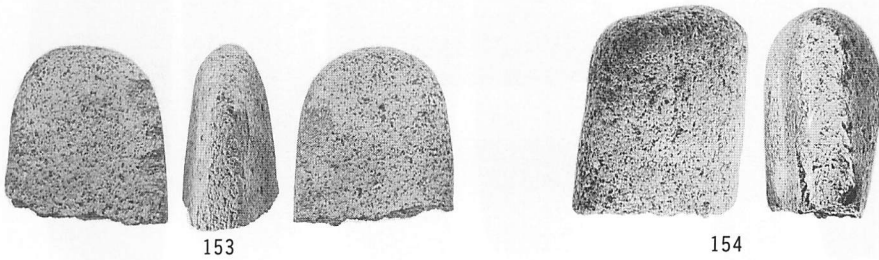
149

150



151

152

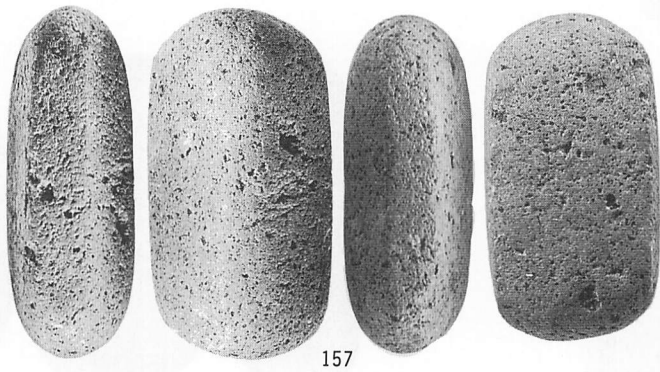
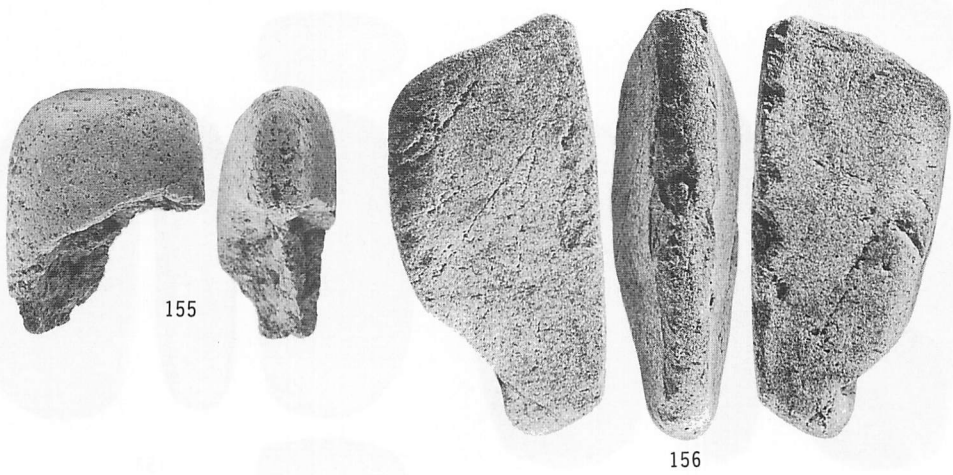


153

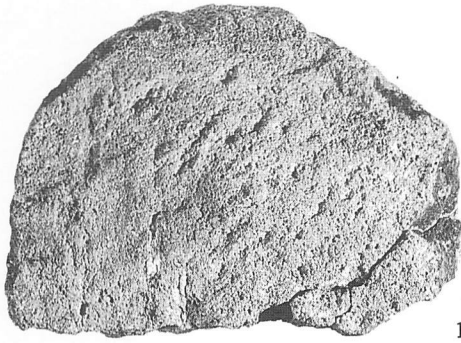
154

S = 2/3

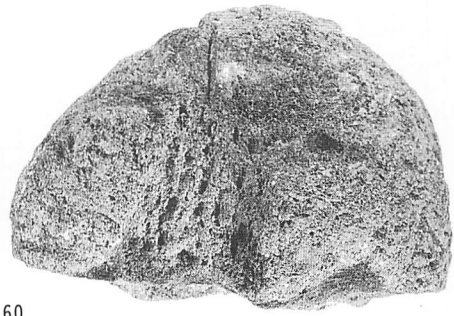




S = 1/3



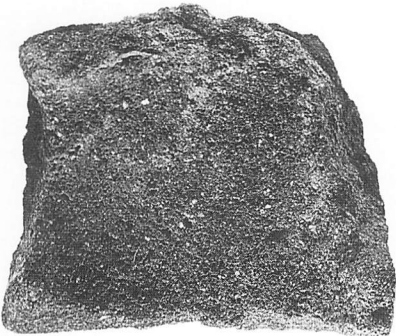
160



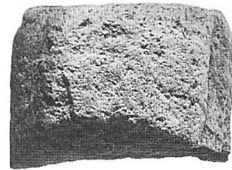
161



162



163



164

S = 2/9  
S = 1/3 (164)

## 報告書抄録

ふりがな	まつやしきいせきはくつちょうさほうこくしょ							
書名	松屋敷遺跡発掘調査報告書							
副書名	県立松園養護学校校舎整備事業関連遺跡発掘調査							
巻次								
シリーズ名	岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	第224集							
編著者名	鈴木恵治 阿部勝則							
編集機関	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター							
所在地	〒020 岩手県盛岡市下飯岡11-185 TEL 0196-38-9001							
発行年月日	西暦 1995年3月30日							
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		北緯 °' "	東経 °' "	調査期間	調査面積 m <sup>2</sup>	調査原因
		市町村	遺跡番号					
まつやしきいせき 松屋敷遺跡	いわてけんもりおかし 岩手県盛岡市  うえだあざまつやしき 上田字松屋敷  11-18 ほか	03201		39度 45分 27秒	141度 9分 33秒	19930408~ 19930714	1,800m <sup>2</sup>	県立松園養護学校校舎整備事業
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
松屋敷遺跡	集落跡	縄文時代	竪穴住居跡 14棟 竪穴状遺構 1棟 土坑 7基 陥し穴 5基 焼土遺構 1ヶ所 遺物包含層 1ヶ所	縄文土器 100点 縄文土器片 85箱 土製品 6点 石器 200点	縄文時代早期と中期の集落跡			

## 財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター職員

所 長	高 橋 重 實		
副 所 長	千 葉 政 男		
[管理課]		嘱 託	吉 田 十 次
管 理 課 長	澤 田 寛	"	野 崎 他 夫
主 事	佐 藤 理		
"	久保田 幸 恵		
[調査課]		文 化 財 専 門 調 査 員	笹 平 克 子
調 査 課 長	鈴 木 恵 治	"	花 坂 政 博
課 長 補 佐	三 浦 謙 一	"	佐々木 務
"	高 橋 與 右 衛 門	"	金 子 昭 彦
主任文化財 専 門 調 査 員	菊 池 強 一	"	木 戸 口 俊 子
"	渡 辺 洋 一	"	大 道 篤 史
"	工 藤 利 幸	"	阿 部 勝 則
"	中 川 重 紀	"	星 雅 之
"	佐々木 清 文	"	羽 柴 直 人
"	高 橋 義 介	"	高 木 晃
"	中 村 英 俊	"	村 上 拓
"	酒 井 宗 孝	"	高 橋 佐 知 子
文 化 財 専 門 調 査 員	千 葉 孝 雄	"	杉 沢 昭 太 郎
"	菊 池 人 見	"	溜 浩 二 郎
"	伊 東 格	期 限 付 専 門 職 員	高 橋 英 樹
"	吉 田 充	"	佐 藤 修 一
"	斎 藤 邦 雄	"	稲 垣 雅 宏
"	高 橋 一 浩	"	元 吉 弘 明
"	鎌 田 勉	"	熊 谷 和 明
"	小 山 内 透	"	佐々木 裕 司
"	松 本 建 速	"	千 葉 貴 子
[資料課]		"	沼 田 和 宏
資 料 課 長	駒 嶺 高 幸	"	後 藤 円
主任文化財 専 門 調 査 員	高 橋 正 之	"	

---

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第224集

## 松屋敷遺跡発掘調査報告書

県立松園養護学校校舎整備事業関連遺跡発掘調査

印刷 平成7年3月25日

発行 平成7年3月30日

発行 財団法人 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター

〒020 岩手県盛岡市下飯岡11-185

電話 (0196) 38-9001・9002

FAX (0196) 38-8563

印刷 (株) 熊谷印刷

〒020 岩手県盛岡市上田一丁目6-49

電話 (0196) 53-4151